

パレスチナ
ジェリコ及びヨルダン渓谷における
廃棄物管理能力向上プロジェクト
中間評価報告書

平成 19 年 8 月
(2007 年)

独立行政法人国際協力機構
地球環境部

環 境

J R

07-059

パレスチナ
ジェリコ及びヨルダン溪谷における
廃棄物管理能力向上プロジェクト
中間評価報告書

平成 19 年 8 月
(2007 年)

独立行政法人国際協力機構
地球環境部

序 文

パレスチナ自治区における多くの自治体では、財政難などで、十分な廃棄物管理サービスを提供できておらず、廃棄物の野焼きや不適切な投棄が行われ、人々の健康や環境への負の影響が懸念されています。他方、地方自治法にて、小規模自治体が地方行政サービスに関する自治体組合「広域行政計画・開発カウンスル（JCspd）」を組織することを認めており、廃棄物管理事業についても独力では実施が困難な小規模自治体が結集してJCspdを結成し、共同でゴミ処理事業を行うなどの方策がとられています。

このような状況のなか、2004年8月にパレスチナ暫定自治政府（PNA）からわが国に対してナブルス～ジェリコ地域を対象に自治体及びJCspdによる廃棄物管理のモデルとグッドプラクティスの確立に係る技術協力について要請がなされました。この要請を受け、JICAは、2004年9月に要請背景調査、2005年2月にプロジェクト形成調査、2005年7月に実施協議調査団を派遣し、ジェリコ及びヨルダン渓谷（JJRRV）地域のJCspdに対し、「廃棄物管理分野の能力向上〔キャパシティ・ディベロップメント（CD）〕支援」のための技術協力プロジェクトを実施することで合意し、討議議事録（R/D）に署名しました。2005年11月より技術協力プロジェクト「ジェリコ及びヨルダン渓谷における廃棄物管理能力向上プロジェクト」を3年間の予定で実施中です。

今般プロジェクトの中間地点を迎えるにあたり、これまでの活動実績に対する評価を行い、後半の活動計画を再検討、確認すべく、当機構国際協力専門員 吉田 充夫を日本側の総括とし、2007年6月2日から6月24日にかけて、パレスチナ側関係機関との協同作業により中間評価調査を実施しました。

本報告書は、本調査の調査・協議結果を取りまとめたものであり、今後の協力実施にあたって、関係方面に広く活用されることを願うものです。

終わりに、調査にご協力とご支援をいただいた関係各位に対し深く謝意を表するとともに、引き続きいっそうのご支援をお願いする次第です。

平成19年8月

独立行政法人国際協力機構

地球環境部長 伊藤 隆文

目 次

序 文

目 次

略語表

中間評価結果要約表

地 図

写 真

第1章 中間評価調査の概要	1
1-1 背 景	1
1-2 中間評価の目的	1
1-3 プロジェクト概要	2
1-4 合同評価調査団の構成	2
1-5 調査日程	3
第2章 中間評価の方法	6
2-1 評価の方法	6
2-2 主な調査項目と情報・データ収集方法	6
第3章 プロジェクトの実績	8
3-1 投入実績	8
3-2 成果の達成度	8
3-3 プロジェクト目標の達成見込み	13
3-4 プロジェクトの実施体制・実施プロセス	15
第4章 評価結果	16
4-1 評価5項目による分析	16
4-2 合同評価レポートの協議状況評価	17
4-3 パレスチナ支援プログラムの観点からの評価	18
4-4 評価結果の総括	18
第5章 今後の計画	20
5-1 改訂 PDM 案の要点	20
5-2 提 言	20
5-3 中間評価調査団の所見	21

付属資料

1. ミニッツ・合同評価報告書	27
2. 日本語評価グリッド	82
3. グッドプラクティス集	97
4. 議事録	100
5. 質問票調査の結果要約と質問票	127

略 語 表

AB	Administrative Body	理事会
C/P	Counterpart	カウンターパート
CD	Capacity Development	キャパシティ・ディベロップメント
CEP	Center for Engineering and Planning	技術計画センター
DJCspd	Department of Joint Councils for Services, Planning and Development	広域行政計画・開発カOUNシル局
EQA	Environment Quality Authority	環境保護局
FGD	Focus Group Discussion	フォーカス・グループ・ディスカッション
GB	General Body	総 会
GTZ	German Technical Cooperation	ドイツ技術協力公社
JCC	Joint Coordination Committee	(プロジェクト) 合同調整委員会
JCspd	Joint Councils for Services, Planning and Development	広域行政計画・開発カOUNシル
JFY	Japanese Fiscal Year	日本の会計年度
JICA	Japan International Cooperation Agency	独立行政法人国際協力機構
JJRRV	Jericho and the Jordan River Rift Valley	ジェリコ及びヨルダン渓谷
JSC	Joint Service Council	広域行政カOUNシル
LA	Local Authority	地方自治体
LGU	Local Government Unit	地方自治体
M/M	Minutes of Meeting	協議議事録
MM	Man Month	人/月
MoH	Ministry of Health	保健庁
MoLG	Ministry of Local Government	地方自治庁
NIS	New Israeli Sheqalim	シェケル (通貨単位)
PDM	Project Design Matrix	プロジェクト・デザイン・マトリックス
PNA	Palestinian National Authority	パレスチナ暫定自治政府
PO	Plan of Operation	活動計画表
R/D	Record of Discussion	討議議事録
SWM	Solid Waste Management	廃棄物管理
UNDP	United Nation Development Programme	国連開発計画
WEDO	Water and Environmental Development Organization	水・環境開発機関
WTP	Willingness to Pay	支払い意思 (額)

1 NIS = Approx. ¥30

中間評価結果要約表

1. 案件の概要	
国名：パレスチナ	案件名：ジェリコ及びヨルダン溪谷における廃棄物管理能力向上プロジェクト
分野：廃棄物	援助形態：技術協力プロジェクト
所轄部署：独立行政法人国際協力機構（JICA）地球環境部 第二グループ 環境管理第二チーム	協力金額（評価時点）：約3億3,000万円
協力期間	2005年9月から2008年8月
	先方関係機関：地方自治庁 日本側協力機関：八千代エンジニアリング株式会社
他の関連協力：JICA「パレスチナ地方行政制度改善プロジェクト」 国連開発計画（UNDP）経由無償資金協力（収集車両・機材供与）	
<p>1-1 協力の背景と概要</p> <p>非常に厳しい政治・経済状況にあるパレスチナ自治区は、ヨルダン川西岸地区とガザ地区の2つの地区に分かれており、全体で約380万人の人口を擁する。中央のパレスチナ暫定自治政府（PNA）の下、両地区併せて計16の行政区域（Governorate：県に相当）に分かれ、その下に municipality や village council などと呼ばれる500程度の地方自治体（LGU）が存在する。しかし、イスラエルの占領政策により、PNAの統治はガザと西岸地区の全域に及んでいるわけではなく、パレスチナ人の居住する都市や村落といった「点」の統治であり（約40%の自治）、出入国管理や土地利用は専らイスラエルが行っている。</p> <p>このような状況下、パレスチナ自治区における多くの自治体では、オペレーションコストの増大による財政難などで、十分な廃棄物管理サービスを提供できていない。その結果、廃棄物の野焼きや不適切な投棄が行われ、人々の健康や環境への負の影響が懸念されている。PNAの地方自治法では、小規模自治体が地方行政サービスに関する自治体組合として広域行政計画・開発カウンシル（JCspd）を組織することを認めており、廃棄物管理事業についても独力では実施が困難な小規模自治体が結集して、JCspdを結成し、共同でゴミ処理事業を行うなどの方策がとられ始めている。</p> <p>このような背景の下、2004年8月にPNAから日本に対してナブルス～ジェリコ地域を対象に自治体とJCspdにおける廃棄物管理のモデルとグッドプラクティスの確立に関する技術協力について要請がなされた。2005年7月には実施協議調査団を派遣し、ジェリコ及びヨルダン溪谷地域（JJRRV）のJCspd（以下、「JCspd JJRRV」と記す）に対し、「廃棄物管理分野の能力向上〔キャパシティ・ディベロップメント（CD）〕支援」のための技術協力プロジェクトを実施することで合意し、討議議事録（R/D）に署名した。</p>	
<p>1-2 協力内容</p> <p>(1) 上位目標</p> <p>1) PNAに地方都市の包括的な廃棄物管理に関する基本政策が確立し、具体的な方針が整備される</p> <p>2) パレスチナ全土の地方都市にJJRRV地域をモデルとした効果的な廃棄物管理体制</p>	

が普及する

(2) プロジェクト目標

- 1) JJRRV 地域に持続的で衛生的な廃棄物管理システムが導入される
- 2) JJRRV 地域の改善事例経験が、パレスチナ他都市の廃棄物管理の改善に向けたモデルケースとなる

(3) 成果

- 1) プロジェクトの運営体制が確立する
- 2) JJRRV 地域における廃棄物管理組織体制が確立される
- 3) JJRRV 地域における廃棄物管理の現状が把握される
- 4) JJRRV 地域における廃棄物管理の改善方針（アクションプラン）が策定される
- 5) アクションプランが実行され、改善が具体化する
- 6) 現地国内セミナーが開催され、JJRRV 地域の事業が普及される
- 7) 本邦研修が開催され、廃棄物管理に係る基礎知識が獲得される

(4) 投入（評価時点）

日本側：

- 短期専門家派遣 : 計 17 人 (29.46 人月)
- 研修員受け入れ : 計 13 人
- 機材供与 : 収集車両の修理部品や処分場改善のための機材 : 約 2,900 万円相当
- 現地活動費 : 約 5,100 万円

パレスチナ側：

- カウンターパート (C/P) : 7 人
- その他 : JCspd JJRRV の施設や機材をオフィススペースとして利用

2. 評価調査団の概要

調査団	日本側		
	総括	吉田 充夫	独立行政法人国際協力機構 (JICA) 国際協力専門員
	協力企画	田村 えり子	JICA 地球環境部 第二グループ 環境管理第二チーム 職員
	評価分析	大石 美佐	アイ・シー・ネット株式会社 コンサルタント
	パレスチナ側		
	団長	Kamel Hemeid	General Director, DJCspd, MoLG
	団員	Fawas Rabaia	General Manager of Public Relations, MoLG
	団員	Abdel-Jabbar Abu-Halawa	Executive Director, JCspd JJRRV
調査期間 : 2007 年 6 月 2 日 ~ 2007 年 6 月 24 日		評価種類 : 中間評価	

3. 評価結果の概要

3-1 実績の確認

(1) プロジェクト目標

- 1) JCspd JJRRV による廃棄物収集の開始以前に、定期収集を行っていたのは、ジェリコなど3自治体のみであり、それ以外の自治体は、JCspd JJRRV の収集サービス開始後、新しく廃棄物処理サービスを受けており、収集・運搬は改善されているといえる。また、不法投棄に関しても、定期的な収集サービスを受ける自治体が増えたことに加え、衛生・管理状況の悪い処分場への持ち込みをやめ、現在は、ジェリコ (Jericho)、アル・オージャ (Al-Ojah)、トゥバス (Tubas) の3カ所の処分場を利用している点から、減少したといえる。このように JCspd JJRRV による広域廃棄物管理システムの導入には成功したものの、その財政基盤の脆弱性と、度重なるパレスチナ側の政権交替による調達手続きの遅れに起因する、より本格的な収集・運搬改善活動に不可欠な収集車両と重機の調達の遅れにより、プロジェクト期間内でのプロジェクト目標1の達成は困難になりつつある。
- 2) 国別研修のパレスチナ「廃棄物管理能力向上」コースが、今まで2回開催されており、それぞれ5人、8人の関係者が参加している。第1回本邦研修への参加者の多くは、JCspd JJRRV 関係者(当時のジェリコ市職員)であったが、第2回研修には、ほかのJCspd や自治体からも参加があった。研修では、JCspd JJRRV の活動が紹介されており、当該地域の改善事例を取り上げてケーススタディーも行われている。その他、合同調整委員会 (JCC) や各種ワークショップには他のJCspd や自治体からも招かれており、その際に JCspd JJRRV の経験が共有され、認識は広がりつつある。このように JCspd JJRRV の改善事例は認識されつつあり、プロジェクト目標2は達成されつつあるといえる。

(2) 成果

- 1) JCC、JCspd JJRRV の総会 (GB) や理事会 (AB) が組織され、現在までに、JCC は5回、JCspd JJRRV GB は4回、AB は10回定期的に開催されており、成果1は達成されている。
- 2) 当該地域における廃棄物管理組織体制が確立されつつあり、よって成果2はおおむね達成されつつあるといえる。しかしながら、地方自治体との協力体制に関連し、経済的基盤の脆弱さと地域経済の低迷から、各自治体によるサービス料金の支払いが不十分であり、課題が残る。
- 3) 指標として記載されている各種調査が実施され、報告書類がまとめられており、廃棄物管理の現状が把握されているといえる。また、廃棄物管理の現状についてのワークショップ「廃棄物調査結果に係るセミナー」が、2006年12月20日に開催され、17 LGU 関係者、MoLG 関係者など約80人が参加しており、成果3は達成されている。
- 4) アクションプランは策定され、2006年12月20日開催の「廃棄物調査結果に係るセミナー」において合意されており、成果4は達成されている。アクションプランには、① 住民意識向上、② 収集改善、③ 処分場改善、④ 機材メンテナンス、⑤ 組

織・制度整備、⑥ 会計制度の6項目が含まれている。

- 5) アクションプランは実施中であり、実際、不法投棄の減少などの改善がみられていることに加え、ジェリコ処分場の改善も行われた。しかしながら、UNDP 経由の無償資金協力供与機材の調達遅れにより、具体的な収集・運搬の改善が十分達成されたとは言いがたく、成果5の達成状況は限定的である。
- 6) 全国セミナーを最終年度に実施する予定であるが、JCC や各種セミナーには他の自治体や JCspd から参加があり、ある一定の情報・経験の共有は行われているため、成果6は一部達成されているといえる。
- 7) 本邦研修は予定どおり過去2回実施され、合計13人が研修を受けているほか、ヨルダンでの第三国研修も実施され JCspd JJRRV から9人が参加しており、参加者は廃棄物管理に関する基礎知識を獲得したといえ、成果7は達成されている。

3-2 評価結果の要約

(1) 妥当性

PNAによる中期開発計画(2005~2007年)では、廃棄物管理体制の確立の重要性が強調され、環境法(Palestinian Environmental Law、1999年)においても、廃棄物計画の策定や処分場の管理の重要性が述べられている。パレスチナ地方自治法(Palestinian Local Authorities Law、1997年)においては、廃棄物管理がLGUの役割であると記載されており、パレスチナ政府の政策に合致している。一方、日本は、2002年に効率的、効果的に環境分野の協力を進めていくために、「持続可能な開発のための環境保全イニシアティブ」(EcoISD)を発表し、このなかで「廃棄物処理」を取り上げている。さらに、日本政府のパレスチナ支援の基本方針である「国づくり・改革支援」及び「人道支援」にも合致しており、妥当性は高い。

(2) 有効性

C/Pをはじめとする関係機関の努力がなされてきているにもかかわらず、財政基盤の脆弱性、UNDP 経由での無償資金協力機材の供与遅れによる収集・運搬改善活動の遅れがみられ、現時点におけるプロジェクト目標1の達成度は十分とはいえず、有効性が十分確保されているとはいえない。

(3) 効率性

PNAの政権交代のため、2006年3月~7月中旬までの3.5ヵ月間、日本人専門家の派遣が滞ったものの、関係機関、日本人専門家、C/Pの努力により、プロジェクト全体への影響を最小限にとどめることができたため、プロジェクトはおおむね効率的に運営されているといえる。また、廃棄物処理関連機材の修理・維持管理に関しては、供与機材であるスペアパーツで遊休車両を修理し、使用している。メンテナンス用機材も、メンテナンスを委託しているジェリコ市のメンテナンス・ワークショップに供与されている。これらの機材の活用度は非常に高い。このように主な投入は十分活用されているが、一方、UNDP 経由での無償資金協力機材の供与が遅れており、一部、効率性を阻害している。

(4) インパクト

中間評価の時点で、下記のようなインパクトが発現しつつある。

- ・ JCspd JJRRV やその他の活動的な JCspd の存在は、広域行政計画・開発カウンスル局 (DJCspd) が国家廃棄物・下水委員会 (National Committee on Solid Waste Management and Wastewater) の組織化を促すという正のインパクトを与えており、また、地方自治庁 (MoLG) より、同委員会において、本プロジェクトの経験を共有したいという意思が表明されている。
- ・ ドイツ技術協力公社 (GTZ) の支援する廃棄物管理研修に関するワーキンググループのメンバー9人のうち1人は、本プロジェクトの C/P である Abdel Jabbar 氏であり、広域廃棄物管理システムをもつ JCspd の代表として JCspd JJRRV の経験を共有している。
- ・ パイロットプロジェクトとして実施したジェリコ埋立処分場の改善は、パレスチナ自治区における小規模オープンダンプの改善としては初めてのものであり、ジャーナリストや他自治体からの見学者も多く、各地に存在するオープンダンプ改善の典型例を提供している。
- ・ ヨルダン環境省、アンマン市役所の協力を得て、同国への第三国研修が実施された際に、参加者はプラスチックリサイクル工場を見学した。このことが、現在計画中の JCspd JJRRV による農業プラスチックのリサイクルにヒントを与えたといえる。

(5) 自立発展性

地方自治庁は JCspd JJRRV を法的に承認しており、JCspd による地方自治の再編・活性化支援という政策に変更がない限り、JCspd JJRRV は今後とも当該地域の廃棄物事業を担う組織であるといえ、制度的には一定の自立発展性を獲得した。しかし、JCspd JJRRV 職員の多くが、ジェリコ市の保健衛生局からの出向者であり、JCspd JJRRV 独自の人材とはいえず、現時点で組織面からみれば、自立発展性が高いとはいえない。財政的側面からみても、1世帯当たりのサービス料〔月額15シケル (NIS) : 約450円〕に総世帯数を乗じて算出されるサービス料総額を支払っている自治体は1つしかなく、他の自治体の支払い状況は0~90%超と様々である。特に、小規模自治体の財政基盤は非常に脆弱か、あるいは存在しないに等しい状況であり、現状のままでは、自立発展性の見込みが高いとはいえない。一方、技術的側面からは、JCspd JJRRV 職員が、プロジェクトを通して各種技術や新しい知識を習得しており、事業を継続する能力はついてきていると思われるため、自立発展性の見込みは高い。このように、制度面と技術的側面からの自立発展性は期待できるが、財政面、組織面については懸念が残る状況にある。

3-3 効果発現に貢献した要因

プロジェクト目標1に関しては、以下の要因が考えられる。

- ・ JCspd JJRRV 職員の多くが、ジェリコ市の保健衛生局からの出向者であるが、彼らは、基本的な廃棄物処理に関する知識・経験をもっており、円滑な JCspd JJRRV サービスの提供を可能にしている。

- ・第2次インティファダ以降、多くの地域で自治体は機能不全に陥っていた。JCspd JJRRV の開始とともにこの広域組合のメンバーになることで、地方自治体の長は、明示的に住民サービスを再開・提供するという機会を得ているといえ、協力的な体制の背景となっている。JCspd JJRRV 職員の知識・経験に加え、これら自治体の長の熱意と理解も、円滑なサービスの提供を可能にしているといえる。

プロジェクト目標2に関しては、以下の要因が考えられる。

- ・JCC 会合の場やその他のワークショップ、ジェリコ埋立処分場への視察受け入れて、他地域の JCspd や他自治体との意見交換が行われている。
- ・MoLG には JCspd 方式による地方行政再編整備推進という基本的な政策スタンスがあり、これが他自治体への普及の追い風となっている。

3-4 問題点及び問題を惹起した要因

プロジェクト目標1に関しては、以下の要因が考えられる。

- ・地域の住民（特に、ジェリコ市から離れた小さな自治体の農民など）にとって、廃棄物処理が最優先課題ではない場合が多い。よって、住民からサービス料を徴収することが難しい状況が続いている。
- ・LGU という名称で呼ばれているものの、多くの自治体には、職員もおらず、財政基盤ももたず、非常に脆弱である。
- ・17 の LGU が非常に広範な地域にわたって点在しており、収集サービスの運営費用が高くなる。
- ・第2次インティファダ以降、特に地域経済が停滞している。
- ・新規処分場建設をはじめとするインフラ整備や土地利用、交通移動について、イスラエルから厳しい制限が加えられており、合理的なシステム構築に障害がある。
- ・本プロジェクトの連携案件として位置づけられている UNDP 経由での無償資金協力機材の供与に関し、度重なるパレスチナ側の政権交替により、調達手続きが遅れている。このため、これらの機材を利用して行う予定の収集・運搬改善活動の開始も遅延した。

また、プロジェクト目標2については、特に重要な問題点、要因は見当たらなかった。

3-5 結論

- (1) プロジェクト前半期 21 ヶ月の活動の結果、当初は設立間もなく白紙の状態であった JCspd JJRRV が、広域廃棄物管理事業の実施機関として組織され、必要な人材を確保し、廃棄物管理基本計画を策定した。そして、現地住民の理解を得ながら、2007年1月以来継続的な廃棄物収集サービス事業を実施できるようになった。ジェリコ埋立地においては、従来のオープンダンプが衛生埋立方式に改善された。この結果、収集サービス地域が当初の3自治体から17自治体に拡大し、従来の不法なオープンダンプが減少した。これは、プロジェクト目標1の達成のための基盤を確保するものであり、前半期における特筆すべき成果であると評価できる。今後本事業を持続的に実施することにより、当該地域における環境負荷が大きく削減され、公衆衛生が改善していくものと予想される。

(2) 本プロジェクト前半期のこれらの成果は、「組織 (JCspd) のレベル」と、それを構成する「個人のレベル」、そして組織 (JCspd) を取り巻く「制度・社会のレベル」、における包括的な能力の向上 (CD) を示すものにほかならない。すなわち、JCspd JJRRV の組織体制が確立され、管理運営と財政システム、知的資産 (実態調査結果、各種情報、基本計画)・物的資産 (廃棄物管理機材の確保、独自事務所の確保、衛生埋立地) が整備され、人材が確保された。また、JCspd JJRRV を構成する個々の職員は、トレーニング及び専門家チームとの協働により、廃棄物管理の実務における技術上、管理上の能力を向上させた。JCspd を取り巻く制度・社会のレベルのキャパシティとしては、JCspd が上位官庁である MoLG の承認を獲得し、法的に位置づけられ、かつ広く住民の理解と参加を広げた。

(3) CD のプロセスにおいて鍵となるのは、前述の「包括的な能力向上」とともに、実施主体の自主性や内発性の形成である。本プロジェクトにおいては、PNA に対する経済ブロックによる公務員給与欠配の発生など当初の想定を超える厳しい外部条件にもかかわらず、自治体が積極的に JCspd JJRRV に参画し、広域廃棄物管理事業を開始した。パレスチナ側実施機関に強いオーナーシップを認めることができ、本プロジェクトは自主性と内発性を引き出すことに成功しつつあると評価することができる。こうした JCspd JJRRV による自主的な広域廃棄物管理事業の確立は、今後のパレスチナにおける廃棄物管理改善アプローチのモデルを提供するものであり、さらには、廃棄物管理にとどまらない、多様な公共サービスの実施主体としての JCspd の可能性を示すものと評価できる。

(4) プロジェクト中間評価の時点に立って、本プロジェクトは外部条件の悪化にもかかわらず、おおむね計画どおり進捗していると評価できる。また、評価5項目の観点からは、本プロジェクトは妥当性、効率性の面において評価でき、一定のインパクトの発現も認められる。しかしながら、プロジェクトの当初から連携プロジェクトと位置づけられてきた UNDP 経由の廃棄物管理機材の無償供与について、本中間評価調査を実施するなかで、供与時期の大幅な遅れが避けられない状況であることが、明らかになった (現状では早くとも 2008 年 6 月以降であり、プロジェクトの終了時期と前後する)。これら供与機材は、JCspd JJRRV による広域廃棄物管理システムの確立にとって不可欠の要素であり、これらの投入とそれを活用した技術協力なくしてプロジェクト目標の達成は困難であり、よって効率性は一部阻害されているといえる。また、自立発展性に関しては、JCspd JJRRV の財政基盤の脆弱性が懸案となっている。したがって、本プロジェクトは今後、財政的な持続性を十分考慮しながら活動を行うとともに、上記供与機材の導入時期を見極めたうえで、プロジェクト期間と実行計画を柔軟に見直す必要がある。さもなければ、プロジェクト目標を達成することは困難となるおそれがある。

3-6 提 言

(1) JCspd JJRRV の財政基盤強化のための取り組み

JCspd JJRRV が事業を開始したとはいえ、財政については引き続き課題が山積している。パレスチナが現在置かれている大変厳しい経済条件の下、参加 17 自治体中 3 自治体からは、サービス料金が未納であり、完納の自治体は 1 つのみで、全体として予算総額の約 50% の納入率となっている。このため、JCspd JJRRV は財政的に自立する基盤を完全に確立したとはいえ、いまだ事業の持続性を確保したとはいえない。プロジェクト後半期には、こうした未納自治体の支払い意思（WTP）を改めて確認し、納入率向上のための工夫を推進する必要がある。また、計画されているように、有価物（農業資材プラスチック）リサイクルなどによる独自収入源の確保を、十分現状を把握したうえで、実施する必要がある。

(2) JCC を通じた関係機関との情報共有

本プロジェクトの活動は多くの関係機関（特に DJCspd や関係省庁）との連携のうえに成り立ち、波及効果を与えるものである。そのために JCC を通じた関係機関との連携をいっそう緊密にすることが必要であり、情報共有の推進のために、JCC の開催を現行の年 2～4 回程度に拡大させることを提言する。

(3) ジェリコ埋め立て地の拡張工事の推進

ジェリコ埋立地は、前半期において改善工事がプロジェクトの技術協力の一環で実施され、オープンダンプから衛生埋め立てへの転換がなされた。しかし、これは小規模であり、現状では近く満杯となると推定される。今後、衛生埋立地の運営管理に関する技術を向上させるために、より大きな容量の埋立地確保が必要なところ、ジェリコ衛生埋立処分場の拡張が検討されるべきである。

(4) モデル化の推進

本プロジェクトは、パレスチナ全体からみれば、JCspd の組織化、広域廃棄物管理事業の形成、の 2 つの観点におけるパイロット・プロジェクトとしての性格をもっており、その経験をモデル化することが求められている（プロジェクト目標 2）。本プロジェクト後半期においては、広く他地域の JCspd 等を招き全国セミナーを開催する計画であるところ、上記 2 つの観点での、「経験のモデル化」を推進する必要がある。

(5) 他ドナー、他プロジェクトとの情報交換と調整の推進

上記のように、本プロジェクトがモデル化を目標としているところ、関係分野のプロジェクトや支援するドナーとの情報交換を密にし、調整と連携をより積極的に図っていく必要がある。

(6) JJRRV における JICA プロジェクト間の調整

JICA 専門家チームと C/P は、相乗効果を高め負のインパクトを軽減するために、JICA パレスチナ事務所の調整の下、定期会合を含む情報共有の機会をもつことを提案する。

(7) LGU のコミットメントの強化

MoLG DJCspd と MoLG 県事務所は、プロジェクトに関連する LGU 間の利害を調整することを提案する。

Summary

I. Outline of the Project	
Country: The Palestinian National Authority	Project title: The Project for Capacity Development on Solid Waste Management in Jericho and Jordan River Rift Valley (JJRRV)
Issue / Sector: Solid Waste Management	Cooperation scheme: Technical Cooperation Project
Division in charge: Environmental Management Team II, Group II (Environmental Management), Global Environment Department, JICA HQ	Total cost: about 3.3 million yen
Period of Cooperation	September 2005 to August 2008
	Partner Country's Implementing Organization: Ministry of Local Government
	Supporting Organization in Japan: Yachiyo Engineering Co., Ltd.
Related Cooperation: Project for Improvement in Local Governance System in Palestine (JICA) Grant aid (provision of waste collection vehicles and equipment) through UNDP	
<p>1. Background of the Project</p> <p>The Palestinian National Authority (PNA), which was established in 1994, is an interim legal and administrative organization that nominally governs parts of the West Bank and the Gaza. According to the Oslo Accords, PNA was designated to have control over both security-related and civilian issues in Palestinian urban areas (referred to as "Area A") and only civilian control over Palestinian rural areas (referred to as "Area B). The remainder of the territories, including Israeli settlements, the major parts of Jordan Valley region and bypass roads between Palestinian communities were to remain under exclusive Israeli control (referred to as "Area C").</p> <p>Under such political situations, many local government units (LGUs) of PNA have faced great difficulties to provide public services such as solid waste collection, due to the burgeoning operational costs and political and financial constraints. Current waste management practices in the West Bank are characterized by poor quality and coverage of waste collection services and improper disposal at open dump sites, and hospital and household waste are mixed together at sites that are only marginally controlled and which practice open-air burning. Those mal practices pose a direct risk to public health and environment in West Bank.</p> <p>The Ministry of Local Government (MoLG) supports LGUs, which are directly responsible for solid waste management (SWM) services. Article 15 of Palestinian Local Authorities Law (1997) allows small-scale LGUs to organize a regional entity, Joint Service Council (JSC), in order to provide community service in a cost effective way.</p> <p>In order to respond to the rising needs and requests of JSCs, the specialized department called the Department of Joint Councils for Services, Planning and Development of MoLG (DJCspd) was established on April 21, 2004. One of the duties of DJCspd is to work on attracting the maximum number of LGUs to become members of Joint Councils for Services, Planning and Development (JCspd). Based on this background, the JCspd for SWM in Jericho and the Jordan River Rift Valley (JJRRV) (hereinafter referred to as "JCspd JJRRV") was established on August 6, 2005.</p>	

Under such circumstances, in August 2004, PNA requested the Government of Japan to provide technical cooperation pertaining to the establishment of an appropriate system of SWM by LGUs. In response to the request, JICA carried out a study to examine the background of the request in September 2004 and a project formulation study in February 2005. An implementation study team was also dispatched in July 2005 and both the Palestinian and the Japanese sides agreed to implement the technical cooperation titled "the Project for Capacity Development on SWM in Jericho and the Jordan River Rift Valley" (hereinafter referred to as "the Project") and signed a Record of Discussion (R/D) and a Minutes of Meeting (M/M) in July 2, 2005. On November 13, 2005 JICA sent an expert team to Palestine to carry out the Project.

2. Project Overview

(1) Overall Goal:

1. In PNA, a basic policy and a concrete action plan on integrated SWM are formulated.
2. Effective system of SWM modeling JJRRV is diffused in PNA

(2) Project Purposes:

1. Sustainable and sanitary system of SWM is introduced in JJRRV.
2. Experiences of improvement on SWM in JJRRV are shared as a model for other areas in PNA.

(3) Outputs:

1. Organization for project operation is established.
2. System for SWM in JJRRV is established.
3. Present situation of SWM in JJRRV is grasped.
4. Action plan for improvement of SWM in JJRRV is formulated.
5. The action plan is put into practice and the improvement is made.
6. Seminars/ workshops are held and the Project experiences in JJRRV are diffused among Palestinian local authorities.
7. Those who are in charge of SWM in local authorities and related ministries acquire basic knowledge on integrated SWM.

(4) Inputs (as of this final evaluation)

Japanese side:

Short term expert:	17 persons (29.46 M/M)
No. of trainees received in Japan:	13 persons
Provision of equipment:	Maintenance tools and spare parts equivalent to approximately JPY 29 million
Local cost:	Approximately JPY 51 million

Palestinian side:

Counterpart:	7 persons
Provision of land and facility::	For the project office space

II. Evaluation Team

Members of Evaluation Team	Japanese Side
	(1) Dr. YOSHIDA Mitsuo (Leader) Senior Advisor (Water, Waste and Environment), Institute for International Cooperation, JICA
	(2) Ms. TAMURA Eriko (Cooperation Planning) Senior Program Officer, Global Environment Department, JICA
	(3) Ms. OISHI Misa (Evaluation Analysis) Consultant, Consulting Division, IC Net Limited

	<p>Palestinian Side</p> <p>(1) Mr. Kamel Hemeid (Leader) General Director, DJCspd, Ministry of Local Government</p> <p>(2) Mr. Fawas Rabaia (Member) General Manager of Public Relations, Ministry of Local Government</p> <p>(3) Mr. Abdel-Jabbar Abu-Halawa (Member) Executive Director, JCspd JJRRV</p>
<p>Period of Evaluation: June 2, 2007~June 24, 2007</p>	<p>Type of Evaluation: Mid-term Evaluation</p>
<p>III. Results of Evaluation</p>	
<p>1. Achievements</p> <p>(1) Project Purposes</p> <p>Project Purpose 1: Solid waste management system was successfully introduced in JJRRV thanks to the great efforts made by JCspd JJRRV. However, the Project Purpose 1 is only partially achieved due to the financial vulnerability and delay in the provision of collection vehicles and equipment.</p> <p>Project Purpose 2: The Project Purpose 2 is being achieved through information sharing at Joint Coordination Committee (JCC) meetings and other seminars and workshops which were participated by officers from other municipalities and JCspds, despite that a major contributing activities, national seminars, are not yet to be produced.</p> <p>(2) Outputs</p> <p>Output 1: Five JCC meetings have been held regularly by now. In addition to JCC meetings, as for JCspd JJRRV's operation, both the General Body (GB) meetings and the Administrative Body (AB) meetings are held regularly. Thus Output 1 has been achieved.</p> <p>Output 2: Output 2 is being achieved, since the system for SWM in JJRRV is being established by preparing the Basic Plan, drafting job descriptions, modernizing a financial management system, carrying out community meetings and repairing the existing collection vehicles. Further cooperation and financial contribution from LGUs are expected to achieve Output 2 fully.</p> <p>Output 3: Output 3 has been achieved since several studies were carried out to understand the current situation of SWM in the region.</p> <p>Output 4: Output 4 is also achieved; the draft Action Plan was presented to a wider public and discussed and finalized in the workshop, "Seminar on Solid Waste Survey Result". The final version of the Action Plan includes (i) Raising public awareness; (ii) Improvement of collection and transportation system; (iii) Improvement of disposal system; (iv) Improvement of maintenance system; (v) Strengthening organization and institution; (vi) Establishment of accounting system.</p> <p>Output 5: Output 5 is partially achieved; at present, the Action Plan is being implemented and the improvement is being made partially.</p> <p>Output 6: Output 6 is partially achieved. JCC meeting and other workshops were attended by other municipalities and JCspds, and the experiences of JCspd JJRRV were shared. In addition, the Project plans to hold national seminars in the fourth year to share such experiences with other JSCs and JCspds.</p> <p>Output 7: Output 7 is being achieved. Country Focused Training Course on Capacity Building in Solid Waste Management for Palestine in Japan was organized twice by now; and 13 participants in total acquired basic knowledge on integrated SWM. In addition to this, 9 participants from JCspd JJRRV joined the third country training course in Jordan. Municipal officers and JCspd</p>	

staff from other areas had opportunities to share experiences and information of JCspd JJRRV in these training courses.

2. Summary of Evaluation Results

(1) Relevance

The Team concluded that the Project remains fairly relevant in terms of PNA's policy in the related field, and the selection of the target group in the Project is appropriate. For example, the Mid-Term Development Plan (2005-2007) of PNA emphasizes the importance of establishment of SWM systems including the proper management of landfill sites. And the Project's Overall Goals are consistent with the PNA's national development plan.

Article 15 of Palestinian Local Authorities Law (1997), "The Council's powers, authority, and role", defines SWM as LGU's responsibility, and clarifies establishment of "the Joint Service Council". Based on this law, by-law for establishment of JCspd was issued in 2006. JCspd JJRRV was established formally and governed by this by-law.

Japan's ODA policy to Palestine prioritizes support for the reform process and the humanitarian activities. These two fields directly relate the Project's contributions to the fields of SWM and local governance.

(2) Effectiveness

In spite of great efforts made by JCspd JJRRV, the Project Purpose 1 has been at best partially achieved due to primarily the severe financial situation of JCspd JJRRV. The Team identifies that a delay of the collaborating project, the provision of equipment by UNDP, also hinders fulfillment of the improvement of collection and transportation. Thus the effectiveness of the Project is not maximized.

(3) Efficiency

Due to a political factor, the dispatch of Japanese experts was delayed. However, thanks to the efforts made by the relevant authorities, Japanese experts and C/Ps, a negative effect to the Project, including a plan to start the SWM from January 2007, could be minimized. Thus, generally speaking, the Project has been operated efficiently. As for the provided equipment, some malfunctioning vehicles were fixed and maintenance equipment was also provided to the maintenance workshop in Jericho Municipality, where JCspd JJRRV's vehicles are serviced. The equipment provided is highly adequate, and well utilized. A major impairing factor to the efficiency is the delay in the provision of equipment by UNDP.

(4) Impact

The Team discovered that the following impacts are emerging from and affecting the Project.

- Activeness of JCspd JJRRV and other JCspds encourages DJCspd to activate the National Committee on Solid Waste Management and Wastewater, and to incorporate lessons learned from activities of these active joint councils into a national plan on solid waste management.
- Executive director of JCspd JJRRV became a member of the working group for solid waste management training, supported by German Technical Cooperation, and share JCspd JJRRV's experiences with other members.
- The improvement of the landfill site conducted as the pilot project was the first experience to improve a small scale open dump site in PNA, and provides a model case to lots of journalists and visitors.

- The visit to a recycling factory during the third country training to Jordan gave an idea to try out a recycling activity in JJRRV.

(5) Sustainability

Since JCspd is legally authorized by MoLG, JCspd JJRRV will continue to be a organization in charge of SWM in the region, if the MoLG's policy to restructure and activate local communities by establishing JCspds remains. In this sense, the sustainability of the Project in the institutional aspect is secured to a certain extent.

However, from the organizational aspect, the sustainability is unlikely to be secured soon. Most of JCspd JJRRV employees are the seconded staff from Jericho Municipality, and they are basically knowledgeable and skillful regarding SWM. In addition, they have acquired new knowledge through working together with Japanese experts, and attending training courses in Japan and implementing the Action Plan; their capacity to continue the activities is being developed. However, since they are the seconded staff from Jericho Municipality, it is difficult to assume the sustainability of JCspd JJRRV at this point.

From financial aspect, the sustainability is unlikely to be secured soon. Each LGU's monthly due composed of the monthly service fee from citizens totals NIS139,726, and Jericho Municipality is supposed to bear about 72% of this total monthly amount. At present, only one LGU is able to pay 100 % of its due and three LGUs have never paid their dues at all,. In fact, the financial bases of smaller LGUs are extremely vulnerable or even nil. The Project plans to raise awareness of citizens in these areas and request their financial contributions. As clearly seen from the ratio of monthly planned payment, Jericho Municipality is a key player in this JCspd JJRRV; it is imperative to request Jericho Municipality who presently pays only about 60% of the due to pay more and stabilize the financial situation of JCspd JJRRV.

From technical aspects, there are prospects that the sustainability is secured. According to the interviews and answers of the questionnaires, it is clear that the counterparts (C/Ps) appreciate knowledge and experiences acquired through working together with Japanese experts and attending training courses in Japan. The Team concluded that appropriate technologies are being transferred.

The team concluded that the sustainability in terms of organizational and financial aspect is not secured , although the institutional and technical sustainability is secured.

2. Factors that promoted realization of effects

In regard to the Project Purpose 1, the followings were introduced by interviewees;

- Most of JCspd JJRRV employees are seconded from Jericho Municipality, and they are basically knowledgeable and skillful regarding the basic solid waste management.
- Since the second Indifada, many LGUs have not been functioning well. Being a part of JCspd JJRRV gives opportunities for LGUs to re-start providing public services to a certain extent. This fact contributes fostering the collaborating relationship between JCspd JJRRV and most of LGUs.

In regard to the Project Purpose 2, an opinion below was introduced by interviewees.

- Although producing Output 6 is planned in the fourth year, information and experiences on JCspd JJRRV has been shared at the time of JCC meetings and training in Japan, which were participated by other JCspds and acceptance of visitors to the improved Jericho landfill site.
- MoLG has the basic policy to establish JCspds to restructure local communities and this policy supports the Project to disseminate the experience to other LGUs.

3. Factors that impeded realization of effects

In regard to the Project Purpose 1, the followings were expressed by interviewees;

- For residents in this region, SWM is not often highly prioritized. Especially for residents in remote LGUs and agricultural areas. Therefore, JCspd JJRRV is still straggling to urge LGUs to pay their dues.
- Most of the participating LGUs do not have a financial base and even employees.
- The operational cost of JCspd JJRRV is unavoidably high since 17 LGUs scatter in the wide area.
- The regional economy has been stagnant since the second Intifada.
- Due to severe restrictions on development of infrastructure including the establishment of new landfill sites, land usage, and transportation imposed by Israel, development of reasonable system is difficult.
- A delay in the collaborating project, the provision of equipment by UNDP, also hinders fulfillment of the improvement of collection and transportation.

4. Conclusion

As a result of the work in the first half of the Project period, JCspd JJRRV, whose functions were nil in the beginning, was organized as an executing agency of SWM, equipped with necessary personnel, and finally the Action Plan for SWM was formulated. Then, with understanding from residents, JCspd JJRRV was able to provide regular waste collection and transportation services. As for dumping, the existing Jericho dumping site was improved to be a controlled landfill site. These efforts lead to the expansion of the collection services from three LGUs before JCspd JJRRV to 17 LGUs¹ after JCspd JJRRV, and the reduction of illegal open dumping. This improvement can be regarded as a foundation for attaining the Project Purpose 1, and a remarkable achievement for the first half of the project period. The reduction of negative effects on environment and the improvement of public health are expected to be further materialized throughout the Project.

The achievement mentioned above can be explained comprehensively from the “capacity development (CD)” point of view, namely “CD at the organizational (JCspd JJRRV) level”, “CD at the individual level” and “CD at the institutional / societal level”. For the CD at the organizational level, the following five points were achieved; (i) the organizational structure of JCspd JJRRV was established; (ii) the operational and financial management system; (iii) soft/intellectual assets such as the survey results on the present SWM systems, the Basic Plan and Action Plan; (iv) hard/material asset such as the office space, the equipment and the improved dumping site were provided with; and (v) human resources were secured. In the CD at individual level, the staff of JCspd JJRRV underwent the trainings in Japan, closely worked with Japanese experts, and their operational and managerial skills were developed at an individual level. As for the CD at institutional/ societal level, JCspd JJRRV was lawfully approved by MoLG, and it contributes acquiring citizen’s understanding and participation.

In the process of CD, in addition to the “comprehensiveness” from three aspects of the capacity, ownership and commitment of the Palestinian C/Ps as individual, JCspd JJRRV as organization and the society in JJRRV, are key factors. As for the Project, in spite of difficult circumstances such as delaying of salary payment by public institutions in PNA, LGUs actively participated in JCspd JJRRV and started the service in the whole region. Strong ownership and self-motivation of the C/P are observed as just mentioned; the Team concluded that the Project is being successful to enhance their independence and activeness. Establishment of JCspds for SWM as just mentioned will provide a model of SWM improvement approaches. Moreover it shows a possibility for JCspd to provide other public services in the future.

¹ Currently the service is not provided in three LGUs, namely Al-Jitflik, Froosh Beit Dajan and Bardala.

At the time of mid-term evaluation, by and large, the Project is being implemented as planned. From the viewpoint of five evaluation criteria, relevance, effectiveness and efficiency of the Project are being ensured, and some impacts are being observed, too. A concern over financial sustainability, however, remains. In addition, it became clear at this point that considerable delay of provision of collection vehicles and equipment which was considered as a collaborating grant-aid project from the beginning of the Project was unavoidable. It is difficult for the Project to achieve the Project Purpose 1 within the previously planned period, since the provision of equipment is essential to fully establish a system for the joint SWM service. Thus, the Project needs to carry out activities with a special consideration to the financial sustainability; in addition, may need to revise the project period and the operational plan for adjusting with the provision of the equipment mentioned above. Otherwise, it will become more difficult to achieve the Project Purposes of the Project.

5. Recommendations

1. Effort to stabilize the financial condition of JCspd JJRRV

Many concerns remain over the financial issues of JCspd JJRRV, though the service did start. Under the current economic difficulties in the region, most of 17 LGUs were not able to pay 100% of their monthly payment and three of them have not paid it even once yet. The overall payment level is as low as 50% of the planned monthly payment, thus the financial sustainability of the services is not yet ensured. The Team recommends LGUs to continue paying their dues to JCspd JJRRV, and consider necessary arrangements for its institutional stability. In the latter half of the project period, the Project needs to reassess the member LGUs' "willingness to pay" and initiate some activities to boost the payment rate. In addition, as being planned now, it is advisable to carry out some income generating activities such as sales of recyclables after thoroughly surveying the present market situation of such products.

2. Information sharing through JCC

The Project requires the collaboration with many relevant authorities such as DJCspd/MoLG in order to disseminate the learning of the Project. Thus it is advisable to hold JCC meetings more often, if not biannual, quarterly, in order to collaborate and communicate more closely.

3. Expansion of the Jericho dumping site

The existing Jericho dumping site was improved as a part of the Action Plan of the Project in the first half of the project period, and open dumping site was transformed to a controlled landfill. However, the improved area is small and will soon be filled. Since the expected duration capacity is 6 months) and will not be able to provide long-enough opportunity to learn the management of controlled landfill site, it is advisable to consider the further expansion of the Jericho dumping site.

4. Promotion of JCspd JJRRV model

The Project has two pilot-type features in terms of (i) organizational strengthening of JCspd JJRRV and (ii) formation of joint service provision mechanism to numbers of LGUs, thus the experiences of the Project need to be diffused as a JCspd JJRRV model, which is defined as the Project Purpose 2. In the latter half of the project period, national seminars which invite other JCspds are planned, and by utilizing such opportunities, the Project should further promote the experiences of JCspd JJRRV as a model for other joint councils.

5. Coordination and collaboration with other donors and projects

As just mentioned, the Project aims to disseminate the experiences of JCspd JJRRV as one of good models to PNA, the Team recommends the Project to coordinate and collaborate more actively with other donors and projects in the environment sector.

6. Coordination and collaboration within JICA's projects in the region

The Team recommends both JICA expert teams and Palestinian C/Ps of all the JICA's projects in the region to have an information sharing mechanism including regular meetings in order to maximize synergy effects and minimize negative effects by the coordination of JICA Palestine Office..

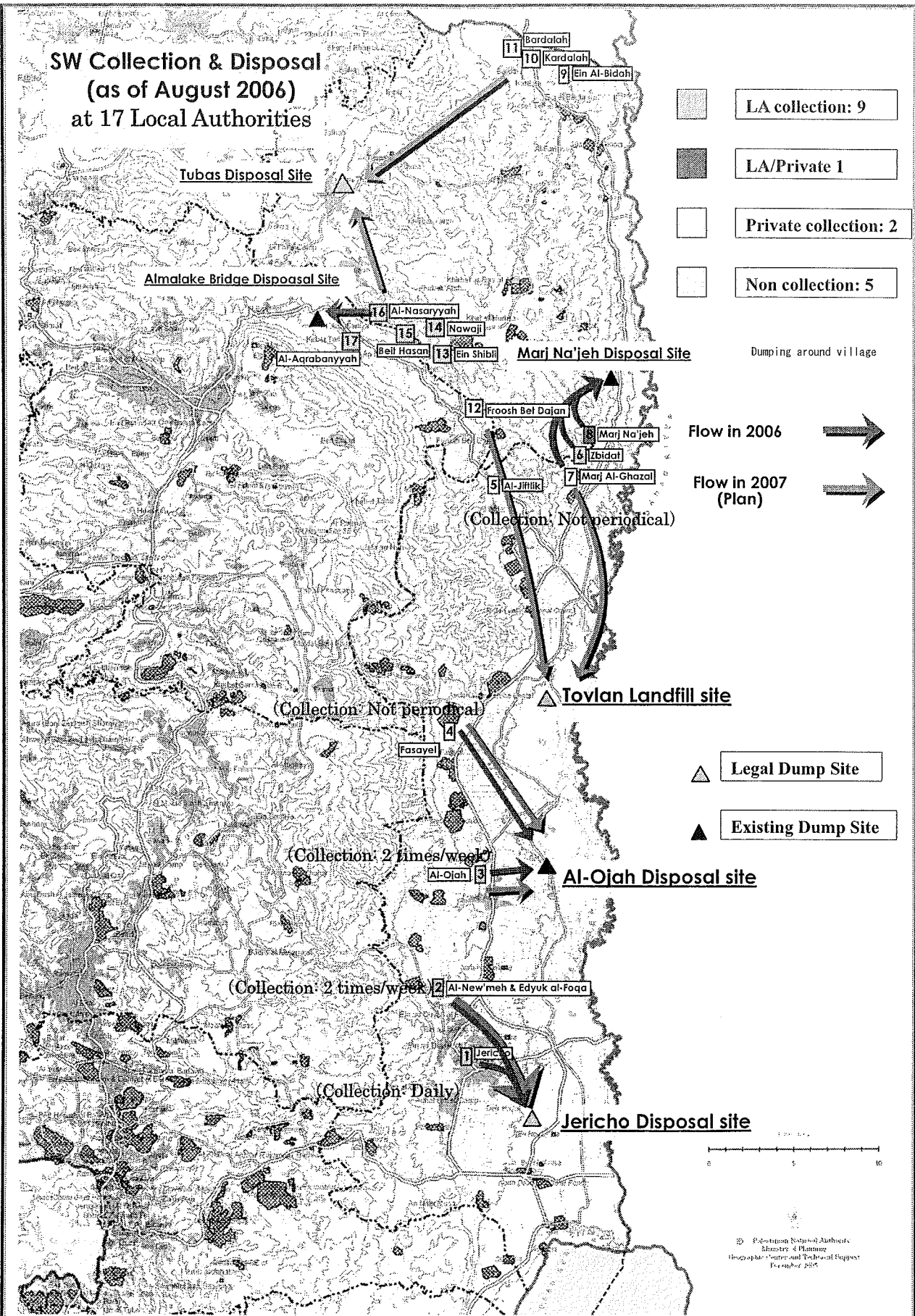
7. Enhancement of the member LGUs' commitment to the Project

The Team recommends DJCspd and the related district offices of MoLG in the region to cooperate and coordinate for the interests of LGUs regarding the Project.

8. Revision of PDM

The Team recommends the revision of PDM as per attached in ANNEX 1 in order to clarify a few points.

SW Collection & Disposal (as of August 2006) at 17 Local Authorities





JCspd JJRRV の事務所(この建物の1階部分)



プロジェクトで供与したメンテナンス用機材



ジェリコ市ワークショップ



ジェリコ処分場入口



ワークショップでメンテナンスをされている日本の無償資金協力(1998年)で供与したコンパクター



処分場までの道(農業ごみ(ビニール袋)が散乱している)



ジェリコ処分場



JCspd JJRRV 参加自治体からのヒアリング
(AI-Jiftlik VC)



難民キャンプからの廃棄物受け入れ



評価レポート協議



隣接の改善されていない処分場（ごみの野焼きが行われている）



M/M 署名

第1章 中間評価調査の概要

1-1 背景

パレスチナでは1993年9月のオスロ合意調印を契機に暫定自治が開始され、各ドナー国及び国際機関による支援が実施されてきた。しかしながら、2000年9月に勃発したインティファダの結果、パレスチナ、イスラエル双方に数多くの犠牲者を出し、いまだ不安定な治安情勢が続いている。経済基盤の脆弱なパレスチナでは、イスラエルの占領政策により移動の自由とともに経済活動が制約されており、その結果として貧困指標を悪化させ、失業率は6割にのぼり、1日2米ドル以下の貧困生活を余儀なくされている人の割合は4割以上に達している¹。

このように、非常に厳しい政治・経済状況にあるパレスチナ自治区は、ヨルダン川西岸地区とガザ地区の2つの地区に分かれており、全体で約380万人の人口を擁する。中央のパレスチナ暫定自治政府（PNA）の下、両地区併せて計16の行政区域（Governorate：県に相当）に分かれ、その下にmunicipalityやvillage councilなどと呼ばれる500程度の地方自治体（LGU）が存在する²。しかし、先述のとおり、イスラエルの占領政策により、PNAの統治はガザと西岸地区の全域に及んでいるわけではなく、パレスチナ人の居住する都市や村落といった「点」の統治であり（約40%の自治）、出入国管理や土地利用は専らイスラエルが行っている。

このような状況下、パレスチナ自治区における多くの自治体では、オペレーションコストの増大による財政難などで、十分な廃棄物管理サービスを提供できていない。その結果、野焼きやオープンダンプが行われ、人々の健康や環境への負の影響が懸念されている。PNAの地方自治法では、小規模自治体が地方行政サービスに関する自治体組合として広域行政計画・開発カウンシル（JCspd）を組織することを認めており、廃棄物管理事業についても独力では実施が困難な小規模自治体が結集して、JCspdを結成し、共同でゴミ処理事業を行うなどの方策がとられ始めている。

このような背景の下、2004年8月にPNAから日本に対してナブルス～ジェリコ地域を対象に自治体とJCspdにおける廃棄物管理のモデルとグッドプラクティスの確立に関する技術協力について要請がなされた。この要請を受け、JICAは、2004年9月に要請背景調査、2005年2月にプロジェクト形成調査を実施した。これらの調査を通じて、ゴミ処理事業の「住民に最も近い行政サービス」という特性を生かし、地方自治体とともに事業を行っていくことで、当該地域の地方自治の確立にも十分資することが確認された。2005年7月には実施協議調査団を派遣し、ジェリコ及びヨルダン溪谷（JJRRV）地域のJCspd（以下、「JCspd JJRRV」と記す）に対し、「廃棄物管理分野の対処能力向上〔キャパシティ・ディベロップメント（CD）〕支援」のための技術協力プロジェクトを実施することで合意し、討議議事録（R/D）に署名した。

1-2 中間評価の目的

上述の背景の下、2005年9月より技術協力プロジェクト「ジェリコ及びヨルダン溪谷（JJRRV）地域における廃棄物管理能力向上プロジェクト」を3年間の予定で実施中であり、現在5分野の短期専門家（総括/廃棄物管理計画、副総括/CD支援、組織整備/行政担当、医療廃棄物/環境社会配慮、埋立処分場改善）から構成されるチームが活動中である。今般、協力開始から折り

¹ 「平成18年度 JICA国別事業実施計画（平成17年10月改訂）パレスチナ自治政府」より抜粋した。

² 地方自治庁（MoLG）の内部資料によれば、2006年時点で、132のmunicipality、235のvillage councils、115のproject committeeが存在し、これら合計482の組織を地方自治体と呼んでいる。

返し地点を迎え、2008年8月末のプロジェクト終了に向けて、これまでの活動実績を評価するとともに、終了時までプロジェクト目標を達成するために必要な提言を抽出する目的で中間評価調査を実施した。

1-3 プロジェクト概要

プロジェクト要約表であるプロジェクト・デザイン・マトリックス（PDM）に記載されているプロジェクトの概要を以下に示す。下記内容は、プロジェクト開始当時のPDM（PDM1）を、2006年7月に改訂したPDM（PDM2）に基づくものである。

(1) 上位目標

- 1) PNAに地方都市の包括的な廃棄物管理に関する基本政策が確立し、具体的な方針が整備される
- 2) パレスチナ全土の地方都市にJJRRV地域をモデルとした効果的な廃棄物管理体制が普及する

(2) プロジェクト目標

- 1) JJRRV地域に持続的で衛生的な廃棄物管理システムが導入される
- 2) JJRRV地域の改善事例経験が、パレスチナ他都市の廃棄物管理の改善に向けたモデルケースとなる

(3) 成果

- 1) プロジェクトの運営体制が確立する
- 2) JJRRV地域における廃棄物管理組織体制が確立される
- 3) JJRRV地域における廃棄物管理の現状が把握される
- 4) JJRRV地域における廃棄物管理の改善方針（アクションプラン）が策定される
- 5) アクションプランが実行され、改善が具体化する
- 6) 現地国内セミナーが開催され、JJRRV地域の事業が普及される
- 7) 本邦研修が開催され、廃棄物管理に係る基礎知識が獲得される

1-4 合同評価調査団の構成

日本側調査団

- | | | |
|----------|--------|----------------------------------|
| (1) 総括 | 吉田 充夫 | 独立行政法人国際協力機構（JICA） 国際協力専門員 |
| (2) 協力企画 | 田村 えり子 | JICA 地球環境部 第二グループ
環境管理第二チーム職員 |
| (3) 評価分析 | 大石 美佐 | アイ・シー・ネット株式会社 コンサルタント |

パレスチナ側調査団

- | | |
|------------|---|
| (1) Leader | Mr. Kamel Hemeid
General Director, Department of Joint Council for Services, Planning and
Development, Ministry of Local Government |
|------------|---|

- (2) Member Mr. Fawas Rabaia
General Coordinator for JICA Projects, Ministry of Local Government
- (3) Member Mr. Abdel-Jabbar, Abu-Halawa
Executive Director, Joint Service Council for Solid Waste Management in
Jericho and Jordan River Rift Valley

1-5 調査日程

日 程	活 動
6/2 (土)	(大石) 11:45 関空発 (JL421) →16:15ロンドン (ヒースロー) 着 22:30 ロンドン発 (BA163) →
6/3 (日)	5:30 テルアビブ着 12:00 事務所打合せ
6/4 (月)	8:30 テルアビブからベツレヘムに移動 10:30 MoLG JCspd局 (DJC spd) Kamel局長 〔カウンターパート (C/P) に対する中間評価の目的説明、日程確認、合同評価者の任命等〕 ジェリコへ移動 PM 主要C/P (JCspdのC/P及び理事会のC/Pとのキックオフミーティング (C/Pに対する中間評価の目的説明、日程確認) 14:30 JICAジェリコ・フィールドオフィス Makky氏
6/5 (火)	関係者に対するインタビュー 10:00 双方のインプット確認、機材の設置状況、台帳との照合、C/P配置状況確認、施設確認、工事状況確認、先方負担部分の確認 Abdel-Jabbar Al-HalawaJCspd事務局長に対するインタビュー 12:00 JCspdのC/Pに対するグループインタビュー
6/6 (水)	関係者に対するインタビュー 10:00 Hassan JCspd 理事長・ジェリコ市長 12:00 Mr. Ghaleb Awatlahアル・ニアメ町長・JCspd理事 (Head of Al-New'meh and JCspd AB member)
6/7 (木)	資料整理 (評価レポート案作成)
6/8 (金)	資料整理 (評価レポート案作成)
6/9 (土)	関係者に対するインタビュー 9:00 ジェリコからラマラへ移動 10:00 保健庁 (MoH)
6/10 (日)	(大石) 関係者に対するインタビュー AM Gazi Ayyad ジェリコ市総合サービス部部長 (Director of General Service of Jericho) Ismail Safジェリコ市営繕課課長 (Head of Maintenance of Jericho)

	<p>PM JCspd職員及び清掃員等 (吉田、田村)</p> <p>13:00 成田発 (JL 407) →18:00フランクフルト着 22:20 フランクフルト発 (LH 690) →</p>
6/11 (月)	<p>(吉田、田村)</p> <p>3:15 テルアビブ着 (大石)</p> <p>関係者に対するインタビュー</p> <p>9:30 Mustafa Alhmidat新ジェリコ病院職員 (C/P研修参加者) 11:00 Mohammad Njoom地方自治庁ジェリコ支局職員 (C/P研修参加者) (全員)</p> <p>15:00 事務所との打合せ (テルアビブ) 専門家チームとの打合せ</p>
6/12 (火)	<p>10:30 MoLG DJC spdのKamel局長 (ベツレヘム) ジェリコへ移動</p> <p>19:00 ジェリコ市長</p>
6/13 (水)	<p>8:30 JICAジェリコ・フィールドオフィス Makky氏</p> <p>10:30 阿部浩リーダー</p> <p>11:30 石井明男専門家</p> <p>19:00 国連開発計画 (UNDP)</p>
6/14 (木)	<p>10:30 ドイツ技術協力公社 (GTZ) 評価レポート案まとめ</p>
6/15 (金)	<p>評価レポート案まとめ</p>
6/16 (土)	<p>10:00 Abdel-Jabbar Al-HalawaJCspd事務局長</p> <p>AM ジェリコ車両整備場・ジェリコ処分場視察</p> <p>12:00 Mr. Souliman Romaninアル・オージャ村長 (Head of Al-Ojah)</p> <p>PM アル・オージャ処分場視察</p>
6/17 (日)	<p>関係者へのインタビュー (終日)</p> <p>Mahmood Sawafta バルダラ村長 (Head of Bardarah)</p> <p>Mohammad Jahaleenジフトリク村長 (Head of Jiftlik)</p> <p>Mahmoud Abuhattab アインシブリ村長・JCspd理事 (Head of Ein Shibli. and JCspd AB member)</p> <p>Ibrahim Ishhadehナワジ村長 (Head of Nawaji)</p> <p>Hasan Jermi ズビダッド村長・JCspd副理事長 (Head of Zibidat and JCspd vice-president)</p>
6/18 (月)	<p>(吉田)</p> <p>AM アル・オージャ処分場付近の地下水採取</p> <p>14:00 Dr. Itay Fischhendlerヘブロン大学社会科学学部博士 (Faculty of Social Science, The Hebrew University of Jerusalem)</p>

	(田村、大石) 12:00 JCspd理事会 (Administrative Body Meeting) 視察
6/19 (火)	10:00 合同調整委員会 (JCC) PM 合同評価チームとの評価レポート案協議
6/20 (水)	10:00 JCCにて協議議事録 (M/M) 署名
6/21 (木)	専門家チームと今後の予定の打合せ テルアビブ移動
6/22 (金)	事務所、大使館報告
6/23 (土)	(吉田) 16:30 テルアビブ (LH 687) →19:45フランクフルト 21:05 フランクフルト (JL 408) → (田村) 8:00 テルアビブ (RJ343) →8:45アンマン 10:25 アンマン (MS720) →11:45 カイロ (~7/5) (大石) 8:05 テルアビブ (BA162) →11:35ロンドン (ヒースロー) 19:45 ロンドン (JL 422) →
6/24 (日)	(吉田) 15:20 成田着 (大石) 15:55 関空着

第2章 中間評価の方法

2-1 評価の方法

本評価は、「改訂版 JICA 事業評価ガイドライン」に沿って、日本、パレスチナ双方から選出された評価メンバーによって実施された合同評価である。まず、プロジェクト管理のための要約表である PDM を用い、評価時点での実績（計画の達成状況若しくは達成見込み）と実施プロセスの検証を行う。その際には、2006年7月に改訂した PDM（PDM2）を利用する。実績と実施プロセスの検証ののち、その結果を踏まえ、評価5項目（妥当性・有効性・効率性・インパクト・自立発展性）の観点から評価を行う。

妥当性（relevance）³

プロジェクトのめざしている効果（プロジェクト目標や上位目標）が受益者のニーズに合致しているか、問題や課題の解決策として適切か、被援助国及び日本側の政策との整合性はあるか、プロジェクトの戦略・アプローチは妥当か、公的資金である ODA で実施する必要があるかなどといった「援助プロジェクトの正当性・必要性」を問う視点。

有効性（effectiveness）

プロジェクトの実施により本当に受益者若しくは社会への便益がもたらされているのか、あるいは、もたらされるのかを問う視点。

効率性（efficiency）

主にプロジェクトのコストと効果の関係に着目し、資源が有効に活用されているか、あるいはされるかを問う視点。

インパクト（impact）

プロジェクト実施によりもたらされる、長期的、間接的効果や波及効果を見る視点。予期していなかった正・負の効果・影響を含む。

自立発展性（sustainability）

援助が終了してもプロジェクトで発現した効果が持続しているか、あるいは持続の見込みはあるかを問う視点。

2-2 主な調査項目と情報・データ収集方法

(1) 既存資料の分析と評価デザインの作成

本プロジェクトの R/D、プロジェクト進捗報告書等の関連書類をレビューし、中間評価の調査計画と評価グリッドを作成した。

³ 以下の5項目の説明は、「プロジェクト評価の手引き（改訂版 JICA 事業評価ガイドライン）」p.41 から抜粋した。

(2) 質問票による聞き取り調査・アンケート調査

事前送付した質問票を用いて、日本人専門家、C/P やその他関係者に対し広範な聞き取り調査を実施した。質問票による聞き取り調査・アンケート調査で得た情報は、付属資料2の評価グリッドに記載されている。加えて、質問票本文と結果の要約は、付属資料5にも詳しい。

(3) フォーカス・グループ・ディスカッション (FGD)

JCspd JJRRV の職員を対象に、FGD を実施し、当該プロジェクトに対する率直な意見を収集した。また、ドライバーと清掃労働者に対しては、別途 FGD を行い、廃棄物収集サービスに関する現場の声も収集している。FGD で得た情報は、付属資料2の評価グリッドに記載されている。

(4) プロジェクト活動の視察

供与機材に関しては調査期間中に可能な範囲でその稼動状況・保管状況を確認した。

第3章 プロジェクトの実績

3-1 投入実績

3-1-1 日本側の投入実績

(1) 短期専門家派遣

2007年6月時点での短期専門家の派遣は、2005年度6人〔7.70人/月(MM)〕、2006年度8人(17.76MM)、2007年度3人(4.00MM)の計17人(29.46MM)であり、各専門家は、廃棄物に関連する専門分野で派遣されている。詳細は、付属資料1 ミニッツ・合同評価報告書の ANNEX 4 を参照のこと。

(2) 研修員受け入れ

国別研修のパレスチナ「廃棄物管理能力向上」コースが、今まで2回開催されており、それぞれ5人、8人の関係者が参加している。詳細は、付属資料1 ミニッツ・合同評価報告書の ANNEX 5 に示した。

(3) 機材供与

収集車両の修理部品やジェリコ処分場改善のための資機材 2,900 万円相当を供与している。詳細に関しては、付属資料1 ミニッツ・合同評価報告書の ANNEX 6 を参照のこと。

(4) 現地活動費

2007年6月時点における日本側の投入は、以下のとおりである。

	2005年度	2006年度
現地活動費	7,158,000 円	43,836,000 円

3-1-2 パレスチナ側の投入実績

(1) C/P

2007年6月時点で、JCspd JJRRV の中核的な職員を中心に7人がC/Pとして、日本人専門家とともにJCspd JJRRV の運営に携わっている。

(2) 施設、機材の提供

JCspd JJRRV の施設や設備・機材を利用して、プロジェクトが運営されている。

3-2 成果の達成度

プロジェクトの想定する7つの成果について、PDM で設定された指標を基にその達成度を示す。その際に利用するのは、R/D に記載されている PDM (PDM1) を 2006 年 7 月に改定した PDM (PDM2) である。

成果 1	プロジェクトの運営体制が確立する
指 標	1.1 プロジェクト JCC 等の設置と定期開催 1.2 プロジェクト実施計画の具体化とプロジェクト・モニタリング及びフィードバック

JCC、JCspd JJRRV の総会や理事会が組織され、定期的に行われており、成果 1 は達成されている。

現在までに、JCC は 5 回⁴、JCspd JJRRV 総会 (GB)⁵は 4 回、理事会 (AB)⁶は 10 回開催されており (指標 1.1)、JCC においてはプロジェクト全体に関して、JCspd JJRRV AB、GB においては、広域廃棄物管理システムに関して、問題点や課題を議論し、進捗を確認している (指標 1.2)。

成果 2	JJRRV 地域における廃棄物管理組織体制が確立される
指 標	2.1 JCspd JJRRV による廃棄物管理体制に関する基本計画がつくられる 2.2 廃棄物管理組織の分掌の明確化と整備 2.3 廃棄物管理会計の確立 2.4 市民への広報事業 2.5 LGU との協力体制 2.6 廃棄物管理機材の修理・維持管理がなされる

当該地域における廃棄物管理組織体制が確立されつつあり、よって成果 2 は達成されつつあるといえるが、指標 2.5 (LGU との協力体制) に関連し、経済的基盤の脆弱さ、地域経済の低迷から、各自治体によるサービス料金⁷の支払いが不十分であり、課題が残っている。

プロジェクト関係者 (日本人専門家と C/Ps) で作成された基本計画 (案) は、アラビア語に訳され、2006 年 8 月 3 日の第 2 回 JCspd JJRRV 理事会で詳しく検討された。同計画案は JCspd JJRRV の理事長と事務局長によって、8 月 6 日の JCspd JJRRV 総会で紹介・説明され、承認を得た。現在、この基本計画は小冊子 (アラビア語) にまとめられ関係者に配布されている (指標 2.1)。

JCspd JJRRV 職員の職務規定については、JCspd JJRRV の事務局長である Abdul Jabbar 氏が中心になり 2006 年 11 月にドラフトを作成、その後 2007 年 1 月 16 日に JCspd JJRRV の理事長に承認されている。2006 年 12 月 23 日には JCspd JJRRV 職員を対象とした説明会と訓練が実

⁴ 中間評価結果を受けて 6 月 19、20 日に開催した第 6 回 JCC を除く。

⁵ 総会は、全 17 LGU が参加して実施される会合のことであり、MoLG の JCspd に関する by-law では、少なくとも 1 年に 1 度開催することと規定されている。

⁶ 理事会は、上記 by-law によれば、JCspd の president と deputy president の 2 人に加え、総会で選ばれた 3 人の計 5 人で構成される会であり、月に 1 度会合を開くことになっている。理事会メンバーは、Jericho、Al-New' meh & Edyuk al-Foqa、Zbdar、Ein Shibli、Al-Ojah の 5 自治体の代表である。

⁷ サービス料は 15 シュケル (NIS) /household/month で、自治体ごとのサービス料金総計は、15NIS/household/month 掛ける household 数で算出されている。また、1 つの household に複数の family が居住している場合には、25NIS/household/month のサービス料で計算されている。自治体ごとのサービス料金総計とは、全住民から徴収した料金のことである。household 数が変わらない限り、毎月一定である。

施されており、職務内容に関しても説明・議論がなされている。この職務規定はアラビア語に訳され、各職員に配布されている（指標 2.2）。

廃棄物管理会計に関しては、2006年8月以降、まず、日本人専門家とC/Pとで会計部門の業務や廃棄物会計の費目について協議をし、必要なデータの収集を開始した。2007年1月のJCspd JJRRVによるサービス開始後は、暫定的処置として、日本人専門家の作成したエクセルシートを基にコンピューターによる会計管理業務を開始している。今後は、財務会計ソフトを導入し、管理をしていくことになっている（指標 2.3）。

市民への広報活動は、1年次より積極的に行われてきている。継続的にニュースレターやリーフレットを作成することに加え、ウェブページを開設したり、地方テレビや国営テレビに出演したりと、積極的に情報発信を続けている。加えて、17自治体を対象に、多くのコミュニティ会合を開催し、JCspd JJRRVの役割、廃棄物管理（SWM）サービスの内容、サービス料についての説明を行っている（指標 2.4）。詳細は、付属資料1 ミニッツ・合同評価報告書のANNEX 7を参照のこと。

JCspd JJRRVの立ち上げ、その後のJCspd JJRRVによる廃棄物処理サービスの提供は、加入する17自治体の理解・参加なしには行えないことであり、実際、ある一定の協力体制はできているといえる。しかしながら、各自治体の経済的基盤の脆弱さ、近年のパレスチナ経済の低迷から、分担金や月額サービス料⁸の支払い状況からみれば「自治体からの協力」は十分であるとはいえない。分担金や月額サービス料の支払い状況は、全額納める自治体がある一方で、全く支払っていない自治体が存在するという状況であり、今後の課題である（指標 2.5）。

1年次には、廃棄物処理関連機材の修理・維持管理の現状についての調査が行われ、遊休機材の修理が行われるとともに、メンテナンス用機材が調達された。詳細は、付属資料1 ミニッツ・合同評価報告書のANNEX 6の供与機材リストを参照のこと。2006年12月のジェリコ市との委託取り決めの下、現在はジェリコ市のメンテナンス・ワークショップが維持管理を行っている。ジェリコ市のメンテナンス・ワークショップでは、JCspd JJRRVから委託を受けた車両について、適切に維持管理記録が残されている（指標 2.6）。

成果 3	JJRRV 地域における廃棄物管理の現状が把握される
指 標	3.1 ゴミ質・ゴミ量の調査報告ペーパー 3.2 収集・運搬の実態調査（不法投棄状況調査含む）報告ペーパー 3.3 処分場の実態調査（土壌・地下水汚染実態含む）報告ペーパー 3.4 医療廃棄物管理の実態調査報告ペーパー 3.5 実態把握調査の総括レポート 3.6 廃棄物管理の現状についてのワークショップが開催される

指標として記載されている各種調査が実施され、報告ペーパー類がまとめられており（指標 3.1 から指標 3.5）、廃棄物管理の現状が把握されているといえ、成果 3 は達成されている。

また、廃棄物管理の現状についてのワークショップ「廃棄物調査結果に係るセミナー」が、

⁸ 分担金とは、サービス開始前の2006年度に各自治体から集められることになっていたJCspd JJRRVの運転資金のことである、サービス料というのは、脚注7で説明したとおりである。

2006年12月20日に開催され、17LGU関係者、ジェリコ市職員、MoLG関係者、JCspd関係者、病院関係者など約80人が参加している（指標3.6）。

成果4	JJRRV 地域における廃棄物管理の改善方針（アクションプラン）が策定される
指標	4.1 実態把握の調査結果に基づくアクションプラン案の策定 4.2 アクションプラン案に基づき公開ワークショップが開催される 4.3 アクションプランの確定

アクションプランは策定され、2006年12月20日開催の「廃棄物調査結果に係るセミナー」において合意されており、成果4は達成されている。

アクションプランには、① 住民意識向上、② 収集改善、③ 処分場改善、④ 機材メンテナンス、⑤ 組織・制度整備、⑥ 会計制度の6項目が含まれている。

成果5	アクションプランが実行され、改善が具体化する
指標	収集率の向上、不法投棄の減少 処分場の改善 改善実施の総括レポート（実践を踏まえたパレスチナ自治政府への提言を含む）

アクションプランは実施中であり、実際、不法投棄の減少などの改善がみられていることに加え、ジェリコ処分場の改善も行われたが、UNDP 経由の無償資金協力供与機材の調達遅れにより、具体的な収集・運搬の改善が十分達成されたとは言いがたく、成果5の達成状況は限定的である。

プロジェクトが開始する以前より、廃棄物管理と呼べるようなシステムをもっていたのは、ジェリコ市（Jericho Municipality）、アル・ニアメ町（Al-New'meh & Edyuk Al-Foqa）、アル・オージャ村（Al-Ojah）の3自治体⁹のみであり、現在サービスを受けているそれら3自治体以外の自治体¹⁰は、2007年1月のJCspd JJRRVの収集サービス開始後、新しく廃棄物処理サービスを受けており、収集率は向上しているといえる。また、現在は、ジェリコ（Jericho）、アル・オージャ（Al-Ojah）、トゥバス（Tubas）の3カ所の処分場を利用していること、また、定期収

⁹ この3自治体に加え、UNDPがJSC Middle Jordan Valley（参加自治体は、中部の10自治体）を対象にした開発事業を行った際に車両を供与しており、一部の自治体ではその車両を利用して一部地域で収集を行っていたとのことである。車両が供与される以前は、収集は行われていなかった。

¹⁰ JCspd JJRRV 構成自治体の数は17、推計人口は約5万人である。2007年1月より3ヵ月間は試験期間として、全自治体を対象にサービスを提供したが、現在は、3つの自治体がサービスを受け入れていない。Al-Jiftlik、Froosh Beit Dajan、Bardalahの3自治体である。Al-Jiftlikに関しては、自治体の長と住民の間の関係がよくなく、首長に伝えてことが住民には伝わっていない。また、コミュニティ会合の開催を依頼しても、住民を十分集めてはくれないという状況が続いている。今後は、首長に報告は続けるものの、首長を介さないコミュニティ会合を実施することで対応する予定である。Bardalahに関しては、住民は大きく2つのグループ（現地ではfamilyと表現されていた）に分かれているとのことであるが、これらの住民グループ間の競争意識が強く、一方の住民グループが必要とえば、もう一方が必要ないという状況が続いている。このBardalahに関しては、反対派グループに面会を申し入れ、直接説明をする会合を開催する予定とのことである。また、Al-JiftlikとBardalahに関しては、1度も分担金・サービス料とも支払っていない。Froosh Beit Dajanは、分担金を支払ったことはあるものの、住民の間でニーズが高くないという理由からサービスは行われていない。Froosh Beit DajanとAl-Jiftlikに関してはC地区にある自治体であり、特にFroosh Beit Dajanは自治体規模も小さい。これらの自治体では、イスラエルからの学校の建設許可がおりないということで、テントを学校がわりにしているというような状況である。

集のなかった自治体で新しく定期収集が始まったことから、不法投棄は減少したといえる。しかしながら、連携案件である UNDP 経由での無償資金協力機材の供与が当初の予定より遅れており、具体的な収集・運搬改善活動に不可欠な収集車両と重機が不足しているため、収集・運搬の改善状況は限定的である（指標 5.1）。

処分場に関しても、2007 年 1 月より、ジェリコ処分場の改善計画が行われ、3 月 21 日には開所式を迎え、現在、利用されている。しかしながら、残余期間が半年程度と短く、衛生埋立地の運営管理を習得するには不十分であることが懸案となっている（指標 5.2）。

改善実施総括レポートに関しては、2007 年 10 月以降に準備を開始する予定となっている（指標 5.3）。

成果 6	現地国内セミナーが開催され、JJRRV 地域の事業が普及される
指 標	6.1 パレスチナ各地域の廃棄物担当者を対象とした現地国内セミナー（研修・現場視察を含む）の開催

全国セミナーを最終年度に実施する予定であるが、JCC や各種セミナーには他の自治体や JCspd から参加があり、ある一定の情報・経験の共有は行われているため、成果 6 は一部達成されているといえる。

また、廃棄物処理関連施設の視察に関しては、2006 年 10 月 3 日に改善前のジェリコ処分場とイスラエル側が運営管理をしているトブラン（Tovlan）処分場への視察が、2007 年 3 月 1 日には世銀の支援で建設されたジェニン（Jenin）処分場、2007 年 3 月 21 日には改善後のジェリコ処分場への視察が実施され、ジェリコ市職員に加え、教師やジャーナリストらが参加し、処分場の適切な運営の重要性について学ぶ機会を得ている。他自治体・JCspd、援助関係者からの現地視察は、その後つづいている（指標 6.1）。

成果 7	本邦研修が開催され、廃棄物管理に係る基礎知識が獲得される
指 標	7.1 ジェリコを含むパレスチナ各都市の廃棄物担当者を対象とした国別研修集団型コースの開催

本邦研修は予定どおり過去 2 回実施されているほか、ヨルダンでの第三国研修も実施されており、参加者は廃棄物管理に関する基礎知識を獲得したといえ、成果 7 は達成されている。

国別研修に関しては、パレスチナ「廃棄物管理能力向上」コースが、2005 年 9 月 5 日～10 月 7 日と、2006 年 11 月 1 日～12 月 1 日の 2 回開催されており、それぞれ 5 人、8 人の関係者が参加している。ヨルダンへの第三国研修（2006 年 9 月 16 日～22 日）がヨルダン環境省、アンマン市役所、在ヨルダン JICA 専門家の協力を得て実施されており、JCspd JJRRV 職員、JCspd JJRRV 理事会メンバーら合わせて 9 人が研修に参加している（指標 7.1）。

3-3 プロジェクト目標の達成見込み

プロジェクト目標 1	JJRRV に持続的で衛生的な廃棄物管理システムが導入される
指標	1.1 収集・運搬が改善され、不法投棄が減少する 1.2 医療廃棄物の分別収集と適正処分がなされる 1.3 現地の条件に応じた適正技術による衛生埋め立て（Controlled Landfill）がなされる 1.4 廃棄物管理を担う機関が、健全な財政基盤を備える

JCspd JJRRV による広域廃棄物管理システムの導入には成功したものの、その財政基盤の脆弱性と機材の調達遅れにより、プロジェクト期間内でのプロジェクト目標 1 の達成は困難になりつつある。

先述のとおり、JCspd JJRRV による廃棄物収集の開始以前に、定期収集を行っていたのは、ジェリコなど 3 自治体¹¹のみであり、現在サービスを受けているそれ以外の自治体¹²は、JCspd JJRRV の収集サービス開始後、新しく廃棄物処理サービスを受けており、収集・運搬は改善されているといえる。しかしながら、連携案件である UNDP 経由での無償資金協力機材の供与が当初の予定より遅れており、より本格的な収集・運搬改善活動に不可欠な収集車両と重機が不足しており、その進捗に影響を与えている。また、不法投棄に関しては、定期的な収集サービスを受ける自治体が増えたことに加え、衛生・管理状況の悪い処分場への持ち込みをやめ、現在は、ジェリコ、アル・オージャ、トゥバスの 3 カ所の処分場を利用している点から、減少したといえる（指標 1.1）。

医療廃棄物の当該地域での処理方法としては、地域の医療施設から出た医療廃棄物を日本の無償資金協力で建設した新ジェリコ病院に集め、焼却炉で焼却処理をするという方法が提言されているが、実際には、同病院は運転費 200 米ドル/月が工面できず、焼却炉を利用していない。現在は、暫定的な措置として、新ジェリコ病院内にジェリコ市所有のコンテナが置かれ、病院内で発生するすべての廃棄物をジェリコ市が収集し、ジェリコ処分場に投棄しているとい

¹¹ この 3 自治体に加え、UNDP が JSC Middle Jordan Valley（参加自治体は、中部の 10 自治体）を対象にした開発事業を行った際に車両を供与しており、一部の自治体ではその車両を利用して一部地域で収集を行っていたとのことである。車両が供与される以前は、収集は行われていなかった。

¹² JCspd JJRRV 構成自治体の数は 17、推計人口は約 5 万人である。2007 年 1 月より 3 ヶ月間は試験期間として、全自治体を対象にサービスを提供したが、現在は、3 つの自治体がサービスを受け入れていない。Al-Jiftlik、Froosh Beit Dajan、Bardalah の 3 自治体である。Al-Jiftlik に関しては、自治体の長と住民の関係がよくなく、首長に伝えてことが住民には伝わっていない。また、コミュニティ会合の開催を依頼しても、住民を十分集めてはくれないという状況が続いている。今後は、首長に報告は続けるものの、首長を介さないコミュニティ会合を実施することで対応する予定である。Bardalah に関しては、住民は大きく 2 つのグループ（現地では family と表現されていた）に分かれているとのことであるが、これらの住民グループ間の競争意識が強く、一方の住民グループが必要といえ、もう一方が必要ないという状況が続いている。この Bardalah に関しては、反対派グループに面会を申し入れ、直接説明をする会合を開催する予定とのことである。また、Al-Jiftlik と Bardalah に関しては、1 度も分担金・サービス料とも支払っていない。Froosh Beit Dajan は、分担金を支払ったことはあるものの、住民の間でニーズが高くないという理由からサービスは行われていない。Froosh Beit Dajan と Al-Jiftlik に関しては C 地区にある自治体であり、特に Froosh Beit Dajan は自治体規模も小さい。これらの自治体では、イスラエルからの学校の建設許可がおりないということで、テントを学校がわりにしているというような状況である。

う状況である。よって、医療廃棄物の分別収集と適正処分がなされているとはいえない¹³（指標 1.2）。

2007年1月よりジェリコ処分場の改善工事を開始し、3月21日には開所式を迎えている。遮水シートを張り、ガス抜き管、浸出水池を備えた準好気性の当該処分場は、当該地域で唯一衛生埋立方式を行っている処分場¹⁴として利用されているが、残余期間が半年程度と短く、衛生埋立地の運営管理を習得するには不十分であることが懸案となっている（指標 1.3）。

衛生的な廃棄物管理システムの「持続性」に目を向けてみれば、JCspd JJRRV の財政基盤の脆弱性が課題となっている。月次収支表については、下表 1 のとおりである。また、住民の支払う毎月のサービス料¹⁵から成る 17 自治体サービス料（月額）の総計は 13 万 9,726NIS であるが、現在、1つの自治体しかサービス料の全額を支払っていない（指標 1.4）。

表 1 JCspd JJRRV 月次収支表

単位：NIS

	Jan	Feb	Mar	Apr
I 収入	107,023.41	71,939.18	95,096.51	72,228.69
II 支出	128,198.35	72,201.18	97,337.92	81,077.61
III 収支	-21,174.94	-262.00	-2,241.41	-8,848.92

注：1月に関しては、サービス料以外にプロジェクトが供与した資機材費が含まれている。

プロジェクト目標 2	JJRRV の改善事例経験が、パレスチナ他都市の廃棄物管理の改善に向けたモデルケースとなる
指標	2.1 パレスチナ他地域において JJRRV の改善事例が認識される

プロジェクト目標 2 の達成に資する主な成果としては、成果 6、成果 7 があげられ、成果 6 に関連しては、プロジェクトの最終年に全国セミナーを実施することを予定している。しかし、下記のとおり、既に、成果 7 やその他の活動を通して、JCspd JJRRV の改善事例は認識されつつあり、プロジェクト目標 2 は達成されつつあるといえる。

成果 7 に関しては、国別研修のパレスチナ「廃棄物管理能力向上」コースが、今まで 2 回開催されており、それぞれ 5 人、8 人の関係者が参加している。第 1 回本邦研修への参加者の多くは、JCspd JJRRV 関係者（当時のジェリコ市職員）であったが、第 2 回研修に関しては、他の JCspd や自治体からも参加があった。研修では、JCspd JJRRV の活動が紹介されており、当該地域の改善事例を取り上げてケーススタディーも行われている（指標 2.1）。

その他、JCC や各種ワークショップには他の JCspd や自治体からも招かれており、その際に JCspd JJRRV の経験が共有され、認識は広がりつつある。MoLG DJCspd では、国家廃棄物・

¹³ プロジェクトとしては、医療廃棄物管理実態調査報告ペーパーを作成・報告することで、医療機関が現状を把握し、適正な処分をすることを想定していたが、医療機関の財政状況が厳しく（職員に給料も支払われていない状況が続いている）、医療廃棄物もジェリコ処分場で受け入れられているという状況である。

¹⁴ イスラエル側の利用する Tovlan 処分場を除く。

¹⁵ サービス料は 15NIS/household/month で、自治体ごとのサービス料金総計は、15NIS/household/month 掛ける household 数で算出されている。また、1つの household に複数の family が居住している場合には、25NIS/household/month のサービス料で計算されている。

下水委員会（National Committee on Solid Waste Management and Wastewater）が活発な活動を再開した際には、この場で JCspd JJRRV の経験を広く共有し、当該委員会を中心に策定予定の廃棄物国家計画にも反映させていきたいと考えている。

3-4 プロジェクトの実施体制・実施プロセス

パレスチナにおいてはいまだ不安定な政治状況が続いており、実際、2006年3月のパレスチナ自治政府の政権交代に際しては、一時、日本人専門家の派遣が見合わされるなどの影響が出た。しかしながら、パレスチナ関係機関、日本人専門家、C/Ps、JICA パレスチナ事務所らの努力により、プロジェクト全体への影響（JCspd JJRRV による 2007年1月サービス開始という目標を含む）は最小限にとどめることができたといえる。よって、UNDP 経由で調達予定の収集車両や機材を利用した収集・運搬改善事業を除いては、おおむね、活動は計画どおり行われている。

モニタリングに関しても、プロジェクト全体に関しては、定期的開催される JCC 会合において、JCspd JJRRV の運営に関しては、JCspd JJRRV の総会や理事会で適宜行われており、適切であるといえる。

また、プロジェクト関係者（C/Ps、地方自治体、住民、地方自治庁など）の間では、必要に応じてコミュニケーションが取られており、その関係は良好である。付属資料3グッドプラクティス集にもあるとおり、C/Ps を中心に関係者のオーナーシップの高さが特筆され、実施体制・実施プロセスに問題は生じていない。

第4章 評価結果

4-1 評価5項目による分析

4-1-1 妥当性

PNAによる中期開発計画（2005～2007年）では、廃棄物管理体制の確立の重要性が強調され、環境法（Palestinian Environmental Law、1999年）では、7条、8条、9条において、廃棄物計画策定、減量化やリサイクリング、処分場の管理の重要性が述べられている。パレスチナ地方自治法（Palestinian Local Authorities Law、1997年）の15条においては、廃棄物管理がLGUの役割であると記載されており、パレスチナ政府の政策に合致している。一方、日本は、2002年に効率的、効果的に環境分野の協力を進めていくために、「持続可能な開発のための環境保全イニシアティブ（EcoISD）」を発表し、このなかで「廃棄物処理」を取り上げている。さらに、日本政府のパレスチナ支援の基本方針である「国づくり・改革支援」及び「人道支援」にも合致しており、妥当性は高い。

4-1-2 有効性

C/Pをはじめとする関係機関の努力にもかかわらず、財政基盤の脆弱性、UNDP経由での無償資金協力機材の供与の遅れによる収集・運搬改善活動の遅れがみられ、現時点におけるプロジェクト目標1の達成度は十分とはいえない。一方、主要活動がプロジェクトの最終年に実施されるものの、JCCやその他のセミナーには、ほかのJCspdや自治体も招かれており、JCspd JJRRVの経験が共有されつつあり、プロジェクト目標2に関する達成度合いは、現時点において適正範囲内といえる。全体としては、プロジェクト目標1の達成が困難になりつつあり、有効性が十分確保されているとはいいがたい。

4-1-3 効率性

PNAの政権交代のため、2006年3月～7月中旬までの3.5ヵ月間、日本人専門家の派遣が滞ったものの、関係機関、日本人専門家、C/Psの努力により、プロジェクト全体への影響（JCspd JJRRVによる2007年1月サービス開始という目標を含む）は最小限にとどめることができたため、プロジェクトはおおむね効率的に運営されているといえる。また、廃棄物処理関連機材の修理・維持管理に関しては、供与機材であるスペアパーツで遊休車両を修理し、使用している。メンテナンス用機材も、メンテナンスを委託しているジェリコ市のメンテナンス・ワークショップに供与されている。これらの機材の活用度は非常に高い。このように主な投入は、十分活用されているが、一方、UNDP経由での無償資金協力機材の供与の遅れが、一部、効率性を阻害している。

4-1-4 インパクト

中間評価の時点で、下記のようなインパクトが発現しつつある。

- ・ジェリコ地域開発プログラムに資する他の技術協力プロジェクトと、相互にインパクトを与え合っている。JCspd JJRRVにサービス料を全く支払っておらず、当該プロジェクトへの参加意思の低い自治体が、地方行政制度改善プロジェクトの一環として実施しているコミュニティ・エンパワーメント（Community Empowerment）コンポーネントから

支援を受ける可能性があり、不公平になるのではないかと他自治体の長より懸念が示されている。

- ・ JCspd JJRRV やその他の活動的な JCspd/広域行政カウンスル (JSC) の存在は、DJCspd が国家廃棄物・下水委員会の組織化を促すという正のインパクトを与えており、また、MoLG より、同委員会において、本プロジェクトの経験を共有したいという意思が表明されている。
- ・ GTZ の支援する廃棄物管理研修に関するワーキンググループのメンバー 9 人のうち 1 人は、本プロジェクトの C/P である Abdel Jabbar 氏であり、広域廃棄物管理システムをもつ JCspd の代表として JCspd JJRRV の経験を共有している。
- ・ パイロットプロジェクトとして実施したジェリコ埋立処分場の改善は、パレスチナ自治区における小規模オープンダンプの改善としては初めてのものであり、ジャーナリストや他自治体からの見学者も多く、各地に存在するオープンダンプ改善の典型例を提供している。
- ・ ヨルダン環境省、アンマン市役所の協力を得て、同国への第三国研修が実施された際に、参加者はプラスチックリサイクル工場を見学した。このことが、現在計画中の JCspd JJRRV による農業プラスチックのリサイクルにヒントを与えたといえる。

4-1-5 自立発展性

地方自治庁は JCspd JJRRV を法的に承認しており、JCspd による地方自治の再編・活性化支援という政策に変更がない限り、JCspd JJRRV は今後とも当該地域の廃棄物事業を担う組織であるといえ、制度的には一定の自立発展性を獲得した。しかし、JCspd JJRRV 職員の多くが、ジェリコ市の保健衛生局からの出向者であり、JCspd JJRRV 独自の人材とはいえ、現時点で組織面からみれば、自立発展性が高いとはいえない。財政的側面からみても、1人当たりのサービス料 (15NIS/household/month) に世帯数を乗じて算出されるサービス料総額を支払っている自治体は 1 つしかなく、他の自治体の支払い状況は 0~90% 超とまちまちである。特に、小規模自治体の財政基盤は非常に脆弱か、あるいは存在しないに等しい状況であり、現状のままでは、自立発展性が見込みが高いとはいえない。一方、技術的側面からは、JCspd JJRRV 職員が、プロジェクトを通して、日本人専門家、本邦研修を含む各種研修、あるいはアクションプランの実施から各種技術や新しい知識を習得しており、事業を継続する能力はついてきていると思われるため、自立発展性が見込みは高い。このように、制度面と技術的側面からの自立発展性は期待できるが、財政面、組織制度面については懸念が残る状況にある。

4-2 合同評価レポートの協議状況評価

第 6 回 JCC が、下記のとおり 2 日間にわたり開催され、合同評価調査団の作成した評価レポートの内容を検討した。2 日目には、その内容が承認され、正式に M/M に署名がされた。

1 日目：2007 年 6 月 19 日 (火) 10:00-12:30

2 日目：2007 年 6 月 20 日 (水) 10:00-12:00

初日には、MoLG、MoH、環境保護局 (EQA) や他の自治体などから 26 人、2 日目には 25

人の参加があり、評価内容が広く議論された。議論を通して、プロジェクトの成果が認知されるとともに、今後取り組むべき課題が明らかとなった。また、両日とも、MoLG DJC spd 局長である Kamel 氏、JCspd JJRRV 理事長兼ジェリコ市市長ハッサン・サレー氏といった主要関係者が参加しており、彼ら自身が果たすべき役割を認識する機会となったことは意義深い。また、2 日目には、MoLG 次官補（Assistant Deputy Minister）のオマール氏も会議に参加し、積極的な発言を繰り返すとともに、M/M の署名人として署名を行った。このように、プロジェクトの成果だけでなく、課題が広く共有され、参加者が果たすべき役割を理解する機会となった点は特筆に価する。

4-3 パレスチナ支援プログラムの観点からの評価

本プロジェクトは、「ジェリコ地域開発プログラム」なかの「行政能力・社会サービス強化サブプログラム」の一投入として位置づけられている。廃棄物管理はある特定の分野の具体的な行政サービスであり、地方行政としての持続発展性を考えるならば、大きな行政サービス改善の枠組みのなかで本プロジェクトが捉えられる必要がある。その意味でサブプログラムのなかに位置づけて、他のプロジェクト（他の行政サービス等）と連携してプロジェクトを実施する意義は大きい。

しかし、今回のように複数のプロジェクトをひとつのサブプログラムで同時に動かす場合、本廃棄物プロジェクトに非協力的な自治体が他の JICA プロジェクトより便益を得ていることによって他の自治体から不満がでるといった負のインパクトも生じ始めている。例えば、他のプロジェクトに提出したパイロット・プロジェクトのプロポーザルを却下されたことを理由に、廃棄物収集サービス料金の支払いをやめた自治体がある等、JCspd JJRRV による料金徴収、プロジェクトのサステナビリティに対する負の影響があげられる。

上記に関連し、相乗効果を高め負のインパクトを軽減するために、特に関係性の深いプロジェクトに対しては本プロジェクトによる経験を十分共有することが望ましく、日常行っている情報交換のほかに、定期会合を含む情報共有の機会をより積極的に設ける必要がある。

4-4 評価結果の総括

(1) プロジェクト前半期 21 ヶ月の活動の結果、当初は設立間もなく白紙の状態であった JCspd JJRRV が、広域廃棄物管理事業の実施機関として組織され、必要な人材を確保し、廃棄物管理基本計画を策定した。そして、現地住民の理解を得ながら、2007 年 1 月以来継続的な廃棄物収集サービス事業を実施できるようになった。ジェリコ埋立地においては、従来のオープンダンプが衛生埋立方式に改善された。この結果、収集サービス地域が当初の 3 自治体から 17 自治体に拡大し、従来の不法なオープンダンプが減少した。これは、プロジェクト目標 1 の達成のための基盤を確保するものであり、前半期における特筆すべき成果であると評価できる。今後本事業を持続的に実施することにより、当該地域における環境負荷が大きく削減され、公衆衛生が改善していくものと予想される。

(2) 本プロジェクト前半期のこれらの成果は、「組織（JCspd）のレベル」と、それを構成する「個人のレベル」、そして組織（JCspd）を取り巻く「制度・社会のレベル」、における包括的な能力の向上（CD）を示すものにほかならない。すなわち、JCspd の組織体

制が確立され、管理運営と財政システム、知的資産（実態調査結果、各種情報、基本計画）・物的資産（廃棄物管理機材の確保、独自事務所の確保、衛生埋立地）が整備され、人材が確保された。また、JCspd を構成する個々のスタッフは、トレーニング及び専門家チームとの協働により、廃棄物管理の実務における技術上、管理上の能力を向上させた。JCspd を取り巻く制度・社会のレベルのキャパシティとしては、JCspd が上位官庁である地方自治庁の承認を獲得し、法的に位置づけられ、かつ広く住民の理解と参加を広げた。

- (3) CD のプロセスにおいて鍵となるのは、前述の「包括的な能力向上」とともに、実施主体の自主性や内発性の形成である。本プロジェクトにおいては、PNA に対する経済ブロックによる公務員給与欠配の発生など当初の想定を超える厳しい外部条件にもかかわらず、自治体が積極的に JCspd に参画し、広域廃棄物管理事業を開始した。パレスチナ側実施機関に強いオーナーシップを認めることができ、本プロジェクトは自主性と内発性を引き出すことに成功しつつあると評価することができる。こうした JCspd による自主的な広域廃棄物管理事業の確立は、今後のパレスチナにおける廃棄物管理改善アプローチのモデルを提供するものであり、さらには、廃棄物管理にとどまらない、多様な公共サービスの実施主体としての JCspd の可能性を示すものと評価できる。
- (4) プロジェクト中間評価の時点にたつて、本プロジェクトは外部条件の悪化にもかかわらず、おおむね計画通り進捗していると評価できる。また、評価5項目の観点からは、本プロジェクトは妥当性、効率性の面において評価でき、一定のインパクトの発現も認められる。しかしながら、プロジェクトの当初から連携プロジェクトと位置づけられてきた廃棄物管理機材の無償供与について、本中間評価調査を実施するなかで、供与時期の大幅な遅れが避けられない状況であることが、明らかになった（現状では早くとも2008年6月以降であり、プロジェクトの終了時期と前後する）。これら供与機材は、JCspd による広域廃棄物管理システムの確立にとって不可欠の要素であり、これらの投入とそれを活用した技術協力なくしてプロジェクト目標の達成は困難であり、よって効率性は一部阻害されているといえる。また、自立発展性に関しては、JCspd JJRRV の財政基盤の脆弱性が懸案となっている。したがって、本プロジェクトは今後、財政的な持続性を十分考慮しながら活動を行うとともに、上記供与機材の導入時期を見極めたうえで、プロジェクト期間と実行計画を柔軟に見直す必要がある。さもないれば、プロジェクト目標を達成することは困難となるおそれがある。

第5章 今後の計画

5-1 改訂 PDM 案の要点

①プロジェクト目標2の達成のための活動を明確にする必要が確認されたこと、②パレスチナの現状によりプロジェクトの達成に困難な外部条件が具体的に確認されたため、これを明確にする必要があったことにより、付属資料1 ミニッツ・合同評価報告書の ANNEX 1 のとおり、PDM の見直しを行った。この改訂についても M/M において合意を確認し署名交換した。

5-2 提言

(1) JCspd JJRRV の財政基盤強化のための取り組み

JCspd JJRRV が事業を開始したとはいえ、財政については引き続き課題が山積している。パレスチナが現在置かれている大変厳しい経済条件の下、参加 17 自治体中 3 自治体からは、サービス料金が未納であり、完納の自治体は 1 つのみで、全体として予算総額の約 50% の納入率となっている。このため、JCspd JJRRV は財政的に自立する基盤を完全に確立したとはいえ、いまだ事業の持続性を確保したとはいえない。プロジェクト後半期には、こうした未納自治体の支払い意思 (WTP) を改めて確認し、納入率向上のための工夫を推進する必要がある。また、計画されているように、有価物 (農業資材プラスチック) リサイクルなどによる独自収入源の確保を、十分現状を把握したうえで、実施する必要がある。

(2) JCC を通じた関係機関との情報共有

本プロジェクトの活動は多くの関係機関 (特に DJCspd や関係省庁) との連携のうえに成り立ち、波及効果を与えるものである。そのために JCC を通じた関係機関との連携をいっそう緊密にすることが必要であり、情報共有の推進のために、JCC の開催を現行の年 2 回から 4 回程度に拡大させることを提言する。

(3) ジェリコ埋め立て地の拡張工事の推進

ジェリコ埋立地は、前半期において改善工事がプロジェクトの技術協力の一環で実施され、オープンダンプから衛生埋め立てへの転換がなされた。しかし、これは小規模であり、現状では近く満杯となると推定される。今後、衛生埋立地の運営管理に関する技術を向上させるために、より大きな容量の埋立地確保が必要なところ、ジェリコ衛生埋立処分場の拡張が検討されるべきである。

(4) モデル化の推進

本プロジェクトは、パレスチナ全体からみれば、JCspd の組織化、広域廃棄物管理事業の形成、の 2 つの観点におけるパイロット・プロジェクトとしての性格をもっており、その経験をモデル化することが求められている (プロジェクト目標 2)。本プロジェクト後半期においては、広く他地域の JCspd 等を招き全国セミナーを開催する計画であるところ、上記 2 つの観点での、「経験のモデル化」を推進する必要がある。

(5) 他ドナー、他プロジェクトとの情報交換と調整の推進

上記のように、本プロジェクトがモデル化を目標としているところ、関係分野のプロジェクトや支援するドナーとの情報交換を密にし、調整と連携をより積極的に図っていく必要がある。

(6) JJRRV における JICA プロジェクト間の調整

JICA 専門家チームと C/P は、相乗効果を高め負のインパクトを軽減するために、JICA パレスチナ事務所の調整の下、定期会合を含む情報共有の機会をもつことを提案する。

(7) LGU のコミットメントの強化

MoLG DJCspd と MoLG 県事務所は、プロジェクトに関連する LGU 間の利害を調整することを提案する。

5-3 中間評価調査団の所見

(1) 本プロジェクトの経験の共有（合同評価の提言 2 及び 4 に関連）

プロジェクト目標 2 「JJRRV の改善事例経験が、パレスチナ他都市の廃棄物管理の改善に向けたモデルケースとなる」に関連し、本プロジェクトでは成果 6（現地国内セミナーの開催による普及）、成果 7（本邦研修実施時の情報交換）のほか、JCC でも他地域の JCspd 代表を招待し、経験を共有しつつある。

他方、DJCspd では、JCspd/JSC の方向性について推進していくという基本的な方向性はあるものの、いまだ具体的な方針や指針をもっていないようである。また、多くのプロジェクトが異なるアプローチで協力を行っているため、これを整理しかねているように見受けられた。

したがって、DJCspd と地方行政制度改善プロジェクトに対し、希望する情報を整理して本プロジェクトの経験を伝えると効果的であると思われる。JCC、ワークショップの回数を増やすよう提言しており、これらの機会を通じて、より政策に反映しやすい方法で経験を共有できるよう対応を検討することが求められる。

また、DJCspd に対してはより現場から情報を収集すること、現場に対しモデルとなることを奨励 (encourage) する方策の検討を促してはどうかと思われる。

(2) 他の JICA プロジェクトとの調整（合同評価の提言 6 に関連）

- 1) 本プロジェクトは、「ジェリコ地域開発プログラム」中の「行政能力・社会サービス強化サブプログラム」の投入のひとつとして位置づけられている。本プロジェクトに非協力的な自治体が他の JICA プロジェクトより便益を得ていることによって他の自治体から不満がでるといった負のインパクトも生じ始めている。例えば、他のプロジェクトに提出したパイロット・プロジェクトのプロポーザルを却下されたことを理由に、廃棄物収集サービス料金の支払いをやめた自治体があるなど、JCspd による料金徴収、プロジェクトの持続性に対する負の影響があげられる。

上記に関連し、特に関係性の深いプロジェクトに対しては、本プロジェクトによる経験を十分共有することが望ましく、まずは、他のプロジェクトの希望する情報を確認したうえで、日常行っている情報交換のほかに、以下の機会を設けることを提案する。

(現地) 本技プロの経験普及が主要議題になるときの JCC,ワークショップの参加
「行政能力・社会サービス強化サブプログラム」調整会議の実施 (JICA パレスチナ事務所主導)

(本邦) JCspd の経験共有のための会議の開催 (DVD アラビア語版作成済み)、専門家チーム報告会時の参加。
業務指示書に他プロジェクトとも連携するよう盛り込み、報告書に連携の状況を盛り込むよう伝える。

2) JJRRV 地域では、多数の JICA 協力が行われているが、同地域の開発を最終目的とするために JICA がどのような基本方針でどのようなインプットを行っているか一目で分かるような資料があれば、より現地関係者の JICA 事業への協力に対するインセンティブが強化されるものと思われる。

(3) 国家廃棄物・下水委員会との調整 (合同評価の提言 5 に関連)

GTZ が有名無実化していた国家廃棄物・下水委員会委員会を支援しようとしており、同委員会により国家廃棄物計画が策定されることになっている。GTZ による投入規模は小さく、国家計画の策定までにはある程度時間を要するものと想定されるが、この取り組みに対し、効果的な情報提供の方法を検討する必要がある。

(4) 専門家チームの取り組み—グッドプラクティスの具体例

廃棄物行政・事業に従事している職員のステイタスは高くなく、まだまだ志気も高いとはいえない。しかし廃棄物行政・事業は住民に接する機会も多く、一般的には迷惑な施設、事業であり志気が低いと実施が難しい。そこで、専門家チームは、廃棄物行政・事業に従事することにプライドをもって、熱心に取り組めるように様々なアプローチを行っている。以下のような事例がある。

- 1) まず、技術的な説明ではなく清掃事業の大切さ、難しさを日本の経験を例に説明している。清掃員に対する業務説明会で東京都の清掃事業を説明した DVD を見せたところ、清掃員には大きな驚きと感動があり、清掃員らの強い要望でこの DVD のアラビア語版を作った。
- 2) 現場職員にプライドをもらうために、JCspd 職員説明会にて、市長が清掃員の前で事業の大切さと職員の業務重要性について熱弁を振るった。清掃員が市長に接する機会は過去になかったので効果があった。
- 3) ゴミを集めるだけでなく、廃棄物行政へ取り組む姿勢、住民対応を重要性なども機会あるごとに雑談などでも説明している。

このような取り組みにより、専門家チームは「清掃行政の心」を C/P に伝授しつつある。JCspd の事務所には活気があり、主体性や意欲が感じられた。また、専門家チームと C/P の間で、両者の深い信頼関係が構築されていることがうかがえた。

(5) JCspd JJRRV の現状と今後の課題

対象地域約 5 万人のうち、ジェリコ市が約半数を占め、JCspd の職員も大半がジェリコ市からの出向である (事務局長にも優秀な人物が派遣されている) など、人的、財政的にも、ジェリコ市の協力がなければ、この JCspd は成立しないと思われる。将来的には、JCspd は自治体

から独立した組織となることが望ましいが、中央政府からの財政支援が望めないなかで、現実的ではないと思われるため、この JCspd については、まずはサービス料金の徴収率を向上させ経営基盤を安定させることを第一に考え、経営基盤が安定した段階で、他のサービス事業との会計システムの統一、マルチサービス化など次のステップを考えることが適当と思われる。

(6) JCspd による事業実施

この JCspd では、廃棄物管理サービスを扱っているが、参加自治体間でニーズの有無に差があるため、今後 JCspd によるサービス導入を検討するにあたっては、参加自治体で希望するサービスを聴取し、ニーズが高く、目に見える改善効果があり（本プロジェクトに関しても、住民への啓発の観点から早期にコンテナ設置を希望する声が多く聞かれた）、料金徴収が可能な分野から着手することも一法である。

この JCspd のように、対象自治体内で大きな自治体が1つある場合は、この自治体の巻き込みが必要不可欠であり、そのためのインセンティブをいかにもたせるかが鍵となる。他の自治体と力の差があるので、JCspd 内の意思決定は比較的スムーズに行うことになると思われる。

また、本プロジェクトではコミュニティ・ミーティングを100回以上行っているが、これが非常に有効だったことが関係者からのインタビューにより明らかになっており、他事業の展開にあたって参考となる。

(7) パレスチナで今後技術協力プロジェクトや無償資金協力を実施する際の留意事項

- 1) 人的、財政的に受け入れ側のキャパシティに限りがあるため、一度着手した分野については、相手側のオーナーシップを確保することに留意しつつ、細く長い協力の実施が適当であると考ええる。
- 2) 現地における日本のコンサルタント（専門家、調査団等）による活動自体は、現在複数のプロジェクトや開発調査が実施されている状況をみても分かるように、安全対策上の見地からは基本的に問題は認められない。
- 3) 当初日本の無償資金協力事業として計画されていた収集運搬機材等の供与については、UNDP を経由した機材供与となり、背景となる外部条件に困難があったとはいえ、既に述べたように結果として導入時期の著しい遅れを招いた。今後、仮に無償資金協力が実施される場合には、安全対策上の見地に限って言えば、現時点では第三者機関を経由する必然性は特に認められない。
- 4) 廃棄物プロジェクトとコミュニティ・エンパワーメント・プロジェクトの間での対象自治体選択のコンフリクト問題にみられるように、プロジェクト間の調整が緊急の課題となっている。こうしたコンフリクトの解決を、プロジェクトの日本側担当者（専門家チーム）レベルの自主的な調整にのみ委ねるのは適切ではない。パレスチナ側の上位機関（地方自治庁等）を含めたパレスチナ側の高次の意思決定に基づくものでなければならず、そこに制度のレベルの CD 支援の意義がある。これを具現化するために、その C/P となるべきプログラムリーダーなどを配置し、プログラム全体の調整を CD 支援の観点から行う必要がある。

付 属 資 料

1. ミニッツ・合同評価報告書
2. 日本語評価グリッド
3. グッドプラクティス集
4. 議事録
5. 質問票調査の結果要約と質問票

Minutes of Meeting
Between
The Palestinian Mid-Term Evaluation Team
And
The Japanese Mid-Term Evaluation Team
On
The Project for Capacity Development on
Solid Waste Management in
Jericho and Jordan River Rift Valley (JJRRV)

The Japanese Mid-Term Evaluation Team (hereinafter referred to as 'the Japanese Team'), organized by Japan International Cooperation Agency (hereinafter referred to as 'JICA') and headed by Dr. Mitsuo Yoshida, visited Palestinian National Authority (hereinafter referred to as 'PNA') from June 3 to 23, for the purpose of conducting the joint mid-term evaluation on the Technical Cooperation Project for Capacity Development on Solid Waste Management in JJRRV (hereinafter referred to as 'the Project') on the basis of the Record of Discussions signed on July 2, 2005.

During its stay in PNA, the Japanese Team had a series of discussions and exchanged views with the Palestinian Mid-Term Evaluation Team (hereinafter referred to as 'the Palestinian Team') headed by Mr. Kamel Hemeid.

As a result of discussions, the Palestinian Team and the Japanese Team mutually agreed upon the Joint Evaluation Report and Revised PDM / PO attached as annexes.

The chapters on "Conclusion" and "Recommendation" in the Joint Evaluation Report are prepared in two versions. The main version is written in English and the other version is written in Arabic. In case of any divergence of interpretation, the English version shall prevail.

Jericho, 20 June, 2007

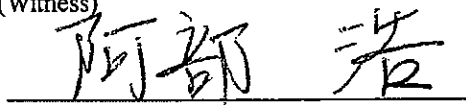


Dr. Mitsuo Yoshida
Leader
Japanese Mid-Term Evaluation Team,
Senior Advisor,
Japan International Cooperation Agency
(JICA)

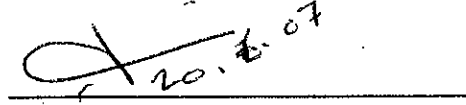


Mr. Omar Samha
Assistant Deputy Minister
Ministry of Local Government
Palestinian National Authority

(Witness)



Mr. Hiroshi Abe
Team Leader
JICA Expert Team



Mr. Hasan Saleh
President of Joint Council for services,
planning and development for Solid
Waste Management (JCspd) in JJRRV
Palestinian National Authority

Appendix I Joint Mid-term Evaluation Report
Appendix II List of Attendants

Joint Mid-term Evaluation Report
for
the Project for Capacity Development on Solid Waste
Management in Jericho and the Jordan River Rift Valley

20 June, 2007

Joint Evaluation Team

She

1

7/12

[Handwritten signature]

[Handwritten signature]

CONTENTS

- Chapter 1 OUTLINE OF THE EVALUATION STUDY
 - 1.1 Background of the Evaluation Study
 - 1.2 Objectives of the Evaluation Study
 - 1.3 Members of the Evaluation Study Team
 - 1.4 Schedule of the Evaluation Study
 - 1.5 Methodology of Evaluation
- Chapter 2 OUTLINE OF THE PROJECT
- Chapter 3 ACHIEVEMENT AND IMPLEMENTATION PROCESS
 - 3.1 Inputs
 - 3.1.1 Inputs from the Japanese Side
 - 3.1.2 Inputs from the Palestinian Side
 - 3.2 Achievement of the Project
 - 3.2.1 Project Purpose
 - 3.2.2 Outputs
 - 3.2.3 Implementation Process
- Chapter 4 EVALUATIONS BY FIVE CRITERIA
 - 4.1 Relevance
 - 4.2 Effectiveness
 - 4.3 Efficiency
 - 4.4 Impact
 - 4.5 Sustainability
- Chapter 5 RECOMMENDATIONS
 - 5.1 Results of Evaluation
 - 5.2 Recommendations

ANNEXES

- ANNEX 1: Project Design Matrix (PDM) version 3
- ANNEX 2: Plan of Operation (PO) version 3
- ANNEX 3: Evaluation Grid
- ANNEX 4: List of the Japanese experts
- ANNEX 5: List of the trainees in Japan and Jordan
- ANNEX 6: List of the provided equipment
- ANNEX 7: List of the public relations activities

Alie

JA
[Signature] *[Signature]*

ABBREVIATIONS AND ACRONYMS

AB	Administrative Body
C/P	Counterpart
CD	Capacity Development
CEP	Center for Engineering and Planning
DJCspd	Department of Joint Councils for Services, Planning and Development
EQA	Environment Quality Authority
GB	General Body
GTZ	German Technical Cooperation
JCC	Joint Coordination Committee
JCspd	Joint Councils for Services, Planning and Development
JFY	Japanese Fiscal Year
JJRRV	Jericho and the Jordan River Rift Valley
JSC	Joint Service Council
LGU	Local Government Unit
M/M	Minutes of Meeting
MoH	Ministry of Health
MoLG	Ministry of Local Government
NIS	New Israeli Sheqalim
PDM	Project Design Matrix
PNA	Palestinian National Authority
PO	Plan of Operation
R/D	Record of Discussion
SWM	Solid Waste Management
UNDP	United Nation Development Programme
WEDO	Water and Environmental Development Organization

1 NIS = Approx. ¥30

Chapter 1 OUTLINE OF THE EVALUATION STUDY

1.1. Background of the Evaluation Study

The Palestinian National Authority (PNA), which was established in 1994, is an interim legal and administrative organization that nominally governs parts of the West Bank and the Gaza. According to the Oslo Accords, PNA was designated to have control over both security-related and civilian issues in Palestinian urban areas (referred to as “Area A”) and only civilian control over Palestinian rural areas (referred to as “Area B”). The remainder of the territories, including Israeli settlements, the major parts of Jordan Valley region and bypass roads between Palestinian communities were to remain under exclusive Israeli control (referred to as “Area C”).

Under such political situations, many local government units (LGUs) of PNA have faced great difficulties to provide public services such as solid waste collection, due to the burgeoning operational costs and political and financial constraints. Current waste management practices in the West Bank are characterized by poor quality and coverage of waste collection services and improper disposal at open dump sites, and hospital and household waste are mixed together at sites that are only marginally controlled and which practice open-air burning. Those mal practices pose a direct risk to public health and environment in West Bank.

The Ministry of Local Government (MoLG) supports LGUs, which are directly responsible for solid waste management (SWM) services. Article 15 of Palestinian Local Authorities Law (1997) allows small-scale LGUs to organize a regional entity, Joint Service Council (JSC), in order to provide community service in a cost effective way.

In order to respond to the rising needs and requests of JSCs, the specialized department called the Department of Joint Councils for Services, Planning and Development of MoLG (DJCspd) was established on April 21, 2004. One of the duties of DJCspd is to work on attracting the maximum number of LGUs to become members of Joint Councils for Services, Planning and Development (JCspd). Based on this background, the JCspd for SWM in Jericho and the Jordan River Rift Valley (JJRRV) (hereinafter referred to as “JCspd JJRRV”) was established on August 6, 2005.

Under such circumstances, in August 2004, PNA requested the Government of Japan to provide technical cooperation pertaining to the establishment of an appropriate system of SWM by LGUs. In response to the request, JICA carried out a study to examine the background of the request in September 2004 and a project formulation study in February 2005. An implementation study team was also dispatched in July 2005 and both the Palestinian and the Japanese sides agreed to

Albe

1/10

[Handwritten mark]

[Handwritten mark]

implement the technical cooperation titled "the Project for Capacity Development on SWM in Jericho and the Jordan River Rift Valley" (hereinafter referred to as "the Project") and signed a Record of Discussion (R/D) and a Minutes of Meeting (M/M) in July 2, 2005. On November 13, 2005 JICA sent an expert team to Palestine to carry out the Project.

This time, one year and nine months after the commencement of the Project, mid-term evaluation is conducted to evaluate whether the Project has been achieving the expected outputs and the project purpose. The specific objectives of the mid-term evaluation are summarized in the next section.

1.2. Objectives of the Evaluation Study

The specific objectives of the mid-term evaluation are outlined as follows.

- 1) To review the progress of the Project and evaluate the achievement in accordance with the five evaluation criteria (relevance, effectiveness, efficiency, impact and sustainability)
- 2) To draw the factors to promote/impede the effects
- 3) To consider the necessary actions to be taken and make recommendations for the Project
- 4) To revise the PDM and PO, if necessary
- 5) To summarize the result of the study in a joint evaluation report

1.3. Members of Evaluation Study Team

The mid-term evaluation team (hereinafter referred to as the Team) consists of the following members.

1.3.1. the Palestinian side

(1) Mr. Kamel Hemeid (Leader)

General Director, Department of Joint Council for Services, Planning and Development
Ministry of Local Government

(2) Mr. Fawas Rabaia (Member)

General Manager of Public Relations
Ministry of Local Government

(3) Mr. Abdel-Jabbar Abu-Halawa (Member)

Executive Director
Joint Service Council for Solid Waste Management in Jericho and Jordan River Rift Valley

1.3.2. the Japanese side

(1) Dr. YOSHIDA Mitsuo (Leader)

Albe

FR

[Handwritten signatures]

Senior Advisor (Water, Waste and Environment), Institute for International Cooperation, Japan International Cooperation Agency (JICA)

(2) Ms. TAMURA Eriko (Cooperation Planning)

Senior Program Officer, Global Environment Department, Japan International Cooperation Agency (JICA)

(3) Ms. OISHI Misa (Evaluation Analysis)

Consultant, Consulting Division, IC Net Limited

1.4. Schedule of the Evaluation Study

Date	Schedule
6/3 (Sun)	(Oishi) 05:30 Arrival of Ms.Oishi, a evaluation consultant at Tel Aviv 12:00 Meeting with JICA Tel Aviv office at Abratel Hotel
6/4 (Mon)	08:30 Move from Tel Aviv to Bethlehem 10:30 Meeting with Mr Kamel at DJCspd in Bethlehem (Mr. Abe, JICA Tel Aviv office) - Introduction of the purpose of the Mid-term Evaluation Study - Confirmation of the schedule - Nomination of the Joint Evaluation Team from the Palestinian side PM: Kick-off meeting with key counterparts (JCspd/CP and Administrative Body member of JCspd) in Jericho - Introduction of the purpose of the Mid-term Evaluation Study - Confirmation of the schedule 16:00 Interview: Mr. Makky of JICA Jericho
6/5 (Tue)	10:00 Study on Inputs (Equipment, Allocation of C/P, Operational cost of the project, etc.) Interview: Mr. Abdel-Jabbar Al-Halawa 12:00 Group Interview to the C/P in JCspd: 5 counterparts
6/6 (Wed)	10:00 Interview: Mr. Hassan Saleh (JCspd president) 12:00 Interview: Mr. Ghaleb Awatlah (Head of Al-New'meh, and AB member)
6/7 (Thu)	Preparation of the draft Joint Evaluation Report

Abe

Handwritten signature/initials

Handwritten signature/initials

6/8 (Fri)	Preparation of the draft Joint Evaluation Report
6/9 (Sat)	Interview with Counterparts (C/Ps) and others 09:00 Move to Ramallah 10:00 Interview at Ministry of Health
6/10 (Sun)	(Oishi) AM Interview: Mr. Gazi Ayyad (Director of General Service of Jericho) Interview: Mr. Ismail Safi (Head of Maintenance of Jericho) PM Group Interview: JCspd workers and drivers
6/11 (Mon)	(Yoshida & Tamura) 03:15 Arrival of Mr. Yoshida and Ms. Tamura at Tel Aviv (Oishi) 09:30 Interview: Mr. Mustafa Alhmidat (Trainee in Japan, New Jericho Hospital) 11:00 Interview: Mr. Mohammad Njoom (Trainee in Japan, DJCspd of Jericho of MoLG) (Oishi/ Abe/ Ishii) Arrival in Tel Aviv by 15:00 (Yoshida, Tamura, Oishi, Abe, Ishii) 15:00 Meeting at JICA office in Tel Aviv Meeting with JICA Expert Team
6/12 (Tue)	10:30 Meeting with Mr. Kamel at DJCspd in Bethlehem Discussion on the tentative result of the mid-term evaluation Move from Tel Aviv to Jericho 19:00 Meeting with Mayor of Jericho
6/13 (Wed)	08:30 Meeting with Mr. Abedel Nasser Makky, JICA coordinator, Jericho 10:30 Meeting with JICA expert team 19:00 Meeting with UNDP at Intercontinental Hotel in Jericho
6/14 (Thu)	10:30 Meeting with GTZ in Ramallah Preparation of the draft Joint Evaluation Report
6/15 (Fri)	Preparation of the draft Joint Evaluation Report
6/16 (Sat)	Visit to JCspd Office, Disposal site in Jericho, Workshop in Jericho, Disposal site in Al-Ojah

	Note: Draft Report of Mid-term Evaluation will be sent to JCC members
6/17 (Sun)	Interview: Mr. Mahmood Sawafta (Head of Bardarah) Interview: Mr. Mohammad Jahaleen (Head of Jitlik) Interview: Mr. Mahmood Abuhattab (Head of Ein Shibli. AB member) Interview: Mr. Ibrahim Ishhadeh (Head of Nawaji) Interview: Mr. Hasan Jermi (Head of Zibidat, JCspd vice-president)
6/18 (Mon)	(Joint Evaluation Team) Reviewing the draft Joint Evaluation Report
6/19 (Tue)	10:00 Meeting with JCC members in Jericho for receiving comments on the draft report (Joint Evaluation Team) P.M. Meeting at JICA Jericho Field Office
6/20 (Wed)	10:00 Signing of M/M at JCC meeting
6/21 (Thu)	(Japanese Evaluation Team) Meeting with Japanese experts Move to Tel Aviv
6/22 (Fri)	(Japanese Evaluation Team) Report to JICA Palestine Office and Embassy of Japan
6/23 (Sat)	Japanese evaluation team members leave the country

1.5. Methodology of Evaluation

The Project was evaluated based on the Project Design Matrix (PDM), which is a summary table of this Project. The PDM was revised and approved by the JCC meeting on July 26, 2006. The mid-term evaluation was carried out based on this revised PDM.

1.5.1. Evaluation procedure

First, the Team formulated the evaluation grid which identified the specific evaluation points and the data collection methods. For the data and information collection, the Team applied various methods such as the questionnaire, the interviews, the focus group discussions and the observation of the improved dumping sites in Jericho and the maintenance workshop of Jericho Municipality. The Team analyzed and evaluated the Project in terms of the achievement level of the Project, the

Alve

1/10

1/10

1/10

implementation process, and five evaluation criteria such as Relevance, Effectiveness, Efficiency, Impact and Sustainability. Finally, the Team made the recommendations based on the results.

1.5.2. Points for the evaluation

Achievement level and Implementation Process of the Project

The achievement levels in terms of Inputs, Activities, Outputs, and Project Purposes were assessed in comparison with the revised PDM and Plan of Operation (PO) and the actual results of the Project. The implementation process of the Project was also confirmed from the various viewpoints such as monitoring and communication.

Evaluation Criteria

In addition to verification of achievement level and implementation process of the Project, the mid-term evaluation study assesses the Project from the following five evaluation criteria.

- (1) Relevance: An overall assessment of whether the project purpose and overall goal are in line with policy of both sides and with partner countries' needs.
- (2) Effectiveness: A measure of whether the project purpose has been achieved. This is then a question to the degree to which the outputs contribute towards achieving the intended project purpose.
- (3) Efficiency: A measure of the production of outputs (results) of the Project in relation to the total resource inputs.
- (4) Impact: The positive and negative changes, produced directly and indirectly as the result of the Project.
- (5) Sustainability: An overall assessment of the extent to which the positive changes achieved by the Project can be expected to last after the completion of the project.

Chapter 2 OUTLINE OF THE PROJECT

The Project has been carried out since September 2005. The expected Overall Goal, Project Purposes and Outputs written in PDM2 are as follows:

Overall Goal:

1. In PNA, a basic policy and a concrete action plan on integrated SWM are formulated.
2. Effective system of SWM modeling JJRRV is diffused in PNA

Project Purposes:

1. Sustainable and sanitary system of SWM is introduced in JJRRV.
2. Experiences of improvement on SWM in JJRRV are shared as a model for other areas in

Abc

Handwritten marks and signatures

PNA.

Outputs:

1. Organization for project operation is established.
2. System for SWM in JJRRV is established.
3. Present situation of SWM in JJRRV is grasped.
4. Action plan for improvement of SWM in JJRRV is formulated.
5. The action plan is put into practice and the improvement is made.
6. Seminars/ workshops are held and the Project experiences in JJRRV are diffused among Palestinian local authorities.
7. Those who are in charge of SWM in local authorities and related ministries acquire basic knowledge on integrated SWM.

Chapter 3 ACHIEVEMENT AND IMPLEMENTATION PROCESS

3.1. Inputs

3.1.1. Inputs from Japanese side

In total, the Japanese side has allocated and appropriated necessary budget for the project activities and management as shown in the following table.

Unit: Yen

	JFY2005	JFY2006
Total Cost for Project Implementation	7,158,000	43,836,000

Below are the details regarding main inputs provided by JICA (all the numbers and figures below are as of June 2007).

(1) Dispatch of Japanese experts

The following numbers of experts were dispatched and assigned. For details, please refer to the ANNEX 4.

- Six (6) short-term experts from November 2005 to March 2006
- Eight (8) short-term experts from July 2006 to March 2007
- Three (3) short-term experts from May 2007 to June 2007

(2) Counterpart Training in Japan

Country Focused Training Course on Capacity Building in Solid Waste Management for Palestine in Japan was organized twice by now; the first course was from September 5 to October 7, 2005 and the second one was from November 1 to December 1, 2006. Five and eight officers from different

organizations participated in respectively. In addition, the third country training in Jordan was also carried out from 16 to 22 of September, 2006 under the cooperation with Ministry of Environment, Jordan. For detail information about the participants in those training courses, please refer to the ANNEX 5.

(3) Provision of equipment

The provided equipment by the Project, such as maintenance tools and spare parts for existing collection vehicles, is detailed in ANNEX 6.

3.1.2. Inputs from the Palestinian Side

The Palestinian side has allocated the office space for the Project.

3.2. Achievement of the Project

3.2.1. Project Purposes

Project Purpose 1. "Sustainable and Sanitary system of SWM is introduced in JJRRV."

The Team evaluated that in spite of great efforts made by JCspd JJRRV, the Project Purpose 1 is only partially achieved due to the financial vulnerability and delay in the introduction of new collection and transportation system.

From the viewpoint of waste collection and transportation system, only three (LGUs such as Jericho Municipality, Al-New'meh & Edyuk Al-Foqa Local Council and Al-Ojah Local Council have had solid waste management system before the Project; thus the remaining LGUs started receiving the solid waste collection service after the inauguration of JCspd JJRRV's operation. The waste collection and transportation system is improved in these areas. However, the provision of equipment through UNDP, the collaborating project mentioned in PDM, was rescheduled, and delayed the activities regarding the introduction of new collection system.

In regard to dumping sites, as a part of the Action Plan, improvement activities of Jericho dumping site was implemented from January to March 2007, and the improved dumping site is currently in operation. This dumping site which employs a semi-aerobic system with liner sheet, leachate pond and gas ventilation is the only one controlled dumping site in JJRRV and some interviewees commented that it reduces Jericho fries. In addition, the fact that the participating LGUs stopped using three open dumping sites resulted in the reduction of illegal dumping. This is a great

She

1/10

[Handwritten marks]

achievement of the Project.

The financial sustainability of JCspd JJRRV is a major concern. Monthly cash flow is shown in Table 1 below. Each LGU's monthly due totals NIS139,726, and only one of 17 LGUs was able to pay 100% of their dues.

Table 1: Monthly cash flow of JCspd JJRRV (unit: NIS)

		Jan	Feb	Mar	Apr
I	Cash-in	107,023.41	71,939.18	95,096.51	72,228.69
II	Cash-out	128,198.35	72,201.18	97,337.92	81,077.61
III	Balance	-21,174.94	-262.00	-2,241.41	-8,848.92

Note: For January, around NIS 45,000 was provided as equipment form the Project.

Project Purpose 2. "Experiences of Improvement on SWM in JJRRV are shared as a model for other areas in PNA."

The Project Purpose 2 is being achieved through information sharing at JCC meetings and other seminars and workshops, despite that a major contributing Output 6 is not yet to be produced.

As for Output 6, the Project plans to hold national seminars which invite all the major joint service councils(JSCs) and JCspds to disseminate the experiences of JCspd JJRRV in the fourth year.

As for Output 7, *Country Focused Training Course on Capacity Building in Solid Waste Management for Palestine* in Japan was organized twice and participated by 13 officers from different organizations. As seen in the ANNEX 5, most of the participants for the first course were from JCspd JJRRV related officers (officers of Jericho Municipality at that time). On the other, most of the participants for the second course were from other municipalities and other JCspd officers and this provided a valuable opportunity to share experiences and information of JCspd JJRRV. In these courses, the experience of JCspd JJRRV was used as a case study.

According to DJCspd/MoLG, there is the National Committee on Solid Waste Management and Wastewater, and once it is activated, experiences including one from JCspd JJRRV will be well shared at this committee, and all learning will be incorporated into a future national plan on solid waste management.

3.2.2. Outputs

Albe

Handwritten marks and signatures

Output 1. "Organization for project operation is established."

Output 1 has been achieved, and the organization for project operation was established.

As seen in the ANNEX 3, Evaluation Grid, five JCC meetings have been held regularly by now. Although some consider that JCC should be held more often, generally speaking, JCC is functioning well. In addition to JCC meetings, as for JCspd JJRRV's operation, both the General Body (GB) meetings and the Administrative Body (AB) meetings are held regularly. So far, four GB meetings and 10 AB meetings were held, and those meetings function as a major consultative platform for the member LGUs.

Output 2. "System for SWM in JJRRV is established."

Output 2 is being achieved, since the system for SWM in JJRRV is being established as seen in the various aspects below.

Basic Plan (draft) prepared jointly by Japanese experts and C/Ps were translated into Arabic and scrutinized well at the second AB meeting on August 3, 2006. This Basic Plan explains about the principles of JCspd JJRRV, the scope of SWM services and assets to be transferred from member LGUs to the JCspd, kinds of wastes to be collected by the JCspd, and frequency of such services. After the discussion at the second AB meeting, the president and the Executive Director of JCspd JJRRV introduced and explained it to all the member LGUs at the GB meeting on August 6, 2006. Presently the booklet on this Basic Plan was produced and distributed among all the member LGUs and other relevant organizations.

Drafting job descriptions of JCspd staff was initiated by the Executive Director of JCspd JJRRV. It was finalized in November 2006 and approved by the president of JCspd JJRRV on January 16, 2007. The training session for JCspd JJRRV staff was held on December 23, 2006 and the job descriptions were presented and explained at the session. These job descriptions were prepared also in Arabic and distributed among staff.

As a part of the Action Plan, financing and accounting system on SWM is being developed now. First of all, the Japanese experts and C/Ps have discussed roles and responsibilities of the accounting section of JCspd and expense items on solid waste accounting, and collected necessary information

and data. Then, based on those discussion and information, the MS EXCEL spreadsheet prepared by the Japanese expert is now being used as a tentative accounting tool.

Public relations activities have been carried out intensively from the first year of the Project. In addition to the regular production of newsletters and leaflets, the website (<http://www.jcspd-jericho.org/>) was established also in the first year. JCspd JJRRV staff was sometimes televised and explained about the Project and JCspd JJRRV to the wider public. The Project also organized many community meetings at 17 LGUs in order to raise people's awareness on waste issues and explain about functions of JCspd JJRRV, its services and the monthly service fee.

Launching JCspd JJRRV and providing SWM services could not be materialized without cooperation of LGUs, and in fact, the Project collaborates with them to a certain extent. As seen in the achievement of Output 1, LGUs have participated in a series of discussions both at GB meetings and AB meetings, made a series of decisions necessary to launch the services by JCspd JJRRV. In addition, supports from head of LGUs enable the Project to organize such a large number of community meetings.

Although the cooperative relationship with LGUs has been built to a certain extent, further cooperation should be developed. In fact, the extent of cooperation differs from LGU to LGU, and it was clearly seen by the different payment level of their dues, ranging from 0% to 100%.

The current situations on waste collection vehicles and heavy machineries were reviewed during the first year of the Project. Then, some of the existing vehicles were repaired, and maintenance equipment was also provided. For details, see the ANNEX 6. JCspd JJRRV does not have a maintenance workshop for its collection vehicles, and thus the vehicles of JCspd are serviced currently in the maintenance workshop of Jericho Municipality based on the contract of December 2006. The maintenance workshop in Jericho Municipality, that received the above mentioned maintenance equipment, now keeps records of maintenance regularly.

Output 3. "Present situation of SWM in JJRRV is grasped."

Output 3 has been achieved as seen in the following studies carried out to understand the current situation of SWM in the region.

- *Solid Waste Amount and Composition Survey -Final Report-*: Feb 2006 by Water and

Ali

Handwritten mark

Handwritten marks

Environmental Development Organization (WEDO)

- *Time and Motion Survey-Final Report*:- Feb 2006 by WEDO
- *Survey on topography, soil and groundwater for the Jericho landfill*: Oct 2006 by Center for Engineering and Planning (CEP)
- *Groundwater Analysis at Jericho and Al-Oja Dump Sites Report*: Feb 2007 by CEP
- Result of the medical waste survey described in the *Consolidation Survey Report*, Jan 2007
- *Consolidation Survey Report*, Jan 2007 by the Project

"*Seminar on Solid Waste Survey Result*" was held in order to disseminate the above result on December 20, 2006, and participated by approximately 80 participants such as officers of Jericho Municipality and other 16 LGUs, officers of MoLG, other JCspd members and health personnel.

Output 4. "Action Plan for improvement of SWM in JJRRV is formulated."

Output 4 is also achieved; the draft Action Plan was presented to a wider public and discussed and finalized in the workshop, "*Seminar on Solid Waste Survey Result*".

The final version of the Action Plan includes the following components;

- Raising public awareness
- Improvement of collection and transportation system
- Improvement of disposal system
- Improvement of maintenance system
- Strengthening organization and institution
- Establishment of accounting system

Output 5. "The Action Plan is put into practice and the improvement is made."

Output 5 is partially achieved; at present, the Action Plan is being implemented and the improvement is being made partially.

Commencement of waste collection service by JCspd JJRRV in January 2007 contributes to the improvement of collection and transportation. In addition, the fact that the participating LGUs stopped using three open dumping sites, contributed to the reduction of illegal dumping. Improvement activities of the Jericho dumping site also enhanced the sanitary situation around the

Albe

Handwritten signatures and initials

site.

The provision of equipment through UNDP, a collaborating project, will enable JCspd JJRRV to introduce a new collection and transportation system and improve the SWM system.

The Project also plans to start preparing a consolidation report on the implementation of the Action Plan which includes recommendations to PNA from October 2007, according to the present PO.

Output 6. "Seminars / workshops are held and the Project experiences in JJRRV are diffused among Palestinian local authorities."

Output 6 is partially achieved.

JCC meeting and other workshops such as "*Seminar on Solid Waste Survey Result*" were attended by other municipalities and JCspds, and the experiences of JCspd JJRRV were shared. In addition, the Project plans to hold national seminars in the fourth year to share such experiences with other JSCs and JCspds.

Output 7. "Those who are in charge of SWM in local authorities and related ministries acquire basic knowledge on integrated SWM."

Output 7 is being achieved. *Country Focused Training Course on Capacity Building in Solid Waste Management for Palestine* in Japan was organized twice by now; and 13 participants in total acquired basic knowledge on integrated SWM. As seen in the ANNEX 5, municipal officers and JCspd staff from other areas had opportunities to share experiences and information of JCspd JJRRV in these training courses.

The training courses in Jordan were held with the support of Jordanian Ministry of Environment and the Amman Municipality. Nine participants such as AB members and staff of JCspd JJRRV visited the landfill site operated by the Amman Municipality, a biogas plant, a recycling factory and so on.

3.2.3. Implementation Process

Alre

JAD
J *S*

There are not many drawbacks in the implementation process such as monitoring, communication, ownership of the C/Ps, although the Team identified from the interviews and the questionnaire surveys, that there is a room to explore closer and more effective communication between officers of the central governmental agencies and the Project.

In addition, there are several donor agencies who are working in the field of SWM in Palestine, such as UNDP and GTZ, etc. It is important to keep constant communication in order to exchange information.

Chapter 4 EVALUATION BY FIVE CRITERIA

4.1. Relevance

The Team concluded that the Project remains fairly relevant in terms of PNA's policy in the related field, and the selection of the target group in the Project is appropriate.

For example, the Mid-Term Development Plan (2005-2007) of PNA emphasizes the importance of establishment of SWM systems including the proper management of landfill sites. And the Project's Overall Goals are consistent with the PNA's national development plan.

Article 15 of Palestinian Local Authorities Law (1997), "The Council's powers, authority, and role", defines SWM as LGU's responsibility, and clarifies establishment of "the Joint Service Council". Based on this law, by-law for establishment of JCspd was issued in 2006. JCspd JJRRV was established formally and governed by this by-law.

In terms of the target groups' need, despite the commencement of the waste collection service, there is still room for improvement in administrative capacities, thus the support to the capacity development through the Project remains high. More importantly, JCspd JJRRV runs the waste collection services in the areas where such service didn't exist before; people appreciate the collection service and the importance of clean environment.

4.2. Effectiveness

The Team concluded that the effectiveness is not maximized in regard to the Project Purpose 1.

She

TA
[Signature] *[Signature]*

In spite of great efforts made by JCspd JJRRV, the Project Purpose 1 has been at best partially achieved due to primarily the severe financial situation of JCspd JJRRV. The Team identifies that a delay of the collaborating project, the provision of equipment by UNDP, also hinders fulfillment of the improvement of collection and transportation.

As for the Project Purpose 2, the achievement level is appropriate since the Team discovered that the information on JCspd JJRRV was shared through JCC meetings and other seminars/workshops, although activities regarding Output 6 were planned in the fourth year of the Project. In this regard, Output 7 also contributed to information sharing since the participants for *Country Focused Training Course on Capacity Building in Solid Waste Management for Palestine* in Japan from other municipalities and JCspds learned about JCspd JJRRV as a case study during the course.

4.3. Efficiency

From the interviews and answers of the questionnaires, the Team concluded that the efficiency is well secured for Outputs 1, 2, 3, 4, 6 and 7, but not fully secured for Output 5.

The results of questionnaire surveys and interviews revealed that they were satisfied and appreciated with the inputs by the Project such as Japanese experts, training courses and the provided equipment, since they could not only learn but also improve their works. For example, as for the provided equipment, some malfunctioning vehicles were fixed and maintenance equipment was also provided to the maintenance workshop in Jericho Municipality, where JCspd JJRRV's vehicles are serviced. The equipment provided is highly adequate, and well utilized.

It is worth mentioning here that due to the political factor, the dispatch of Japanese experts was delayed. However, thanks to the efforts made by the relevant authorities, Japanese experts and C/Ps, a negative effect to the Project, including a plan to start the SWM from January 2007, was minimized.

A major impairing factor to the efficiency is the delay in the provision of equipment by UNDP, since they are imperative for enabling JCspd JJRRV to introduce a new SWM system and improve the collection and transportation based on the Action Plan.

Ala

Handwritten marks and signatures

4.4. Impact

The Team discovered that the following impacts are emerging from and affecting the Project.

- Activeness of JCspd JJRRV and other JCspds encourages DJCspd to activate the National Committee on Solid Waste Management and Wastewater, and to incorporate lessons learned from activities of these active joint councils into a national plan on solid waste management.
- The Project has a certain impact to the community empowerment component of the Project for Improvement of Local Governance System in Palestine. Some member LGUs raised objections to the project proposal from Al-Jflik which is now short-listed as a pilot-project candidate, although the LGU has never paid for JCspd JJRRV service.

4.5. Sustainability

The Team concluded that the sustainability in terms of organizational and financial aspect is not secured, although the technical sustainability is well secured. There is no doubt that to sustain JCspd JJRRV itself and continue the JCspd JJRRV's service are great challenges for the Project.

From organizational and institutional aspects, the sustainability is unlikely to be secured soon. Most of JCspd JJRRV employees are the seconded staff from Jericho Municipality, and they are basically knowledgeable and skillful regarding SWM. In addition, they have acquired new knowledge through working together with Japanese experts, and attending training courses in Japan and implementing the Action Plan; their capacity to continue the activities is being developed. However, since they are the seconded staff from Jericho Municipality, it is difficult to assume the sustainability of JCspd JJRRV at this point.

From financial aspect, the sustainability is unlikely to be secured soon. Each LGU's monthly due composed of the monthly service fee from citizens totals NIS139,726, and Jericho Municipality is supposed to bear about 72% of this total monthly amount. At present, only one LGU is able to pay 100 % of its due and three LGUs have never paid their dues at all as seen in Table 3 in the ANNEX 3, Evaluation Grid. In fact, the financial bases of smaller LGUs are extremely vulnerable or even nil. The Project plans to raise awareness of citizens in these areas and request their financial contributions. As clearly seen from the ratio of monthly planned payment, Jericho Municipality is a key player in this JCspd JJRRV; it is imperative to request Jericho Municipality who presently pays

Albe

Handwritten marks: a signature and the number 19.

only about 60% of the due to pay more and stabilize the financial situation of JCspd JJRRV.

From technical aspects, there are prospects that the sustainability is secured. According to the interviews and answers of the questionnaires, it is clear that C/Ps appreciate knowledge and experiences acquired through working together with Japanese experts and attending training courses in Japan. The Team concluded that appropriate technologies are being transferred.

As for the improvement of the Jericho dumping site, it adopts a semi-aerobic system with liner sheet, leachate pond and gas ventilation of which concept was originally developed in Japan. The Team concerned that the improved dumping site could not provide long-enough opportunities for C/Ps to learn how to manage sanitary land-filling properly.

As municipal officials confirmed that the repaired vehicles and maintenance equipment would continued to be utilized.

Chapter 5 RECOMMENDATIONS

5.1. Result of Evaluation

As a result of the work in the first half of the Project period, JCspd JJRRV, whose functions were nil in the beginning, was organized as an executing agency of SWM, equipped with necessary personnel, and finally the Action Plan for SWM was formulated. Then, with understanding from residents, JCspd JJRRV was able to provide regular waste collection and transportation services. As for dumping, the existing Jericho dumping site was improved to be a controlled landfill site. These efforts lead to the expansion of the collection services from three LGUs before JCspd JJRRV to 17 LGUs¹ after JCspd JJRRV, and the reduction of illegal open dumping. This improvement can be regarded as a foundation for attaining the Project Purpose 1, and a remarkable achievement for the first half of the project period. The reduction of negative effects on environment and the improvement of public health are expected to be further materialized throughout the Project.

The achievement mentioned above can be explained comprehensively from the “capacity development (CD)” point of view, namely “CD at the organizational (JCspd JJRRV) level”, “CD at the individual level” and “CD at the institutional / societal level”. For the CD at the organizational

¹ Currently the service is not provided in three LGUs, namely Al-Jitflik, Froosh Beit Dajan and Bardala.

Alie

A

Feb

$\frac{1}{0} 12$

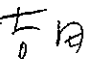
level, the following five points were achieved; (i) the organizational structure of JCspd JJRRV was established; (ii) the operational and financial management system; (iii) soft/intellectual assets such as the survey results on the present SWM systems, the Basic Plan and Action Plan; (iv) hard/material asset such as the office space, the equipment and the improved dumping site were provided with; and (v) human resources were secured. In the CD at individual level, the staff of JCspd JJRRV underwent the trainings in Japan, closely worked with Japanese experts, and their operational and managerial skills were developed at an individual level. As for the CD at institutional/ societal level, JCspd JJRRV was lawfully approved by MoLG, and it contributes acquiring citizen's understanding and participation.

In the process of CD, in addition to the "comprehensiveness" from three aspects of the capacity, ownership and commitment of the Palestinian C/Ps as individual, JCspd JJRRV as organization and the society in JJRRV, are key factors. As for the Project, in spite of difficult circumstances such as delaying of salary payment by public institutions, LGUs actively participated in JCspd JJRRV and started the service in the whole region. Strong ownership and self-motivation are observed as just mentioned; the Team concluded that the Project is being successful to enhance their independence and activeness. Establishment of JCspds for SWM as just mentioned will provide a model of SWM improvement approaches. Moreover it shows a possibility for JCspd to provide other public services in the future.

At the time of mid-term evaluation, by and large, the Project is being implemented as planned. From the viewpoint of five evaluation criteria, relevance, effectiveness and efficiency of the Project are being ensured, and some impacts are being observed, too. A concern over financial sustainability, however, remains. In addition, it became clear at this point that considerable delay of provision of collection vehicles and equipment which was considered as a collaborating grant-aid project from the beginning of the Project was unavoidable². It is difficult for the Project to achieve the Project Purpose 1 within the previously planned period, since the provision of equipment is essential to fully establish a system for the joint SWM service. Thus, the Project needs to carry out activities with a special consideration to the financial sustainability; in addition, may need to revise the project period and the operational plan for adjusting with the provision of the equipment mentioned above. Otherwise, it will become more difficult to achieve the Project Purposes of the Project.

5.2. Recommendations

² According to the officer in charge of UNDP, at earliest, the equipment could be provided after June 2008. However, due to the political uncertainty, the provision could be further delayed.



1. Effort to stabilize the financial condition of JCspd JJRRV

Many concerns remain over the financial issues of JCspd JJRRV, though the service did start. Under the current economic difficulties in the region, most of 17 LGUs were not able to pay 100% of their monthly payment and three of them have not paid it even once yet. The overall payment level is as low as 50% of the planned monthly payment, thus the financial sustainability of the services is not yet ensured. The Team recommends LGUs to continue paying their dues to JCspd JJRRV, and consider necessary arrangements for its institutional stability. In the latter half of the project period, the Project needs to reassess the member LGUs' "willingness to pay" and initiate some activities to boost the payment rate. In addition, as being planned now, it is advisable to carry out some income generating activities such as sales of recyclables after thoroughly surveying the present market situation of such products.

2. Information sharing through JCC

The Project requires the collaboration with many relevant authorities such as DJCspd/MoLG in order to disseminate the learning of the Project. Thus it is advisable to hold JCC meetings more often, if not biannual, quarterly, in order to collaborate and communicate more closely.

3. Expansion of the Jericho dumping site

The existing Jericho dumping site was improved as a part of the Action Plan of the Project in the first half of the project period, and open dumping site was transformed to a controlled landfill. However, the improved area is small and will soon be filled. Since the expected duration capacity is 6 months) and will not be able to provide long-enough opportunity to learn the management of controlled landfill site, it is advisable to consider the further expansion of the Jericho dumping site.

4. Promotion of JCspd JJRRV model

The Project has two pilot-type features in terms of (i) organizational strengthening of JCspd JJRRV and (ii) formation of joint service provision mechanism to numbers of LGUs, thus the experiences of the Project need to be diffused as a JCspd JJRRV model, which is defined as the Project Purpose 2. In the latter half of the project period, national seminars which invite other JCspds are planned, and by utilizing such opportunities, the Project should further promote the experiences of JCspd JJRRV as a model for other joint councils.

5. Coordination and collaboration with other donors and projects

As just mentioned, the Project aims to disseminate the experiences of JCspd JJRRV as one of good models to PNA, the Team recommends the Project to coordinate and collaborate more actively with

Alie

22

[Handwritten mark]

[Handwritten mark]

5A

other donors and projects in the environment sector.

6. Coordination and collaboration within JICA's projects in the region

The Team recommends both JICA expert teams and Palestinian C/Ps of all the JICA's projects in the region to have an information sharing mechanism including regular meetings in order to maximize synergy effects and minimize negative effects.

7. Enhancement of the member LGUs' commitment to the Project

The Team recommends DJCspd and the related district offices of MoLG in the region to cooperate and coordinate for the interests of the Project.

8. Revision of PDM

The Team recommends the revision of PDM as per attached in ANNEX 1 in order to clarify a few points.

Abc

Handwritten marks and signatures, including a large 'A' and some illegible scribbles.

الفصل الخامس: توصيات

5-1 نتائج التقييم

كنتيجة لأعمال النصف الأول من مدة مشروع مجلس الخدمات المشترك لإدارة النفايات الصلبة في أريحا والأغوار، الذي كانت وظيفته صفرا في بداية المشروع حيث تم إنشائه كمؤسسة منفذة لإدارة النفايات الصلبة معد بطاقم الموظفين، وأخيرا تم تكوين الخطة الرئيسية لإدارة النفايات الصلبة. ومن ثم بالتفاهم مع المواطنين كان مجلس الخدمات المشترك قادرا على تقديم خدمة جمع نفايات منتظمة. أما بالنسبة إلى التخلص، تم تحسين مكب نفايات أريحا ليكون مكبا مراقبا. وأدت تلك الجهود إلى توسيع خدمة جمع النفايات من 3 مجالس محلية قبل إنشاء المجلس إلى 14 مجلس محلي بعد إنشائه مما أدى إلى تقليل التخلص الغير قانوني والمفتوح للنفايات. وهذه التحسينات ممكن القول بأنها أساس إحراز هدف المشروع الأول، وإنجاز ملفت للنظر للنصف الأول من مدة المشروع. إن تقليل الآثار السلبية على البيئة والتحسين في الصحة العامة كان متوقع تحقيقهم خلال المشروع.

إن الانجاز المذكور أعلاه ممكن تفسيره على أنه "بناء قدرات"، بناء قدرات لمجلس الخدمات المشترك لإدارة النفايات الصلبة في أريحا والأغوار على المستوى المؤسسي، وأيضا بناء قدرات على مستوى الفرد، وكذلك بناء قدرات على مستوى المؤسسي/المجتمعي. وبكلمات أخرى، البناء المؤسسي لمجلس الخدمات المشترك تم إنشاؤه، وكذلك النظام التشغيلي ونظام الإدارة المالي، إتمام المصادر الفكرية/ البسيطة مثل الدراسات على نظام إدارة النفايات الصلبة الحالي والخطة الرئيسية، وكذلك المصادر المادية/ الصلبة تم إعدادها كمساحة المكتب، وتم التزويد بالمعدات وبالمكب المحسن، وأخيرا تم تأمين الطاقم البشري العامل. وبالإضافة إلى ذلك فإن أفرادا من مجلس الخدمات المشترك خضعوا لتدريب في اليابان حيث أنهم عملوا جنبا إلى جنبا مع الخبراء اليابانيين وبذلك فإن مهاراتهم التشغيلية والإدارية تطورت. أما بالنسبة إلى القدرات المؤسسية والمجتمعية حول مجلس الخدمات المشترك، فقد تم المصادقة على مجلس الخدمات المشترك قانونيا من قبل وزارة الحكم المحلي وساهمت على كسب عطف ومشاركة المواطنين.

وفي عملية بناء القدرات وبالإضافة إلى ما ذكر أعلاه فإن "شمولية" مقدره وملكة والتزام الشركاء كانت العامل المهم. أما بالنسبة إلى المشروع فبالرغم من الظروف الصعبة كالتأخير في الرواتب المدفوعة من المؤسسات العامة، فإن نشاط المجالس المحلية المشاركة في مجلس الخدمات المشترك وبدء الخدمة في كل المنطقة تحت الالتزام القوي من قبل بلدية أريحا. وتم ملاحظة الملكة القوية والتحفيز الشخصي. حيث استنتج الفريق أن المشروع ناجح لتحسين استقلاليتهم وفعاليتهم وتطوير مقدراتهم. ويمكن الاستنتاج أن إنشاء المجالس المشتركة لإدارة النفايات الصلبة يمكن أن يوفر نموذجا لتحسين طرق إدارة النفايات الصلبة.

وخلال تقييم نصف المدة فإن المشروع تم تنفيذه كم حُطط له. ومن وجهة نظر المعايير الخمسة للتقييم من وثيقة الصلة والفعالية والكفاءة تم ضمانهم، وتم ملاحظة بعض الأثر أيضا. وقلقا على الاستدامة المالية يبقى قائما. وبالإضافة إلى ذلك فقد أصبح واضحا بهذه المرحلة تأخيرا لا يمكن تجنبه في منحة المساعدة المطروحة ببداية المشروع بتوفير معدات وآليات لجمع النفايات. إن الإمداد بالمعدات هو أساسي لتأسيس نظام خدمة إدارة نفايات صلبة مشترك. وبالتالي فإنه من الصعب تحقيق هدف المشروع الأول. وهكذا فإن المشروع سيكمل نشاطاته بقلق خاص نحو الاستدامة المالية: وإضافة إلى ذلك يمكن مراجعة مدة المشروع والخطة التشغيلية لتتلاءم مع إمداد المعدات. وإلا فإنه سيصبح من الصعب تحقيق أهداف المشروع.

5-2 توصيات

1. جهود لاستقرار الظرف المالي لمجلس الخدمات المشترك

قلق كبير يبقى قائما حول الوضع المالي لمجلس الخدمات المشترك بالرغم من بدء الخدمة. في ظل الظروف الاقتصادية الصعبة في المنطقة أي من المجالس المحلية السبعة عشر كان قادرا على دفع جميع مستحقاته المالية الشهرية مائة بالمائة حتى أن ثلاث منها لم تدفع حتى دفعة واحدة. إن مستوى إجمالي الدفعات الشهرية المخططة كانت متدنية إلى حد 50%. وبذلك لا يمكن القول أن الاستدامة المالية لمجلس الخدمات المشترك مؤمنة، وبالتالي فإن استدامة الخدمة غير مضمونة. في الجزء المتبقي من مدة المشروع، فإن المشروع بحاجة إلى تحديد رغبة المجالس المحلية بالدفع، وإدخال بعض النشاطات لرفع مستوى دفعات المجالس المحلية المشتركة بالمشروع. وبالإضافة إلى ذلك كما هو مخطط له الآن فينصح بعمل نشاطات لزيادة الدخل مثل إعادة التدوير بعد عمل مسح شامل لوضع السوق الحالي لبعض المنتجات.

2. مشاركة المعلومات من خلال لجنة التنسيق المشتركة

المشروع يتطلب التعاون مع العديد من السلطات ذات الصلة بالموضوع مثل دائرة مجالس الخدمات المشتركة في وزارة الحكم المحلي وذلك لنشر معرفة الموضوع. وبالتالي ينصح بعمل اجتماعات للجنة التنسيق المشتركة ليس فقط اجتماع نصف سنوي ولكن ربع سنوي وذلك للتعاون والاتصال بصورة أقرب.

3. توسيع مكب نفايات أريحا

تم تحسين مكب النفايات الحالي كجزء من المشروع في النصف الأول منه حيث تم تحويل النخلص المفتوح للنفايات إلى تخلص مراقب. ولكن المساحة المحسنة صغيرة وسرعان ما ستمتلئ. ونظرا لقصر أمده حيث انه لا يسمح بتوفير الفرص الكافية لتعلم إدارة المكبات المراقبة فينصح بتوسيع مكب نفايات أريحا

4. تطوير نموذج مجلس الخدمات المشترك في أريحا والأغوار.

ان المشروع له ميزتين تجريبيتين : (أ) التعزيز المؤسسي لمجلس الخدمات المشترك في أريحا والأغوار و(ب) تكوين آلية تزويد خدمات مشتركة للعديد من المجالس المحلية، وبالتالي فإن خبرات المشروع بحاجة إلى أن تنشر كنموذج لمجلس الخدمات المشترك في أريحا والأغوار وهو هدف المشروع الثاني. وفي النصف الثاني من مدة المشروع تم التخطيط لحلقة دراسية على المستوى الوطني وذلك لكي يصبح مشروع مجلس الخدمات هذا كنموذج للعديد من المجالس المشتركة الأخرى.

5. التنسيق والتعاون مع مشاريع أخرى وماتحين آخرين.

كما أسلفنا فإن المشروع يهدف إلى نشر خبرة مجلس الخدمات المشترك في أريحا والأغوار لتكون من النماذج الجيدة في السلطة الوطنية الفلسطينية، لذلك يُنصح بالتعاون والتنسيق بنشاط مع داعمين آخرين ومشاريع أخرى في نطاق قطاع البيئة.

6. التنسيق والتعاون مع مشاريع جاياكا الأخرى في المنطقة

يوصي الفريق كلا من فرق خبراء جاياكا والشركاء الفلسطينيين لكل مشاريع جاياكا في المنطقة على مشاركة المعلومات ضمن لقاءات منتظمة لتوسيع التضامن الفعال وتقليص الآثار السلبية.

7. تحسين التزام أعضاء الهيئات المحلية للمشروع

يوصي الفريق دائرة المجالس المحلية المشتركة بوزارة الحكم المحلي ومديريات الحكم المحلي في المنطقة للتعاون والتنسيق لمصلحة المشروع.

8. مراجعة منظومة تكوين المشروع

يوصي الفريق بمراجعة منظومة تكوين المشروع المرفقة وذلك لتوضيح بعض النقاط

Alie

Handwritten signatures and initials.

ANNEXES

- ANNEX1: Project Design Matrix (PDM) version 3
- ANNEX2: Plan of Operation (PO) version 3
- ANNEX3: Evaluation Grid of Mid-term Evaluation
- ANNEX4: List of the Japanese experts
- ANNEX5: List of the trainees in Japan and Jordan
- ANNEX6: List of the provided equipment
- ANNEX7: List of the public relations activities

Albe

Handwritten mark

Handwritten mark

Handwritten mark

Project Design Matrix (PDM) (Ver.3)

Project Title: The project for Capacity Development on Solid Waste Management (SWM) in Jericho and the Jordan River Rift Valley (JRRV)

Implementing Agencies: JCspd for SWM in JRRV and Ministry of Local Government

Target Group: Staff of JCspd for SWM in JRRV and other JCspds for SWM

Target Area: (Project Purpose 1) JRRV, (Project Purpose 2) Palestine

Duration: 3 Years (From September 1, 2005 to August 31, 2008)

Narrative Summary	Objectively Verifiable Indicators	Means of Verification	Important Assumptions
<p>Overall Goal:</p> <p>1. In Palestinian National Authority (PNA), a basic policy and a concrete action plan on integrated SWM are formulated.</p> <p>2. Effective system of SWM modeling JRRV is diffused in PNA.</p>	<p>1.1 Policy paper on SWM of the JCspd</p> <p>1.2 Concrete action plans (such as medium term plan) based on policy above.</p> <p>2.1 Holding seminars and workshops regularly in JRRV.</p> <p>2.2 Realization of SWM modeling JRRV among local authorities in PNA.</p>	<p>1.1&1.2 Policy paper and concrete action plan made by PNA.</p> <p>2.1 Information on seminars and workshop in JRRV.</p> <p>2.2 Information provided by PNA.</p>	<p>The system on SWM in JRRV will be authorized by PNA as a model among local authorities and its diffusion will be encouraged by PNA.</p>
<p>Project Purpose:</p> <p>1. Sustainable and sanitary system of SWM is introduced in JRRV.</p> <p>2. Experiences of improvement on SWM in JRRV are shared as a model for other areas in PNA.</p>	<p>1. Waste collection and transportation system is improved so that illegal dumping is reduced. Segregated collection and proper treatment of medical waste is put into practice. Controlled dumping site which is suited to the situation of JRRV is realized.</p> <p>2. <u>The Organization to provide SWM service improves its financial base.</u></p> <p>3. Experiences in JRRV for improvement on SWM are well shared among other local authorities in PNA.</p>	<p>1. Interview to those who are in charge of SWM and the Project records</p> <p>2. <u>Record of the Organization</u></p> <p>3. Inquiry to areas other than JRRV.</p>	<p><u>PNA's policy for JCspd/ISC will not be drastically changed.</u></p>
<p>Project Output:</p> <p>1. Organization for Project operation is established.</p> <p>2. System for SWM in JRRV is established.</p> <p>3. Present situation of SWM in JRRV is grasped</p>	<p>1.1 The Joint Coordinating Committee (JCC) is established and held regularly</p> <p>1.2 Project implementation schedule and monitoring and feedback system are established.</p> <p>2.1 Basic plan of SWM service by JCspd is prepared.</p> <p>2.2 Duties in organization for SWM are clarified.</p> <p>2.3 Establishment of financing and accounting system on SWM.</p> <p>2.4 Public awareness of the Project.</p> <p>2.5 Collaboration with local authorities.</p> <p>2.6. Repair and Maintenance of vehicles/equipment for SWM is conducted.</p> <p>3.1 Survey report on characteristics and volume of wastes</p>	<p>1.1 Minutes of the JCC meetings</p> <p>1.2 Plan of Operation, Minutes of the JCC meetings</p> <p>2.1 Basic plan of SWM service</p> <p>2.2 Organization chart and personnel positioning paper of SWM.</p> <p>2.3 Statement of budget and settlement</p> <p>2.4 Activity log of public awareness</p> <p>2.5 Memorandum of meetings and communications.</p> <p>2.6 Record of repair and procurement.</p> <p>3.1-3.4 Each investigation reports.</p>	<p><u>The new Jericho Hospital properly treats the medical waste under the supervision of Ministry of Health.</u></p> <p><u>Equipment provided by the Japanese/UNDP Grant Aid Project is delivered.</u></p>

ANNEX1: Project Design Matrix (PDM) version 3

<p>4. Action plan for improvement of SWM in JJRRV is formulated.</p> <p>5. The action plan is put into practice and the improvement is made</p> <p>6. Seminars/workshops are held and Project experiences in JJRRV are diffused among Palestinian local authorities.</p> <p>7. Those who are in charge of SWM in local authorities and related ministries acquire basic knowledge on integrated SWM and their basic knowledge are diffused.</p>	<p>3.2 Survey report on conditions of waste collection and transportation (including of illegal waste disposal)</p> <p>3.3 Survey report on conditions of final disposal site (including pollution of soil and underground water)</p> <p>3.4 Survey report on conditions of medical waste management.</p> <p>3.5 Consolidation survey report</p> <p>3.6 Holding workshops on baseline survey</p> <p>4.1 Formulation of draft action plan based on the baseline survey</p> <p>4.2 Based on the draft action plan, workshops are hold.</p> <p>4.3 Action plan is finalized.</p> <p>5.1 Improvement of collection rate, reduction of illegal disposal.</p> <p>5.2 Improvement of final disposal site.</p> <p>5.3 Consolidation improvement report (including recommendation to PNA)</p> <p>6.1 Holding seminars/Workshops for those who are in charge of the SWM in local authorities (include site visit)</p> <p>7.1 Implementation of training courses in Japan for those who are in charge of SWM in local authorities and PNA.</p>	<p>3.5 Consolidation report</p> <p>3.6 Record of workshops</p> <p>4.1 Draft action plan</p> <p>4.2 Record of workshops</p> <p>4.3 Action plan report</p> <p>5.1 Survey of collection rate</p> <p>5.2 Monitoring the reduction of pollution by improvement of final disposal site.</p> <p>5.3 Consolidation improvement report</p> <p>6.1 Record of seminars/Workshops</p> <p>7.1 Record of training courses (including each participant's action plan reports)</p>	
<p>Project Activities</p> <p>1. Project Operation</p> <p>1.1 Joint Coordinating Committee (JCC) is established and committee meetings are held regularly.</p> <p>1.2 Project implementation schedule and monitoring and feedback system are established.</p> <p>2. System for SWM</p> <p>2.1 Survey on present situation of organization and institutional structure on SWM.</p> <p>2.2 Capacity assessment & improvement needs analysis.</p> <p>2.3 Preparation for start-up SWM Services by JCspd</p> <p>2.4 Organizational & institutional arrangement for SWM.</p> <p>2.5 Introduction of financing and accounting system on SWM.</p> <p>2.6 Public awareness on the Project</p> <p>2.7 Consultative meeting with the local authorities, members of the JCspd for SWM in JJRRV.</p> <p>2.8 Repair and maintenance of vehicle/equipment</p> <p>2.9 Training of JCspd Staff</p>	<p>Inputs from JICA (Dispatch of experts)</p> <p>The short-term experts in the following fields may be dispatched depending on needs as specified in the plan of operation.</p> <p>1) Team leader and capacity development</p> <p>2) SWM planning for urban area</p> <p>3) SWM planning for rural area</p> <p>4) Medical waste management</p> <p>5) Environmental and social impact mitigation</p> <p>6) Disposal site management.</p> <p>7) Seminars/workshop</p> <p>(Contract out with local NGOs, consultants and contractors)</p> <ul style="list-style-type: none"> • Baseline survey on SWM and pollution • Pilot project for improvement of SWM <p>(Provision of machinery and equipment)</p> <ul style="list-style-type: none"> • Equipment for disposal site improvement • Equipment for training <p>(Training in Japan)</p> <ul style="list-style-type: none"> • 5 persons for 2005 Japanese 	<p>Inputs from Palestinian side:</p> <ul style="list-style-type: none"> • Assignment of counterparts and administrative personnel. • Provision of office space with furniture for the Japanese experts and their supporting staff, room(s) for seminars/workshops and land necessary for the implementation of the project. • Provision of information and documents • Acquisition of permission for making on-site 	<p>Status of JCspd for SWM in JJRRV is not changed.</p> <p>Pre-Condition</p> <ul style="list-style-type: none"> • Political stability of JJRRV is kept and the ownerships by the counterparts is unchanged. • <u>Article of Local Administration Law which defines SWM as the LGU's responsibilities remains unchanged.</u> • Condition of safety is not deteriorated

Alie

ANNEX1-2

X See 0/2

ANNEX1: Project Design Matrix (PDM) version 3

<p>3. Investigation of present situation of SWM</p> <p>3.1 Examination of existing report, documents and planning for baseline survey.</p> <p>3.2 Implementation of baseline survey (volume and composition of waste)</p> <p>3.3 Survey on conditions of waste collection and transportation (including illegal waste disposal) and report making.</p> <p>3.4 Survey on conditions of final disposal site (including pollution of underground water) and report making.</p> <p>3.5 Survey on conditions of medical waste management and report making.</p> <p>3.6 Making consolidation report on baseline survey.</p> <p>3.7 Seminars/Workshop on baseline survey</p> <p>4. Formulation of action plan</p> <p>4.1 Formulation of draft action plan for Improvement of SWM based on baseline survey result.</p> <p>4.2 Workshop open to public is held to elaborate draft action plan and report making.</p> <p>4.3 Finalization of action plan and report making</p> <p>4.4 Preliminary environmental survey on improvement of existing disposal site.</p> <p>5. Implementation of action plan</p> <p>5.1 Improvement of waste collection and transportation, and their manuals & report making.</p> <p>5.2 Improvement of final disposal site, and its operation manual & report making.</p> <p>5.3 Making consolidation report on the implementation of action plan (including recommendations to PNA)</p> <p>5.4 Study on candidate for disposal sites</p> <p>6. Holding of seminars</p> <p>6.1 Holding seminars for personnel in charge of SWM in local authorities</p> <p>6.2 Making textbooks for seminars.</p> <p>7. Implementation of training course in Japan.</p> <p>7.1 Preparation of training in Japan</p> <p>7.2 Implementation of training course in Japan</p> <p>7.3 Training of SWM in Jordan</p> <p>7.4 Monitoring and follow-up of the action plan of each training participant.</p> <p>7.5 Conduct of lectures by ex-participants in seminars mentioned above.</p>	<p>fiscal year(JFY)</p> <ul style="list-style-type: none"> • Around 10 persons for 2006 and 2007 JFY <p>(Training in Jordan)</p> <p>10 persons from counterparts and JCspd in September 2006</p>	<p>survey in</p> <p>Jericho hospital</p> <ul style="list-style-type: none"> • Operation and maintenance of provided equipment. 	<p>and the freedom of movement is kept.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Local resources for contracting out of survey and pilot project etc. are available • The system of waste collection in the refugee camp is maintained.
--	---	---	---

Alc

ANNEX1-3

Handwritten signatures and initials, including "J/ra" and "Suo".

ANNEX 2: Plan of Operation (PO) version 3

Project Title: The Project for Capacity Development on Solid Waste Management (SWM) in Jericho and Jordan River Rift Valley (JJRRV)

Implementing Agencies: JCapd for SWM in JJRRV and Ministry of Local Government

Target Group: Staff of JCapd for SWM in JJRRV and other JCapds for SWM

Target Area: (Project Purpose 1) JJRRV, (Project Purpose 2) Palestine

Duration: 3 Years (from September 1, 2005 to August 31, 2008)

Original
Actual
Revised

Revised on 20 June, 2007

Outputs	Activities	JFY2005			JFY2006			JFY2007			JFY2008		
		Sep.	Oct.	Nov.	Dec.	Jan.	Feb.	Mar.	Apr.	May.	Jun.	Jul.	Aug.
1. Organization for Project operation is established.	1.1 Joint Coordinating Committee(JCC) is established and committee meetings are held regularly.	█	█	█	█	█	█	█	█	█	█	█	█
	1.2 Project implementation schedule and monitoring and feedback system are established.	█	█	█	█	█	█	█	█	█	█	█	█
	2.1 Survey on present situation of organizational and institutional structure on SWM	█	█	█	█	█	█	█	█	█	█	█	█
	2.2 Capacity assessment and improvement needs analysis	█	█	█	█	█	█	█	█	█	█	█	█
2. System for SWM in JJRRV is established.	2.3 Preparation for start-up JCapd SWM service	█	█	█	█	█	█	█	█	█	█	█	█
	2.4 Organizational and institutional arrangement for SWM	█	█	█	█	█	█	█	█	█	█	█	█
	2.5 Introduction of financing and accounting system on SWM	█	█	█	█	█	█	█	█	█	█	█	█
	2.6 Public awareness on the Project	█	█	█	█	█	█	█	█	█	█	█	█
	2.7 Consultative meeting with the local authorities, members of the JCapd for SWM in JJRRV	█	█	█	█	█	█	█	█	█	█	█	█
	2.8 Repair and maintenance of vehicle/equipment	█	█	█	█	█	█	█	█	█	█	█	█
	2.9 Training of JCapd Staff	█	█	█	█	█	█	█	█	█	█	█	█
	3.1 Examination of existing reports, documents and planning for baseline survey	█	█	█	█	█	█	█	█	█	█	█	█
	3.2 Implementation of baseline survey (volume and composition of waste)	█	█	█	█	█	█	█	█	█	█	█	█
	3.3 Survey on conditions of waste collection and transportation (including illegal waste disposal) and	█	█	█	█	█	█	█	█	█	█	█	█
3.4 Survey on conditions of final disposal site (including pollution of underground water) and report making	█	█	█	█	█	█	█	█	█	█	█	█	
3. Present situation of SWM in JJRRV is grasped.													

the

Jerry A.

5/2

3.5 Survey on conditions of medical waste management and report making	██████████ ██████████	██████████ ██████████	██████████ ██████████	██████████ ██████████	██████████ ██████████
3.6 Making consolidation report on baseline survey	██████████ ██████████	██████████ ██████████	██████████ ██████████	██████████ ██████████	██████████ ██████████
3.7 Seminars/Workshops on baseline survey	██████████ ██████████	██████████ ██████████	██████████ ██████████	██████████ ██████████	██████████ ██████████
4. Action plan for improvement of SWM in JJREV is formulated.	██████████ ██████████	██████████ ██████████	██████████ ██████████	██████████ ██████████	██████████ ██████████
4.1 Formulation of draft action plan for improvement of SWM based on baseline survey results	██████████ ██████████	██████████ ██████████	██████████ ██████████	██████████ ██████████	██████████ ██████████
4.2 Workshop open to public is held to elaborate a draft action plan	██████████ ██████████	██████████ ██████████	██████████ ██████████	██████████ ██████████	██████████ ██████████
4.3 Finalization of action plan and report making	██████████ ██████████	██████████ ██████████	██████████ ██████████	██████████ ██████████	██████████ ██████████
4.4 Environmental Survey on Improvement of Existing Disposal site	██████████ ██████████	██████████ ██████████	██████████ ██████████	██████████ ██████████	██████████ ██████████
5. The action plan is put into practice and the improvement is made.	██████████ ██████████	██████████ ██████████	██████████ ██████████	██████████ ██████████	██████████ ██████████
5.1 Improvement of waste collection and transportation, and their manuals & report making	██████████ ██████████	██████████ ██████████	██████████ ██████████	██████████ ██████████	██████████ ██████████
5.2 Improvement of final disposal site and its operation manual & report making	██████████ ██████████	██████████ ██████████	██████████ ██████████	██████████ ██████████	██████████ ██████████
5.3 Making consolidation report on the implementation of action plan (including recommendation to Palestinian National Authority)	██████████ ██████████	██████████ ██████████	██████████ ██████████	██████████ ██████████	██████████ ██████████
5.4 Study on candidate disposal site	██████████ ██████████	██████████ ██████████	██████████ ██████████	██████████ ██████████	██████████ ██████████
6. Seminars/workshops are held and Project experiences in JJREV are diffused among Palestinian local authorities..	██████████ ██████████	██████████ ██████████	██████████ ██████████	██████████ ██████████	██████████ ██████████
6.1 Holding seminars for personnel in charge of SWM in local authorities.	██████████ ██████████	██████████ ██████████	██████████ ██████████	██████████ ██████████	██████████ ██████████
6.2 Making textbooks for seminars	██████████ ██████████	██████████ ██████████	██████████ ██████████	██████████ ██████████	██████████ ██████████
7. Those who are in charge of SWM in local authorities and related ministries acquire basic knowledge on integrated SWM.	██████████ ██████████	██████████ ██████████	██████████ ██████████	██████████ ██████████	██████████ ██████████
7.1 Preparation of training in Japan	██████████ ██████████	██████████ ██████████	██████████ ██████████	██████████ ██████████	██████████ ██████████
7.2 Implementation of training course in Japan	██████████ ██████████	██████████ ██████████	██████████ ██████████	██████████ ██████████	██████████ ██████████
7.3 Training of SWM in Jordan	██████████ ██████████	██████████ ██████████	██████████ ██████████	██████████ ██████████	██████████ ██████████
7.4 Monitoring and follow-up of the action plan of each training participant	██████████ ██████████	██████████ ██████████	██████████ ██████████	██████████ ██████████	██████████ ██████████
7.5 Conduct of lectures by ex-participants in seminars mentioned above	██████████ ██████████	██████████ ██████████	██████████ ██████████	██████████ ██████████	██████████ ██████████

the

Handwritten signature and initials.

ANNEX 3: Evaluation Grid of Mid-term Evaluation

Country: Palestinian National Authority

Project Name: The Project for Capacity Development on Solid Waste Management in Jericho and the Jordan River Rift Valley

June 20, 2007

Item	Evaluation Questions		Results
	Questions	Sub-questions (indicators)	
<p>Achievement of Project Purposes</p> <p>Project Purpose 1 Sustainable and sanitary system of SWM is introduced in JRRV.</p>	Verification of performance		
	<p>In spite of great efforts made by JCspd JRRV, the Project Purpose 1 is only partially achieved due to the financial vulnerability and delay in the introduction of new collection and transportation system.</p> <ul style="list-style-type: none"> Waste collection and transportation system is improved so that illegal dumping is reduced. 		<p>Only three local government units (LGUs) such as Jericho Municipality, Al-New'meh & Edyuk Al-Foqa LC and Al-Ojah LC have had solid waste management system even before the Project; the remaining LGUs started to enjoy the solid waste collection service after the inauguration of JCspd JRRV's operation. The waste collection and transportation system is improved in these areas.</p> <p>The provision of equipment through UNDP, a collaborating project mentioned in PDM, was delayed further than originally planned, and affected the activities regarding the improvement of collection and transportation.</p> <p>The fact that the participating LGUs stopped using three open dumping sites contributes to the reduction of illegal dumping. These three sites are Fasyel dumping site, Almalake Bridge dumping site and Marj Na'jeh site. Now JCspd JRRV uses Jericho, Al-Ojah and Tubas dumping sites only.</p> <p>It is ideal to gather all medical wastes in the region to the New Jericho Hospital and incinerate them at the incinerator in the hospital. However, the incinerator is not utilized now since the hospital can not afford USD200 per month just to operate the incinerator. At present, a container of Jericho Municipality is placed in the premises of the hospital, and collected by the Municipality. Therefore, segregated collection and proper treatment of medical waste is not put into practice.</p> <p>Note: The Project assumed that medical institutions would handle their wastes properly based on the result of the medical waste survey done in the second year of the Project. However due to the very severe financial conditions of MOH, medical wastes are discharged into the improved Jericho dumping site presently.</p>

ANNEX3-1

the

Handwritten signatures and initials.

the

<p>Project Purpose 2 Experiences of Improvement on SWM in JRRV are shared as a model for other areas in PNA.</p>	<ul style="list-style-type: none"> Controlled dumping site which is suited to the situation of JRRV is realized. The organization to provide SWM service improves its financial base. 	<p>As a part of the Action Plan, improvement activities of Jericho dumping site was implemented from January to March 2007, and the opening ceremony was held on March 21, 2007. This dumping site which employs semi-aerobic system with liner sheet, leachate pond and gas ventilation is the only one controlled dumping site in JRRV, and in fact the improvement decreases the numbers of Jericho fires in the dumping site. However staff of JCspd JRRV said that the limited capacity of six months could not provide enough opportunities to learn how to manage dumping sites properly.</p> <p>Many interviewees expressed their concerns over the vulnerability of JCspd JRRV's financial sustainability. Monthly cash flow is shown in Table 1 below. Each LGU's monthly dues totals NIS139,726, and only one of 17 LGUs was able to pay 100% of their dues.</p> <p style="text-align: center;">Table 1: Monthly cash flow of JCspd JRRV</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 10%; text-align: center;">I</td> <td style="width: 15%;">Cash-in</td> <td style="width: 15%;">107,023.41</td> <td style="width: 15%;">71,939.18</td> <td style="width: 15%;">95,096.51</td> <td style="width: 10%;">72,228.69</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">II</td> <td>Cash-out</td> <td>128,198.35</td> <td>72,201.18</td> <td>97,337.92</td> <td>81,077.61</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">III</td> <td>Balance</td> <td>-21,174.94</td> <td>-262.00</td> <td>-2,241.41</td> <td>-8,848.92</td> </tr> </table> <p>Outputs contributing to achieve the Project Purpose 2 are Output 6 and Output 7. As for Output 6, the Project plans to hold national seminars which invite all the major joint councils to disseminate the experiences of JCspd JRRV in the fourth year. Through Output 7 and other activities such as JCC meetings and seminars/ workshops, experiences of improvement by JCspd JRRV are being disseminated.</p> <p>As for Output 7, <i>Country Focused Training Course on Capacity Building in Solid Waste Management for Palestine</i> in Japan was organized twice by now. The second training course from November 1 to December 1, 2006 was participated by eight officials from other municipalities and other JCspd officers, and the course provided a valuable opportunity to share experiences and information of JCspd JRRV.</p> <p>According to DJCspd/MoLG, there is the National Committee on Solid Waste Management and Wastewater, and once it is activated, experiences including one from JCspd JRRV will be well shared at this committee, and all learning will be incorporated into a future national on solid waste management.</p>	I	Cash-in	107,023.41	71,939.18	95,096.51	72,228.69	II	Cash-out	128,198.35	72,201.18	97,337.92	81,077.61	III	Balance	-21,174.94	-262.00	-2,241.41	-8,848.92
I	Cash-in	107,023.41	71,939.18	95,096.51	72,228.69															
II	Cash-out	128,198.35	72,201.18	97,337.92	81,077.61															
III	Balance	-21,174.94	-262.00	-2,241.41	-8,848.92															
<p>Achievement of the Outputs 1. Organization for project operation is established.</p>	<p>The organization for project operation is established.</p> <p>1.1 The Joint Coordinating Committee (JCC) is established and held regularly.</p>	<p>As shown below, five JCC meetings have been held by now.</p> <p style="text-align: center;">Table 2: Records of JCC meetings</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 5%;">No.</th> <th style="width: 15%;">Date</th> <th style="width: 45%;">Major issues discussed</th> <th style="width: 35%;">No. of participants</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">1</td> <td style="text-align: center;">13/12/2005</td> <td>i) Explanation of inception report, ii) Roles and responsibilities of JCspd JRRV</td> <td style="text-align: center;">26</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">2</td> <td style="text-align: center;">02/03/2006</td> <td>i) Progress of the Project, ii) Plan of 2006</td> <td style="text-align: center;">20</td> </tr> </tbody> </table>	No.	Date	Major issues discussed	No. of participants	1	13/12/2005	i) Explanation of inception report, ii) Roles and responsibilities of JCspd JRRV	26	2	02/03/2006	i) Progress of the Project, ii) Plan of 2006	20						
No.	Date	Major issues discussed	No. of participants																	
1	13/12/2005	i) Explanation of inception report, ii) Roles and responsibilities of JCspd JRRV	26																	
2	02/03/2006	i) Progress of the Project, ii) Plan of 2006	20																	

ANNEX3-2

See J. 10

3	26/07/2006	i) Progress of the Project, ii) JCspd JJRRV Regulation, iii) Revision of PDM and PO	31
4	16/10/2006	i) Progress of the Project, ii) Budgetary plan of 2007	50
5	14/03/2007	i) Progress of the Project, ii) Action plan (draft)	28

As for JCspd JJRRV, a key organization of the Project, both general body meetings and administrative body meetings are held regularly, as shown below:

JCspd JJRRV General Body (GB) Meeting*:

- First: 13/09/2005 Election of the administrative body member
- Second: 02/09/2006 Regulations of JCspd JJRRV
- Third: 06/08/2006 Approval of Basic Plan
- Fourth: 16/10/2006 Approval of Budgetary Plan

JCspd JJRRV Administrative Body (AB) Meeting:**

- First: 21/02/2006 Approval of PO (Plan of Operations)
- Second: 03/08/2006 Regulations of JCspd JJRRV, Planning of Basic Plan
- Third: 19/08/2006 Approval of organizational framework, Planning of Action Plan
- Fourth: 02/10/2006 Preparation of the office space, employment of staff, transferring equipment
- Fifth: 12/10/2006 Selection of primary staff, approval of budgetary plan
- Sixth: 10/12/2006 Starting date of JCspd JJRRV's services, renting the office
- Seventh: 17/12/2006 Operational plan of 2007, Contracting for the office space
- Eighth: 03/02/2007 Progress and problem of the started service by JCspd JJRRV
- Ninth: 06/03/2007 Measures to collect monthly service fees
- Tenth: 06/05/2007 Measures to collect monthly service fees

*GB meeting is the meeting participated by all 17 LGUs, and according to the by-law on JCspd issued by MoL-G, the general body meeting shall be held at least once per year.

**According to the same by-law, the administrative body consists of total five members, the president, the deputy president and three other elected members, and they shall hold meetings at least once per month.

the

See

10

	1.2 Project implementation schedule and monitoring and feedback system are established.	<p>Although some consider that JCC should be held more often, JCC is functioning well.</p> <p>As for JCspd JRRV, both GB meetings and AB meetings are held regularly and function well as the major consultative platform for member LGUs.</p>
2. System for SWM in JRRV is established.	<p>According to the indicators below, System for SWM in JRRV is being established.</p> <p>2.1 Basic Plan of SWM service by JCspd is prepared.</p> <p>2.2 Duties in organization for SWM are clarified.</p> <p>2.3 Establishment of financing and accounting system on SWM</p> <p>2.4 Public awareness of the Project</p> <p>2.5 Collaboration with local authorities</p>	<p>Basic Plan (draft) prepared jointly by Japanese experts and Palestinian C/Ps were translated into Arabic and scrutinized well at the second AB meeting on August 3, 2006. This Basic Plan explains about the principles of JCspd JRRV, the scope of SWM services to be transferred from LGUs to JCspd, kinds of wastes to be collected by JCspd, and frequency of such services. After the discussion at the second AB meeting, the President and the Executive Director of JCspd JRRV introduced and explained it to all LGUs at the GB meeting on August 6, 2006. A booklet on this basic plan was produced and distributed among all LGUs and other relevant organizations.</p> <p>Drafting job descriptions of JCspd staff was initiated by the Executive Director of JCspd JRRV. It was finalized in November 2006 and approved by the president of JCspd JRRV on January 16, 2007. The training session for JCspd JRRV staff was held on December 23, 2006 and the job descriptions were presented and explained. This job description was prepared also in Arabic and distributed among staff.</p> <p>As a part of the Action Plan, financing and accounting system on SWM is being developed now. First of all, the Japanese experts and C/Ps have discussed roles and responsibilities of accounting section of JCspd and expense items on solid waste accounting, and collected necessary information and data. Then, based on those discussion and information, the MS EXCEL spreadsheet prepared by the Japanese expert is now being used as tentative measure. After this, the specialized software for accounting is planned to be introduced.</p> <p>Public relations activities have been carried out intensively from the first year of the Project. In addition to the regular production of news letters and leaflets, the website (http://www.jcspd-jericho.org/) was opened also in the first year. JCspd JRRV staff was sometimes televised and explained about the Project and JCspd JRRV to the wider public. The Project also organized many community meetings at 17 LGUs in order to raise people's awareness on waste issues and explain about functions of JCspd JRRV, its services and the monthly service fee.</p> <p>Launching JCspd JRRV and providing SWM services could not be materialized without collaboration and cooperation with LGUs, and in fact, the Project collaborates with them. As seen in the achievement of Output 1, LGUs have participated in a series of discussions both at GB meetings and AB meetings, made a series of decisions necessary to launch the services by JCspd JRRV. Supports from head of LGUs enable the Project to organize such a large number of community meetings.</p>

ANNEX3-4

She

Handwritten signatures and initials.

<p>Although the collaborating relationship with LGUs has been built to a certain extent, further cooperation and collaboration should be developed. In fact, the extent of collaboration differs from LGU to LGU, and it was clearly seen by the different payment level of their dues, ranging from 0% to 100%.</p> <p>The current situation on waste collection vehicles and heavy machineries was reviewed during the first year of the Project. Then, the existing vehicles and equipment were repaired, and some maintenance tools were also provided. For details, see the attached list of provided equipment. JCspd JRRV does not have a maintenance workshop for its collection vehicles*, and the vehicles of JCspd JRRV are serviced now at the maintenance workshop of Jericho Municipality based on the contract of December 2006. The maintenance workshop in Jericho Municipality, that received the above mentioned maintenance equipment, now keeps records of maintenance regularly.</p> <p>*At the inauguration of waste collection service in 2007, nine collection vehicles and one truck shovel were supposed to be transferred from LGUs to JCspd JRRV. Nine collection vehicles were transferred as planned, but the truck shovel is not yet transferred, and JCspd JRRV is still paying NIS150 per hour for its rental fee.</p>	<p>2.6 Repair and maintenance of vehicles / equipment for SWM is conducted.</p>	
<p>3. Present situation of SWM in JRRV is grasped.</p> <p>As seen below, the present situation of SWM in JRRV is grasped.</p> <p>3.1 Survey report on characteristics and volume of waste</p> <p>3.2 Survey report on conditions of waste collection and transportation (incl. illegal waste disposal)</p> <p>3.3 Survey report on conditions of final dumping site (incl. pollution of soil and underground water)</p> <p>3.4 Survey report on conditions of medical waste management</p> <p>3.5 Consolidation survey report</p> <p>3.6 Holding workshop on baseline survey</p> <p>In order to understand the current situation of SWM in the region, the following studies were carried out.</p> <ul style="list-style-type: none"> • <i>Solid Waste Amount and Composition Survey -Final Report</i>: Feb 2006 by Water and Environmental Development Organization (WEDO) • <i>Time and Motion Survey-Final Report</i>: Feb 2006 by WEDO • <i>Survey on topography, soil and groundwater for the Jericho landfill</i>: Oct 2006 by Center for Engineering and Planning (CEP) • <i>Groundwater Analysis at Jericho and Al-Oja Dump Sites Report</i>: Feb 2007 by CEP • Result of the medical waste survey described in the <i>Consolidation Survey Report</i>, Jan 2007 • <i>Consolidation Survey Report</i>, Jan 2007 by the Project <p>*Seminar on Solid Waste Survey Result" was held on 20 December, 2006, and participated by approximately 80 participants such as officers of 17 LGUs and MoLG, other JCspd members and health personnel. It is worth mentioning that JCspd JRRV staff was actively involved in this seminar by presenting some of the survey results, as seen below.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Solid waste amount and composition survey: Presented by WEDO Engineer • Time and motion survey: Presented by WEDO Engineer • Solid waste budget in Jericho Municipality: Presented by Ms. Manal Romanen, Accountant , JCspd JRRV • Tourism waste: Presented by Mr. Adel-Jabbar Abu-Halawa, Executive Director , JCspd JRRV 		

ANNEX3-5

She

She

01/10

	<ul style="list-style-type: none"> • Agricultural waste: Presented by Mr. Adel-Jabbar Abu-Halawa, Executive Director, JCspd JRRV • Jericho and Ojah landfill site survey: Presented by CEP Engineer • Public relations and public awareness activities: Presented by Mr. Majidi Shoamali, JICA expert team • Jericho waste collection: Presented by Mr. Wadee Abu Hilal, Engineer, JCspd JRRV • Medical waste: Presented by Mr. Mustafa Hmidat, New Jericho Hospital 	
<p>4. Action plan for improvement of SWM in JRRV is formulated.</p>	<p>The draft Action Plan was also presented to the wider public at the same workshop as "Seminar on Solid Waste Survey Result", discussed and finalized.</p> <p>The final version of the Action Plan includes the following components.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Raising public awareness • Improvement of collection and transportation system • Improvement of disposal system • Improvement of maintenance system • Strengthening organization and institution • Establishment of accounting system 	
<p>5. The action plan is put into practice and the improvement is made.</p>	<p>At present, the Action Plan is being implemented and the improvement is being made partially.</p>	
<p>5.1 Improvement of collection rate, reduction of illegal disposal</p>	<p>Waste collection service by JCspd JRRV in January 2007 improves partially collection and transportation. The provision of equipment through UNDP, a collaborating project, will enable JCspd JRRV to introduce a new collection system and improve the collection and transportation fully in the future.</p>	
<p>5.2 Improvement of final dumping site</p>	<p>The fact that the LGUs stopped using three open dumping sites leads to the reduction of illegal dumping.</p> <p>Improvement activities of the Jericho dumping site were carried out from January 2007, and the improved Jericho dumping site was opened on March 21.</p>	
<p>5.3 Consolidation improvement report (incl. recommendation to PNA)</p>	<p>The limited capacity of the improved Jericho dumping site can not provide enough opportunities to learn proper management of the controlled landfill site.</p> <p>The Project plans to start preparing a consolidation report on the implementation of the Action Plan which includes recommendations to PNA from October 2007, according to the previous PO.</p>	
<p>6. Seminar/ workshops are held and</p>	<p>Output 6 is now partially achieved.</p>	

ANNEX3-6

She

Handwritten signatures and initials.

	<p>the Project experiences in JIRRV are diffused among Palestinian local authorities.</p>	<p>6.1 Holding seminars/ workshops for those who are in charge of the SWM in local authorities (incl. site visit)</p>	<p>The experiences of JCspd JIRRV are being shared through JCC meetings and other workshops with other JCspds and municipalities; the Project also plans to hold national seminars in the fourth year in order to diffuse such experiences effectively.</p> <p>In regard to site visits to the solid waste related facilities, the followings were carried out.</p> <ul style="list-style-type: none"> • On 3 October, 2006: Visit to Jericho dumping site (before improvement) and Tovlan dumping site. • On 1 March, 2007: Visit to the Jenin landfill site financed by World Bank • On 21 March, 2007: Visit to the improved Jericho dumping site <p>Journalists, teachers, and municipal officers participated in the above site visits and learned about the importance of the proper management of dumping sites.</p>
	<p>7. Those who are in charge of SWM in local authorities and related ministries acquire basic knowledge on integrated SWM.</p>	<p>Output 7 is now being achieved.</p> <p>7.1 Implementation of training courses in Japan for those who are in charge of SWM in local authorities and PNA</p>	<p><i>Country Focused Training Course on Capacity Building in Solid Waste Management for Palestine in Japan</i> was organized twice by now, and the participants acquired basic knowledge on integrated SWM.</p> <p>The first course was from September 5 to October 7, 2005 and the second one was from November 1 to December 1, 2006. Five and eight officers from different organizations participated in the training courses respectively. As seen in the ANNEX 4, most of the participants for the first course were from JCspd JIRRV related officers (officers of Jericho Municipality at that time); most of the participants for the second course were from other JCspds and municipalities. This provided valuable opportunities to acquire basic knowledge on integrated SWM. In these training courses, the experience of JCspd JIRRV was used as a case study.</p> <p>The training courses in Jordan, the third-country training course (study tour to Jordan) was carried out with support of Ministry of Environment and Amman Municipality in Jordan. Nine participants such as AB members and staff of JCspd JIRRV visited the landfill site operated by Amman Municipality, a biogas plant, a recycling factory and so on. List of participants are shown in the ANNEX 5.</p>
			<p style="text-align: center;">Verification of Implementation Process</p> <p>By and large, activities were implemented as planned.</p> <p>Were activities implemented as planned?</p> <p>Due to a political factor, the dispatch of Japanese experts was delayed. However, thanks to the efforts made by the relevant authorities, Japanese experts and C/Ps, a negative effect to the Project, including a plan to start the SWM from January 2007, could be minimized.</p> <p>As for progress of each activity is detailed in the previous section of Achievement of Outputs.</p>

the

[Handwritten signatures and initials]

Implementation status of monitoring	<p>Implementation status of monitoring is appropriate.</p> <p>The overall progress of the Project has been formally monitored by biannual JCC meetings, and the operation of JCspd JIRRV has been discussed and monitored at both GB meetings and AB meetings.</p> <p>The Team concluded that both overall monitoring of the Project and monitoring of the JCspd JIRRV's operations are considered as appropriate from the interviews and answers of the questionnaire survey. Some considers that JCC should be held more often in order to share information among all relevant parties, and this point is well taken by the Team.</p> <p>Regarding the operational activities on the ground, JCspd staff keeps necessary records such as monthly financial report or log of collection vehicle, and those records will be further checked by the Executive Director of JCspd JIRRV. Likewise, the present monitoring systems at each level are functioning satisfactorily.</p> <p>The Team concluded that responsibilities are understood clearly by JCspd JIRRV for the Project Purpose 1 and DJCspd/MoLG for the Project Purpose 2. Activities of JCspd JIRRV are monitored by AB meetings and GB meetings, and the Project as a whole including the Project Purpose 2 is monitored by JCC.</p> <p>Relationship between Palestinian C/Ps and Japanese experts is constructive.</p> <p>The results of questionnaire survey and interviews indicate that the good relationship between Palestinian C/P and Japanese experts is established.</p> <p>Before the commencement of collection service by JCspd JIRRV, the involvement of C/Ps into the Project was limited, since 13 out of 19 employees of JCspd JIRRV were working for Jericho Municipality. Presently they are working fully for JCspd JIRRV with utilizing their experiences and skills on waste collection acquired in the Municipality. The team concluded that the selected C/Ps are appropriate.</p> <p>Problems and concerns faced by JCspd JIRRV are formally discussed both at AB and GB meetings, and decided officially and transparently.</p> <p>The Team concluded that C/Ps, who are staff of JCspd JIRRV, are independent, active and show great commitment to the Project.</p> <p>From interviews, the following examples were indicated;</p> <ul style="list-style-type: none"> • Before, some C/Ps were not fully positive about a continuous service provision and collection of service fee. However, at present, they are ensured with what they provide to people and they can express and request the chiefs of LGUs to pay their dues. • Before, most of LGUs are not well aware of being a member of JCspd JIRRV, and not so concerned about providing public services. At present, some LGUs request JCspd JIRRV to hold more community meetings
Has monitoring been carried out?	<p>Implementation status of monitoring is appropriate.</p>
Is monitoring mechanism appropriated?	<p>The Team concluded that both overall monitoring of the Project and monitoring of the JCspd JIRRV's operations are considered as appropriate from the interviews and answers of the questionnaire survey. Some considers that JCC should be held more often in order to share information among all relevant parties, and this point is well taken by the Team.</p>
Are responsibilities shared clearly among relevant organizations?	<p>Regarding the operational activities on the ground, JCspd staff keeps necessary records such as monthly financial report or log of collection vehicle, and those records will be further checked by the Executive Director of JCspd JIRRV. Likewise, the present monitoring systems at each level are functioning satisfactorily.</p>
Relationship between Palestinian C/Ps and Japanese experts	<p>The Team concluded that responsibilities are understood clearly by JCspd JIRRV for the Project Purpose 1 and DJCspd/MoLG for the Project Purpose 2. Activities of JCspd JIRRV are monitored by AB meetings and GB meetings, and the Project as a whole including the Project Purpose 2 is monitored by JCC.</p>
Status of communication	<p>The results of questionnaire survey and interviews indicate that the good relationship between Palestinian C/P and Japanese experts is established.</p>
Appropriateness of selected C/Ps	<p>Before the commencement of collection service by JCspd JIRRV, the involvement of C/Ps into the Project was limited, since 13 out of 19 employees of JCspd JIRRV were working for Jericho Municipality. Presently they are working fully for JCspd JIRRV with utilizing their experiences and skills on waste collection acquired in the Municipality. The team concluded that the selected C/Ps are appropriate.</p>
Ways to handle challenges and problems	<p>Problems and concerns faced by JCspd JIRRV are formally discussed both at AB and GB meetings, and decided officially and transparently.</p>
Change in C/Ps' attitude (Independence and activeness)	<p>The Team concluded that C/Ps, who are staff of JCspd JIRRV, are independent, active and show great commitment to the Project.</p> <p>From interviews, the following examples were indicated;</p> <ul style="list-style-type: none"> • Before, some C/Ps were not fully positive about a continuous service provision and collection of service fee. However, at present, they are ensured with what they provide to people and they can express and request the chiefs of LGUs to pay their dues. • Before, most of LGUs are not well aware of being a member of JCspd JIRRV, and not so concerned about providing public services. At present, some LGUs request JCspd JIRRV to hold more community meetings

ANNEX-8

the

[Handwritten signatures and initials]

		<p>in order to assist them in collecting fees.</p> <ul style="list-style-type: none"> C/Ps prepare presentation materials and make presentations in workshops and seminars organized by the Project.
<p>Involvement of beneficiaries</p>	<p>The level of beneficiaries' involvement is satisfactory.</p>	<p>D/Cspd/MoLG is the organization to promote JCspd. Although the officers there acknowledge the importance of JCspd, a strategy of JCspd has not been developed yet by them.</p> <p>Most of C/Ps who are seconded from Jericho Municipality realized that they were able to acquire new and practical knowledge from training courses in Japan and Jordan, and through working together with Japanese experts. According to interviews, the Team found out that they are more confident with provision of services than before.</p> <p>The Project organized a large number of community meetings at 17 LGUs in order to raise people's awareness on waste issues and explain about functions of JCspd JRRV, its services and the monthly service fee. Now people are becoming more aware of the importance of waste collection.</p>
<p>Ownership of C/P organizations</p>	<p>The level of ownership of C/P organizations such as D/Cspd/MoLG and JCspd JRRV is satisfactory.</p> <p>Appropriateness of allocation and assignment of C/Ps</p> <p>Budget allocation</p> <p>Degree of participation of C/P organization</p>	<p>Appropriate C/Ps are allocated and assigned.</p> <p>Since the central government undergoes severe financial situations at present, it is difficult to measure the ownership from the budget allocation point of view.</p> <p>The participant rates to important discussions such as JCC meetings by relevant organizations including C/P organization, MoLG, are high in general. In addition, in spite of the difficulties such as the delay in payment of salary and strikes, C/Ps made great efforts in order to keep the Project ongoing.</p> <p>High level of the ownership of JCspd staff is worth mentioning. One example is that C/Ps prepare presentation materials by themselves and make presentations in workshops and seminars organized by the Project.</p>

abe

[Handwritten signatures and initials]

Evaluation by Five Evaluation Criteria

Criteria	Evaluation Questions		Results
	Questions	Sub-questions	
Relevance	<p>The relevance of the Project remains high since the Project is consistent with the national development plan and appropriate of the target group.</p> <p>Is the Project (Overall Goals and Project Purposes) consistent with the national development plan and environmental policy?</p>	<p>Consistency of the Overall Goals with the national development plan and environmental policy</p>	<p>The Mid-Term Development Plan (2005-2007) of PNA emphasizes the importance of establishment of SWM including the proper management of landfill sites. The team concluded that the Project's Overall Goals are highly consistent with the Mid-Term Development Plan.</p>
		<p>Consistency of the Project Purposes with various policies such as environmental policies and local government policies</p>	
Relevance	<p>Priority of SWM in environmental policy</p> <p>Consistency with support from other donor countries</p>	<p>Priority of SWM in environmental policy</p>	<p>Article 7, 8 and 9 of Palestinian Environmental Law (1999) clarify the importance and responsibilities regarding SWM planning, waste minimization and recycling and landfill site management.</p> <p>GTZ has been implementing the program on solid waste management which has both the national component and the local component. The national component supports activating the National Committee on Solid Waste and Wastewater that will draft the National Plan on Solid Waste Management later. Once the National Committee is activated, experiences including one from JCspd JRRV will be well shared at this committee, and all learning will be incorporated into the future National Plan on Solid Waste Management.</p>
		<p>Are the Project's components highly needed by JCspd in JRRV?</p> <p>Does JCspd in JRRV play an important role in SWM?</p>	

she

sw

Handwritten signature

<p>The Team concluded that the size of target group (17 LGUs) is appropriate. According to DJCspd, JCspd is expected to be organized in governorate scale, and JCspd JRRV covers almost entire Jericho Governorate.</p>	<p>Is the size of the target group appropriate?</p>	<p>Is the Project consistent with Japan's foreign aid policy?</p>	<p>The Project is consistent with Japan's foreign aid policy.</p> <p>Environmental protection including the prevention of solid waste problems has been an important area to support in the framework of Japan's international environmental cooperation. The Japanese government announced a initiative called "Environmental Conservation Initiative for Sustainable Development (EcolSD)" and it stated that the waste management is an important issue.</p> <p>Japan's ODA policy to Palestine prioritizes support for the reform process and the humanitarian activities. These two fields directly relate the Project's contributions to the fields of SWM and local governance.</p>
<p>Environmental protection including the prevention of solid waste problems has been an important area to support in the framework of Japan's international environmental cooperation. The Japanese government announced a initiative called "Environmental Conservation Initiative for Sustainable Development (EcolSD)" and it stated that the waste management is an important issue.</p> <p>Japan's ODA policy to Palestine prioritizes support for the reform process and the humanitarian activities. These two fields directly relate the Project's contributions to the fields of SWM and local governance.</p>	<p>Is the Project related with any prioritized areas of ODA strategy?</p>	<p>As for the Project Purpose 1, the effectiveness is not maximized; as for the Project Purpose 2, the effectiveness is being secured.</p>	<p>In spite of great efforts made by JCspd JRRV, the Project Purpose 1 is partially achieved due to primarily the severe financial situation of JCspd JRRV. The Team identifies that a delay of the collaborating project, the provision of equipment by UNDP, also hinders fulfillment of the improvement of collection and transportation.</p> <p>Please refer "the verification of performance" for details.</p>
<p>Though activities regarding Output 6 were planned in the fourth year of the Project, experiences on JCspd JRRV is being shared through JCC meetings and other seminars/workshops; the achievement level of the Project Purpose can be said as planned.</p>	<p>Is the achievement level of the Project Purpose 2 adequate at this stage?</p>	<p>Note: Project purpose 2 is "Experiences of improvement on SWM in JRRV are shared as a model for other areas in PNA."</p>	<p>The Project plans to hold national seminars which invite all the major joint councils to disseminate the experiences of JCspd JRRV in the fourth year.</p> <p><i>Country Focused Training Course on Capacity Building in Solid Waste Management for Palestine in Japan</i> was organized twice by now. The participants for the second course from other municipalities and JCspds leaned about JCspd JRRV as a case study; experiences are being shared gradually.</p>
<p>From the interview and answers of the questionnaire, the Team concluded that at the stage of the mid-term evaluation, numbers, contents and qualities of the outputs are considered sufficient and satisfactory.</p>	<p>Were the outputs sufficient to achieve the Project Purposes?</p>	<p>Numbers, contents and qualities of the outputs</p>	<p>From the interview and answers of the questionnaire, the Team concluded that at the stage of the mid-term evaluation, numbers, contents and qualities of the outputs are considered sufficient and satisfactory.</p>

ANNEX3-11

the

Handwritten signature

Handwritten signature

Handwritten signature

	<p>What are the inhibiting factors for the achievement of the Project Purposes?</p>	<p>Any changes in external factors</p>	<p>In regard to the Project Purpose 1, the followings were expressed by interviewees;</p> <ul style="list-style-type: none"> • For residents in this region, SWM is not often highly prioritized. Especially for residents in remote LGUs and agricultural areas. Therefore, JCspd JIRRV is still struggling to urge LGUs to pay their dues. • Most of the participating LGUs do not have a financial base and even employees. • The operational cost of JCspd JIRRV is unavoidably high since 17 LGUs scatter in the wide area. • The regional economy has been stagnant since the second Intifada. • A delay in the collaborating project, the provision of equipment by UNDP, also hinders fulfillment of the improvement of collection and transportation.
	<p>What are the promoting factors for the achievement of the Project Purposes?</p>	<p>Any changes in external factors</p>	<p>In regard to the Project Purpose 1, the followings were introduced by interviewees;</p> <ul style="list-style-type: none"> • Most of JCspd JIRRV employees are seconded from Jericho Municipality, and they are basically knowledgeable and skillful regarding the basic solid waste management. • Since the second Intifada, many LGUs have not been functioning well. Being a part of JCspd JIRRV gives opportunities for LGUs to re-start providing public services to a certain extent. This fact contributes fostering the collaborating relationship between JCspd JIRRV and most of LGUs. <p>In regard to the Project Purpose 2, an opinion below was introduced by interviewees.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Although producing Output 6 is planned in the fourth year, information and experiences on JCspd JIRRV has been shared at the time of JCC meetings and training in Japan, which were participated by other JCspds.
	<p>The efficiency is well secured for Output 1, 2, 3, 4, 6 and 7, and not fully secured for Output 5.</p>	<p>Adequacy of the achievement level of outputs</p>	<p>From the interview and answers of the questionnaires, the Team concluded that achievement level of the outputs for Output 1, 2, 3, 4, 6 and 7 are adequate and for Output 5 is not adequate at this stage.</p>
<p>Efficiency</p>	<p>Are the activities adequate and enough to produce the outputs?</p>	<p>Numbers, contents and qualities of the activities</p>	<p>Please refer "the verification of performance" for details.</p> <p>From the interview and answers of the questionnaires, the Team concluded that numbers, contents and qualities of the activities are adequate and enough so far.</p> <p>In order to enhance the planned activities*, the Project hires a few area coordinators** in order to organize community meetings and facilitate LGU's fee collection more effectively.</p> <p>* Other reasons are (i) it is difficult to visit remote LGUs regularly, and (ii) it requires JCspd JIRRV staff to hold an official permission to visit LGUs beyond Hamra checkpoint.</p> <p>** From Aug. to Mar. 2007: Three coordinators for preparing and organizing community meetings From May 2007 up to now: Two for preparing and organizing community meetings for fee collection. Two more will be hired soon.</p>

ANNEX3-12

She

Handwritten signatures and initials.

<p>The Team concluded that the output production is adequate compared to the inputs.</p> <p>The results of questionnaire survey and interviews revealed that they are satisfied and appreciated with the inputs by the Project such as Japanese experts, training courses and the provided equipment.</p> <p>Especially as for the provided equipment, some malfunctioning vehicles were fixed and maintenance equipment was provided to the maintenance workshop in Jericho Municipality, where JCspd JJRRV's vehicles are serviced. The equipment provided is highly adequate.</p> <p>The results of questionnaire survey and interviews at the maintenance workshop of Jericho Municipality revealed that in general, they are satisfied with and appreciated the inputs by the Project such as the maintenance equipment and training, and utilize them fully.</p> <p>Due to a political factor, the dispatch of Japanese experts was delayed. However, thanks to the efforts made by the relevant authorities, Japanese experts and C/Ps, and negative effect to the Project, including a plan to start the SWM from January 2007, could be minimized.</p> <p>The truck shovel has not yet been transferred from Jericho Municipality to JCspd JJRRV, and JCspd JJRRV is still paying MIS 150 per hour for its rental fee. Currently this is one of the major factors to inhibit efficiency of JCspd JJRRV.</p>	<p>Adequacy of human resources, trainings and equipment invested</p> <p>Level of utilization of inputs (human resources, trainings, equipment)</p> <p>Adequacy of timing of inputs</p>	<p>Is the output production adequate compared to the inputs?</p> <p>What are the inhibiting and promoting factors?</p>	<p>The Team concluded that the output production is adequate compared to the inputs.</p> <p>The results of questionnaire survey and interviews revealed that they are satisfied and appreciated with the inputs by the Project such as Japanese experts, training courses and the provided equipment.</p> <p>Especially as for the provided equipment, some malfunctioning vehicles were fixed and maintenance equipment was provided to the maintenance workshop in Jericho Municipality, where JCspd JJRRV's vehicles are serviced. The equipment provided is highly adequate.</p> <p>The results of questionnaire survey and interviews at the maintenance workshop of Jericho Municipality revealed that in general, they are satisfied with and appreciated the inputs by the Project such as the maintenance equipment and training, and utilize them fully.</p> <p>Due to a political factor, the dispatch of Japanese experts was delayed. However, thanks to the efforts made by the relevant authorities, Japanese experts and C/Ps, and negative effect to the Project, including a plan to start the SWM from January 2007, could be minimized.</p> <p>The truck shovel has not yet been transferred from Jericho Municipality to JCspd JJRRV, and JCspd JJRRV is still paying MIS 150 per hour for its rental fee. Currently this is one of the major factors to inhibit efficiency of JCspd JJRRV.</p>
<p>Some of both positive and negative impacts are emerging as shown below</p> <p>Are there prospects that the Overall Goal 1 will be achieved as an effect of the Project?</p> <p>Note: The Overall Goal 1 is "In PNA, a basic policy and a concrete action plan on integrated SWM are formulated."</p> <p>Are there prospects that the Overall Goal 2 will be achieved as an effect of the Project?</p> <p>Note: The Overall Goal 2 is "Effective</p>	<p>Policy paper on SWM of the JCspd</p> <p>Concrete action plans (such as medium term plan) based on the policy above.</p> <p>Holding seminars and workshops regularly in JJRRV</p> <p>Realization of SWM modeling JJRRV among local authorities in PNA</p>	<p>Impact</p>	<p>Activeness of some joint councils such as JCspd JJRRV encourages DJCspd to organize the National Committee on Solid Waste Management and Wastewater, and to incorporate lessons learned from activities of those active joint councils.</p> <p>At this stage, it is premature to estimate the achievement level of the Overall Goal 2, since the related activities are planned in the fourth year of the Project.</p>

She

See

of

	<p>system of SWM modeling JIRRV is diffused in PNA?</p>		
	<p>Are there any ripple effects to people or organizations other than the target groups?</p>	<p>Are effects towards environment (SWM) policy making process realized? Are effects towards SWM policy making process of DJCspd/MoLG realized?</p>	<p>The same as the impact of the Overall Goal 1.</p>
	<p>Any other impacts, either positive or negative?</p>		<p>The same as the impact of the Overall Goal 1.</p>
	<p>The sustainability in terms of organizational and financial aspect is not secured, although the technical sustainability is well secured.</p>		<p>The Project has a certain impact to the community empowerment component of the project for Improvement of Local Governance System in Palestine. Some member LGUs raised objections to the project proposal from AI-Jfrikh which is now short-listed as a pilot-project candidate, although the LGU has never paid for JCspd JIRRV service.</p> <p>Activeness of JCspd JIRRV and other JCspds encourages DJCspd to activate the National Committee on Solid Waste Management and Wastewater, and to incorporate lessons learned from activities of these active joint councils into a national plan on solid waste management.</p>
<p>Sustainability</p>	<p>Position of JCspd in the field of SWM</p>	<p>Will JCspd be the organization to implement SWM even in the future?</p>	<p>JCspd JIRRV is an organization to continue providing the SWM services in the region, if an external factor such as MoLG DJspd's policy and support to JCspds remains unchanged.</p> <p>JCspd JIRRV was established based on Palestinian Local Authorities Law (1997) and developed its regulations accordingly. JCspd JIRRV, which is approved and supported by DJCspd/MoLG, is expected to continue its service to the citizens in the region.</p>

Abc

Handwritten marks and signatures

<p>From organizational and institutional aspects, the sustainability is unlikely to be secured soon.</p> <p>Most of JCspd JRRV employees are basically knowledgeable and skilful regarding the basic solid waste management. In addition, they have acquired new knowledge through working together with Japanese experts, by attending training courses in Japan and implementing the Action Plan; their capacity to continue the activities is being developed. However, since they are the seconded staff from Jericho Municipality, it is difficult to assume the sustainability.</p>	<p>Has JCspd JRRV been acquiring organizational capacity to continue SWM services?</p>	<p>By considering organizational and institutional aspects, are there prospects that the sustainability is secured?</p>
<p>PNA undergoes severe financial situations at present. Under these circumstances, DJCspd identifies that JCspd is a good mechanism for many small scale LGUs to provide and receive public services, and DJCspd is willing to collaborate with the Project in order to develop capacities of JCspds as much as possible. However, DJCspd/MoLG has not yet developed a firm strategy on JCspds.</p>	<p>Are supports from PNA or DJCspd/MoLG expected?</p>	<p>By considering financial aspects, are there prospects that the sustainability is secured?</p>
<p>From financial aspect, the sustainability is unlikely to be secured soon.</p> <p>Each LGU's monthly due composed of the monthly service fee from citizens totals NIS139,726, and Jericho Municipality is supposed to bear about 72% of this total monthly amount. At present, only one out of 17 LGUs was able to pay 100% of their dues and moreover three LGUs have never paid as seen in Table 3. In fact, the financial bases of smaller LGUs are extremely vulnerable or even nil. The Project plans to raise awareness of citizens in these areas and request their dues. As clearly seen from the ratio of monthly planned payment, Jericho Municipality is a key player in this JCspd JRRV.</p>	<p>Are financial situations of the JCspd and the participating local authorities sound?</p>	<p>By considering financial aspects, are there prospects that the sustainability is secured?</p>

Table 3: LGUs' Contributions and Dues

abe

Handwritten signatures and initials

Alie

[Handwritten signatures and initials]

Contribution in 2006		Monthly Service Fee (Due)	
%	Paid	Due	Paid
15.6	15,000.0	500,835.0	319,116.3
44.4	3,957.0	20,000.0	10,000.0
33.3	6,015.0	29,450.0	14,000.0
0.0	0.0	7,920.0	3,700.0
0.0	0.0	55,925.0	0.0
100.0	6,030.0	10,025.0	1,490.0
0.0	0.0	2,250.0	260.0
0.0	0.0	8,425.0	615.0
51.4	2,500.0	7,125.0	4,340.0
101.0	780.0	1,550.0	1,460.0
0.0	0.0	13,750.0	0.0
100.0	5,215.5	14,700.0	0.0
100.0	891.0	2,400.0	2,400.0
100.0	1,350.0	725.0	435.0
100.0	5,364.0	7,725.0	4,065.0
100.0	6,093.0	11,125.0	4,500.0
100.0	4,027.5	6,000.0	3,000.0
29.5	57,193.0	699,930.0	369,381.3

Note: Jericho Municipality claims that about NIS 50,000 paid as salaries and maintenance should be calculated as the contributions for the year 2006. This is still not yet approved by AB of JCspd JRRV.

Even at present, 13 seconded employees are paid by Jericho Municipality, and JCspd JRRV has not secured own personnel and the total budget including personnel expenses. Since Jericho Municipality is the only one large scale LGU in the region and supposed to pay about 72% of NIS 139,726, the total amount of each LGU's monthly "expected" payment. Jericho Municipality is a key in terms of financial sustainability.

From technical aspects, there are prospects that the sustainability is secured.

According to the interview and answers of the questionnaires, it is clear that they appreciated knowledge and experiences acquired through working together with Japanese experts, by attending training courses in Japan and the Team concluded that appropriate technologies are being transferred.

As a part of the Action Plan, improvement activities of Jericho dumping site were implemented from January to March 2007. The limited capacity of the improved Jericho dumping site can not provide enough opportunities to learn proper management of the controlled landfill site.

Is the JCspd likely to secure budget (incl. personnel expenses) to continue providing SWM services?

Are appropriate technologies developed and transferred, in consideration of the JCspd's technical level?

By considering technical aspects, are there prospects that the sustainability is secured?

Are appropriate technologies developed and transferred, in consideration of the JCspd's technical level?

		<p>Have C/Ps acquire knowledge and the transferred technology enough?</p>	<p>The interview and answers of the questionnaires reveals that their work and working styles are improved through working together with Japanese experts, by carrying out the Action Plan, and the Team concluded that they are acquiring enough technology and knowledge.</p>
		<p>Will the transferred technology and equipment be used widely?</p>	<p>The above mentioned improved dumping site could not provide long-enough opportunities to learn how to manage sanitary landfilling properly. As municipal officials confirmed that the repaired vehicles and maintenance equipment would continued to be utilized.</p>

He

Handwritten signatures and initials.

ANNEX3-17

ANNEX 4: List of the Japanese experts

Japanese Fiscal Year 2005

	Expert Name	Expertize	Duration	Man-Month
1	Hiroshi Abe	Team Leader/Solid Waste Management	Nov. 12, 2005 - Dec. 10, 2005	0.97
			Feb. 23, 2006 - Mar. 10, 2006	0.53
2	Yoshihiro Asano	Deputy Teak Leader/ Capacity Development	Nov. 12, 2005 - Dec. 21, 2005	1.33
			Jan 20, 2006 - Mar. 10, 2006	1.67
3	Takashi Ikeguchi	Medical waste/ Environmental consideration	Nov. 19, 2005 - Dec. 17, 2005	0.97
4	Koumei Kawauchi	Landfill Improvement	Nov. 19, 2005 - Dec. 19, 2005	1.03
5	Kiyoshi Shimizu	Equipment Maintenance	Feb. 24, 2006 - Mar. 16 2006	0.70
6	Takatoshi Arai	Coordinator	Nov. 12, 2005 - Nov. 26, 2006	0.50
Total				7.70

Note: Work in Japan: 1.21 Man-month in total

Japanese Fiscal year 2006

	Expert Name	Expertize	Duration	Man-Month
1	Hiroshi Abe	Team Leader/Solid Waste Management	Jul. 22, 2006 - Sept. 5, 2006	1.50
			Sept. 26, 2006 - Oct. 25, 2006	1.00
			Nov. 21, 2006 - Jan. 20, 2007	2.03
			Mar. 1, 2007 - Mar. 25, 2006	0.83
2	Yoshihiro Asano	Deputy Team Leader/ Capacity Development	Sept. 13, 2006 - Oct. 12, 2006	1.00
3	Noboru Osakabe	Deputy Team Leader/ Capacity Development (Financial)	Nov. 28, 2006 - Dec. 27, 2006	1.00
			Mar. 1, 2007 - Mar. 25, 2007	0.83
4	Akio Ishii	Capacity Development (Institutional/ Orgaizational)	July 22, 2006 - Aug. 20, 2006	1.00
			Sept 28, 2006 - Oct. 25, 2006	0.93
			Nov. 21, 2006 - Dec. 31, 2006	1.37
			Feb. 1, 2007 - Feb. 23, 2006	0.77
5	Takashi Ikeguchi	Medical waste/ Environmental consideration	Aug. 31-Sept 14, 2006	0.50
			Feb. 22, 2007 - Mar. 13, 2006	0.67
6	Masahiro Saito	Landfill Improvement	Jan. 16- Feb. 17, 2007	1.00
7	Noboru Osakabe	Coordinator (Financial)	July 22, 2006 - Sept. 1. 2006	1.40
			Sept 28, 2006 - Oct. 25, 2006	0.93
8	Akio Ishii	Coordinator (Institutional)	Feb. 24, 2007 - Mar. 25, 2006	1.00
Total				17.76

Japanese Fiscal year 2007

	Expert Name	Expertize	Duration	Man-Month
1	Hiroshi Abe	Team Leader/Solid Waste Management	May 15, 2007- June 28, 2007	1.50
2	Akio Ishii	Capacity Development (Institutional/ Orgaizatio	June 9, 2007- July 23, 2007	1.50
3	Masahiro Saito	Landfill Improvement	June 26, 2007- July 25, 2007	1.00
Total				4.00

Grand Total			29.46
-------------	--	--	-------

Note: Yellow shadowed areas: Financed by the own budget by the consulting company

Abe

Asano

Ishii

Saito

ANNEX 5: List of the trainees in Japan and Jordan

Table 1: Country Focused Training Course on Capacity Building in Solid Waste Management for Palestine

No.	Name	Job title	Organization
1	Abd Aljabbar Abu halaweh	Executive Manager	JCspd
2	Mousa H.A Shaer	Director General of water supply & sewage authority	MoLG - Bethlehem
3	Sultan Khalil Roma	Head of Technical Section	JCspd
4	Wadee Z.M Abu Helal	Civil Engineer	Joint Council, Middle Jordan Valley
5	Younis M.O Qawasmeh	Minister Advisor for Environment	MoLG
1	Mustafa Al-hmidat	Chief/ Engineering & Maintenance Dep.	Jericho Hospital
2	Mohammad Al-Njoom	General Manager - Jericho Dep.	MoLG
3	Sami K.M Mrowwa	Mayor	Doha Municipality
4	Nidal M.K Shun	Deputy Executive Director	Tulkarem Municipality
5	Ahmed Bouzia	Mayor	Kefe! Hares Municipality /Head of Salfect Joint Service
6	Raed Sharabati	Administrative Director	DJCspd / MoLG
7	Raed Samara	Executive Manager	JCspd / Bethlehem
8	Khaled Hamdan	Head of JCspd	JCspd for Mid Jordan Valley

Note: First Batch: Sep. 5 to Oct. 7, 2005 / Second Batch: Nov. 1 to Dec. 1, 2006

Table 2: Participants of the study tour in Jordan (Sept. 16 to Sept. 22, 2006)

No.	Name	Job title	Organization
1	AbdalQader K A Abukhashan	In place of president of JCspd	Council Member, Jericho Municipality
2	Hasan A H Jirmi	Vice president, JCspd	Head of Zbidat Council/The chairman of JSC for Middle
3	Mahmoud K M Abuhattab	Administrative body member	Head of Ein Shibli Council
4	Turkey D A Eshibat	Administrative body member	Vice Head of Al-Ojah Council
5	Mr. Abdel-Jabbar Al-Halawa	Study Tour Leader, Executive director	Head of Health Section, Jericho Municipality
6	Sultan K A Roma	Counterpart	Health Section, Jericho Municipality
7	Wadee Z M Abuhehal	Counterpart	Engineer, Middle Jordan JSC
8	Ahmed S S Driaat	Counterpart	Accountant, Nweima & Dnyuk
9	Manal Romaneen	Counterpart	Accountant, Jericho Municipality

ANNEX 6: List of the provided equipment

(Unit/Yen)

No.	Equipment Name	JFY	Quantity
1	Office equipment-1	JFY 2005	
	(1) Desktop Computer		1 unit
	(2) Laptop Computer		1 unit
	(3) Laser Printer		1 unit
	(4) Inkjet Printer		1 unit
	Sub-total		234,000
2	Spare Parts for existing equipment, etc	JFY 2005	
	See the page ANNEX5-2		13,560,000
	Sub-total		13,560,000
3	Office Furniture	JFY 2006	
	(1) Desk and drawer		6 unit
	(2) Chair		6 unit
	(3) Cabinet		2 unit
	(4) Book shell		1 unit
	Sub-total		148,000
4	Office Equipment-2	JFY 2006	
	(1) Desktop Computer		7 unit
	(2) Color Laser Printer		1 unit
	(3) Laser Printer		1 unit
	(4) Copy Machine		2 unit
	(5) Telephone/Fax		2 unit
	(6) Cooler for 3 rooms		1 unit
	(7) Cooler		3 unit
	Sub-total		1,635,000
5	Facility of Jericho Dumping site	JFY 2006	
	(1) Liner facility		1 lot
	(2) Leachate collection system		1 lot
	(3) Gas removal facility		1 lot
	(4) Leachate pond		1 lot
	(5) Guard house		1 lot
	(6) Fence and gate		1 lot
	(7) Planting		1 lot
	Sub-total		13,300,000
	Total		28,877,000

ANNEX6-1

Alc

Es

1/12

ANNEX6: List of the provided equipment (Spare parts for existing equipment, etc)

Lot	Items	Contents	Model/Manufacturer	Supplier	Price (Yen 1,000)
Lot-1	Parts for existing 5m ³ compactor, other				3,500
	1) Repairing parts for the Jifrik-vehicle (1999)	Door, Front glass, Tires, etc.	Isuzu Motors	Universal Trucks Israel (Petach-Tikva, Israel)	
	2) Spare parts for the Bardala h -vehicle (1999)	Tires, Batteries, Break liner, etc.	Isuzu Motors		
	3) Spare parts for the Al-Ojah-vehicle (1999)	Tires, Brake liner, etc.	Isuzu Motors		
4) Spare parts for road sweeper (1986)	Brushes, Suction hose	S & S Pacter Ltd.			
Lot-2	Maintenance equipment for workshop				4,650
	1) Wheel fixing machine	Tire diameter: From 10"-18	Werther-venual 18	Universal Industrial Tools (Ramallah, Palestine)	
	2) Nozzle tester	Max. pressure: 50Mpa (500Kg/Cm ²)	AB-50		
	3) Coil spring compressor	Case dimensions: 190x180x70	FO9052, Taiwan		
	4) Air impact wrench	Screw diameter: 1/2" and 3/4"	LR131, IR		
	5) Charging machine	Battery voltage: 12V and 24V	Telwin, Italy		
	6) Brake oil charging pump	Flow rate: Approx. 0.3 liter/min	European made		
	7) Hydraulic oil hose maintenance device set	Cutting and Connector fixing: 1"	European made		
	8) High pressure washing machine	Capacity: 30 liter/min x 200bar	Large size		
9) Turning machine	Capacity: 360mm x 750mm	Pinacho, Spain			
Lot-3	Spare parts for Volvo vehicle (1995)	Tires, Parts for brake and clutch, etc.	Volvo	Al-Assbah Company (Ramallah, Palestine)	905
Lot-4	Spare parts for Mercedes vehicles (1984, 1986)	Tires, Parts for brake and clutch, etc.	Mercedes-Benz	Sharikat Gargour Al-Tjariyyah (Bethlehem, Palestine)	1,800
Lot-5	Spare parts for Spain-Nissan vehicles (1995)	Tires, Parts for brake and clutch, etc.	Nissan	Pacific Auto Import (Bari Eish, Israel)	2,705

ANNEX6-2

the

503

1/10

ANNEX 7: List of the public relations activities

Information Dissemination	Date	Place	(Unit)
1 Newsletter "The Joint"			
The Joint No.1	Feb, 2006		1000 Arb/300Eng
The Joint No.2	March, 2006		1000 Arb/300Eng
2 The Sematic Leaflets			
Leaflet No1. "Proper Discharge of Solid Waste in and outside Households"	Feb,2006		2,000
3 Others			
Website (www.jcspd-jericho.org)	Mar,2006		
Awareness Raising			
1 Environmental Education			(Persons)
1 For students at Jericho Girl's School	Feb. 25, 2006	Jericho	40
2 For students at Al-Bohtore School	Feb. 26, 2006	Jericho	50
2 Community Meetings			
3 For members of social clubs and women's clubs	Feb. 27, 2006	Jericho	30
4 For members of sport and youth societies	Mar. 1, 2006	Jericho	30
5 For residents in Al-Jiflik and Froosh Beit Dajan villages	Mar.2,2006	Al-Jiflik	15
6 For residents in Al-Ojah and Fasayel villages	Mar.3,2006.	Al-Ojah	40
7 For residents in Bardalah, Kardarah and Ein Al-Bidah villages	Mar.4,2006	Bardalah	40
Information Dissemination			
1 Newsletter "The Joint"			(Unit)
The Joint No.3	Aug, 2006		1000 Arb/300Eng
The Joint No.4	Oct, 2006		1000 Arb/300Eng
The Joint No.5	Jan, 2007		1000 Arb/300Eng
The Joint No.6	March, 2007		1000 Arb/300Eng
2 The Sematic Leaflets			
Leaflet No2. "Together for a better Environment"	Aug,2006		2000
Leaflet No3. "where waste fees are expended?"	Oct,2006		2,000
Leaflet No4. "Competition of Waste waste amount reduction"	Dec,2006		2,000
Leaflet No5. "For a Sustainable Development "	Feb,2006		2,000
3 Posters			
Poster No1. "Partners for a better life"	Sep,2006		300
Poster No2. "The citizen, the LA and JCspd, as partners for sustainable service"	Oct,2006		300
Poster No3. "Municipality and villages... Joint future.. One joint council"	Oct,2006		300
Poster No4. "Competition of Waste waste amount reduction"	Dec.6,2006		300
Poster No5. "The service start - January, 2007"	Jan.7,2007		300
4 Booklets			
Booklet No1. "Basic Plan for SWM in JJRRV"	Aug,2006		1,000
Booklet No2. "SWM guideline"	Feb,2007		1,000
Booklet No2. "Introduction of 17 LAs"	Mar,2007		1,000
Booklet No4. "Result of waste reduction Idea competition"	Mar,2007		1,000
5 Others			
1 Voluntary Work			
Students No1. Clean Environment	Feb.21,2007		25
Students No2. Clean Environment	Feb.21,2007		25
Students No3. Clean Environment	Feb.21,2007		25
2 Planting Trees - Students	Mar.5,2007		15
3 Schools Ceremony - Result of waste reduction Idea competition	Mar.11,2007		200
Awareness Raising			
1 Environmental Education			(Persons)
8 For members of Jericho Women Soc. School	Sep.24,2006	Jericho	50
9 For students at Terra Santa Boys Shcool	Sep.25,2006	Jericho	25
10 For students at Franciscan Girls Shcool	Sep.26,2006	Jericho	120
11 For students at Fatima Zahraa Shcool	Oct.7,2006	Jericho	37
12 For students at Bardalah Girls Shcool	Oct.9,2006	Bardalah	23
13 For students at Ein Beida Shcool	Oct.9,2006	Ein Beida	25
14 For students at Jericho Girls Shcool	Oct.10,2006	Jericho	22
15 For students at Jiflik Shcool	Oct.11,2006	Jiflik	5
16 For students at Oaja UNRWA Shcool	Oct.12,2006	Al-Oaja	25
17 For students at Aqrabanyyah UNRWA Shcool	Oct.12,2006	Aqrabanyyah	140
18 For students at Aqbat Jaber Shcool	Oct.15,2006	Carno - Jericho	45
19 For students at Ein Sultan Camp School	Feb.10,2007	Camp - Jericho	48
20 For students at Aqbat Jaber Camp School	Feb.11,2007	Camp - Jericho	35
21 For students at Brimary Bohtary & Girls High School	Feb.11,2007	Jericho	100
22 For students at Hisham High School	Feb.12,2007	Jericho	22
23 For students at Bohtari & Jericho SecondarySchool for Girls	Feb.15,2007	Jericho	80
24 For students at Duke School	Feb.16,2007	Duke	60
25 For students at Ojah Girls High School	Feb.18,2007	Al- Ojah	45
26 For students at Ojah Boys High School	Feb.18,2007	Al- Ojah	40
27 For students at Fasayel School	Feb.19,2007	Fasayel	35
28 For students at Jiflik High School for boys & girls	Feb.20,2007	Al-Jiflik	90
29 For students at Frosh Biet Dajan School	Feb.21,2007	Frosh Biet Daja	40
30 For students at Aqrabanyyah High & Brimary School	Feb.21,2007	Al-Aqrabanyyah	45
31 For students at Ein Al-Bidah School	Feb.24,2007	Ein Al-Bidah	45
32 For students at Zbidat School	Feb.24,2007	Zbidat	60

abe

JCS

JAD

	33	For students at Biet Hasan School	Feb.25,2007	Biet Hasan	40
	34	For students at Ein Sheble School	Feb.25,2007	Ein Shibly	35
	35	For students at Nasareiah School	Feb.26,2007	Nassareiah	32
	36	For students at Aqrabanyyah School	Feb.26,2007	Aqrabanyyah	60
	2 Community Meetings				
	37	For members of Medical Plants Association	Aug.26,2006	Jericho	16
	38	For members of Hial Sports Club	Aug.26,2006	Jericho	15
	39	For members of Israa Society	Aug.27,2006	Jericho	30
	40	For members of Labour Union	Aug.27,2006	Jericho	11
	41	For members of PR of Gov. Inst	Aug.29,2006	Jericho	16
	42	For members of New' ma Council	Aug.30,2006	New' ma	35
	43	For members of Lower Duyok	Aug.30,2006	Lower Duyok	25
	44	For members of Ein Sultan Service Committee	Sep.2,2006	Camp - Jericho	12
	45	For members of Aqbat Jaber Service Committee	Sep.3,2006	Camp - Jericho	15
	46	For members of Fasayel LA & citizens	Sep.4,2006	Sasayel	30
	47	For members of Oaja LA & citizens	Sep.4,2006	Oaja	40
	48	For members of Zbeidat LA & citizens	Sep.5,2006	Zbeidat	8
	49	For members of Marj Na'jah LA & citizens	Sep.5,2006	Marj Na'jah	10
	50	For members of Marj Ghazal LA & citizens	Sep.6,2006	Marj Ghazal	21
	51	For members of Ihsan Society	Sep.6,2006	Jericho	25
	52	For members of Jiftlik LA & citizens	Sep.9,2006	Jiftlik	23
	53	For members of Frosh Beit Dajan LA & citizens	Sep.9,2006	Frosh Beit Daja	33
	54	For members of Ein Shibly LA & citizens	Sep.10,2006	Ein Shibly	24
	55	For members of Biet Hasan LA & citizens	Sep.10,2006	Biet Hasan	40
	56	For members of Aqrانيا LA & citizens	Sep.11,2006	Aqrabanyyah	30
	57	For members of Bardalah LA & citizens	Sep.12,2006	Bardalah	25
	58	For members of Kardalah LA & citizens	Sep.13,2006	Kardalah	23
	59	For members of Ein Beida LA & citizens	Sep.13,2006	Ein Beida	26
	60	For members of Agricultural Societies Union	Sep.16,2006	Jericho	12
	61	For members of Jericho Youth Club	Sep.17,2006	Jericho	15
	62	For members of Engineering Association	Sep.17,2006	Jericho	18
	63	For members of Farmers Union	Sep.18,2006	Jericho	15
	64	For members of Municipalu Children Council	Sep.19,2006	Jericho	17
	65	For members of Democratic Youth Union	Sep.19,2006	Camp - Jericho	24
	66	For members of Nassaria LA & citizens	Sep.20,2006	Nassaria	10
	67	For members of YMCA	Sep.26,2006	Camp - Jericho	23
	68	For members of Jericho Scouts Groups	Sep.28,2006	Jericho	45
	69	General JICA Office	Oct.10,2006	Jericho	5
	70	For members of Baladna Club	Oct.11,2006	Jericho	40
	71	For members of Women Center - Aqbat Jaber UNRWA	Oct.12,2006	Camp - Jericho	14
	72	Journalists JICA	Oct.14,2006	Jericho	10
	73	For Women gathering of Beit Hasan	Oct.15,2006	Beit Hasan	35
	74	For members of Ein Beida, Kardalah, Bardalah LA & citizens	Dec.24,2006	Ein Beida	14
	75	For members of Fasayel & Jiftlik LA & citizens	Dec.26,2006	Fasayel	8
	76	For Supervisors of Jericho schools	Jan.24,2007	Jericho	24
	77	For Women of Duke LA	Jan.28,2007	Duke	45
	78	For residents of Lower Duyok	Jan.28,2007	Lower Duke	35
	79	For members of Oaja LA & citizens	Jan.6,2007	Ojah	10
	80	For Women of Zbeidat LA & University students	Mar.4,2007	Zbeidat	10
	81	For members of Beit Hasan LA & citizens	Jan.30,2007	Beit Hasan	15
	82	For members of Aqrانيا LA & citizens	Jan.30,2007	Aqrabanyyah	35
	83	For Women of Beit Hasan LA	Feb.6,2007	Beit Hasan	25
	84	For Women of Ein Shibly LA	Feb.6,2007	Ein Shibly	22
	85	For members of Fasayel LA & citizens	Feb.18,2007	Fasayel	13
	86	For members of Oaja LA & citizens	Feb.18,2007	Oaja	11
	87	For members of Ein Beida, Kardalah, Bardalah LA & citizens	Feb.20,2007	Ein Beida	18
	88	For members of Beit Hasan & Nawaji LA & citizens	Feb.20,2007	Beit Hasan	25
	89	For members of Ein Shibly LA & citizens	Feb.20,2007	Ein Shibly	25
	90	For members of Nassaria LA & citizens	Feb.20,2007	Nassareiah	10
	91	For members of Aqrانيا LA & citizens	Feb.20,2007	Aqrabanyyah	25
	92	For members of Jiftlik LA & citizens	Feb.22,2007	Jiftlik	6
	93	For members of Frosh Beit Dajan LA & citizens	Feb.22,2007	Frosh Beit Daja	20
	94	For Women of Fasayel LA	Mar.17,2007	Fasayel	20
	Information Dissemination				
	1	Documentary Film	June,2007		
	2	Others			
		Media Coverage "Al-Nour T.V"	June,2007	Jericho	
		Media Coverage "Palestine T.V"	June,2007	Ramallah	

ANNEX7-2

添付資料 2: 評価グリッド パレスチナ 「ジェリコ及びヨルダン渓谷における廃棄物管理能力向上プロジェクト」 中間評価 作成 2007年6月21日

評価項目	評価設問 大項目	小項目 (指標)	調査結果
実績の検証	プロジェクト目標の達成度	JCspd JJRRV による広域廃棄物管理システムの導入には成功したものの、その財政基盤の脆弱性と機材の調達の遅れにより、プロジェクト期間内でのプロジェクト目標 1 の達成は困難になりつつある。	
	プロジェクト目標 1 ジェリコ及びヨルダン渓谷に持続的で衛生的な廃棄物管理システムが導入される。	収集・運搬が改善され、不法投棄が減少する。	プロジェクトが開始する以前より、廃棄物管理と呼べるようなシステムをもっていたのは、Jericho Municipality、Al-New'meh & Edyuk Al-Foqa、Al-Ojah の 3 自治体 ¹ のみであり、現在サービスを受けているそれら 3 自治体以外の自治体 ² は、JCspd JJRRV の収集サービス開始後、新しく廃棄物処理サービスを受けており、収集・運搬は改善されている。 連携案件である UNDP 経由での無償資金協力機材の供与が当初の予定より遅れており、具体的な収集・運搬改善活動に不可欠な収集車両と重機が不足しているため、その進捗に影響を与えている。 衛生・管理状況の悪い処分場への持ち込みをやめ、現在は、Jericho、Al-Ojah、Tubas の 3 ヶ所の処分場を利用している点から、不法投棄は減少したといえる。持ち込みをやめた処分場は、Fasayel 近郊の処分場、Almalake Bridge 処分場、Marj Na'jeh 処分場の 3 ヶ所である。
	医療廃棄物の分別収集と適正処分がなされる。	当該地域での処理方法としては、地域の医療施設から出た医療廃棄物を日本の無償資金協力で建設した新ジェリコ病院に集め、焼却炉で焼却処理をするという方法が提言されているが、実際には、同病院は運転費 USD200/month が工面できず、焼却炉は利用されていない。現在は、新ジェリコ病院内にジェリコ市所有のコンテナが置かれ、暫定的な措置として、病院内で発生するすべての廃棄物をジェリコ市が収集しているという状況である。よって、医療廃棄物の分別収集と適正処分がなされているとはいえない。 注：プロジェクトとしては、医療廃棄物管理実態調査報告ペーパーを作成・報告することで、医療機関が現状を把握し、適正な処分することを想定していたが、医療機関の財政状況が厳しく（職員に給料も支払われていない状況が続いている）、医療廃棄物もジェリコ処分場で受けいれているという状況である。	

¹ この 3 自治体に加え、UNDP が JSC Middle Jordan Valley (参加自治体は、中部の 10 自治体) を対象にした開発事業を行った際に車両を供与しており、一部の自治体ではその車両を利用して一部地域で収集を行っていたとのことである。車両が供与される以前は、収集は行われていなかった。

² JCspd JJRRV 構成自治体の数は 17、推計人口は約 5 万人である。2007 年 1 月より 3 ヶ月間は試験期間として、全自治体を対象にサービスを提供したが、現在は、3 つの自治体がサービスを受け入れている。Al-Jiftlik、Froosh Beit Dajan、Bardalah の 3 自治体である。Al-Jiftlik に関しては、自治体の長と住民の関係がよくなく、首長に伝えてことが住民には伝わっていない。また、コミュニティ会合の開催を依頼しても、住民を十分集めてはくれないという状況が続いている。今後は、首長に報告は続けるものの、首長を介さないコミュニティ会合を実施することで対応する予定である。Bardalah に関しては、住民は大きく 2 つのグループ（現地では family と表現されていた）に分かれているとのことであるが、これらの住民グループ間の競争意識が強く、一方の住民グループが必要といえ、もう一方が必要ないという状況が続いている。この Bardalah に関しては、反対派グループに面会を申し入れ、直接説明をする会合を開催する予定とのことである。また、Al-Jiftlik と Bardalah に関しては、一度も分担金を払っていない。Froosh Beit Dajan は、分担金を支払ったことはあるものの、住民の間でニーズが高くないという理由からサービスは行われていない。Froosh Beit Dajan と Al-Jiftlik に関しては C 地区にある自治体であり、特に Froosh Beit Dajan は自治体規模も小さい。これらの自治体では、イスラエルからの学校の建設許可が下りないということで、テントを学校がわりにしているというような状況である。

		<p>現地の条件に応じた適正技術による衛生埋立 (Controlled Landfill)がなされる。</p>	<p>2007年1月より、アクションプランのひとつとして、ジェリコ処分場の改善計画が行われ、3月21日には開所式を実施している。遮水シートを張り、ガス抜き管、浸出水池を備えた準好気性の当該処分場は、当該地域で唯一衛生埋立方式を行っている処分場³であるが、残余期間が半年程度と短く、衛生埋立地の運営管理を習得するには不十分であることが懸案となっている。</p>																								
		<p>廃棄物管理を担う機関が、健全な財政基盤を備える。</p>	<p>衛生的な廃棄物管理システムの「持続性」に目を向けてみれば、楽観的な意見のある一方、JCspd JJRRV の財政基盤の脆弱性を危惧する質問票調査回答やインタビュー回答も多い。月次収支表については、下表1のとおりである。また、住民の支払う毎月のサービス料⁴から成る自治体サービス料（月額）の合計は、NIS139,726 であるが、現在、1つの自治体しかサービス料の全額を支払っていない。</p> <p style="text-align: center;">表 1: JCspd JJRRV 月次収支表</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th>Jan</th> <th>Feb</th> <th>Mar</th> <th>Apr</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>I</td> <td>収入</td> <td>107,023.41</td> <td>71,939.18</td> <td>95,096.51</td> <td>72,228.69</td> </tr> <tr> <td>II</td> <td>支出</td> <td>128,198.35</td> <td>72,201.18</td> <td>97,337.92</td> <td>81,077.61</td> </tr> <tr> <td>III</td> <td>収支</td> <td>-21,174.94</td> <td>-262.00</td> <td>-2,241.41</td> <td>-8,848.92</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center;">注：1月に関しては、分担金以外にプロジェクト関連の収支が含まれている。</p>			Jan	Feb	Mar	Apr	I	収入	107,023.41	71,939.18	95,096.51	72,228.69	II	支出	128,198.35	72,201.18	97,337.92	81,077.61	III	収支	-21,174.94	-262.00	-2,241.41	-8,848.92
		Jan	Feb	Mar	Apr																						
I	収入	107,023.41	71,939.18	95,096.51	72,228.69																						
II	支出	128,198.35	72,201.18	97,337.92	81,077.61																						
III	収支	-21,174.94	-262.00	-2,241.41	-8,848.92																						
	<p>プロジェクト目標 2 ジェリコ及びヨルダン渓谷の改善事例経験が、パレスチナ他都市の廃棄物管理の改善に向けたモデルケースとなる。</p>	<p>プロジェクト目標 2 の達成に資する主な成果としては、成果 6、成果 7 があげられ、成果 6 に関連しては、4 年次に全国セミナーを実施することを予定している。しかし、下記のとおり、既に、成果 7 やその他の活動を通して、JCspd JJRRV の改善事例は認識されつつあり、プロジェクト目標 2 は達成されつつあるといえる。</p> <p>パレスチナ他地域においてジェリコ及びヨルダン渓谷の改善事例が認識される。</p>	<p>成果 7 に関しては、国別研修：パレスチナ「廃棄物管理能力向上」コースが、2005 年 9 月 5 日から同 10 月 7 日と、2006 年 11 月 1 日から同 12 月 1 日と 2 回開催されており、それぞれ 5 人、8 人の関係者が参加している。英文評価レポートの別添 5 の参加者リストにもある通り、第 1 回本邦研修への参加者の多くは、JCspd JJRRV 関係者（当時のジェリコ市職員）であったが、第 2 回研修に関しては、他の JCspd や自治体からも参加があった。また、研修では、JCspd JJRRV の活動が紹介されており、当該地域の改善事例を取り上げてケーススタディーも行われている。</p> <p>加えて、JCC や各種ワークショップには他の JCspd や自治体も招かれており、その際にも JCspd JJRRV の経験が共有され、認識は広がりつつある。</p> <p>また、地方自治庁広域行政計画・開発カウンスル局 (MoLG DJCspd) では、国家廃棄物・下水委員会が活発な活動を再開した際には、この場で JCspd JJRRV の経験を広く共有し、当該委員会を中心に作成予定の廃棄物国家計画にも反映させていきたいと考えている。</p>																								

³ イスラエル側の利用する Tovlan 処分場を除く。

⁴ サービス料は 15NIS/household/month で、自治体ごとの分担金は、15NIS/household/month 掛ける household 数で算出されている。また、1つの household に複数の family が居住している場合には、25NIS/household/month のサービス料で計算されている。

<p>成果の達成度 1. プロジェクトの運営体制が確立する。</p>	<p>JCC、JCspd JJRRV の総会及び理事会が組織され、定期的に運営されており、成果 1 は達成されている。</p> <p>1.1 プロジェクト合同調整委員会(JCC)等の設置と定期開催</p> <p>現在までに 5 回 (1 年に 2 回) JCC が開催されている。 表 2: JCC 開催に関する情報</p> <table border="1" data-bbox="1048 296 1995 557"> <thead> <tr> <th></th> <th>開催日</th> <th>主な議題</th> <th>参加人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>2005/12/13</td> <td>i) プロジェクト・インセプションレポートの説明、 ii)JCspd JJRRV の果たすべき役割</td> <td>26</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>2006/03/02</td> <td>i) プロジェクトの進捗、ii)2006 年度の計画</td> <td>20</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>2006/07/26</td> <td>i) プロジェクトの進捗、ii)JCspd JJRRV Regulation、iii) PDM と PO の改定</td> <td>31</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>2006/10/16</td> <td>i) プロジェクトの進捗、ii)2007 年度予算案</td> <td>50</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>2007/03/14</td> <td>i) プロジェクトの進捗と課題、ii)アクションプラン案</td> <td>28</td> </tr> </tbody> </table> <p>また、プロジェクトの中核組織である JCspd JJRRV に関しても、下記のとおり、理事会と総会が定期的に開催されている。開催日時と主な議題は下記参照。</p> <p>JCspd JJRRV 総会 (General Body Meeting) 開催： 第 1 回 2005 年 9 月 13 日 理事会 (Administrative Body) メンバーの選出 第 2 回 2006 年 2 月 18 日 JCspd JJRRV 規則の策定等 第 3 回 2006 年 8 月 6 日 基本計画の承認等 第 4 回 2006 年 10 月 16 日 予算案の承認等</p> <p>JCspd JJRRV 理事会 (Administrative Body Meeting) 開催： 第 1 回 2006 年 2 月 26 日 活動計画案策定・合意 第 2 回 2006 年 8 月 3 日 JCspd JJRRV 規則の変更・策定、基本計画の検討等 第 3 回 2006 年 8 月 19 日 JCspd JJRRV 組織案の策定、アクションプラン案策定 第 4 回 2006 年 10 月 2 日 事務所借り上げ準備、職員雇用、機材の移管等合意 第 5 回 2006 年 10 月 12 日 主要職員決定、予算案の決定 第 6 回 2006 年 12 月 10 日 サービス開始時期、事務所借り上げ 第 7 回 2006 年 12 月 17 日 2007 年度の運営計画、事務所借り上げ契約 第 8 回 2007 年 2 月 3 日 1 月に開始した SWM サービスの現状・問題点 第 9 回 2007 年 3 月 6 日 料金徴収促進対策 第 10 回 2007 年 5 月 6 日 サービス料金徴収対策</p> <p>1.2 プロジェクト実施計画の具体化とプロジェクト・モニタリング、及びフィードバック</p> <p>JCC に関しては開催頻度を増やすべきだとの意見もあるが、おおむね、プロジェクトの進捗、課題や問題点を広く関係者と共有し、よく機能しているといえる。また、プロジェクトの中核組織である JCspd JJRRV に関していえば、上記のとおり、理事会と総会が定期的に開催されており、JCspd JJRRV の活動が議論、決定され、監視されている。</p>		開催日	主な議題	参加人数	1	2005/12/13	i) プロジェクト・インセプションレポートの説明、 ii)JCspd JJRRV の果たすべき役割	26	2	2006/03/02	i) プロジェクトの進捗、ii)2006 年度の計画	20	3	2006/07/26	i) プロジェクトの進捗、ii)JCspd JJRRV Regulation、iii) PDM と PO の改定	31	4	2006/10/16	i) プロジェクトの進捗、ii)2007 年度予算案	50	5	2007/03/14	i) プロジェクトの進捗と課題、ii)アクションプラン案	28
	開催日	主な議題	参加人数																						
1	2005/12/13	i) プロジェクト・インセプションレポートの説明、 ii)JCspd JJRRV の果たすべき役割	26																						
2	2006/03/02	i) プロジェクトの進捗、ii)2006 年度の計画	20																						
3	2006/07/26	i) プロジェクトの進捗、ii)JCspd JJRRV Regulation、iii) PDM と PO の改定	31																						
4	2006/10/16	i) プロジェクトの進捗、ii)2007 年度予算案	50																						
5	2007/03/14	i) プロジェクトの進捗と課題、ii)アクションプラン案	28																						
<p>2. ジェリコ及びヨルダン渓谷地域における廃棄物管理組織体制が確立される。</p>	<p>当該地域における廃棄物管理組織体制が確立されつつあり、よって成果 2 は達成されつつあるといえるが、指標 2.5 (地方自治体との協力体制) に関連し、経済的基盤の脆弱さ、地域経済の低迷から、各自治体によるサービス料金の支払いが不十分であり、課題が残っている。</p>																								

		<p>2.1 JCspd JJRRV による廃棄物管理体制に関する基本計画がつけられる</p>	<p>プロジェクト関係者（日本人専門家と C/Ps）で作成された基本計画（案）は、アラビア語に訳され、2006年8月3日の第2回 JCspd JJRRV 理事会で詳しく検討された。この基本計画（案）には、JCspd JJRRV の基本理念、どのような業務が各自治体から JCspd JJRRV に移管されるか、どのような種類の廃棄物を収集するか、またしないか、どの地域でどのような頻度で収集を行うかといった情報が盛り込まれている。第2回 JCspd JJRRV 理事会で検討したのち、同計画案は JCspd JJRRV の理事長と事務局長によって、8月6日の JCspd JJRRV 総会で紹介・説明され、承認を得た。現在、この基本計画は、小冊子（アラビア語）にまとめられ関係者に配布されている。</p>
		<p>2.2 廃棄物管理組織の分掌の明確化と整備</p>	<p>JCspd JJRRV 職員の職務規定については、JCspd JJRRV 事務局長である Abdul Jabbar 氏が中心になり 2006年11月にドラフトを作成、その後1月16日に JCspd JJRRV の理事長に承認されている。その内容については、Progress Report III の Annex 6 を参照のこと。また、2006年12月23日には JCspd JJRRV 職員を対象とした説明会・訓練が実施されており、職務内容に関しても説明・議論がなされている。この職務規定はアラビア語に訳され、各職員に配布されている。</p>
		<p>2.3 廃棄物管理会計の確立</p>	<p>廃棄物管理会計に関しては、成果5にあるアクションプランの一環として、改善がなされているところである。2006年8月から、まず、日本人専門家と C/P とで会計部門の業務や廃棄物会計の費目について協議をし、必要なデータを収集している。2007年1月の JCspd JJRRV によるサービス開始後は、暫定的処置として、日本人専門家の作成したエクセルシートを基にコンピュータによる会計管理業務を開始している。今後は、財務会計ソフトを導入し、管理をしていくことになっている。</p>
		<p>2.4 市民への広報事業</p>	<p>市民への広報活動は、1年次より積極的に行われてきている。継続的にニュースレターやリーフレットを作成することに加え、ウェブページを開設したり、地方テレビや国営テレビに出演したりと、積極的に情報発信を続けている。加えて、17自治体を対象に、多くのコミュニティ会合を開催し、JCspd JJRRV の役割、SWM サービスの内容、サービス料についての説明を行っている（詳細は、添付資料1 ミニッツ・合同評価報告書別添7を参照）。</p>
		<p>2.5 地方自治体との協力体制</p>	<p>JCspd JJRRV の立ち上げ、その後の JCspd JJRRV による廃棄物処理サービスの提供は、参加する17自治体の理解・参加なしには行えないことであり、実際、ある一定の協力体制は出来ているといえる。成果1にも記載したとおり、各地方自治体は、JCspd JJRRV 総会と同理事会で議論を繰り返しながら、重要事項を決定し、サービスを提供するに至っている。また、コミュニティ会合を開催する際にも、自治体の長の協力は不可欠であり、数多くのコミュニティ会合が開催できているのも、協力体制があるからである。</p> <p>自治体との協力体制や合意形成はできている一方、各自治体の経済的基盤の脆弱さ、近年のパレスチナ国内経済の低迷から、分担金や月額サービス料の支払い状況からみれば「自治体からの協力」は十分であるとはいえない。実際に、分担金や月額サービス料の支払い状況は、全額納める自治体がある一方で、全く支払っていない自治体が存在するという状況であり、今後の課題である。</p>

	2.6 廃棄物管理機材の修理・維持管理がなされる	<p>一年次には、廃棄物処理関連機材の修理・維持管理の現状についての調査が行われ、遊休機材の修理が行われるとともに、メンテナンス用機材が調達された。詳細は、添付資料 1 ミニッツ・合同評価報告書の別添 6 の供与機材リスト参照。JCspd JJRRV では、収集車両等のメンテナンス・ワークショップをもっておらず、ジェリコ市に委託することになっているため、メンテナンス用機材はジェリコ市のメンテナンス・ワークショップに供与されている。2006 年 12 月のジェリコ市との委託取り決めの下、現在はジェリコ市のメンテナンス・ワークショップが維持管理を行っている。ジェリコ市のメンテナンス・ワークショップでは、JCspd JJRRV から委託を受けた車両について、適切に維持管理記録が残されている。</p>
3. ジェリコ及びヨルダン溪谷地域における廃棄物管理の現状が把握される。	<p>下記のとおり、各指標からは、ジェリコ及びヨルダン溪谷地域における廃棄物管理の現状が把握されており、成果 3 は達成されている。</p> <p>3.1 ゴミ質・ゴミ量調査報告ペーパー</p> <p>3.2 収集・運搬実態調査（不法投棄状況調査含む）報告ペーパー</p> <p>3.3 処分場実態調査（土壌・地下水汚染実態含む）報告ペーパー</p> <p>3.4 医療廃棄物管理実態調査報告ペーパー</p> <p>3.5 実態把握調査総括レポート</p> <p>3.6 廃棄物管理の現状についてのワークショップが開催される。</p>	<p>地域の現状を把握するため、各種調査が実施され、下記レポートが作成されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> • <i>Solid Waste Amount and Composition Survey -Final Report-</i>: Feb 2006 by Water and Environmental Development Organization (WEDO) • <i>Time and Motion Survey-Final Report</i> : Feb 2006 by WEDO • <i>Survey on topography, soil and groundwater for the Jericho landfill</i>: Oct 2006 by Center for Engineering and Planning (CEP) • <i>Groundwater Analysis at Jericho and Al-Ojah Dump Sites Report</i>: Feb 2007 by CEP • <i>Chapter4 Result of Medical Waste, Consolidation Survey Report</i>, Jan 2007 by the Project • <i>Consolidation Survey Report</i>, Jan 2007 by the Project <p>加えて、観光に係る廃棄物、農業系廃棄物についても調査が行われ、結果が実態把握調査総括レポート <i>Consolidation Survey Report</i> にまとめられている。</p> <p>また、廃棄物管理の現状についてのワークショップ”Seminar on Solid Waste Survey Result”が、2006 年 12 月 20 日に開催され、17 自治体関係者、ジェリコ市職員、MoLG 関係者、他 JCspd 関係者、病院関係者など約 80 人が参加している。同セミナー発表者 9 人のうち、4 人は JCspd JJRRV 職員であり、同職員の積極的な関与が伺われる。</p>
4. ジェリコ及びヨルダン溪谷地域における廃棄物管理の改善方針（アクションプラン）が策定される。	<p>アクションプランは策定され、2006 年 12 月 20 日開催のセミナー”Seminar on Solid Waste Survey Result”において合意されており、成果 4 は達成されている。</p> <p>4.1 上記実態把握調査結果に基づくアクションプラン案の策定</p> <p>4.2 アクションプラン案に基づき公開ワークショップが開催される。</p> <p>4.3 アクションプランの確定</p>	<p>主な内容は下記のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 住民意識向上 • 収集改善 • 処分場改善 • 機材メンテナンス • 組織・制度整備 • 会計制度

5. アクションプランが実行され、改善が具体化する。	アクションプランは実施中であり、実際、不法投棄の減少等の改善がみられていることに加え、ジェリコ処分場の改善も行われたが、UNDP 経由無償資金協力供与機材の調達の違いにより、具体的な収集・運搬の改善が十分達成されたとは言いがたく、成果 5 の達成状況は限定的である。	
	5.1 収集率の向上、不法投棄の減少	2007 年 1 月の JCspd JJRRV による廃棄物収集サービスの開始は、アクションプランの一環である収集率の向上に一部寄与している。また、衛生・管理状況の悪い処分場への持ち込みをやめ、現在は、Jericho、Al-Ojah、Tubas の 3 ヶ所の処分場を利用している点から、不法投棄は減少したといえる。しかしながら、UNDP 経由無償資金協力供与機材の調達の違いにより、収集・運搬の改善状況は限定的である。
	5.2 処分場改善	処分場に関しても、2007 年 1 月より、ジェリコ処分場の改善計画が行われ、3 月 21 日には開所式を迎え、現在、利用されている。しかしながら、残余期間が半年程度と短く、衛生埋立地の運営管理を習得するには不十分であることが懸案となっている。
	5.3 改善実施総括レポート(実践を踏まえたパレスチナ自治政府への提言を含む)	改善実施総括レポートに関しては、2007 年 10 月以降に準備を開始する予定となっている。
6. 現地国内セミナーが開催され、ジェリコ及びヨルダン渓谷地域の事業が普及される。	全国セミナーを最終年度（4 年次）に実施する予定であるが、JCC や各種セミナーには他の自治体や JCspd から参加があり、ある一定の情報・経験の共有は行われているため、成果 6 は一部達成されているといえる。	
	6.1 パレスチナ各地域廃棄物担当者を対象とした現地国内セミナー（研修・現場視察を含む）の開催	JCC や各種セミナーには、他の自治体や JCspd も参加しており、ある一定の情報・経験の共有は行われている。全国セミナーを最終年度（4 年次）に実施する予定である。 また、廃棄物処理関連施設の視察に関しては、2006 年 10 月 3 日に改善前のジェリコ処分場とイスラエル側が運営管理をしている Tovlan 処分場への視察が、2007 年 3 月 1 日には世銀の支援で建設された Jenin 処分場、2007 年 3 月 21 日には改善後のジェリコ処分場への視察が実施され、ジェリコ市職員に加え、教師やジャーナリストらが参加し、処分場の適切な運営の重要性について学ぶ機会を得ている。
7. 本邦研修が開催され、廃棄物管理に係る基礎知識が獲得される。	本邦研修は予定どおり過去 2 回実施されているほか、ヨルダンでの第三国研修も実施されており、参加者は廃棄物管理に係る基礎知識を獲得したといえ、成果 7 は達成されている。	
	7.1 ジェリコを含むパレスチナ各都市廃棄物担当者を対象とした国別研修集団型コースの開催	国別研修：パレスチナ「廃棄物管理能力向上」コースが、今まで 2 回開催されており、それぞれ 5 人、8 人の関係者が参加している。第 2 回研修に関しては、JCspd JJRRV 対象地域以外からの参加者も多く、情報共有の貴重な機会となっている。研修では、JCspd JJRRV の活動も紹介されており、当該地域の改善事例は認識されつつあるといえる。本邦研修参加者は、収集の監督、車両管理の方法等の実務的知識に加え、所属組織を対象としたアクションプランの立案から多くを学んだとのことである。第 2 回研修の参加者の Mr. Raed Samara (Executive Director of JCspd Bethlehem) は、実際に、その際立案したアクションプランに基づき、JCspd Bethlehem の立ち上げ準備や広報業務を行ってきたとのことであった。 また、本邦研修に加え、ヨルダン環境省、アンマン市役所の協力を得て、同国への第三国研修（2006 年 9 月 16 日から 22 日）が実施されており JCspd JJRRV 職員、JCspd JJRRV 理事会メンバーら合わせて 9 人が研修に参加している（参加者リストは英文評価レポートの別添 5 参照）。

実施プロセスの検証	活動の進捗状況	収集・運搬の本格的な改善を除き、活動はおおむね計画的に行われた。
	活動の進捗状況	<p>活動は計画どおりに行われたか</p> <p>パレスチナ自治政府の政権交代のため、2006年3月～7月中旬までの3.5ヵ月間、日本人専門家の派遣が滞ったものの、関係機関、日本人専門家、C/Psの努力により、プロジェクト全体への影響（JCspd JJRRVによる2007年1月サービス開始という目標を含む）は最小限にとどめることが出来たといえる。</p> <p>各活動の進捗に関しては、関連成果の項目に詳しい。</p>
	モニタリングの実施状況	モニタリングの実施状況は適切である。
	モニタリングは行われていたか	プロジェクト全体に関しては、定期的で開催されるJCC会合において、またJCspd JJRRVの運営に関しては、適宜JCspd JJRRV総会、理事会で進捗が管理されている。
	モニタリングの仕組みは適切か	<p>質問票調査やインタビューからは、基本的には、プロジェクト全体のモニタリング、JCspd JJRRVのモニタリングについては、適切であると認識されていることが分かった。また、一方で、JCCに関しては、開催頻度を上げ、より技術的にプロジェクトを支援するとともに、関係機関での情報交換を密にするべきだという意見がみられた。</p> <p>現場レベルのオペレーションのモニタリングに関しては、JCspd JJRRV職員が担当業務ごとに、必要な記録（月次収支表やドライバーの運行表など）をつけており、それを基にJCspd JJRRV事務局長が各業務の進捗を管理している。このように、プロジェクト全体、JCspd JJRRVの運営とともに、モニタリングの仕組みは、比較的良好に機能しており、適切といえるが、JCCに関しては、必要に応じて開催頻度を上げることも考えられる。</p>
	関係機関の役割は明確か	プロジェクト目標1に関してはJCspd JJRRVが、プロジェクト目標2に関しては、MoLG DJCspdが活動を行う。JCspd JJRRVの活動に関しては、JCspd JJRRV理事会、総会が、プロジェクト目標2を含む全体に関しては、JCCがモニタリングを行うことになっており、関係機関の役割は明確であるといえる。
	専門家とカウンターパートの関係性	専門家とカウンターパートの関係性は良好である。
	コミュニケーションの状況	質問票調査やインタビュー調査によれば、「良好な関係が築かれている」というのが、関係者の一致した意見であり、コミュニケーションの状況は大変よいと判断できる。
	選択されたC/Pの適正さ	2007年1月に収集サービスを開始する以前は、JCspd JJRRVの職員の多く（19人中13人）がジェリコ市の職員として同市の清掃事業に従事をしており、プロジェクトへの参画は限定的であったものの、これらの職員は、清掃事業について経験をもった人材であり、それゆえ、JCspd JJRRVの業務を遂行することが可能であったという点では、選択されたC/Pは適切であるといえる。
	問題や計画変更が生じた際の対応方法など	問題や計画変更に関しては、JCspd JJRRV総会、理事会で、日本人専門家も含めた関係者全員で議論・承認されることになっている。

	<p>カウンターパートの変化（主体性・積極性）</p>	<p>特に、2007年1月に収集サービスが始まって以降、カウンターパートや関係者の主体性・積極性には、下記の事例のとおり変化がみられつつある。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 当初は、サービスの開始・運営そのものやサービス料の徴収に関して自信のないC/Psもあったが、現在では、サービスに自信をもつとともに、料金徴収等についてもJCspd JJRRVの理事会・総会で堂々と各自治体の長に説明・説得を繰り返している。 • 当初は、自治体の多くは、JCspd JJRRVの構成員であるという認識も浅く、公共サービスを提供しなければならないという意識も低かった。現在、コミュニティ会合をもっと開き、料金徴収のためにも自治体支援をしてほしいとのコメントからも分かるように、そのような意識、主体性が高まりつつあるといえる。 • 各種セミナーやワークショップにおいて、ほとんどの場合、カウンターパート自らがプレゼンテーション資料を準備し、プレゼンテーションを行っていることから、能力の向上とともに積極性が見受けられる。
<p>受益者の事業とのかかわり方</p>	<p>受益者の事業とのかかわり方については、一部で、中央政府のより積極的な関与が期待されるものの、良好であるといえる。</p>	<p>MoLG DJCspd 関係者の認識の変化</p> <p>MoLG DJCspd 関係者は、当初よりJCspdの重要性を理解しており、JCspd JJRRVの活動に期待をしているとのことである。しかしながら、JCspdやその他のJSC(Joint Service Council)に関する政策や国家戦略はできていない。</p> <p>JCspd JJRRV 職員の行動・意識の変化</p> <p>先述のとおり、JCspd JJRRV 職員の多くはジェリコ市からの出向者であるが、ヨルダン研修や本邦研修、専門家との協働等を通して多くのことを学んだと認識しており、2007年1月のサービス開始以降は、サービス提供への自信をつけてきている。</p> <p>住民の行動・意識の変化</p> <p>7自治体を対象に、多くのコミュニティ会合を開催し、適切な廃棄物管理の重要性、JCspd JJRRVの役割、SWMサービスの内容、サービス料についての説明を行ってきている。住民の多くは、廃棄物管理の重要性を認識し、現在、定期収集を受けられるようになってゴミの飛散が減少しているとのことであり、住民の環境意識は高まりつつあるといえる。</p>
<p>相手国実施機関のオーナーシップ</p>	<p>相手国実施機関のオーナーシップは大変高いといえる。</p> <p>カウンターパート配置の適正度</p> <p>予算手当て</p> <p>実施機関関係者の参加の度合い</p>	<p>適切なC/Psが選ばれ、配置されている。</p> <p>現在、政治的要因からドナー支援やイスラエル側からの還付金が滞っており、パレスチナ自治政府の財政状況は極めて厳しい状態にある。例えば、新ジェリコ病院のMOH関係者は、ここ数箇月給与を受け取っていないとのことであった。MoLG DJCspd 局長の発言にもあるとおり、JCspdや地方自治体を財政面から支援することは難しいため、「予算措置の有無」等から相手国実施機関のオーナーシップを測ることはできない。</p> <p>MoLG DJCspdを含む関連機関のJCC等重要な会議への参加率は高い。加えて、上記のとおり財政状況が厳しく、給与の未払いやストライキ等が続くなかでも、関係機関は当該プロジェクトの円滑な実施に尽力しており、参加度合いは大変高いといえる。</p> <p>加えて、JCspd JJRRV 職員のオーナーシップ、プロジェクトへの参加率が高いことが特筆され、そのことは、各種会合への参加、会合でのプレゼンテーションの実施、あるいは収集サービスの実際の運営の継続自体からも容易に分かる。</p>

5 項目評価結果

評価項目	評価設問大項目	小項目	調査結果	
妥当性	パレスチナ自治政府による中期開発計画（2005-2007）で廃棄物管理体制が確立され、パレスチナ地方自治法（1997）の15条において廃棄物管理が地方自治体の役割であると記載されており、パレスチナ政府の政策に合致している。また、日本政府のパレスチナ支援の基本方針である「国づくり・改革支援」及び「人道支援」にも合致しており、妥当性は高い。			
		上位目標やプロジェクト目標は国家開発計画や環境政策に合致しているか	上位目標やプロジェクト目標は国家開発計画や環境政策に合致している。	
			上位目標の国家開発戦略や環境政策との整合性	パレスチナ中期開発計画(2005-2007)においては、処分場の適正管理を含む廃棄物管理体制の確立の重要性が強調されており、上位目標の国家開発戦略や環境政策との整合性は高い。
			プロジェクト目標の環境政策や地方自治政策との整合性	パレスチナの地方自治法 (Palestinian Local Authorities Law, 1997)では、15条 "The Council's powers, authority, and role"において廃棄物処理を自治体の役割としており、また、"the Joint Service Council"の設立も規定されている。この基本法に基づき、2006年にJCspd設立に関するBy-lawがつくられており、JCspd JJRRVはこれらの法令にのっとり設立されている。
			環境政策における環境（廃棄物）分野の優先度	パレスチナの環境法 (Palestinian Environmental Law, 1999)では、7条、8条、9条において、廃棄物計画策定、減量化やリサイクリング、処分場の管理について、その重要性が述べられている。
			各国支援との整合性	GTZは、全国向け活動と、特定県を対象にした活動からなる廃棄物改善のプログラムを実施している。全国向けの活動のなかには、National Committee on Solid Waste Management and Wastewaterに対する支援が含まれている。今後、JCspd JJRRVの経験をこのような委員会でも共有しつつ、当該委員会が作成予定の国家廃棄物管理計画に反映させていくことも可能であり、プロジェクト目標2と整合的である。
		ターゲットグループの選定は妥当であったか	ターゲットグループの選定は、おおむね妥当であったといえる。	
			JCspd JJRRVへの協力内容に対するニーズは高いか	JCspd JJRRVは1年以上の準備期間を経て、2007年1月から廃棄物収集サービスを開始した、いまだ「幼少期 (infant stage)」にある組織であり、プロジェクトを通して技術力強化、組織力強化を図っていくことへのニーズは一貫して非常に高いといえる。
			廃棄物分野においてJCspdはどのような役割を果たしているか。	JCspd JJRRVは、今まで自治体による定期収集サービスを受けたことのない地域へのサービスの導入を可能にしたという点で、地域住民の環境意識を高め、衛生状況の改善に貢献している。
			ターゲットグループの規模は適切か	MoLG DJCspdによると、現在、県 (Governorate) レベルに少なくとも1つのJCspdを設置することを検討しているとのことであり、ほぼ同規模のJCspd JJRRVのターゲットグループの規模は適切といえる。

	わが国の開発課題、援助重点分野と合致しているか	わが国の開発課題、援助重点分野と合致している。 援助重点課題との関連性はあるか	わが国は、2002年に効率的かつ効果的に環境分野の協力を進めていくために、「持続可能な開発のための環境保全イニシアティブ」(EcoISD)を発表している。わが国の経験を生かし公害対策及び生活環境改善への支援を図るとしており、このなかで「廃棄物処理」を取り上げている。 日本は、パレスチナ支援の重点分野として、国づくり・改革支援、人道支援を掲げており、パレスチナ改革を推進するための支援や、パレスチナ暫定自治政府の行政能力向上を支援することにより、パレスチナの国づくりに貢献することをめざしている。
有効性	プロジェクト目標1の達成が困難になりつつあり、有効性が十分確保されているとはいえない。		
	プロジェクト目標1「ジェリコ及びヨルダン溪谷に持続的で衛生的な廃棄物管理システムが導入される」の達成度は現時点において適正範囲内か	プロジェクト目標達成の見込み	カウンターパートをはじめとする関係機関の努力にもかかわらず、財政基盤の脆弱性、UNDP経由での無償資金協力機材の供与の遅れによる収集・運搬改善活動の遅れがみられ、現時点におけるプロジェクト目標1の達成度は十分とはいえない。
	プロジェクト目標2「ジェリコ及びヨルダン溪谷の改善事例経験が、パレスチナ他都市の廃棄物管理の改善に向けたモデルケースとなる」の達成度は現時点において適正範囲内か	プロジェクト目標達成の見込み	主要活動が4年次に実施されるものの、JCCやその他のセミナーには、他のJCspdや自治体も招かれており、JCspd JJRRVの経験が共有されつつあり、プロジェクト目標2に関する達成度合いは、現時点において適正範囲内といえる。 成果6に関しては、広く他のJCspdを招いた全国セミナーを最終年度(4年次)に実施することを予定している。 成果7に関しては、国別研修：パレスチナ「廃棄物管理能力向上」コースが、過去2回開催されており、第2回研修に関しては、他のJCspdや自治体からの参加者が、JCspd JJRRVの活動とその改善事例を取り上げてケーススタディーを行っている。
	成果はプロジェクト目標を達成するために十分であったか	成果の数、内容、質の適正度	UNDP経由での無償資金協力機材の供与の遅れによる収集・運搬改善活動の遅延を除き、成果の数、内容等に関しては、概して、関係者の満足度は高く、十分であったと判断されている。
	プロジェクト目標の達成の妨げとなっている要因はあるか	プロジェクト目標の達成状況／外部条件／阻害要因	プロジェクト目標1に関しては、以下のとおり、回答があった。 <ul style="list-style-type: none"> • 地域の住民にとって、廃棄物処理が最優先課題ではない場合が多い(特に、ジェリコ市から離れた小さな自治体の農民など)。よって、住民からサービス料を徴収することが難しい状況が続いている。 • 地方自治体という名称で呼ばれているものの、多くの自治体には、職員もおらず、財政基盤ももたず、非常に脆弱である。 • 17の地方自治体が非常に広範な地域にわたって点在しており、収集サービスの運営費用が高くなる。 • 第2次インティファダ以降、特に地域経済が停滞している。 • UNDP経由での無償資金協力機材の供与の遅れにより、収集・運搬改善活動も遅れている。

	プロジェクト目標の達成を促進している要因はあるか	プロジェクト目標の達成状況／外部条件／貢献要因	<p>プロジェクト目標 1 に関しては、以下の要因が考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> • JCspd JJRRV 職員の多くが、ジェリコ市の保健衛生局からの出向者であるが、彼らは、基本的な廃棄物処理に関する知識・経験をもっており、円滑な JCspd JJRRV サービスの提供を可能にしている。 • 第 2 次インティファダ以降、多くの地域で自治体は機能不全に陥っていた。JCspd JJRRV の開始とともにこの広域組合のメンバーになることで、地方自治体の長は、明示的に住民サービスを再開・提供するという機会を得ているといえ、協力的な体制の背景となっている。JCspd JJRRV 職員の知識・経験に加え、これら自治体の長の熱意と理解も、円滑な JCspd JJRRV サービスの提供を可能にしているといえる。 <p>プロジェクト目標 2 に関しては、以下の要因が考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 成果 6 や成果 7 以外にも JCC 会合の場やその他のワークショップで、他地域の JCspd や他自治体の意見交換が行われている。
効 率 性	プロジェクトはおおむね効率的に運営されているが、UNDP 経由での無償資金協力機材の供与の遅れが、一部、効率性を阻害している。		
	各成果の達成度は現時点において適正範囲内か	成果の達成度合いの適正度	成果 5 を除く、各成果の達成度合いに関しては、概して、関係者の満足度は高く、適正範囲内であったと判断されている。成果 5 に関しては、機材の供与の遅れにより、収集・運搬改善活動も遅れている。
	活動は（7 つの）成果を出すのに十分であったか	活動の数、内容、質の適正度	<p>中間評価の時点では、活動の数、内容、質に関しても、概して、関係者の満足度は高く、成果を出すのに十分であったと判断されている。</p> <p>プロジェクトでは、地域コーディネーターを下記のように雇用し、地域でのコミュニティ会合の開催や、自治体による料金収集に関する広報といった活動を強化してきている。地域コーディネーター雇用の背景には、JCspd JJRRV 地域が南北 70km に及び、自治体によっては往復 2 時間程度を要する場合もあり、JCspd JJRRV の職員が会合準備等のために頻繁に訪問することが難しいということ、また、Hamra には厳重なチェックポイントが存在し、そのポイントの先にある自治体を訪問する場合は、JCspd JJRRV 職員も許可証を持参しなければならないという事情がある。</p> <p>2006 年 8 月～3 月： JCspd JJRRV 活動広報のためのコミュニティ会合開催支援 3 人雇用 2007 年 5 月以降： サービス料金徴収のためのコミュニティ会合開催支援 現在 2 人（2 人追加予定）</p>
	投入された資源量に見合った成果が達成されているか	投入された人材・研修・機材の適正度	<p>投入された資源量に見合った成果が達成されているといえる。</p> <p>JCspd JJRRV 職員へのインタビュー、質問票回答からは、投入された人材・研修・機材への満足度は高く、適正度は高いといえる。プロジェクトや研修を通して、新しく学んだことは多いとの意見であった。</p> <p>廃棄物処理関連機材の修理・維持管理に関しては、供与機材であるスペアパーツで遊休車両を修理し、使用している。メンテナンス用機材も、メンテナンスを委託しているジェリコ市のメンテナンス・ワークショップに供与されている。これらの機材の活用度は非常に高く、適正なものであるといえる。</p>

		投入（人・研修・機材）の活用度	JCspd JJRRV 職員とのインタビュー、ジェリコ市メンテナンス・ワークショップ担当者とのインタビューからは、投入された人材・研修・機材の活用度は高いことが分かった。
		投入のタイミングの適正度	パレスチナ自治政府の政権交代のため、2006年3～7月中旬までの3.5ヵ月間、日本人専門家の派遣が滞ったものの、関係機関、日本人専門家、C/Ps の努力により、プロジェクト全体への影響（JCspd JJRRV による2007年1月サービス開始という目標を含む）は最小限にとどめることができたため、全体として、投入のタイミングは適正であったといえる。
	効率性を阻害あるいは貢献した要因はあったか	阻害・貢献要因の有無	<p>（阻害要因） 現在、改善されたジェリコ処分場では、7年前の無償資金協力でジェリコ市に供与したトラックショベルにて覆土等が行われている。2007年度のサービス開始時期には、このトラックショベルをジェリコ市から移管することになっていたが、これが進んでおらず、時間当たり使用料NIS150を払い続けており、財政的自立発展性にとっての阻害要因となっている。</p> <p>（貢献要因） プロジェクトの提供した技術協力内容のうち、わが国の一部事務組合方式（広域組合方式）の経験が JCspd JJRRV の事業を開始するうえで、極めて貴重な役割を果たした。</p>
インパクト	正・負両方のインパクトが発現しつつある。		
	上位目標 1「パレスチナ自治政府に地方都市の包括的な廃棄物管理に関する基本政策が確立し、具体的な方針が整備される」は達成される見込みか	<ul style="list-style-type: none"> 地方都市の廃棄物管理に関する政策文書 上記政策に基づく具体的な方針（5ヵ年計画など） 	JCspd JJRRV やその他の活動的な JCspd/JSC の存在は、DJCspd が National Committee on Solid Waste Management and Wastewater を組織することを促すという正のインパクトを与えており、今後も、当該 Committee が作成する予定の国家廃棄物管理計画に JCspd JJRRV の経験を反映させていくことが可能である。
	上位目標 2「パレスチナ全土の地方都市にジェリコ及びヨルダン渓谷地域をモデルとした効果的な廃棄物管理体制が普及する」は達成される見込みか	<ul style="list-style-type: none"> ジェリコ及びヨルダン渓谷におけるセミナー・研修コースの定期開催 パレスチナ自治政府内におけるジェリコ及びヨルダン渓谷をモデルとした廃棄物管理の実現 	上位目標 2 に資する主な活動が 4 年次に計画されているため、現段階で、その達成見込みを検証することは難しい。
	ターゲットグループ以外への波及はあるか	環境（廃棄物）政策作成過程への影響は発現しているか	先述「インパクト：上位目標 1 の達成見込み」に同じ。
		MoLG DJCspd の政策作成過程への影響は発現しているか	先述「インパクト：上位目標 1 の達成見込み」に同じ。

	<p>その他の正負のインパクトはないか</p>		<p>現在、下記のようなインパクトが認められる。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ジェリコ地域開発プログラムに資する他の技術協力プロジェクトと、相互にインパクトを与え合っている。JCspd JJRRV にサービス料を全く支払っていない自治体が、地方行政制度改善プロジェクトの一環として実施している Community Empowerment コンポーネントから支援を受ける可能性があり、現在、他自治体の長より懸念が示されている。 • JCspd JJRRV やその他の活動的な JCspd/JSC の存在は、DJCspd が国家廃棄物・下水委員会を組織することを促すという正のインパクトを与えている。 • GTZ の支援する廃棄物管理研修に関するワーキンググループのメンバー9人のうち1人は、Abdel Jabbar 氏であり、広域廃棄物管理システムをもつ JCspd の代表として JCspd JJRRV の経験を共有している。 • ヨルダン環境省、アンマン市役所の協力を得て、同国への第三国研修が実施された際に、参加者はプラスチックリサイクル工場を見学した。このことが、JCspd JJRRV による農業プラスチックのリサイクルにヒントを与えたといえる。
<p>自立発展性</p>	<p>技術的側面からの自立発展性は期待できるが、財政面、組織制度面からみた自立発展性については懸念が残る。</p>		
	<p>廃棄物分野での JCspd JJRRV の位置づけ</p>	<p>JCspd JJRRV が将来にわたり廃棄物事業を担う組織であるか</p>	<p>DJCspd, MoLG の JCspd に対する政策・支援に変更がない限り、JCspd JJRRV は今後も当該地域の廃棄物事業を担う組織であるといえる。</p> <p>JCspd JJRRV は、パレスチナ地方自治法、by-laws に従って設立され、細則を決定し、廃棄物処理サービスを実施してきた先行的な JCspd である。また、JCspd JJRRV は、廃棄物処理サービス提供の基本方針等をまとめた基本計画を作成し、それに基づきサービスを行っており、今後も当該地域で、広域の廃棄物処理サービスを提供していくと考えられる機関である。</p>
	<p>組織・制度的側面からみて、自立発展の見込みは高いか</p>	<p>事業を継続するだけの能力が JCspd JJRRV に備わりつつあるか</p> <p>政府あるいは MoLG DJCspd からの支援は期待できるか</p>	<p>組織・制度面からみれば、自立発展性が高いとはいえない。</p> <p>JCspd JJRRV 職員の多くが、ジェリコ市の保健衛生局からの出向者であり、基本的な廃棄物処理に関する経験をもっていることに加え、プロジェクトを通して、各種技術を日本人専門家、本邦研修を含む各種研修、あるいはアクションプランの実施から習得しており、事業を継続する能力はついてきていると思われる。しかしながら、彼らは、JCspd JJRRV 独自の人材とはいえず、よって、現時点で自立発展性が確保されているとはいえない。</p> <p>政治的要因からドナー支援やイスラエル側からの還付金が滞っており、パレスチナ自治政府の財政状況は極めて厳しい状態にあり、JCspd や地方自治体を財政面から支援することは難しい状況である。しかしながら、MoLG DJCspd によれば、JCspd は自治体の公共サービス提供を可能にするための仕組みであり、JCspd や自治体の能力強化に関し、できる限りのことはしたいとの意見であった。ただ、DJCspd, MoLG の JCspd に対する政策・戦略は、必ずしも確立していない。</p>

	<p>財政的側面からみて、自立発展の見込みは高いか</p>	<p>JCspd JJRRV、あるいは傘下の地方自治体の財政状況は健全か</p>	<p>財政的側面からみて、現状のままでは、自立発展の見込みが高いとはいえない。</p> <p>1人当たりのサービス料（15NIS/household/month）に世帯数を乗じて算出されるサービス料（自治体合計）の全額を支払っている自治体は1つしかなく、他の自治体の支払い状況は0～90%超とまちまちである。特に、小規模自治体の財政基盤は非常に脆弱か、あるいは存在しないに等しい状況である。</p> <p>表3：各自治体の支払い状況</p> <table border="1" data-bbox="1052 470 2016 1141"> <thead> <tr> <th colspan="3">Contribubion in 2006</th> <th colspan="3">Monthly Service Fee(Due)</th> </tr> <tr> <th>%</th> <th>Paid</th> <th>Contribution</th> <th>LGU's</th> <th>Due</th> <th>Paid</th> <th>%</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>15.6</td> <td>15,000.0</td> <td>96,223.5</td> <td>Jericho</td> <td>500,835.0</td> <td>319,116.3</td> <td>63.7</td> </tr> <tr> <td>44.4</td> <td>3,957.0</td> <td>8,905.5</td> <td>Al-New'meh & Edyuk Al-Foqa</td> <td>20,000.0</td> <td>10,000.0</td> <td>50.0</td> </tr> <tr> <td>33.3</td> <td>6,015.0</td> <td>18,045.0</td> <td>Al-Ojah</td> <td>29,450.0</td> <td>14,000.0</td> <td>47.5</td> </tr> <tr> <td>0.0</td> <td>0.0</td> <td>4,050.0</td> <td>Fasayel</td> <td>7,920.0</td> <td>3,700.0</td> <td>46.7</td> </tr> <tr> <td>0.0</td> <td>0.0</td> <td>19,804.5</td> <td>Al-Jiftlik</td> <td>55,925.0</td> <td>0.0</td> <td>0.0</td> </tr> <tr> <td>100.0</td> <td>6,030.0</td> <td>6,030.0</td> <td>Zbidat</td> <td>10,025.0</td> <td>1,490.0</td> <td>14.9</td> </tr> <tr> <td>0.0</td> <td>0.0</td> <td>1,732.5</td> <td>Marj Al-Ghazal</td> <td>2,250.0</td> <td>260.0</td> <td>11.6</td> </tr> <tr> <td>0.0</td> <td>0.0</td> <td>3,451.5</td> <td>Mari Na'ieh</td> <td>8,425.0</td> <td>615.0</td> <td>7.3</td> </tr> <tr> <td>51.4</td> <td>2,500.0</td> <td>4,864.5</td> <td>Ein Al-Bidah</td> <td>7,125.0</td> <td>4,340.0</td> <td>60.9</td> </tr> <tr> <td>101.0</td> <td>750.0</td> <td>742.5</td> <td>Kardalah</td> <td>1,550.0</td> <td>1,460.0</td> <td>94.2</td> </tr> <tr> <td>0.0</td> <td>0.0</td> <td>7,096.5</td> <td>Bardalah</td> <td>13,750.0</td> <td>0.0</td> <td>0.0</td> </tr> <tr> <td>100.0</td> <td>5,215.5</td> <td>5,215.5</td> <td>Froosh Beit Dajan</td> <td>14,700.0</td> <td>0.0</td> <td>0.0</td> </tr> <tr> <td>100.0</td> <td>891.0</td> <td>891.0</td> <td>Ein Shibli</td> <td>2,400.0</td> <td>2,400.0</td> <td>100.0</td> </tr> <tr> <td>100.0</td> <td>1,350.0</td> <td>1,350.0</td> <td>Nawaji</td> <td>725.0</td> <td>435.0</td> <td>60.0</td> </tr> <tr> <td>100.0</td> <td>5,364.0</td> <td>5,364.0</td> <td>Beit Hasan</td> <td>7,725.0</td> <td>4,065.0</td> <td>52.6</td> </tr> <tr> <td>100.0</td> <td>6,093.0</td> <td>6,093.0</td> <td>Al-Nassaryyah</td> <td>11,125.0</td> <td>4,500.0</td> <td>40.4</td> </tr> <tr> <td>100.0</td> <td>4,027.5</td> <td>4,027.5</td> <td>Al-Aqrabanyya</td> <td>6,000.0</td> <td>3,000.0</td> <td>50.0</td> </tr> <tr> <td>29.5</td> <td>57,193.0</td> <td>193,887.0</td> <td>Total</td> <td>699,930.0</td> <td>369,381.3</td> <td>52.8</td> </tr> </tbody> </table> <p>注：ジェリコ市は、2006年のContributionの上記NIS15,000に加え、出向職員の給与、車両のメンテナンスなどという形で更にNIS50,000支払っていると主張しているが、この点については、理事会の承認がおりていない。</p>	Contribubion in 2006			Monthly Service Fee(Due)			%	Paid	Contribution	LGU's	Due	Paid	%	15.6	15,000.0	96,223.5	Jericho	500,835.0	319,116.3	63.7	44.4	3,957.0	8,905.5	Al-New'meh & Edyuk Al-Foqa	20,000.0	10,000.0	50.0	33.3	6,015.0	18,045.0	Al-Ojah	29,450.0	14,000.0	47.5	0.0	0.0	4,050.0	Fasayel	7,920.0	3,700.0	46.7	0.0	0.0	19,804.5	Al-Jiftlik	55,925.0	0.0	0.0	100.0	6,030.0	6,030.0	Zbidat	10,025.0	1,490.0	14.9	0.0	0.0	1,732.5	Marj Al-Ghazal	2,250.0	260.0	11.6	0.0	0.0	3,451.5	Mari Na'ieh	8,425.0	615.0	7.3	51.4	2,500.0	4,864.5	Ein Al-Bidah	7,125.0	4,340.0	60.9	101.0	750.0	742.5	Kardalah	1,550.0	1,460.0	94.2	0.0	0.0	7,096.5	Bardalah	13,750.0	0.0	0.0	100.0	5,215.5	5,215.5	Froosh Beit Dajan	14,700.0	0.0	0.0	100.0	891.0	891.0	Ein Shibli	2,400.0	2,400.0	100.0	100.0	1,350.0	1,350.0	Nawaji	725.0	435.0	60.0	100.0	5,364.0	5,364.0	Beit Hasan	7,725.0	4,065.0	52.6	100.0	6,093.0	6,093.0	Al-Nassaryyah	11,125.0	4,500.0	40.4	100.0	4,027.5	4,027.5	Al-Aqrabanyya	6,000.0	3,000.0	50.0	29.5	57,193.0	193,887.0	Total	699,930.0	369,381.3	52.8
Contribubion in 2006			Monthly Service Fee(Due)																																																																																																																																											
%	Paid	Contribution	LGU's	Due	Paid	%																																																																																																																																								
15.6	15,000.0	96,223.5	Jericho	500,835.0	319,116.3	63.7																																																																																																																																								
44.4	3,957.0	8,905.5	Al-New'meh & Edyuk Al-Foqa	20,000.0	10,000.0	50.0																																																																																																																																								
33.3	6,015.0	18,045.0	Al-Ojah	29,450.0	14,000.0	47.5																																																																																																																																								
0.0	0.0	4,050.0	Fasayel	7,920.0	3,700.0	46.7																																																																																																																																								
0.0	0.0	19,804.5	Al-Jiftlik	55,925.0	0.0	0.0																																																																																																																																								
100.0	6,030.0	6,030.0	Zbidat	10,025.0	1,490.0	14.9																																																																																																																																								
0.0	0.0	1,732.5	Marj Al-Ghazal	2,250.0	260.0	11.6																																																																																																																																								
0.0	0.0	3,451.5	Mari Na'ieh	8,425.0	615.0	7.3																																																																																																																																								
51.4	2,500.0	4,864.5	Ein Al-Bidah	7,125.0	4,340.0	60.9																																																																																																																																								
101.0	750.0	742.5	Kardalah	1,550.0	1,460.0	94.2																																																																																																																																								
0.0	0.0	7,096.5	Bardalah	13,750.0	0.0	0.0																																																																																																																																								
100.0	5,215.5	5,215.5	Froosh Beit Dajan	14,700.0	0.0	0.0																																																																																																																																								
100.0	891.0	891.0	Ein Shibli	2,400.0	2,400.0	100.0																																																																																																																																								
100.0	1,350.0	1,350.0	Nawaji	725.0	435.0	60.0																																																																																																																																								
100.0	5,364.0	5,364.0	Beit Hasan	7,725.0	4,065.0	52.6																																																																																																																																								
100.0	6,093.0	6,093.0	Al-Nassaryyah	11,125.0	4,500.0	40.4																																																																																																																																								
100.0	4,027.5	4,027.5	Al-Aqrabanyya	6,000.0	3,000.0	50.0																																																																																																																																								
29.5	57,193.0	193,887.0	Total	699,930.0	369,381.3	52.8																																																																																																																																								
	<p>廃棄物管理事業を継続するうえで必要な予算（人件費含む）を確保できるか</p>	<p>現在も、ジェリコ市の保健衛生局からの出向者である13人については、ジェリコ市が直接人件費を支払っており、独自の人材と、人件費を含む必要な全予算が確保できているとはいえない状況である。</p> <p>ジェリコ市の分担金は、17自治体の分担金合計の約72%と、JCspd JJRRVにおいてはジェリコ市の存在が非常に大きく、ジェリコ市との信頼関係をより強固なものにすることで、JCspd JJRRVの財政基盤を安定させることが可能となる。</p>																																																																																																																																												

技術的側面からみて、自立発展の見込みは高いか	JCspd JJRRV の技術レベルを配慮した適切な技術の開発・移転がなされたか	<p>技術的側面からみて、自立発展の見込みは高い。</p> <p>JCspd JJRRV 職員へのインタビュー、質問票回答からは、プロジェクトを通して日本人専門家から習得した技術・知識、本邦研修を含む各種研修や、アクションプランの実施から習得した技術・知識は、有益だったとの回答を得ており、適切なレベルの技術移転が行われたものと考えられる。また、2007年1月より実施されたジェリコ処分場の改善においては、遮水シートを張り、ガス抜き管や浸出水池を備えた準好気性の処分場がつくられており、当該地域の技術レベルを考慮した適切な技術の移転が行われたといえる。</p>
	C/P は、移転された技術、知識を十分身につけたか	<p>JCspd JJRRV 職員へのインタビュー、質問票回答からは、プロジェクトを通して日本人専門家から習得した技術・知識、本邦研修を含む各種研修や、アクションプランの実施から習得した技術・知識により、業務が改善したとの回答を得ている。</p> <p>しかしながら、処分場管理に関しては、改善されたジェリコ処分場の残余期間が半年程度と短く、衛生埋立地の運営管理を習得するには不十分であることが懸案となっている。</p>
	機材、移転技術などが、今後も広く活用されるか	<p>供与機材であるスペアパーツで遊休車両を修理し使用している。メンテナンス用機材も、メンテナンスを委託しているジェリコ市のメンテナンス・ワークショップに供与されている。これらの機材の活用度は非常に高く、今後も広く活用されると考えられる。</p>

3. グッドプラクティス集

環境管理分野のグッドプラクティス事例	
件名（案件名）	C/P 機関の活動計画の策定方法（パレスチナ ジェリコ及びヨルダン渓谷における廃棄物管理能力向上プロジェクト）
案件実施期間	2005年9月～2008年8月
作成日	2007年7月17日
作成者	地球環境部第二グループ環境管理第二チーム 田村
概要（ <u>グッドプラクティスのポイント</u> ）	<p>Basic Plan（C/P 機関の活動計画の活動計画の骨子）の作成により、日本人専門家の能力をパレスチナ側に示すことができ、信頼関係の構築にも役立った。</p> <p><u>Basic Plan は参加型で現地で議論をして一からつくり上げるのではなく、日本で素案をつくって行って、これを丁寧に説明した。微妙な話はあとで、現地で C/P と決めるようにした。</u>なお、Basic Plan は骨格の部分のみ記載しており、修正の必要がない。具体的な部分は年間計画策定の際に反映するようにしている。</p> <p>Basic Plan は、現在では当初の 1,000 部に加え、追加でもう 1,000 部印刷したが、ほとんど在庫がきれており、C/P が説明に活用している状況がうかがえる。</p>
他国・他案件での活用のポイント	<p>計画の骨子を専門家が Basic Plan としてドラフトすることにより、重要な内容は確実に盛り込むことができる。また、詳細かつ具体的な計画は現地で C/P とともに作成することにより、C/P 自身が計画を作成したという実感をもつことができる。</p>

環境管理分野のグッドプラクティス事例	
件名（案件名）	関係者の意識向上（パレスチナ ジェリコ及びヨルダン渓谷における廃棄物管理能力向上プロジェクト）
案件実施期間	2005年9月～2008年8月
作成日	2007年7月17日
作成者	地球環境部第二グループ環境管理第二チーム 田村
概要（ <u>グッドプラクティスのポイント</u> ）	<p>廃棄物行政・事業に従事している職員のステイタスは高くなく、まだまだ志気も高いとはいえない。しかし廃棄物行政・事業は住民に接する機会も多く、また一般的には迷惑な施設、事業であり志気が低いと実施が難しい。</p> <p>そこで、専門家チームは、<u>廃棄物行政・事業に従事にプライドをもって、熱心に取り組めるように様々なアプローチを行っている。</u>以下のような事例がある。</p> <p>1) まず、技術的な説明ではなく清掃事業の大切さ、難しさを日本の経験を例に説明している。worker に対する業務説明会で東京都の清掃事業を説明した DVD を見せたところ、清掃ワーカーには大きな驚きと感動があり、worker 等の強い要望でこの DVD のアラビア語版を作った。</p> <p>2) 現場職員にプライドをもってもらうために、JCspd 職員説明会にて、市長が worker の前で事業の大切さと職員の業務重要性について熱弁を振るった。Worker が市長に接する機会は過去になかったので効果があった。</p> <p>3) ゴミを集めるだけでなく、廃棄物行政へ取り組む姿勢、住民対応を重要性なども機会あるごとに雑談等でも説明している。</p> <p>このような取り組みにより、専門家チームは「清掃行政の心」を C/P に伝授しつつある。JCspd の事務所には活気があり、主体性や意欲が感じられた。また、専門家チームとカウンターパートの間で、両者の深い信頼関係が構築されていることが、うかがえた。</p>
他国・他案件での活用のポイント	廃棄物関連業務について、関係者が誇りをもてるよう配慮する。

環境管理分野のグッドプラクティス事例	
件名（案件名）	広報活動の実施方法（パレスチナ ジェリコ及びヨルダン渓谷における廃棄物管理能力向上プロジェクト）
案件実施期間	2005年9月～2008年8月
作成日	2007年7月17日
作成者	地球環境部第二グループ環境管理第二チーム 田村
概要（ <u>グッドプラクティスのポイント</u> ）	<p>プロジェクト実施地域の対象住民が5万人と小規模であったため、<u>しらみつぶしに住民向けの広報を行い環境への理解を深めた。</u></p> <p>全住民に対し広報のためのコミュニティ・ミーティングをもつことに関し、対象者数の多さについて反対する声ができることも想定されたため、活動開始時はごく一部の専門家及びC/Pの間でのみ計画を共有することとし、<u>コミュニティ・ミーティングの成果がプロジェクト関係者間で共有され始めたのち、全体計画を周知した。</u></p> <p>テーマは、ゴミ事業の話、収集料金がどのように使われているか等、<u>テーマをかえるようにしており、住民の関心を継続的にもたせるよう工夫を行っている。</u></p>
他国・他案件での活用のポイント	段階をおって計画の全体像を説明することが有効である場合もある。

4. 議事録

訪問議事録

訪問先： 地方自治庁広域行政計画・開発カウンシル (JCspd) 局長

日時： 6月4日(月) 10:30~11:30

面談者： Mr. Kamel Hemeid, General Director of DJCspd, Mr. Ismail Rabba MoLG, Mr. Faiz Swatty MoLG

調査団： 大石(事務所) 酒本、水谷、Makky(専門家チーム) 阿部

面談内容：

- 中間評価の説明・確認
 1. 中間評価の目的確認、スケジュール確認、パレスチナ側評価チーム構成員の確認を行い、パレスチナ側評価チームのメンバー(下記3人)を決定した。
 - Mr. Kamel Hemeid, General Director, Department of Joint Council for Services, Planning and Development, Ministry of Local Government
 - Mr. Fawas Rabaia, General Coordinator for JICA Projects, Ministry of Local Government
 - Mr. Abdel-Jabbar Abu-Halawa, Executive Director, JCspd JJRRV
- JCspd JJRRVの経験の広め方(プロジェクト目標2への関与)について
 1. どのようにJCspd JJRRVのケースを他のJCspdに広めていけるかという質問に対し、下記のような回答があげられた。
 - JCspdの総数は86である。が、それとは別に、16あるgovernorate(West Bankに11、Gazaに5)のそれぞれに、ひとつずつJoint Council for SWMを立ち上げようとしている。現在までに、このSWMに特化したjoint councilは、West BankにJCspd JJRRVを入れて7、ガザに2つがつけられている。West Bankの他の6 councilは、Jenin, Salfeet, Ramallah, Hebran, Tulkaren, Betlahemである(注：しかし、実際は、JCspd JJRRVは、3つのgovernorateにまたがる)。この「SWMに特化したjoint council」にジェリコの例を伝えていくというやり方があるだろう。
 - これらの7つは、Jeninに世界銀行が、RamallahにGTZが、Salfeet, Tulkaren, Betlahem, JerichoにJICAが支援をしている、あるいはする予定になっており、SWM改善の大きなチャンスである。特に、JICA支援をうけるgovernorateは、Jerichoの例をモデルにすることが有益であろう。
 - JCC会合には、Jenin, Salfeet, Tulkaren, Betlahemといった他のgovernorateを招いて、情報共有をしている。
 - また、National Committee on SWM and Wastewaterという以前からあった組織をGTZの支援で、活性化しようと考えている。そうなれば、他ドナー、他governorateと情報交換をする「持続性のある機会」となる。
- その他
 1. JCspdに関する法令としては、下記4つがある。
 - ◆ Law on Local Government System 1997
 - ◆ By-laws for JCspd for SWM, 2006
 - ◆ Regulations for each JCspd for SWM(これは、上記by-lawsに基づいて各JCspdが作り、MoLGから承認をもらわなければならないというもの)
 - ◆ その他、by-laws for JCspd for all types, 2003というものもある。
 - Hebran, Betlahem間でのhigh level committeeをつくり、最終処分場建設を検討している。プロジェクト資金は、USD11 millionで、これには、一部、日本の資金も投入されるはずとのこと(詳細不明)。

訪問先： JCspd JJRRV 関係者

日時： 6月4日（月） 13:30～14:30

面談者： (JCspd JJRRV 関係者) Mr.Hasan Jermi, AB member; Mr. Turkey Eshibat, AB member; Mr. Mahmoud Abu Hatab, AB member; Mr. Wadi Abu Helal, supervisor; Mr. Warwan Samalat, public relations; Mr. Sultan Rama, technical section; Mr. Abdul Jabbar Abu Halawa, Executive Director

調査団： 大石（事務所）Makky（専門家チーム）阿部、通訳 Mr. James Abed Rabhs

面談内容：

- 中間評価の説明・確認
 1. 中間評価の実施スケジュール等、全体についての説明を行った。また、Makky氏より午前中のKamel氏との面談内容が説明された。
- 参加者のJCspd JJRRVの活動に関する所感について：関係者よりプロジェクト関係者への謝意が示されるとともに、この地域でJCspd for SWMを行うことの難しさが述べられた（以下、参照）。
 1. 地形的に縦長で、非常に広いエリアをカバーしているJCspdである。例えば、Ein Shibli VC、Nawaji PC、Beit Hasan VC、Al-Nassaryyah VC、Al-Aqrabanyyah VCの5 LGUsは、ハムラのチェックポイントを超えたところにある。
 2. 農業中心の地域経済は低迷しており、住民からサービス料を徴収することは容易ではない。
 3. また、2007年1月のサービス開始前の状況も、LGUsによって違う。これが、サービス料支払いの差異にもつながっている。

訪問先： JICA Coordinator ジェリコフィールド事務所

日時： 6月4日（月） 14:30～15:30

面談者： Mr. Abed Al-naser Makky, JICA coordinator at Jericho Office

調査団： 大石（専門家チーム）阿部

面談内容：

- 業務内容
 1. 以前は、MoLGの職員であり、現在は、JICA職員としてジェリコ事務所で、当該地域で行われているプロジェクトの運営監理・支援を行っている。
- JCspd JJRRVの直面する課題
 1. JCspd JJRRVでは、LGUsに比べ、ジェリコ市の組織的強さ、財政的な強さが際立っている。そのため、ジェリコ市の果たすべき役割は非常に大きい。（例えば、ヘブロン govenarateには、ジェリコ govenarateと違い大きな市（municipality）が複数存在している。）実際、JCspd JJRRVの歳入の75%程度をジェリコ市からの歳入で賄うという予定である。これが、支払われていないことが大問題である。FasayelとJiftlikがサービス料を払っていないことより、ジェリコ市が一部しか支払っていないことのほうが、JCspd JJRRVの継続的運営にとっては問題である。
 2. ジェリコ市は、現在、出向社員¹の給与という形で、JCspd JJRRVに支払いを行っており、JCspd JJRRVの財政的自立性が確立されていない。将来的には、従業員の給与は独自資金で払えるようにならなければいけない。
 3. ジェリコ市に関しても、また、Jiftlikに関しても、トップにどうプレッシャー、影響を与えるかが何よりも重要である。
 4. 市町村によっては、いろいろな対応をとる。
 - Jiftlikに関しては、トップがサービスの必要はないといっている。住民会議をするから人を集めてくれといっても、きちんと集めてくれない。

¹ JCspd JJRRV 全職員 13 人のうち 9 人がジェリコ市からの出向職員である。

- Al-Aqrabanyyah VC に関しては、最初サービスが必要ないといっていたが、住民会議を開催してもらい、SWM の説明、サービス料の説明をしたところ、住民が必要である、サービス料も払うということになり、サービスを開始した。
 - Fasayel VC に関しては、3 ヶ月サービスを受けていてもサービス料を払っていなかった。サービスを止めざるを得ないと通達すると、支払い始めた。(注：サービス料の支払いは 100%とはいえないが、プロジェクトとしては、時間のかかることと考えている)
- JCspd JJRRV の経験の共有
 1. JCspd JJRRV の経験をその他の JCspd に広めていく方法としては、以下が考えられる。
 - i. 基本的に、DJCspd が責任をもって行うべきことである。実際に、JCC や JCspd JJRRV 主催のセミナー等に他の JCspd を招いている。
 - ii. UNDP 経由で無償で機材供与を受ける予定であった 4 governorate の JCspd for SWM で、technical committee をつくっている。ここでは、JCspd JJRRV の経験が深く共有されるであろう。
 - iii. JICA として、またプロジェクト(JET)チームとして、他ドナーや自治庁へ働きかけることも可能であろう。
- JCC や JCspd JJRRV の AB、GB の役割
 1. JCC は R/D の規定に従って、定期的開催されている。Kamel 氏とジェリコ市長は必ず参加しており、主要関係者間で、ある一定の情報は共有されている。
 2. AB メンバーが参加する会議では、JCspd JJRRV の業務等について、協議・決定がなされる。AB は decision making body であり、AB 会合は部外者の参加する会議ではないため、Makky 氏は参加していない。
 3. GB 会議においては、AB 会議で決定された内容や、JCspd JJRRV の活動の進捗が、全参加自治体に紹介されている。

訪問先： JCspd JJRRV 事務局長

日時： 6月5日(火) 10:30~12:45

面談者： (JCspd JJRRV Executive Director) Mr. Abdul Jabbar Abu Halawa, Executive Director

調査団： 大石 (専門家チーム) 阿部

面談内容：

- 業務の内容
 1. 以前はジェリコ市保健衛生局の職員であったが、現在は、JCspd JJRRV の Executive Director である。
 2. 当該プロジェクトに関しては、プロジェクトマネージャーである (2005 年 7 月 2 日にサインされた M/M によれば、JCspd JJRRV が立ち上がったのちには、JCspd JJRRV の president (現ジェリコ市長) がプロジェクトディレクターに、JCspd JJRRV の Executive Director がプロジェクトマネージャーになると記載されている)。
- JCspd JJRRV の成立過程
 1. 2005 年 7 月 2 日に PNA と JICA の間で当プロジェクトに関する R/D、M/M が結ばれたのち、7 月の中旬には、17 全自治体が参加する MoLG DJCspd 主催の会合が開かれた。この会合には、自治庁の Deputy Minister も参加し、JCspd JJRRV for SWM のコンセプトが紹介され、全自治体が JCspd JJRRV に参加することを表明した。
 2. 2005 年の 9 月には、GB 会合を開催し、Hasan Saleh 氏 (ジェリコ市長) を president に、Hasan Jirmi 氏 (Zbidat Village Council の長) を vice president に選出した。その他 3 名の AB メンバーも選出した。

3. AB メンバー5人の氏名は MoLG に提出された（自治庁大臣名での承認がおりたのは2006年3月のことである）。
4. AB メンバーが承認されて以降は、by-law に従い組織づくり、規則の策定を始めた。
5. 2005年11月には、日本人専門家がジェリコ入りをし、プロジェクト活動を開始した。
6. 2005年12月には、ジェリコ市長が JCspd JJRRV で中核的な役割をもつ職員5人を任命し、これら5人の職員（現在の JCspd JJRRV への出向職員）が中心になり、JCspd JJRRV 立ち上げに携わることとなった。
7. 2006年3月には、Abdul Jabbar Abu Halawa 氏が正式に JCspd JJRRV の Executive Director に任命された。
8. 2006年の3～7月までの間の約3.5ヵ月間、政治的理由（PNA の政権交代）により日本人専門家の投入をはじめ、プロジェクトの投入が制限されるという事態に直面した。再開した2006年7月下旬には、JCC にて PDM が加筆修正されている。
9. 2006年10月には、JCspd JJRRV の規則が MoLG から承認された（この規則に関しては、2005年の AB メンバー選出後、早々に草案し、MoLG に提出していた。途中、by-law の変更等あったため、承認が2006年10月となった模様）。

■ JCspd JJRRV の直面する課題

1. 以前より、自治体による廃棄物の定期収集が行われていたのは3自治体（Jericho、Al-Hew'meh & Edyuk、Al-Ojah）に過ぎず、きちんとしたシステムをもっていたのはなかでもジェリコ市だけであった。このような状況であったため、多くの小規模自治体にとって、廃棄物収集というのは優先度の高いサービスではない。
2. 現在は、コミュニティ会合を開催し、適切な廃棄物処理の重要性を伝えることに注力している。
3. 2007年1月のサービス開始後、3ヵ月間はトライアル期間ということで、全17自治体を対象に収集車両を運行させていた。4月以降は、14自治体を対象にサービスの提供を続けている。
4. 3自治体においては、サービスの受け入れ態勢が整っていない状況にある。自治体別詳細は、下記のとおりである。
 - i. Bardalah においては、ある一族（40家族程度）が反対をし、サービス料の支払いを拒否している。その他の多くの家族は、収集サービスの重要性も理解しており、サービス料を支払う準備もある、という状況である。JCspd JJRRV としては、反対派リーダーと協議を行うことを予定している。
 - ii. Jiftlik に関しては、3ヵ月間のトライアル期間さえ、住民からの協力はなかった（ゴミが出されなかった）。コミュニティ会合を開いても、参加者は、3、4名程度といった状況が続いている。過去4回開催したコミュニティ会合は、すべて同様に参加者数が極めて少なかった。つい先日行った会合は、Jiftlik の長ではなく、保健センターのドクターにアレンジしてもらったが、今まで一番多くの参加者（女性14名）があった。彼女たちの話では、サービスに関して、あるいは JCspd JJRRV について、長からは何も聞いていないということであった。また、彼女たちからは、長に対する不満が聞かれたとのことであり、リーダーシップの問題がみうけられる。
 - iii. Froosh Beit Dajan に関しては、人口規模も小さく、又それらが広範な地域に散在しており、廃棄物収集に対するニーズが最も少ない自治体であるといえる。将来、JCspd JJRRV のマルチサービス化が検討されることを考えて、ニーズが低いとは分かっているものの、すべての自治体を取り込んでいきたいと考えており、コミュニティ会合等も開催している。

Jiftlik と Froosh Beit Dajan には、上記の事情に加え、C 地域にある自治体であり、基本的なインフラ整備が最も遅れている地域であることも、重要な配慮事項である

- る。
5. 現在、新しい種類の問題が出始めている。Aqrabanyya では、当初サービスの必要性を認めていなかったものの、コミュニティ会合を重ねることで、理解を得てサービス料も支払ってもらえることになった。しかしながら、JICA の別のプロジェクト(Community Empowerment Component)において、Aqrabanyya のプロポーザルが落とされ、サービス料金を支払っていない Jiftlik のプロポーザルが選ばれるという状況にあり、これを不満に思った Aqrabanyya は、廃棄物収集サービスに関してもいらぬといひ始めている。今までの努力が水の泡になるという非常に辛い状況である。
 6. JCspd JJRRV の運営は、将来にわたり難しい時期が続くと思われる。その主な理由は、(i) パレスチナ全体の政治・経済状況が不透明であること、(ii)自治体が財政的にも組織的にも脆弱であること、(iii)対象地域が広く、かつ農業地帯であり、いくつかの自治体にとっては廃棄物処理サービスが最も重要なサービスではない、という3つである。
 7. 組織としての自立発展性を考えれば、JCspd JJRRV の職員の多くがジェリコ市からの出向者であることは問題であるといえよう。また、今後は、独自の職員を雇用する必要がある。Executive Director の変更も十分あり得る話である。その際には、十分は引継ぎ期間を設けることで対応する予定である。

■ プロジェクトを通して学んだこと

1. 専門家との協働や本邦研修を通して多くを学んだ。また、実際に組織を運営し、サービスを提供し、学んだことを実践していく過程で知識が身についたと感じている。今後、学びたいこととしては、コンポスト技術があげられる。当該地域のゴミの 60~70%が有機ゴミであることを考えると、コンポストはこの地域に適していると思われる。
2. 本邦研修でも、非常に多くを学んだ。焼却処分等についての知識を生かすことはできないが、衛生理立や減量化、コンポストについては、現在も役立っている。一点、hazardous waste についての講義がなかった点に不満が残る。通常、自治体の集めるべきゴミでないのは分かっているが、パレスチナのような発展途上の国では、実際、暫定的に自治体が処理しなければならない場合も多いため、知識が必要になる。

■ その他

1. 収集機材の修繕が行われた。一部のスペアパーツは、当該地域で入手困難であり、実際の入手までに時間がかかった。
2. 政権交代の影響を受け、日本人専門家の派遣が延期されることがあった。JCspd JJRRV としては、いまだ準備期間であったため、それほど大きな影響はうけていない。また、Eメールを通して、専門家とはコンタクトをとっていた。
3. ジェリコ処分場の改善は、非常に重要なプロジェクトコンポーネントであった。しかしながら、残余期間が少ないことは問題である。また、不衛生な処分場を使わなければいけないという illegal dumping の状況には戻りたくないため、あと2、3年は利用できるように増設工事が必要である。
4. また、その間に、300ドナム(約30ha)程度の規模のより大きな最終処分場の建設準備をする必要がある。確かに Tovlan に衛生処分場があるが、この Tovlan 処分場は、イスラエル側が「占領地」につくったものであり、その処分場に使用料を支払ってゴミを持ち込むのはおかしい話である。当該地域が、今後もパレスチナ難民に主要受け入れ地になる予定である(人口増加が見込まれる)こと、また、パレスチナ・ヨルダン・イスラエル間のより自由な商業地域になることを考えれば、今から、大規模処分場建設の準備を始めるべきと考える。

訪問先： JCspd JJRRV スタッフ

日時： 6月5日（火） 12:45～14:30

面談者： (JCspd JJRRV スタッフ) Mr. Sultan Mer'ae, Head of Technical and Operation; Mr. Wadee Abu-Helal, Engineer; Mr. Marwan Samarat, Public Relations; Ms. Manal Romaneen, Accountant

調査団： 大石（専門家チーム）阿部、通訳 Mr. James Abed Rabhs

面談内容：

■ 各自の業務内容

1. Marwan Samarat 氏：主要イベントを記事にし、新聞社に持ち込んだり、ニュースレターやリーフレットを作成したり、また、ドキュメンタリーのビデオを撮ったりというのが主な業務である。
2. Sultan Mer'ae 氏：収集サービス全般に関する管理（メンテナンスの確認と記録、収集車両の運行の確認と記録）、処分場の監理等、技術部門の監督全般を行っている。
3. Wadee Abu-Helal 氏：ハムラチェックポイントから先の北部・中部セクションの収集サービス全般に関する管理を行っている。JSC for Mid Jordan Valley という別の JCS の civil engineer でもある。この JSC for Mid Jordan Valley には 10 の自治体が参加しているが、これらの地域で実施されているインフラ整備の監督を行っている。JCspd JJRRV に関して言えば、担当地域に収集車両が一台しかないことが懸案である。
4. Manal 女史：現在、労務管理と会計を行っている。上司にあたる Ahmed Shahada 氏が療養中のため、会計も担当することになった。

■ JCspd JJRRV による収集サービスの進捗と今後の展望

1. Marwan Samarat 氏：プロジェクトが始まって 1.5 年。サービスが始まったのが 2007 年の 1 月から。現段階で今後の展望を語るのは難しい。当該地域の地方自治体は弱小であるし、また、人々の意識は一朝一夕には変わらない。一步一步進んでいくしかない。
2. Sultan Mer'ae 氏：既に多くのことを達成したと実感している。実際に不法投棄は減少しているし、処分場の改善も行われた。処分場での野焼きもなくなっている。
3. Wadee Abu-Helal 氏：スケジュールに沿った定期的な収集を開始し、収集したゴミは、以前利用していた衛生状況の悪い処分場への持ち込みをやめ、Tubas 処分場へ運んでいる。スピーカーをつけたベル収集を試したが、チェックポイント等あり、状況に適さないため、現在は行っていない。
4. Manal 女史：確かに、多くの成果を出してきたといえるが、経済的な自立がなければ今後はない。JCspd JJRRV の財務状況は、非常に厳しい。各自治体の財政基盤が脆弱であることに加え、料金徴収のための効率的なシステムが存在しないのも原因のひとつである。

■ プロジェクトを通して学んだこと・得た知識等

1. Marwan Samarat 氏：プロジェクトを通して、チームワークの重要性を学んだ。自分の仕事は、JCspd JJRRV を売り込むことであるが、その際には、ほかのセクションが何をしているか知る必要があり、協力しないといけない。
2. Sultan Mer'ae 氏：ジェリコ市以外の市では、システムと呼べるような廃棄物管理は行われていなかった。現在は、14 の自治体に廃棄物管理システムが導入されており、これらの地域で定期収集が行われている。各ドライバーが特定の車両を運転・管理している。また、Time & Motion Survey やゴミ量・ゴミ質調査も実施し、状況も客観的に把握できた。これらのことは、本邦研修でも学んだことで、プロジェクトを通して、実施できているといえる。
3. Wadee Abu-Helal 氏：すべてが新しく得た知識・経験である。以前は、civil engineer であり、廃棄物管理の知識は全くなかった。本邦研修、専門家から学ぶことを、

実際に日常業務に反映させながら業務を行っている。

5. **Manal 女史**：以前ジェリコ市に勤務していた時には、会計担当ではなかった。会計業務自体、新しく得た知識である。現在は、暫定的にエクセルシート上で計算しているが、今後は新しい財務会計ソフトを導入する予定で、その知識も増えることになる。

■ その他

1. **Sultan Mer'ae 氏**：収集サービス全般に関する管理・監督をしている立場からすれば、収集車両の老朽化と不足は、大きな懸案である。メンテナンスに費用も時間もかかる。予備の車両もないという状況では、何かあった場合に、完全に収集が止まってしまう。もう、一点の懸念は、監理監督をする手段（交通手段と通信手段）が全くないという点である。

訪問先： JCspd JJRRV P 理事長（兼ジェリコ市長）

日時： 6月6日（水） 10:00～11:00

面談者：（JCspd JJRRV President cum the Mayor of Jericho Municipality）Mr. Hassan Saleh

調査団： 大石（専門家チーム）阿部、通訳 Mr. James Abed Rabhs

面談内容：

■ 当該プロジェクトに対する意見

1. 最終処分場改善は、非常に役立っている。しかしながら、住宅街から 500m 程度しか離れておらず、規模も小さい。近い将来、より大規模な本格的な処分場が必要となる。300 ドナム程度の土地を C 地区に確保すべく交渉中であり、更なる日本の支援を期待している。
2. 収集運搬システムに関しては、以前よりよくなっていると理解している。特にジェリコ市以外もジェリコ市と同程度のサービスを得ているということであり、いいことである。しかしながら、廃棄物の問題が、当該地域で一番の問題であるというわけではない。農業地帯であり、ジェリコ市中心部を除いて、廃棄物量はそれほど多くない。
3. 収集運搬地域も広がっており、プロジェクトの達成度は 70% と考える。たしかに、財政基盤の脆弱性は問題視されてきているが、パレスチナの政治・経済状況を考えれば、ジェリコ市でさえ、分担金やサービス料を全額支払うことは容易ではない。
4. ジェリコ市の 2 次収集は JCspd JJRRV が行っているが、1 次収集は依然としてジェリコ市が行っている。ジェリコ市は JCspd JJRRV に職員を出向させているが、そのことが、ジェリコ市の負担になっているということではなく、1 次収集は以前同様定期的に実施できているとのことであった。

■ その他の意見

1. 当該地域では、JICA のプレゼンスが非常に高い。他のドナーに、プロジェクトの申請をしようとしても、「ジェリコには日本がいるだろう」といわれてしまう。もう少し、実質的な、大規模な事業を実施してもらいたい。
2. 収集車両供与に関しても、当初はジェリコ市だけを対象としていたはずが、現在では、4 governorate を対象にしている。日本政府は、まず、当該地域に、すべてのリソースを戦略的に投入してほしい。

訪問先： JCspd JJRRV AB メンバー／Head of Al-New'meh

日時： 6月6日（水） 12:00～13:00

面談者：（JCspd JJRRV AB メンバー）Mr. Ghaleen Awata, Head of Al-New'meh

調査団： 大石（専門家チーム）阿部、通訳 Mr. James Abed Rabhs

面談内容：

■ JCspd JJRRV の運営に関して

1. 傘下の 17 自治体のひとつとして、JCspd JJRRV に参加。AB メンバーでもある。
2. AB ミーティングでは、財政面、組織運営面に係る重要事項を話し合い、決定する。その後、GB ミーティングにかけ、承認を得たのち、住民に届くサービスとなる。例えば、AB ミーティングでは、各自治体の財政能力に関する情報の共有や 1 家族当たりのサービス料の設定などが行われてきている。現在は、支払いをしない自治体へのサービスを止める”No Payment No Service”というやり方についての議論が行われている。
3. AB メンバーでない自治体とは、GB ミーティング以外でも議論をしている。問題や反対意見等は、GB ミーティングがなくとも、JCspd JJRRV に寄せられている。例えば、支払いをしていない自治体がサービスを受けることには、当初から、一部の自治体から強い反対が出されていた。

■ JCspd JJRRV のサービスに関して

1. （ここは、以前から自治体による一定の収集サービスのあった 3 自治体のひとつであるため、以前のサービスと現在の JCspd JJRRV によるサービスの違いについて質問をした。）以前は、一応 1 週間に 1 度の収集を行っていたが、何かあるとすぐにとまっていた。現在は、1 週間に 2 度、定期的な収集が行われている。
2. この変化については、85%程度の住民が、認識していると思われる。以前、ゴミの多い時には、バレルの周りにゴミがあふれていたが、収集回数の増えた今、そのような状況をみることはなくなった。
3. 以前から一定の収集サービスのあった自治体は 3 自治体のみであり、それ以外の自治体にとっては全く新しいサービスであるため、ゴミ収集サービスの重要性を理解していないところも多いのではないかと。自治体の長自身がメリットや重要性を正しく理解するのも時間がかかる。
4. それに加え、地域の特性に特有の理由等もあると思われる。現在、Bardalah、Froosh Beit Dajan と Al-Jiftlik に関しては、サービス料を一度も支払っていないため、サービスを提供していない。Froosh Beit Dajan に関しては、必要ないということである。全住民の総意かどうかは分からないものの、地域によってはニーズの低いところもあると思われる。
5. 今後も、住民教育は必要である。サービス料を支払うことが協力の形であることを理解すべきである。また、これが、JCspd JJRRV の財政的自立発展性を高める。
6. 地域の環境は改善し、JCspd JJRRV によるサービスにはおおむね満足している。一点、ジェリコの処分場ではなく、Tovlan の処分場の利用を考えるべきと思っている。イスラエル側の管理する処分場であるうえ、処理費用がかかるとはいえ、新しく処分場を拡張したり、造ったりすることの環境負荷のことを考えれば、既存のものを使うべきである。

■ その他

1. 2 年前までは、Jericho Governarate に属する自治体の長の集まる月例会議があったが、現在はそのような集まりはない。当時も、出席率が高くなかった。
2. この地域で行われている他のプロジェクトとしては、NGO による学校の増築と、USAID による飲料水プロジェクトがある。USAID の飲料水プロジェクトに関しては、financial contribution が前提条件となっている。

訪問先： Ministry of Health

日時： 6月9日（土） 10:00～13:00

面談者： (JCCメンバー) Mr. Mohmond H. A. Othman, Manager of Waste Disposal Unit, MOH

調査団： 大石（専門家チーム）阿部、通訳 Mr. James Abed Rabhs

面談内容：

■ Waste Disposal Unit の役割

1. Medical waste、liquid waste、solid waste の各種廃棄物の管理は、公衆衛生にも大きな影響を及ぼすため、その意味では、監督責任がある。加えて、医療廃棄物に関しては、その処理方法に関しても、指導・監督を行う。
2. 現在、UNDP と日本の資金援助により、ラマラ地域で医療廃棄物プロジェクトが行われている。Waste Disposal Unit は、そのプロジェクトの C/P でもある。このプロジェクトでは、ラマラ病院とラマラ市役所を対象にプロジェクトが実施されており、300床規模のラマラ病院においては、分別、適正処理の改善が、ラマラ市役所においては、収集と運搬の改善が図られている。処理方法としては、焼却ではなく、autocraving を推進しており、ラマラ病院の場合は、650L の autocrave での適正処理が行われている。
3. ジェリコ市には JICA の廃棄物プロジェクトがあるというので、MOH の「優先的に autocrave を整備すべき都市リスト」には入っていない。これは、廃棄物処理の計画案として、文章にまとめられている（この点に関しては、JJRRV 地域を対象とした JICA の廃棄物技プロのスコープに医療廃棄物が入っていない旨、当方より説明済）。

■ 本邦研修に関して

1. 新ジェリコ病院からは Mustafa 氏が参加したと聞いているが、MOH としては、より影響力の強いシニアな人材を研修に行かせるべきであったと考えている。

■ その他

1. JCC のメンバーでありながら、毎回出席しないのはなぜかという問いに対しては、JCC 会議の案内と招待状が届いていないことがよくあるとの回答があった。省庁間のコミュニケーション（通信手段の不備も含め）が不十分な様子である。
2. プロジェクトからの依頼を受け、Mohmond H. A. Othman 氏は、2006年12月20日に行われた“Seminar on Solid Waste Survey Result”においては、医療廃棄物の現状についてのプレゼンを行っている。しかし、対象者が彼が想定していた人たちとは違うとのこと（医療廃棄物の現状をよく知っている UNDP 関係者の前で、基礎情報をプレゼンする形になったとのこと）であった。MOH 主催の地域の医療従事者を対象としたプレゼンの機会がほとんどないこともあり、先述セミナーを、JJRRV 地域の医療従事者を対象にしたプレゼンの機会にしたいと思っていたので、残念であったとのことである。

訪問先： Jericho Municipality

日時： 6月10日（日） 10:00～11:00

面談者： (ジェリコ市職員) Mr. Mohammad Hidar, Head of Transportation and Maintenance Department; Mr. Ismail Safe, Head of Maintenance Section

調査団： 大石（専門家チーム）阿部、通訳 Mr. James Abed Rabhs

面談内容：

■ メンテナンス部門の役割

1. ジェリコ市が所有していた6台の収集車両はすべて JCspd JJRRV に移管しているので、そのメンテナンスを引き続き行っている。ブルドーザーに関しては、時間当たり 150NIS で、1日2時間貸し出している。ブルドーザーも移管されることにな

っているという話は聞いたことがない。これら、JCspd JJRRV 関連のメンテナンスは、特別の log book に記載をし、毎月コストを出して JCspd JJRRV に伝えている(ジェリコ市はこのコストを、ジェリコ市が支払うべきサービス料の一部とみなしているため、実際の金銭の授受はなし)。

2. 現在メンテナンスを行っている車両の数は、37 台である。これは、JCspd JJRRV に移管した 6 台とプロジェクトで修理をしたため利用可能となった 3 台を含む。
3. メンテナンスセクションの抱える問題として、以下が述べられた。
 - i. プロジェクトを通して、メンテナンス機材が供与され、毎日利用している。一方で、供与機材のなかに lifter がなかったため、lifter なしの作業が続いている(プロジェクト予算では購入できない金額だった模様)。
 - ii. 老朽化した車両が多く、メンテナンスの頻度が多いため、業務量が多くなっている。しかしながら、ゴミ収集サービスの特性を考慮して、ゴミ収集車両のメンテナンスを優先している。
 - iii. 老朽化した車両が多く、スペアパーツの購入に時間がかかる(代替品を探すのに時間がかかる)。
 - iv. メンテナンス対象の車両が、日産、ボルボ、ベンツ、いすゞと多岐に渡っているが、どれもマニュアルがなく、メンテナンスに時間がかかる。

■ JCspd JJRRV に関する意見

1. JCspd JJRRV はいまだに非常に脆弱な機関であり、2 次収集を行うことで精一杯の状況である。1 次収集を移管するのかどうか、汚水処理を移管するのかどうか、本来は、その部分も検討する必要があるが、しばらくは無理だと思われる。
2. UNDP 経由の機材調達に関しては、業者との納入に向けての話し合いの際には、ジェリコ市役所のメンテナンス部門も参加すべきと考えている。契約の一部として業者が提供するメンテナンスサービスの内容等に関しては、ジェリコ市メンテナンス部門が精査すべきである。

訪問先： Jericho Municipality

日時： 6 月 10 日(日) 11:30~12:30

面談者：(ジェリコ市職員) Mr. Gazi Ayyad, Director of General Service Department

調査団： 大石(専門家チーム) 阿部、通訳 Mr. James Abed Rabhs

面談内容：

■ JCspd JJRRV に対する意見

1. 2007 年 1 月のサービス開始以来よくやっていると思うが、更なる改善も必要である。そのためには、まず、収集車両をそろえることが重要であろう。
2. ジェリコ市は以前同様 1 次収集を続けており、2 次収集のみを JCspd JJRRV に移管しているが、移管後も、市民からの苦情等はほとんどないため、二次収集の移管は円滑に行われたものと考えている。
3. 一次収集も JCspd JJRRV に移管するのかどうか、また、汚水はどうするのか等、今後のジェリコ市と JCspd JJRRV の役割分担で不明な点が多い。

■ ジェリコ市の清掃事業

1. ジェリコ市の 1 次収集に関しては、supervisor を含む 33 人の清掃労働者が 1 次収集に従事している。市の中心部に関しては、毎日収集を行っており、1 日当たり 6.5 時間程度の業務を行っている。
2. コンテナの数が少なく、住民とコンテナの距離が離れすぎている。結局、house to house collection をしている地域も多い。今後は、コンテナを増やして、住民にコンテナまでもってきてもらうという方法に変えていければと思っている。

■ その他

1. 1次収集部門の責任者であった Jabbar 氏など経験者が出向という形で JCspd JJRRV に移ってしまっているが、ジェリコ市の 1 次収集に負の影響はないかと質問したところ、次のような回答があった。Jabbar 氏の代わりに Odde 氏が 1 次収集の監督を行っている。後任者を確保したことに加えて、ジェリコ市ではシステム・やり方ができあがっていたので、特に問題はないとのこと。また、ジェリコ市には十分職員がいるとのことであった。
2. JCspd JJRRV の出向期間をいつまで延長できるかという質問に対しては、市長とその他 14 名の市議の決めることであるとの回答があった。

訪問先： JCspd JJRRV 現場スタッフ

日時： 6 月 10 日（日） 12:30～2:00

面談者： (JCspd JJRRV 現場スタッフ) Mr. Waleed Moghrabi, supervisor; Mr. Ibrahim Jermi, driver; Mr. Ja'far Ali Irrmailih, worker; Mr. Na'el Abu Sa'da, worker; Mr. Ibrahim Judeh, driver; Mr. Ahmad Aldehini, driver; Mr. Salim Ghroof, worker; Mr. Mohammad Ali, driver; Mr. Naser Irmeleiah, driver; Mr. Khalid Husein, worker; Mr. Naser Alrjoob, driver

調査団： 大石（専門家チーム）阿部、通訳 Mr. James Abed Rabhs

面談内容：

■ 各自の役割と日常業務における課題

1. Waleed Moghrabi 氏：JCspd JJRRV のテクニカルセクションの全体を supervise している。(Sultan 氏のすぐ下のポジション) コンテナの交換状況、収集車両の運行状況、現場スタッフの出欠確認等、すべてを監督しなければならず、プレッシャーも多い。日常業務における課題としては、収集車両が老朽化しているため、メンテナンスに時間とコストのかかる点である。収集車両の運行計画に影響を及ぼすため、大きな悩みである。
2. Ibrahim Jermi 氏：ドライバーである。日常業務における課題は、チェックポイントの存在である。許可証がないと通れないため、JCspd JJRRV 事務所に許可証の取得を依頼しているが、まだ取れていない様子である。また、メンテナンスについては、ジェリコ市のワークショップが遠いため、通常のメンテナンスは Tubas 近郊にある民間のワークショップに委託している。修理が必要などきのみジェリコ市ワークショップに運ぶようにしているが、どちらにせよ、メンテナンスには時間がかかる。
3. Ja'far Ali Irrmailih 氏：清掃労働者である。特に、日常業務における問題はない。大変な仕事であるが、仕事とはそういうものと思っている。
4. Na'el Abu Sa'da 氏：清掃労働者である。問題は、担当地域（北部地域）において、コンテナが不足している点である。住民は、プラスチックバッグにゴミをいれて出していることも多いが、バックが弱いと、やぶれて、ゴミの飛散につながっている。
5. Ibrahim Judeh 氏：ドライバーである。1日に15のコンテナ（8m³と12m³）からゴミを収集し、処分場には1日4回収集ゴミを運び込んでいる。ワーカーがいないときもあるので、コンテナ周辺の掃除からコンテナ内に残っているゴミのかきだしまで、自分で行うこともある。問題は、ドライバーも労働者も、予備人員が少なく（ドライバー1名、労働者1名）、休みもなかなか取れない点にある。加えて、車両の老朽化も問題である。15年以上前に供与された車両を使っているため、不具合も多い。
6. Ahmad Aldehini 氏：ドライバーである。車両の老朽化が進んでおり、メンテナンスに時間がかかる。現在は、窓にガラスの入っていない車両を運転しており、土の

乾燥している当該地域では土埃のため、のどを痛めている。

7. **Salim Ghroof** 氏：清掃労働者である。労働者の数が少なく、1人当たりの負荷が大きく大変な仕事である。また、埃やゴミの吸引を防ぐ業務用マスクなどがあれば助かる。
8. **Mohammad Ali** 氏：ドライバーである。1日に13、14のコンテナからゴミを収集している。ドライバーや労働者の数が少ないことが問題である。コンテナの内部や周りを清掃するためにも、労働者を増やすべきである。また、コンテナの老朽化もはげしく、鉄が腐食し穴の開いているものもある。これらのコンテナの周りは汚くなりがちという悪循環の状況にある。車両が古いため、メンテナンスや修理に時間のかかることも問題である。例えば、1つのスペアパーツを購入するのに8ヵ月かかったこともある。メンテナンス・ワークショップの能力強化より、新しく車両を購入することが急務と思う。
9. **Naser Irmeleiah** 氏：ドライバーである。様々な課題があるが、そのひとつは、コンテナの不足である。また、既存のコンテナも修理が必要な状態である。**Al-Ojah** では、コンテナの不足から200kgのバレルを多用しているが、ゴミ回収が大変であるためコンテナ方式に戻してもらいたいが、そのためにはコンテナが必要である。
10. **Mr. Khalid Husein** 氏：Night shiftで勤務している労働者である。1台の車両に2名の労働者で夜間回収を行っている。コンテナの底、コロ（車輪部）の老朽化が激しく、回収が大変である。夜間収集中に故障したら大変なことになるため、車両の定期メンテナンスが重要。また、トーチライトをリクエストしたが、あれば業務が行いやすいと考えている。
11. **Naser Alrjoob** 氏：ドライバーである。収集車両の老朽化、ドライバーの予備要員がないことが問題である。加えて、ゴミ投棄する際の土埃を緩和するため、ジェリコ処分場の地ならしを行う必要がある。

■ その他

1. **JCspd JJRRV** には職員が少ないため、ジェリコ市時代の業務と今の業務を比べると今のほうが、仕事がきつい。休みが取りづらい。
2. ジェリコ市のときより、より組織的に、システムにそって、収集・運搬を行うようになった。業務記録もジェリコ市のときよりしっかり取っている。
3. ジェリコ処分場に水場を造ってほしい。そこで、コンテナ等を水洗いできれば、清潔に保て、長持ちさせることができるのではないか。
4. 現在はジェリコ市からの出向であるが、今後、**JCspd JJRRV** の職員となってしまうのか不安である。ジェリコ市の職員であれば年金等ももらえるが、**JCspd JJRRV** は新しい機関であり年金等の制度が不透明であるため、心配している。

訪問先： New Jericho Hospital

日時： 6月11日（月） 09:30～10:30

面談者： **Mr. Mustafa Alhmidat, Biomedical engineer at New Jericho Hospital**

調査団： 大石（専門家チーム）阿部、通訳 **Mr. James Abed Rabhs**

面談内容：

■ 業務内容

1. **New Jericho Hospital** は55床の病院であり、現在、新しい医療器材のメンテナンスやメンテナンス機材の購入を担当している。以前は、エルサレムの病院でボランティアをしていたが、2003年の8月よりこの病院に勤めている。
2. 当該病院に医療廃棄物処理の担当者はいない。燃料費が工面できていたときには、ボランティアベースで焼却炉の運転を担当していた。

3. 現在は、燃料費が工面できず焼却炉は使っていない。職員の給与さえ支払われていない状況である。実際、Mustafa 氏も今年に入って以降、給与を受け取っていないとのこと。
4. 病院内の廃棄物は、3つの種類に分別されている。ナイロンバック、ダンボール製ゴミ箱とプラスチック製ゴミ箱の3種である。これらは、MOH から配布されているものである。いわゆる医療廃棄物は、ダンボール製のゴミ箱、プラスチック製のゴミ箱に捨てられており、これらを焼却すべきであるが、現在は、すべてを病院内に設置してあるジェリコ市所有のコンテナに捨てている。これをジェリコ市が定期的に回収し、ジェリコ処分場に廃棄している。

■ 本邦研修に関して

1. 本邦研修において多くの日本の施設を見学できたことは勉強になった。しかしながら、元来、廃棄物が担当ではなく廃棄物全般の基礎知識がなかったうえ、廃棄物のなかでも医療分野のを中心知りたいたいと思っていたため、ニーズとのずれを感じた。パレスチナにおいては、MOH から研修を受けるといった機会はないため、それでもいい機会であったことは確かである。
2. 学んだことの一例としては、焼却の際の温度の設定が、ダイオキシン発生等とも関連するため重要であるということがあげられる。これは、焼却炉を運転される際には、気をつけるべきことと考えている。

訪問先： Jericho Governarate

日時： 6月11日（月） 11:00～12:30

面談者： Mr. Mohammad Njoom, Director of Jericho Government, MoLG; Ms. Salam Erekat, JICA project coordinator, Jericho Governarate

調査団： 大石（専門家チーム）阿部、通訳 Mr. James Abed Rabhs

面談内容：

■ 業務内容

1. 当該地域の LGUs の財務状況を把握し、必要に応じて支援を行うことが主な業務である。Jericho Governarate には、8の自治体がある。加えて複数の joint council があり、これらも支援対象となる。複数の joint council は以下の通りである。多くの joint council において活動は停滞気味である。
 - i. Mid JRV Joint Council
 - ii. Southern JRV Joint Council
 - iii. Moroj Joint Council
 - iv. Al-Jiftlik and Al-Froosh Joint Council
 - v. Northern JRV Joint Council
 - vi. JCspd JJRRV
2. また、regional committee for planning and building という Jericho Governarate の委員会の長もしている。これには、Jericho Governarate にあるすべての中央政府出先機関が参加している。この機関を通して、弱小自治体が建設許可(building permission)を発行する際の支援をしようとしている。

■ 本邦研修に関して

1. 日本に行って、まず、非常に清潔であり、公共秩序のレベルの高いことに感銘を受けた。
2. 廃棄物を担当しているわけではないため、技術的な講義の一部は理解するのに苦労した。しかしながら、自治体の強化が公共サービスの提供において、何よりも重要なこと、そして、自治体と住民がお互い協力しあう必要があるという点を学んだため、その点を今後の業務に生かして生きたい。住民教育についても、学ぶことができた。

■ その他

1. 当該地域で行われている JICA プロジェクトは、同じ自治体を対象としているものが多い。それらの自治体で何が行われているか、把握する必要がある、より緊密に連絡を取ってもらえると助かるとのことであった。どの自治体がどのようなプロジェクトを行っているか、把握できていない状況である。
2. また、正直なところ、JCspd JJRRV サービス開始後も、大きな改善を感じていない。ジェリコ市においては、収集車両や、収集頻度、コンテナなども以前と同じであるためである。今後は、より分かりやすい改善を期待したい。

訪問先： 地方自治庁広域行政計画・開発カウンスル（JCspd）局長

日時： 6月12日（火） 10:30～

面談者： Mr. Kamel Hameid, DJCspd, MoLG

Mr. Mousa H. A. Shaer, Director General of water supply & sewage authority,
MoLG-Bethlehem

Ms. Wijdan Shareef, MoLG

調査団： 吉田、田村、大石、（事務所）酒本、水谷、（専門家チーム）阿部

面談内容：

■ UNDP 経由無償資金協力機材

1. 事務所より、大臣が UNDP との合意文書に署名を行っていない状況について説明を求めた。
2. Kamel 局長より、理由として、合意文書案のなかに「MoLG と UNDP の間で“conflict”がある場合は、UNDP が決定する」との表現があり、この点を問題視している旨説明があった。また、これまで MoLG が technical committee の設置、機材の仕様の検討を進めてきたのに、UNDP は何も行っていないとの見解が示され、「双方合意の下決定する」との表現にしてほしいとの希望が述べられた。（大臣が署名を行わない背景として、既に入札を終え業者も決まったが、予算が超過したため供与機材の台数の見直しを行ったこともある模様）
3. また、選定された業者による、アフターケア体制に疑念もあり、今回の調達についてのレビューを行う時間がほしいとのことであった。

■ 中間評価のスケジュール確認

1. 16日に日本側の作成したドラフトをパレスチナ側に送付し、19日にJCCで協議を行い20日に署名を行うというスケジュールを確認。

■ Kamel 局長が考えるプロジェクト及び JCspd/JSC の課題。

以下のとおり説明があった。

1. JSC（JCspdではなく、Kamel氏は一貫してJSCという表現を使用）職員の身分。専従ではなくジェリコ市からの出向等が多く、身分が不安定。
2. 運営経費の捻出。ジェリコより経済状況のよいラマラでもGTZの支援によりJSCを立ち上げようとしているが、苦勞している。
3. JSCを支援するlocal expertの確保も課題。プロジェクト活動は技術的な面での支援も必要であるが、JCC参加者は廃棄物管理の専門ではない。ジェニンでは世界銀行の支援があり、専従の技術者を雇用しているためうまくいっている。
4. JCCはよく機能しているが、年2回では不十分であり、回数を増加することが望ましい。現地レベルでの活動についての情報が入ってこない。また、JCCメンバーの異動、交通手段の確保が困難であることより、毎回同じメンバーが出席できないことも問題。

■ 他地域における JCspd/JSC の状況（注：以下ジェリコ JSC といっているのは JCspd JJRRV のこと）

1. JSC の立ち上げには、技術面、財務面での強化が鍵。ジェリコは技術面では成功しているが、財務面が課題であり、支援が必要。

2. ジェリコの経験を踏まえ、ジェニン、ヘブロン、ラマラに助言を行っている。また、ジェリコはパイロットプロジェクトであり、本プロジェクトの JCC への参加を促している。
 3. 1 県に 1 つの廃棄物 JSC を立ち上げることを目標にしている。ジェリコ JCS が成功したらこれをモデルにしたい。
 4. 全 16 県のうち、これまで 9 県での新規立ち上げに成功している〔西岸地域：7 県（ジェリコ、ジェニン、トゥカレム、サフィート、ヘブロン、ラマラ（GTZ の支援）、ナブルス、ガザ：2 県〕。
 5. トゥバス県から 3 つの自治体、ナブルス県から 6 つの自治体がジェリコ JCspd のサービスを受けているが、両県にはもっと多くの自治体があるので、両県での JSC 立ち上げには影響はないと考えている。
 6. 他方、実際問題として既に既存の県レベルよりは小さい規模の廃棄物 JSC（30 以上）が活動を行っているので、規模、対象とする自治体、JSC の機能（**planning & development** を含めるかは、JSC 次第）等今後の方向性については、PNA として一律にある形を指示するのではなく、各地の実情に応じて決まっていくものだと思う。重要なのは、共同で考え、共同で働き、共同でサービスを実施することを学習していくことである。
- National Committee
 - 1. 廃棄物の National Committee をこれから強化（2005 年 11 月から存在していたがほとんど活動を行ってなかった）する予定であり、GTZ が支援する予定。支援内容としては、①国家廃棄物管理計画の策定、②廃棄物分野の CD（研修実施、教材作成等）、ラマラ等 3 カ所での処分場の整備等。本 committee は Kamel 局長が中心となっていく予定。
 - 2. ジェリコ JSC の経験等もこの国家計画の策定の際に盛り込んで行きたい。
 - 3. 全体会合はまだ行っていないが、EQA、民間、国家計画庁と会合をもった。今後ドナーとの会合、関係省庁・民間セクターとの会合をもちたい。
 - 4. 本プロジェクトの JCC は national committee のアイデアに近く、成功させたい。プロジェクト目標 2 にも関連してくる。
 - プロジェクトで実施している本邦研修
 - 1. 研修は必要であるが、どのようなベネフィットを受けたのか情報がない。当局がともに廃棄物行政の分野で働く人物を人選しているが、研修受講後、関係業務から離れてしまった例が多いのも問題。
 - 2. 現在の研修はエンジニア向けとの印象をもっており、今後は、マネジメント、意識啓発、機材管理等、研修項目を絞ったほうがよいかもかもしれない。
 - 今後について
 - 1. JSC の活性化、②本プロジェクトの JCC の経験共有についての機能強化、③経験に基づいた廃棄物管理の進展がポイントであると考えている。

訪問先： JCspd 理事長／ジェリコ市長

日時： 6 月 12 日（火） 19:00～

面談者：Mr. Hasan Saleh, President of JCspd/Mayor of Jericho

調査団： 吉田、田村、大石、（事務所）Makky、（専門家チーム）阿部、石井

面談内容：

- 調査団より、JCspd JJRRV による収集サービス開始について評価の意を示した。
- 市長の考えるプロジェクト及びその周辺の課題
- 1. 経済、政治状況の悪化が JCspd JJRRV だけではなく地域社会にも影響を及ぼしている。
- 2. 住民がサービスに対し支払う意思をなかなかもつことができない。
- 3. 北部地域では廃棄物をコンポスト化する等の工夫をしており、廃棄物収集についてのニ

ーズがないと思われる。

4. ゴミ量の調査を実施したが、ジェリコ市の住民は3万3,000~4万人とされていても、実際には週末にラマラやベツレヘムからの滞在、1万人以上の治安関係者、学校関係者（西岸の学校がジェリコに研修に？来ることになっている模様）の往来があり、ゴミ量算出の基礎となる人口はもっと多いものと思われる。
 5. JICA/日本はジェリコ以外のほかの地域にも支援しているが、ジェリコはJICA/日本の支援があることを理由に他ドナーの支援が得られない(JICAの支援が「decrease the possibility for us」)。UNDP経由の無償資金協力機材についても、すべてがジェリコにくるわけではない。
 6. プロジェクトがJCspd JJRRVや自治体等、パレスチナ側の組織を通じてでなく、住民に対し直接コミュニケーションをとることがあった点が問題。
 7. 困難な状況のなかプロジェクトは全体として成功しているとみているが(60%程度)、問題は今後発生してくるものと予想している。ジェリコは清潔な町として認識されており、ネガティブなインパクトはみられない。廃棄物セクターでの労働についてイメージが向上した。
- 市長の考えるJCspd JJRRVの課題
1. 収集料金の徴収。本日のJCspd JJRRV理事会でも話したが、支払いがなかなか得られない。サービスの停止も検討が必要。
 2. JCspd JJRRVの財務面での強化。
- 市長の発言に対して、調査団及びより下記のとおりコメント。
1. UNDP経由無償資金協力機材については、ジェリコ市からの情報、機材の妥当性を踏まえ検討し、効果や予算状況を鑑み他都市への供与も検討した。調査団訪問時にパレスチナ側と協議のうえ最終的な要請機材を決定している。供与された機材が適切に使用、管理されるようCDを行っていくことが重要。
- 今後の活動についての市長のコメント
1. JCspd JJRRVが今後自分たちで活動を継続できるよう、活動の文書化が必要。すべての活動は(プロジェクトが独自に行うのではなく)JCspd JJRRVを通じて行うべきである。
 2. 住民がより廃棄物管理に関与すべきである。
 3. 本プロジェクトがJJRRV全体のプログラムのひとつであるということは認識している。

訪問先： JICA 事務所 (ジェリコ)

日時： 6月13日(水) 8:30~

面談者：Mr. Abdul Nasser Makky (本来は地方自治庁DJCspd局勤務)

調査団： 吉田、田村、大石

面談内容：

以下の事項を聴取した。

■ 同氏のプロジェクトへの関与。

1. 本プロジェクトには立ち上げ時より関与しており、モニタリング、日本側とパレスチナ側との仲介といった業務を行っている。

■ 本プロジェクトの課題、提言。

1. 技術的なCDについては、無償機材等によって目に見える変化がなければ、関係者、住民の理解を得るのは難しいと思う。それでも、本プロジェクトの実施によって、廃棄物事業に対して人々の意識の変化が見受けられると評価している。
2. ジェリコ市長がJCspd JJRRVの中で最重要人物であり、十分な巻き込みを図るべき。徐々に無償と技術協力の違いやプロジェクトに対する理解を深めてもらうしかない。また、ジェリコ県の知事には以前はよく関係者が訪問していたが、最近では情報伝達が不足気

味であるように感じる。また、もう少し政策決定者レベルでの関係者の巻き込みも強化したほうがよいと思う。

3. DJCspd の Kame1 局長が現場に来る機会が少ない点が問題。市長との間でももっとコミュニケーションをもつべきである。地方自治庁のジェリコ支所（地方自治庁は 14 カ所の支所をもっている）も同様であり、現場で何が起きているかについての理解が不十分だと思われる。
4. JCspd JJRRV の職員の大半が出向であるので、将来的には独立して人員が確保できるようになることが望ましい。財務面でも、サービス料金の収集やその他収入源の確保により、独立性が確保できれば望ましい。持続性の確保のためには、この 2 点の強化が必要。
5. JICA プロジェクトに関し、各プロジェクトのチーフアドバイザーが定期的に会合を行い、情報交換すると有益であると思われる。

訪問先： JCspd JJRRV

日時： 6月13日（水） 10:30～

面談者：阿部浩チーフアドバイザー

調査団：吉田、田村、大石

面談内容：

以下の事項を聴取した。

■ プロジェクトの実績、課題

1. プロジェクト開始以降の最大の成果としては、廃棄物収集事業が開始されたことと、処分場の改善事業が行われたこと。
2. 県知事には何度か会ったが、手足となって動く人物がおらず、実際的に関与してもらうのは困難との印象をもっている。JCC には何度か呼んでいる。地方自治庁のジェリコ支所の関与については、上から見た立場に立って命令する傾向がある等難しい面があり、現在はバイパスされており疎外感を感じているかもしれない。（→調査団から、もう少し既存の組織に配慮するよう依頼）
3. 移動の制限がプロジェクト運営上の支障になっており、Kame1 局長がジェリコにこれなかったり、C/P がラマラにいけないことがあった。
4. ジェリコ市には橋の通行料等の収入源があり、職員には給与は支払われている。ベツレヘム等他の都市では時々支払われていない。今後農業廃棄物を集めて販売してみようと考えており、少しでも JCspd JJRRV の収入増につながればと考えている。

訪問先： JCspd JJRRV

日時： 6月13日（水） 11:30～

面談者：石井明男専門家（組織整備・行政担当）

調査団：吉田、田村、大石

面談内容：

以下の事項を聴取した。

■ グッドプラクティス

1. Basic Plan の作成により、日本人専門家の能力をパレスチナ側に示すことができ、信頼関係の構築にも役立った。Basic Plan は参加型で現地で議論をして一から作り上げるのではなく、日本で素案をつくって行って、これを丁寧に説明した。微妙な話はあとで、現地で C/P と決めるようにした。Basic Plan は、現在では当初の 1,000 部に加え、追加でもう 1,000 部印刷したが、ほとんど在庫がきれており、C/P が説明に活用している状況がうかがえる。なお、Basic Plan は骨格の部分のみ記載しており、修正の必要がない。具体的な部分は年間計画策定の際に反映するようにしている。
2. 清掃労働者や運転手の会合に市長を招待するなどして、ワーカーレベルのモチベーショ

ンの向上に配慮した。

3. CD 支援の過程を通じて清掃事業の基本姿勢（ゴミ量に負けない。住民からの疑問や反対に正面から向き合い、きちっと対応する）を伝授した。現在、分担金、収集サービス料金の未払いが問題となっているが、安易にやめてはいけなと話している。
4. これまではC/Pには技術者の配置がなかったが、処分場改善のパイロット・プロジェクトを通じ、C/Pは初めて埋立地の設計についての必要性を理解した。現在では技術者の配置がなされ、C/P全体としてのレベルが向上した。
5. 対象住民が5万人と小規模であったため、しらみつぶしに住民向けの広報を行い環境への理解を深めた。テーマは、ゴミ事業の話、収集料金がどのように使われているか等、テーマをかえるようにしている。

訪問先： UNDP

日時： 6月13日（水） 19:00～

面談者：Ms. Rima Abu Middain

調査団： 吉田、田村、大石、（専門家チーム）阿部

面談内容：

以下の事項を聴取した。

■ UNDP 経由無償資金協力供与機材の調達についての現状

1. これまでDJCspdと順調に準備を行ってきた。エンドユーザーとしてJCspd JJRRVとも意見交換を行ってきた。昨年10月に仕様書ができ、1月に国際入札を3つのロット（①コンテナ、②重機、③バックホローダー等）に分けて実施。重機のロットは450万\$の予算額であり、これまでUNDPが実施した入札規模のなかで最大規模。業者による競争も激しく、8社からの応札が会った。なお、100万\$以上の機材についてはNY本部の承認が必要となり、10日～1ヵ月程度かかる。②重機のロットに関し、入札の結果業者（ルノー代理店）が決定したが予算超過のため機材の台数を見直したことで、ブランドが気に入らないといった理由のほか、よくわからないが、大臣がUNDPとの間の文書に署名を行わないため、調達手続きがとまっている。
2. 来週早々大臣と面談予定（翌日の情報で、大臣が大使館、UNDPに会うことをrefuseしキャンセルになっていることが判明した）。なお、本件に関し、現在の大臣は4人目の大臣である。大臣が変わるたび、説明を行う必要があり、時間を要した。
3. 3つのロットのうち、①コンテナのロットは現地で製造するため8月に到着するものと思われる、②重機は署名後納入まで11ヵ月かかり（他の業者は18、19ヵ月とっており、今回応札した業者が最速であった）、署名がなされ機材が到着するのは早くても来年の6月。③バックホローダーは7月に署名できれば12月の納入（③については事実再確認要）。

■ UNDPによる医療廃棄物支援

1. ラマラ県立病院で同病院及びラマラ市を対象にパイロットプロジェクトを実施中。廃棄物管理方法、処理方法、体制の構築、マニュアル策定等がその内容である。これは世界銀行のM/Pによるもの。NGOとともにイスラエルの病院も訪問予定。
2. 処理にあたっては、焼却炉は採用せずクリーンテクノロジーであるオートクレーブを使用する予定。収集車両、コンテナも調達予定。
3. ラマラ県立病院もストライキを行い、緊急時しか出勤しない時期があった。病院長も3回交替している。

訪問先： GTZ

日時： 6月14日（木） 10:30～

面談者：Mr. Markus Luecke, Ms. Uraib Jaber

調査団： 吉田、田村、大石、(事務所) 酒本、水谷、(専門家チーム) 阿部

面談内容：

以下の事項を聴取した。

■ GTZ による廃棄物管理プログラムの概要

廃棄物管理のプログラムについては 1994 年より支援を実施。National component、Regional component、Local component の 3 つの部分からなる。National component については政策策定支援、GTZ の職業訓練プログラムとも関連づけた研修、Local component については、ガザ、ラマラ、Al Bireh 等で SWM の技術支援や処分場の整備等の活動を行っている。

■ ラマラでの支援

1. ラマラにおける処分場の整備に関し、80 年代後半から準備を進めたものの A、B、C 地域の問題でなかなか場所が確定しなかったが、最終的に C 地域で確保できることとなった。
2. ラマラでの JSC は今年の 5 月 30 日に正式に立ち上がったばかり。スタッフはまだいない。業務分掌、スタッフのリクルート、処分場整備のための F/S に対する財政支援を実施する。なお、JSC か JCspd については混乱しており、GTZ では Solid Waste Management Council という言葉を使っている。

■ Regional component での支援

子ども向けの廃棄物管理の教材を 2 万部作成し、学校に配布した。

■ National component 部分の支援計画

1. 今後国家廃棄物計画の策定支援を実施予定。背景としては、廃棄物セクターが十分確立されていないこと、GTZ はパレスチナでの支援経験を多く積み重ねており、国家廃棄物政策に反映されるべきと考えていること、各ドナーがそれぞれのアプローチで支援を行っており、National concept の確立の必要性を感じたためである。これまで、政策を作成しても、環境局 (EQA) の戸棚に置かれたままになっていた。この度の支援にあたり、各方面の関係者とワークショップを実施したが、今後も national concept を策定するための、ワークショップや研修を実施していく予定。
2. National Committee への支援については 2 週間前に検討を開始したところであるが、以前から形はあっても活動がされていない状況であった。すべての Joint Council やステークホルダーに声をかけ、ひとつの national concept をつくりあげたいと考えている。中心となる C/P は、地方との関係の観点から地方自治庁 (JCspd の kamel 局長)、環境局 (EQA) が中心であり、そのほかに計画庁、Land Authority 等 [担当者不在のため、National Committee メンバーのリスト (アラビア語) は入手できなかった]。現在は研修のみ WG ができあがっているが (本プロジェクトの C/P である Abdel-Jabbar も参加)、これからも処分場整備、意識啓発等の分野で WG を設置していきたいと考えている。扱う分野は廃棄物と下水である。
3. GTZ は助言、研修、ロジの支援を行うのみ。財政支援も行わず、パレスチナ側による in kind の支出を期待。

訪問先： JCspd

日時： 6 月 16 日 (土) 10:00～

面談者：Mr. Abdel-Jabbar Al-Halawa, Executive Director, Joint Services Council For Solid Waste Management in Jericho and Jordan River Rift Valley

調査団： 吉田、田村、大石

面談内容：

以下の事項を聴取した。

■ プロジェクトの状況

1. 政治的、経済的に非常に困難な状況にありながらも、本プロジェクトは非常に多くの成果を出しており、JCspd 職員のパフォーマンスも高く、70%程度の成功をおさめていると思っている。
2. 問題はサービス料金の徴収と協力しない自治体があることの2点である。自治体はスタッフが少なく、サービス料金を徴収する能力が不十分である。また特に地方では、廃棄物は重点課題ではなく、保健、農業等他の課題を重要視している。農民が多い地域であるがインティファダ以降農産物の販路の開拓が困難になっており、収入が少ないのも問題。
3. Al-Jiftlik と Froosh Beit Dajan の2自治体は、収集サービスは不要とっており、サービス料金を支払う意思はない。Bardalah については、自治体内の主要2グループのうち、一方が反対している。Al-Jiftlik は面積が広いことや、農民が耕作期にのみ在住しており農閑期には別の自治体の自宅に戻ってしまうといったことも影響している。
4. このようなわけで、対象の17自治体のうち、14自治体よりサービス料金を徴収している。非常に困難だとは思いますが、コミュニティ・ミーティング等の実施により説得を続けたい。

■ 今後について

1. 住民のサービス料金に関する支払い意思の向上、処分場の拡張、パトロール車の確保が必要と考えている。
2. 処分場改善のパイロットプロジェクト実施により、ハエが減少した。ジェリコ処分場については少なくとも2、3年分の拡張を提案したい。イスラエルと用地の確保について交渉しているが新規施設のための用地の確保は当面困難。
3. 収集サービスの改善に関し、現時点ではサービス提供者がジェリコ市から JCspd に変わっただけで、変化が住民にとって分かりにくいかもしれないが、処分場は目に見える改善である。UNDP 経由の機材が来年早々に導入されサービスの変化を住民が理解してくれることを期待する（これに対し、調査団より機材供与は更に遅れることを説明）。
4. JCspd には車がなく、サービス対象地域の実態把握が困難である。また、廃棄物からの金属の収集、販売により収入の向上を図ることもできると思うので、収入向上の方策についての調査も必要であると考えている。

■ プロジェクト目標2

1. ワークショップを複数回実施することにより貢献している。昨年12月に実施したワークショップにはベツレヘム、サルフィート、トルカレム、ナブルス JCspd からの参加があった。
2. また本邦研修に当 JCspd より3名派遣し、経験の共有を行った。

訪問先：ジェリコワークショップ

日時： 6月16日（土） 11:00～

面談者：Mr. Mohamed Haider

調査団： 吉田、田村、（専門家チーム）阿部

面談内容：

ワークショップを視察し、供与した資機材の現状を確認した。スペアパーツはほぼ使用済みであった。供与されたメンテナンス用の資機材は適切に使用されている。日産の車両等に関する約1万NIS分が期待していたスペアパーツと異なっており使用できない（既に機材が供与されて10年近くが経過しており、スペアパーツの入手が困難であることが背景にある）。

訪問先： ジェリコ処分場

日時： 6月16日（土） 11:30～

調査団： 吉田、田村、（専門家チーム）阿部

内容：

パイロットプロジェクトとして昨年度改善工事が行われたジェリコ処分場（A 地域）を視察した。ちょうど UNDP のコンパクターが難民キャンプからの廃棄物を投棄していたが、ダンボール等の有価物が含まれており減量化の余地があるように思われた。併設した浸出水池にはまだ浸出水はたまっていない。

改善工事を行った処分場の横に覆土のみ行った旧処分場が隣接しており、ゴミが燃やされていた。また、覆土のみ行った処分場には、Waste Picker が 2 名ほど有価物を収集していた。医療廃棄物はおそらくこの処分場のどこか一面に廃棄されているとのこと（阿部リーダーの説明）。両処分場の中間地点でし尿が投棄されており、ワジの方向に流出していた。

訪問先： Al-Ojah LC

日時： 6月16日（土） 12:00～

面談者： Mr. Souliman Romanin, Head of Al-Ojah Council

調査団： 吉田、田村、（専門家チーム）阿部

面談内容：

本プロジェクトに関し、下記の内容を聴取した。

■ 本プロジェクトに対するコメント

1. 収集が週 2 回と定期的に行われるようになりサービスは向上したが、更なる改善が望まれる。
2. 新しい収集車両とコンテナが来ないので住民の理解や協力を得るのが難しく、サービス料金の収集に支障をきたしている（注：現在は 1998 年の無償資金協力で供与したコンテナ（約 30 台）を利用している）。
3. コミュニティ・ミーティングは住民の理解促進に貢献している。

訪問先： アルオージャ処分場

日時： 6月16日（土） 12:30～

調査団： 吉田、田村、（専門家チーム）阿部

内容：

アルオージャ処分場（A 地域）を視察した。特に改善は行われておらず、オープンダンプに月 3 回程度覆土をしている。また、ゴミの焼却（野焼き）が行われている。近くにビニールハウス、養鶏場がある。阿部リーダーによれば、土地としてはジェリコよりも好条件であり、新規処分場の候補地とみなされるが、パレスチナ側の合意は形成されていないとのこと。

訪問先： Bardalah VC

日時： 6月17日（日） 10:20～

面談者： Mr. Mahmood Sawafta, Head

Mr. Ghanem Sawafta, Member

調査団： 吉田、田村、大石、（専門家チーム）阿部

面談内容：

先方より以下の内容を聴取した。

■ 自治体の概要

1. 215 世帯。B 地域。
2. 自治体のメンバーは 6 人。Mr. Mahmood は前 Head が退任したので、選出されたとのこと（選挙は行っていない）。
3. 以前はイスラエルから供給される電気、水道に関し、自治体が料金徴収を行っていたが、2000 年以降は行っておらず、イスラエルからパレスチナに対する還付金のなかから控除されている。自治体の財務レポートは地方自治庁のトゥバス支部に毎年送付している。

■ プロジェクトの課題、問題点

1. 住民とのコミュニケーションに苦労している。廃棄物管理を導入するにあたって住民の意識啓発が課題である。コンテナがまだ到着しておらず、村落周辺への不規則な投棄も行われており、犬や猫にゴミが荒らされている。
2. 1 家族（40 世帯）（同 VC は計 215 世帯）がゴミ収集に対するサービス料金を払っておらず、支払いを行っている別の家族よりクレームがでている。同家族からは一度徴収担当者を任命したが、徴収を行っていない。払っていないのは、当自治体に対する不満によるものであり、経済的に不可能だからではない。JCspd JJRRV ではなく自治体が料金を徴収しているので当自治体が不満の対象となっている。また、この家族は、6/16 の medical day にも、JCspd JJRRV 及び JICA が協力していると理由で参加していない。この家族も収集サービスは行ってもらいたいと思っている。地方行政制度改善プロジェクトによるパイロットプロジェクトには賛成している。
3. サービス料金はある程度徴収しているが、全額ではないので手元においている。2000 年以前は払わなければ、罰金等なんらかのペナルティが課されていたが、現在は「ただのり」が可能となっている。
4. 収集サービスの中止により、またもとの不規則なゴミ投棄に戻ってしまうことを懸念。

■ プロジェクトの成果

収集が計画的に行われるようになった点は評価している。また、蚊等害虫が減少し衛生環境が向上したと思っている。収集サービス自体についても満足している。

■ プロジェクトへの要望

料金未払いの 40 世帯はコンテナが来ないことも未払いの理由にあげており、コンテナの早期設置を希望する。

訪問先 : Al Jiftlik VC

日時 : 6 月 17 日 (日) 11:30~

面談者 : Mr. Mohammad Omar Jahaleen, Head

Mr. Mahmoud Nasser Shweiki, Junior Auditor, Talal Abu-Ghazaleh & Co.

International 他同社から 1 名 (日本政府の支援により給水プロジェクトを実施)

調査団 : 吉田、田村、大石、専門家チーム) 阿部

面談内容 :

先方より以下の内容を聴取した。

■ 自治体の概要

1. 4,000~5,000 人が散在して居住 (30%がテントに住んでいる)。トゥバス等近隣地域より 6~9 月の耕作期に農民がやってくる。C 地域。建物ほかインフラの建設は禁止されている。
2. 自治体カウンスルのメンバーは 9 人 (うち 2 人が女性) であり、月 2、3 回会合を開い

ている。

■ 本プロジェクトについてのコメント。

1. そもそも電気、水道のサービスでさえも十分に受けておらず、廃棄物収集サービスは不要。何もサービスがないのに、どうして廃棄物にだけ料金を支払わなければならないのか。JCspd JJRRV の訪問が1 ヶ月前にあったが、住民は誰も反応しなかった。
2. サービス料金について支払いの意思はなく、サービスも不要である。当自治体のプライオリティは廃棄物ではなくインフラ整備である。
3. 廃棄物収集はよいプロジェクトであり、機能していると評価しているが、当自治体は他の自治体と同列に扱わず、特有の事情があることも考慮してほしい。そもそも以前より廃棄物のサービスは当自治体には存在していなかった（注：本プロジェクトの開始前より廃棄物管理を行っていた中部地域の JSC のなかには入っていたはずであるが、実際上十分機能していなかったため、この発言があったものと想定）。

訪問先：Ein Shibli VC

日時： 6月17日（日） 12:30～

面談者：Mr. Mahmoud Abuhattab Head of Ein Shibli Council (AB (Administrative Body) のメンバーでもある。ヨルダン研修参加者)

Mr. Wadee Z.M Abu Helal, Civil Engineer, Joint Council, Middle Jordan Valley
(第1回本邦研修参加者)

調査団： 吉田、田村、大石、専門家チーム) 阿部

面談内容：

先方より以下の内容を聴取した。

■ 自治体の概要

35 世帯。水・電気代は 2005 年までは徴収していたがそれ以降は行っていない。農業中心。B 地域。

■ プロジェクトの成果

1. プロジェクトは JJRRV (ジェリコ及びヨルダン溪谷地域) 全域に裨益するものであるが、現在の政治・経済状況を踏まえると、進捗状況はまあまあであると考えている。収集サービスは当自治体では順調に行われており、収集サービスを継続して受ける意思がある。蚊や蠅が減少し衛生状況が改善した。JICA の協力を感謝する。
2. 住民がサービス料金を払っており、収集車両を待っている光景が見られるので収集サービスについて満足していると思う。日本人がコミュニティを訪問しているのも地域社会へのインパクトとなっている。
3. 住民が払わなくても当自治体が不足分を補填して支払っている。未払いの割合は 5% くらい。経済的な問題であるが、コンテナが来れば支払うと思う。また、支払った住民に certificate を渡すというような、工夫も行っている。プロジェクトの成功のために、住民の啓発を続けなければならない。コミュニティ・ミーティングは女性の参加があったら活発になった。
4. JCspd JJRRV の成功の可否は自治体の協力が鍵。

■ プロジェクトへの要望

1. 猫や犬がゴミをあさるので、コンテナが早く来てほしい。コンテナが来たらコンテナ周辺を掃除する要員を 2、3 人配置したい。
2. 移動に制限がありもっと収集車両が必要。

■ ヨルダン研修及び本邦研修の成果

廃棄物管理についての知識が習得でき、廃棄物管理への対応方法について改善ができた。また、本邦研修の帰国研修員が SWM サービスの中心的な役割を果たしている。

■ その他（同自治体で実施中のドナープロジェクト。PNA によるものはない）

水供給（スペイン）、財政援助（UN）、職業訓練（UNESCO）、地方自行政制度改善プロジェクトによるスクールバスのパイロットプロジェクト

訪問先：Nawaji PC (Project Committee, 実態は VC Village Council と同じ)

日時： 6月17日（日） 13:30～

面談者：Mr. Ibrahim Ishhadeh, Head of Nawaji Council

Mr. Wadee Z.M Abu Helal, Civil Engineer, Joint Council, Middle Jordan Valley

（第1回本邦研修参加者）

調査団： 吉田、田村、大石、専門家チーム）阿部

面談内容：

先方より以下の内容を聴取した。

■ 自治体の概要

14 世帯。B 地域。

■ プロジェクトの成果

1. 収集サービスは成功していると評価。住民も収集サービスに満足しており、本プロジェクトの趣旨に賛同していると思う。以前は不法投棄の問題があったが、JCspd による収集サービスの結果改善がみられた。これまでは定期的にゴミを出す習慣がなかったところ、住民が朝ゴミを出している光景がみられて満足している。虫が減って環境が改善した。
2. コミュニティ・ミーティングにより問題を議論し解決するようにしている。

■ プロジェクトの課題、問題点

収集サービス料金の未払いの原因は、経済的な問題であると思う。給与も遅配している。

■ プロジェクトへの要望

1. できれば週、2回か3回に収集回数を増加してほしい。
2. JCspd JJRRV による廃棄物管理の経験が持続することを期待。JCspd JJRRV にとってよい成功経験になるだろう。

訪問先：Zbidat VC

日時： 6月17日（日） 14:20～

面談者：Mr. Hasan A H Jirmi, Head of Zbedat Council/ Chairman of JSC for Middle JRRV/

Vice chairman of JCspd（ヨルダン研修参加者）

調査団： 吉田、田村、大石、専門家チーム）阿部

面談内容：

先方より以下の内容を聴取した。

■ 自治体の概要

B 地域。イスラエルから供給される電気、水道については料金を払っておらず、イスラエルからの還付金より控除されている。

■ プロジェクトの成果

1. 以前も収集サービスを実施していた(1999年より中部地区のJSCを立ち上げていた)が、中断していた。JCspd JJRRVの設立に感謝しており、協力を続けたい。JCspd JJRRVのサービスにも満足している。
2. プロジェクト開始時は住民にプロジェクトの考えを理解させるのが困難であったが、自治体がプロジェクトを理解し、住民に説明にできるようになった。コミュニティ・ミーティングが理解の促進に有効であった。住民も協力的であり、満足していると思っ
3. サービス料金収集担当者を任命している。現在徴収率は15%だが、早期に85%にした

■ プロジェクトの課題、問題点

1. 自治体としてサービス料金を支払うことに異存はないが、経済状況が問題である。
2. 収集サービスが中断しないか心配である。

■ プロジェクトへの要望

1. 収集回数を増やしてほしい。
2. 収集サービス料金をもっと徴収する必要がある。
3. 小規模な処分場があると、収集車両のアクセスも容易になると思われる。

■ ヨルダン研修の成果

ヨルダンの経験を学ぶことができた。研修員のなかに本邦研修の参加者もいたので、両国を比較して学習できた。実務のほか、財政面、管理面の観点からも学ぶことができた。ヨルダンには地方での廃棄物管理に対し中央政府からの支援(60%程度の補助金支給)がある点が、全く補助のないパレスチナと対照的であり、印象的であった。

訪問先：AB (Administrative Body Meeting、理事会)視察

日時： 6月18日(月) 12:00～

参加者：Mr. Hasan Saleh, Mayor of Jericho

Mr. Abdel-Jabbar Al-Halawa, Executive Director, Joint Services Council For Solid Waste Management in Jericho and Jordan River Rift Valley

Mr. Mahmoud Abuhattab Head of Ein Shibli Council ほか2名

調査団： 田村、大石(専門家チーム)阿部

内容：

サービス料金の徴収、GB (General Body) Meetingの開催、中間評価調査団の結論・提言部分の確認をテーマに、活発に議論が行われていた。サービス料金の徴収については、今後すべての自治体を訪問し説得を行い、支払わなかったら、サービスを停止することも将来的には検討するという話も話し合われた。

訪問先： Department of Geography, Faculty of Social Sciences, The Hebrew University of Jerusalem, Mount Scopus, Jerusalem (ヘブライ大学社会科学部地理学教室イターイ・フィッシュェンドラー研究室)

日時： 2007年6月18日 14:15-15:15

面談者： Dr. Itay Fischhendler (イターイ・フィッシュェンドラー助教授)

訪問者： 吉田充夫

内容：

- Dr. Itay Fischhendler との関係は、本年5月にアムステルダムにおいて開催された「地球システムガバナンスに関する国際会議」にて知り合ったものである。

- 同氏はイスラエル周辺の国境にまたがる水資源の管理政策（Trans-boundary Water Resource Management Policy）に関する研究を行っており、国際誌に活発に論文を発表している若手研究者である。イスラエル国内でも Trans-boundary natural resources に関するオピニオン・リーダーの 1 人と目されている。
- パレスチナとの国際河川の水質管理を unilateral environmentalism と名づけ、イスラエルの側からの一方的な水質管理（あるいは水質保全）の問題点（高コスト、不安定、ハイリスク）を指摘し、ステークホルダーによる総合的な河川水資源管理（流域管理）の必要性を提唱している。また、ヨルダンとの関係については、河川水資源管理に係る両国間の合意事項が実は曖昧な（どちらとも解釈できる玉虫色の）内容を含んでおり、結果として、両国における恣意的な解釈を生み、効果的な河川水資源管理を構築し得ないでいる状況、またひとたび政治的外交的な関係が悪化すれば、この「曖昧」さが、破壊的に作用し、否定的な影響を与えるであろうと指摘している。
- 周知のように、ジェリコ・ヨルダン渓谷ではヨルダン川と伏在する地下水資源がいわば Trans-boundary Water Resource として存在しており、同氏は、この問題についても強い興味を、もっている。現状ではパレスチナ側との何らかの共同研究を行うことは困難ではあるが、同氏から今後とも Trans-boundary natural resources に関しては非常に関心があり、何らかの協力機会があれば、協力したいとのことであった。
- 今後、継続的に情報交換していくことを約束した。また、地下水分やの研究者に関する情報を得た。なお、本年 11 月に死海で開催される Trans-boundary Natural Resources の国際会議の招待を受けた。
- 同氏は国際 NGO との連絡を持っており、ベツレヘムをベースとする Friend of Earth（これは本プロジェクトの再委託先の WED O と連携する NGO）から本プロジェクトの情報を得ていた。

訪問先：第 6 回 JCC

日時： 6 月 19 日（火） 10:00～

参加者：Mr. Kamel Hemaid, General Director of DJCspd, Ministry of Local Government
 Mr. Hasan Saleh, Mayor of Jericho
 Mr. Abdel-Jabbar Al-Halawa, Executive Director, Joint Services Council For Solid Waste Management in Jericho and Jordan River Rift Valley

調査団：吉田、田村、大石、（事務所）酒本、水谷、（専門家チーム）阿部、石井（合計 26 名）

内容：

- JCspd JJRRV 理事長による挨拶ののち、吉田中間評価団長より中間評価の目的、本日の会議の段取りを説明した。
- DJspd の Kamel 局長より以下のコメントがあった。
 1. 本プロジェクトは JJRRV のみならず他地域、他 JCspd の協力にも裨益するものと評価している。
 2. 中央政府が地方の現状について把握できるよう、地方自治庁ともより緊密な関係をもってほしい。
 3. サステナビリティの観点から、JCspd の職員は将来的には市から独立し、給与も別途支払われるべきである。
 4. JCspd を支援できるように、ローカル・エキスパートが必要である。
 5. 処分場がジェリコだけではなく他の自治体にも裨益するようにしてほしい。
 6. 新たな大臣が着任したため、（署名が行われ）早く機材が来ることを期待している。
 7. 質問表の回答、分析結果が知りたいので共有させてほしい。

■ Fawas 広報情報局長（地方自治庁）より以下のコメントがあった。
何もないところから開始し、組織の立ち上げ等で進捗があった。しかしサステナビリティが課題であり、現状を考えると、特に財政面での強化がまだ不十分。

■ Jabbar 事務局長

1. 提言を追加したい（あとで打ち合わせを実施し、プロジェクト間の調整の必要性、参加自治体の積極参加推進についての提言を追加した）。
2. 現在、日本大使館による協力も含め多くの協力が実施されている。他のプロジェクトによる本プロジェクトに対する負のインパクトを回避するために調整が必要である。例えば、現在、地方行政制度改善プロジェクトに提出したパイロット・プロジェクトのプロポーザルを却下されたことを理由に、Al-Aqrabanyya VC が支払いをやめた。他のプロジェクトも JCspd JJRRV に協調してほしいと考えている。

■ 調査団より、各成果、プロジェクト目標の評価案、結論、提言、PDM の変更案を説明。

■ JCspd JJRRV 理事長より以下のコメントがあった。

1. 新政権になったので、UNDP 経由ではなく日本から直接パレスチナに供与してはどうか。
2. 日本政府と PNA の覚書により、日本は包括的な支援を JJRRV に行うものと理解しており、他地域も機材の供与を受けることについて不満を持っている。また、母子保健等他のプロジェクトに関し、本プロジェクトに協力しない自治体にも JICA が協力しているため、本プロジェクトに協力している自治体から不満が出ている。もう少し、JCspd JJRRV 経由で調整を行ってほしい。

（これに関し、事務所から、JJRRV への協力は、パレスチナに裨益するモデルをつくるためであるとの JICA のスタンスを説明した。また、他ドナーが JJRRV での経験を参考に、他地域でも協力しつつあり、JJRRV の成果が普及されつつあることが紹介された。）

3. また、ジェリコ市長として未払い分を支払う旨表明した。

訪問先： ベツレヘム JCspd（JCC 会場でのインタビュー）

日時： 6月19日（火） 09:40～10:00

面談者： Mr. Raed Samara, Executive Director of JCspd Bethlehem

調査団： 大石

面談内容：

■ 本邦研修に関して

1. 日本では、廃棄物処理は自治体の重要な事業としてとらえられていることが分かった。また、自治体が、どのように住民や他の専門家、大学関係者、NGO 等と協働しているかが分かり非常に勉強になった。
2. また、コースの一環としてアクションプランを作成したが、その際には、自身が運営に携わる JCspd Bethlehem の運営についてのプランを作成した。準備期間に何をするか、いつサービスを開始するかといった詳細を記載したアクションプランであり、現在、実際にそのプランにそって、JCspd Bethlehem の立ち上げを行っている。
3. 現在、特に力を入れているのは、サービス開始に先駆けた住民教育である。その際に、日本で学んだように、大学関係者や地域の著名人、NGO などを招き、事業の重要性をアピールするよう努めている。

5. 質問票調査の結果要約と質問票

ANNEX5: 質問票調査の結果要約と質問票

本文 2 章の説明のとおり、中間評価調査においては、既存資料のレビュー、質問票による聞き取り調査、フォーカス・グループ・ディスカッション等の方法を用い、プロジェクトの実績を調査した。質問票調査においては、まず、質問票を 2 種 (*Questionnaire A* と *Questionnaire B*)作成した後、アラビア語に翻訳し、*Questionnaire A* に関しては、JCC メンバーと JCspd JJRRV 参加 17 自治体の長に、*Questionnaire B* に関しては、JCspd JJRRV の職員に事前に送付している。回答が寄せられたものについては、回答を参照しつつ、必要に応じてインタビュー調査で内容を精査した。また、回答のなかったものに関しては、質問票と同様の内容をインタビュー調査にて質問・調査している。

添付資料 5 として、以下を添付する。

添付資料 5A: 質問票調査の結果要約 (*Questionnaire B*: 回答数 12)

添付資料 5B: 質問票 (*Questionnaire A*)

添付資料 5C: 質問票 (*Questionnaire B*)

添付資料 5A: 質問票調査の結果要約 (*Questionnaire B*: 回答数 12)

Respondent Number	Name	Organization and Designation
Res/No.01	Abdel Jabbar Abu Halawa	Executive Director, JCspd JJRRV
Res/No.02	Manal Romanin	Admin & financial section, JCspd JJRRV
Res/No.03	Sultan Roma	Technical operation head, JCspd JJRRV
Res/No.04	Wadee Zoher Mohammad Abu Hilal	Technical operation staff, JCspd JJRRV
Res/No.05	Waleed Moghraby	Supervisor JCspd JJRRV
Res/No.06	Ibrahim Judeh Khalil	Driver JCspd JJRRV
Res/No.07	Mohammad Ali Barahma	Driver JCspd JJRRV
Res/No.08	Ahmad Duhayni	Driver JCspd JJRRV
Res/No.09	Ja'far Irmelieh	Worker JCspd JJRRV
Res/No.10	Khaled Balo	Worker JCspd JJRRV
Res/No.11	Nasser Rojob	Driver JCspd JJRRV
Res/No.12	Nasser Irmelieh	Driver JCspd JJRRV

1. Your duties regarding SWM

1.1 Could you kindly describe your duties regarding SWM?

Res/No.01: Planning for SWM in the LAs areas Members of JCspd; Complete Supervision on SWM process and final dumping, in addition to monitoring and follow up; Preparing SWM development plans in order to reach for an integrated SWM system.

Res/No.02: Organizing, updating & follow up employees' records; Follow up personnel procedures: Working hours, leaves, vacations and salaries; Evaluation of employees and participating in new assignments; follow up the financial procedures such as: expenses, auditing, and participating in budget preparing.

Res/No.03: Preparing plans and budgets; Follow up of vehicles and equipments maintenance; Supervising & monitoring different sections in the department; Developing the work in the department.

Res/No.04: Monitoring and managing waste vehicles in JJRRV; Follow up Maintenance of vehicles with the coordination with JCspd technical Department.

Res/No.05: Preparing Vehicles Programs; Follow up the maintenance of vehicles and containers in the workshop; Monitoring the daily procedures through site visits; Monitoring the containers according to the daily program; Receiving daily reports from the drivers; Follow up Landfill site operations.

Res/No.06: Transferring big waste containers with a capacity of 12-8-4m³ and discharge it in the landfill site then returning it back to its location. This is done according to a daily program.

Res/No.07: To work honestly and obey the supervisors instructions, in addition to keep the vehicle which is under my responsibility.

Res/No.08: Transferring the containers to the landfill site and discharging it there.

Res/No.09: Worker, working with effort

Res/No.10: Worker, working with effort

Res/No.11: Driver

Res/No.12: Waste Vehicle driver, transferring waste containers to the landfill

2. About the Project

2.1 After the Project started, an important organization, JCspd, was formed to play

a practical role in SWM. How have your duties and responsibilities changed before and after the start-up of JCspd?

- Res/No.01: Since the year 2000 I worked in Jericho municipality as the manager of health and environment Department where SWM was one of its sections, the work was limited only to Jericho city (45Km²), but after JCspd establishment I became the Executive Director of the council where it covers 17 local authorities with a total distance of (700km²)
- Res/No.02: I have received new responsibilities after JCspd start, where I became the responsible of the financial affairs of JCspd with its diverse operations. Before JCspd I was just the head of solid waste collection section in the municipality.
- Res/No.03: Since 1/1/2007 all the programs of JCspd were implemented. The service includes collecting and transporting waste from Jericho and 16 LAs to landfill sites.
- Res/No.04: I work for JCspd in Middle JJRRV as a project engineer for the implemented projects in the area. Also I work as a supervisor to waste collection process in middle and northern JJRRV.
- Res/No.05: After the project start my daily works have changed, and I have been assigned to new tasks, in addition to the work pressure.
- Res/No.06: We are currently working on five programs for the vehicle where this system does not exist before.
- Res/No.07: Before JCspd no organization in work, but after JCspd it is organized and intensive programs.
- Res/No.08: Before JCspd some organization in work, but after JCspd it is organized and we are working according to the assigned programs.
- Res/No.09: Working according to specific programs
- Res/No.10: Before JCspd there were no discipline, but after JCspd there is organization, discipline and programs preparation.
- Res/No.11: Not a lot of changes have been occurred, but more follow up from our supervisors regarding the work mechanism.

2.2 Do you think this JCspd mechanism function adequately to improve SWM services? If adequate, please describe why you consider it is adequate. If inadequate, how do you think it could be improved?

- Adequate Not adequate No opinion

- Res/No.01: Not adequate: Currently JCspd provides SWM service according to the available vehicles and equipments through agreements between JCspd and Jericho Municipality. But the administrative weakness of AB and GB members affects directly the mechanism function of JCspd. We can improve this mechanism through raising awareness and training of LAs, in addition to the development of equipments, vehicles and final dumping sites.
- Res/No.02: Not adequate: For enhancing it, the following is necessary; Enhancing the performance of the employees through workshops and training courses according to specialties; Periodical meetings with the employees to know their opinions and problems.
- Res/No.03: Not adequate: Training courses for the drivers and workers in order to increase their experiences; To provide a car in order to follow up the daily work procedures; To find a communication way between the workers, technicians and administration.
- Res/No.04: Not adequate: Because one waste vehicle is not sufficient for serving 13 villages. Also some villages have wide areas of land, so we need another vehicle and staff as well. In addition to that we need to activate the secondary landfill site in Beit Hassan.
- Res/No.05: Not adequate: The followings are necessary; (i) to provide new vehicles and equipments, (ii) training courses for the drivers and workers in order to increase their experiences, and (iii) to provide a car in order to follow up the daily work procedures
- Res/No.06: Adequate.
- Res/No.07: Not adequate: No spare drivers and spare workers, also no spare parts. We ask for better programs, also we ask for increase in salaries.
- Res/No.08: Adequate, Yes, they do a daily study to the programs of work and these programs are changeable according to the work circumstances.
- Res/No.09: Not adequate, Hope to expand this mechanism
- Res/No.10: Not adequate, No spare workers also no awareness for the staff.
- Res/No.11: No opinion
- Res/No.12: Not adequate, No spare parts available, also no containers in Edyuk & New'ameh. Damaged containers in Ojah.

2.3 Have you had opportunities to communicate with Japanese experts? If so,

whatdid you talk with them?

Often Sometimes Rarely

- Res/No.01: Often: As an executive manager of JCspd I am on a direct communication with them, we discuss action plans, execution mechanism and alternatives, how to reach to an integrated sustainable SWM service in JJRRV. in addition to the preparation of reports and many issues.
- Res/No.02: Often: Most of my communication was with Mr. Osakabe regarding the financial issues, and I have benefit from his wide experience in accounting because I haven't had that experience in accounting before.
- Res/No.03: Often: the talk was about the ways of updating the collection and transportation process, in addition to improving the performance of the workers.
- Res/No.04: Often: We often talked about the problems that we face in the implementation and development of the project trying to find solutions. Also, trying to adduct the opinions between the local authorities and JICA expert team.
- Res/No.05: Sometimes: They talked to me about my work and performance and how to give success to the work.
- Res/No.06: Sometimes. we asked to assign a worker for each vehicle in order to clean the waste around the containers because many people send their children to throw the waste in the container but because the boys too short to reach the container they put the waste beside it.
- Res/No.07: Rarely
- Res/No.08: Sometimes, They follow up the work procedures, asking about containers places and numbers, also about working hours.
- Res/No.09: Rarely
- Res/No.10: Rarely
- Res/No.11: Rarely
- Res/No.12: Sometimes, I talked with them about the vehicle and its maintenance, also asked from them containers for Ojah & Eduyk & New'ameh.

2.4 Does the Project adequately meet your needs? In other words, do you recognize any improvement in your daily work? If yes, please give us some examples. If no, what do you want to request for the Project?

Yes No

- Res/No.01: Yes: Examples are correct planning for SWM; methodology of organized work and working through a team; Monitoring, Following up and evaluation.
- Res/No.02: Yes: There is a big difference between my current and previous work. My current job qualifies me to be more precise and concentrated because I am responsible about any wrong information.
- Res/No.03: Yes: It was shown by the commitment of the drivers to the prepared programs, and the results was saving time and efforts
- Res/No.04: Yes: Such as making community meeting with LA Heads and citizens, in order to raise awareness in SWM, reduction of waste amount and how to deal with it.
- Res/No.05: Yes: Making programs for the drivers and vehicles; to provide rules and regulations; to decrease the overexertion and time.
- Res/No.06: Yes: to work through an integrated program; No bad smells in the landfill site; environmental cleanness in the landfill especially from smoke.
- Res/No.07: No: No spare drivers, or spare workers and no spare parts. We ask for better programs, also we ask for increase in salaries.
- Res/No.08: No, Nothing changed in my work. I suffer from many problems from the car, the windows do not close and a lot of dust enters to the driver cabinet which affects my health.
- Res/No.09: Yes, There is an improvement through organization and commitment to the rules.
- Res/No.10: Yes, There is an improvement in the work.
- Res/No.11: It is difficult to answer this question in this short duration, we need more time. The project is beneficial for all.
- Res/No.12: Yes, Asking for uniform, spare parts and vehicle maintenance.

2.5 The Project adopts the comprehensive approach that consists of (i) the technical studies on the present SWM system and SWM situation in JJRRV, (ii) institutional strengthening of JCspd (iii) implementation of action plan, and (iv) dissemination of JCspd's experiences to other local authorities. Is the Project's approach appropriate? If appropriate, please describe why you consider it is appropriate. If inappropriate, how do you think it could be improved?

Note: The action plan includes public awareness raising, improvement of collection and

transportation system, improvement of disposal sites, improvement of maintenance and establishment of account system

Appropriate **Not appropriate** **No opinion**

Res/No.01: Appropriate. This approach is appropriate. I'd like to add that we have to raise the awareness of the LAs not only the citizens. To train the local authorities heads that suffering from administrative weakness which leads to financial weakness. Also, improving landfill sites in order to be used for a long time and not improving it as a pilot project.

Res/No.02: Appropriate: A computerized accounting system is going to be established in July 2007 where the work will be more precise, faster and with fewer errors.

Res/No.03: Appropriate.

Res/No.04: Appropriate

Res/No.05: Appropriate

Res/No.06: Appropriate

Res/No.07: No opinion

Res/No.08: Appropriate: to raise the community awareness regarding putting the waste in the container rather than burning it.

Res/No.09: Appropriate.

Res/No.10: Appropriate

Res/No.11: Appropriate

Res/No.12: Appropriate

2.6 Are technical suggestions and technologies used in the Project useful? Please describe your opinion.

Not useful

Most of them are not useful

Some of them are useful

Most of them are useful

Res/No.01: Most of them are useful: SWM Project took into consideration the important technologies in order to reach the outputs after the finish of the project. Those technologies are evaluated, revised and modified if possible through the communication with the community and the counter parts.

Res/No.02: Most of them are not useful:

- Res/No.03: Most of them are useful:
- Res/No.04: Most of them are useful
- Res/No.05: Most of them are useful
- Res/No.06: Most of them are useful: It preserve the environment and groundwater from pollution. In the past there were a lot of smoke and bad smell, but now it is clean.
- Res/No.07: Some of them are useful
- Res/No.08: Most of them are useful: The landfill became more sanitary, so no waste burning, no smoke, and no bad smells.
- Res/No.09: Not useful
- Res/No.10: Most of them are useful
- Res/No.11: Some of them are useful
- Res/No.12: Most of them are useful

2.7 Did you learn something new and useful from technical suggestions from Japanese experts? If so provide some examples.

- Res/No.01: Yes, For sure we have learnt a lot, as an example, sanitary landfill sites, ways of design, establishment and management, correct planning for SWM with low cost, and evaluating the proposed alternatives for SWM and taking the suitable decision.
- Res/No.02: Yes, as an example the Microsoft Excel Data Sheet that we are currently dealing with which is a transition system as an introduction to the computerized accounting system
- Res/No.03: Yes. An example: dealing with landfill sites in scientific way.
- Res/No.04: Yes, I have learnt about new and advanced technologies and techniques regarding SWM from the training course that was held in Japan under the name of "SWM Course"
- Res/No.05: Yes. How to deal with the work issues in a scientific and modern way; new knowledge about the modern
- Res/No.07: The work is the same but there is some discipline.
- Res/No.08: No, Did not learn anything new.
- Res/No.09: Yes, How to be disciplined; Environment improvement; New programming mechanism
- Res/No.10: Yes, How to be disciplined; Improvement of collection system; Landfill
- Res/No.11: Yes. Knowing about how to protect the environment, in addition to the

modern techniques for wastes disposal.

Res/No.12: Yes, I have learnt organization, discipline, arranging my time.

2.8 Look at the following table.

Table: List of outputs and major sub-activities

	Outputs	Major sub-activities
a	System for SWM in JJRRV is established.	<ul style="list-style-type: none"> • Formation of Basic Plan of SWM service • Preparation of start-up SWM services by JCspd • Organizational strengthening of JCspd, eg. introduction of financing and accounting system, repairs and maintenance of collection vehicles
b	Present situation of SWM in JJRRV is grasped.	<ul style="list-style-type: none"> • Implementation of several baseline surveys such as volume and composition of waste, condition of waste collections, condition of final disposal site and so on.
c	Action plan for improvement of SWM in JJRRV is formulated.	<ul style="list-style-type: none"> • Formation on action plan for SWM improvement • Public hearings on those action plans
d	The action plan is put into practice and the improvement is made.	<ul style="list-style-type: none"> • Implementations of project listed in the action plan, such as public awareness raising, improvement of collection and transportation system, and improvement of disposal sites.

Please explain your involvement in the above mentioned outputs or sub-activities, if any.

Res/No.01: As an Executive Director of the project, I participated in all these outputs from planning, follow up and evaluation.

Res/No.04: I have been widely involved in planning and implementing these activities through my work in JCspd and as a counterpart as well.

Res/No.06: Most of the vehicles need maintenance where its work capacity reaches to 60%. we need new vehicles for a better work and performance.

2.9 Have activities been sufficient to improve the SWM situation in JJRRV? Any additional activities that you would like to request for the rest of the project period?

Res/No.01: Mostly the activities were sufficient. I'd like to concentrate on the point of expanding Jericho landfill where part of it was improved as a pilot project,

but we need to expand this site that guarantees healthy dumping of wastes which is one of JCspd and project aims and principles.

- Res/No.02: Partially sufficient but we have to raise citizens awareness through the coordinators, also we have to activate and motivate the role of collectors. We have to think on putting discount upon paying.
- Res/No.03: Yes, what is requested is: to activate the role of executive authorities in order to apply penalty system on the violators and uncooperative persons.
- Res/No.04: Yes the activities are sufficient.
- Res/No.05: Yes, to activate the fine system so that the citizen will commit to the cleanness of the environment, and for more cooperation.
- Res/No.08: Training for drivers on all types of vehicles so that he can drive any type of vehicles.
- Res/No.09: Training courses and raising community awareness
- Res/No.10: Not sufficient we need training and to raise the awareness of the community
- Res/No.11: We need more community awareness taking into consideration that the development takes time to fulfill the aims.
- Res/No.12: Training for the drivers and community meetings.

2.10 Has provision of equipment such as repair parts of compactor collection vehicle, computers and printers been adequate in terms of variety, quantity and timing? If adequate, please describe why you consider it was adequate. If inadequate, how do you think it could be improved?

Adequate Not adequate No opinion

- Res/No.01: Adequate: The project has provided all the needs according to a list provided from the Maintenance workshop. So the workshop was improved and spare parts were provided on time.
- Res/No.02: Not adequate: Because not all the employees have computers, also spare parts are not sufficient, so we need more equipments and vehicles.
- Res/No.03: Not adequate: Because the vehicles are too old and it has many failures where this hinders the freedom of work.
- Res/No.04: Not adequate: There is a complete marginalization to JCspd JJRRV North Branch Office at Beit Hassan, where they brought the computer just a week ago, knowing that the service started since 6 month and not all the equipment provided

- Res/No.05: Not adequate: Especially equipments and vehicles, spare parts, drivers and workers
- Res/No.06: Adequate: Regarding the Volvo vehicle that I work on, it didn't has serious failure during the previous 5 months, also spare parts were available.
- Res/No.07: Not adequate: Nothing for the vehicles, only the provision was for the office equipments
- Res/No.08: Not adequate. Many failures in the car because it is old.
- Res/No.09: Not adequate. By providing spare parts, new vehicles, more workers.
- Res/No.10: Not adequate, to raise community awarness, make training, and increase vehicles number.
- Res/No.11: Adequate
- Res/No.12: Adequate, The bulldozer works in the landfill on daily basis in order to compact the wastes and covering it with soil.

2.11 (Only to those who participated in the on-site training session) Was the training session useful? Describe your opinions.

Useful Not useful No opinion

- Res/No.01: Useful
- Res/No.03: Useful: the training was in the landfill site and I have got a good experience and benefit.
- Res/No.07: No opinion: We do not know anything about training
- Res/No.08 : No opinion: We do not know anything about training

2.12 What can the Project do from now on in order to further improve SWM in JJRRV? Describe your opinions.

- Res/No.01: Increase community meetings concentrating especially on LAs Heads; To support the project of Jericho landfill site improvement for the next 3 years; To support JCspd with recycling system after making feasibility study; To provide JCspd with a car that can be used for monitoring and administrative works. Currently we benefit from JICA Expert Team Car and JICA Car.
- Res/No.02: Equipments and vehicles have to be provided for enhancing collection system; To raise employees awareness about the importance of sustainability; to raise LAS & citizens awareness regarding the necessity of the project and its benefits; We have to help LAs in collecting the fees.

- Res/No.03: The sustainability of the project by the conviction of counterparts to give each in his field.
- Res/No.04: To provide us with equipments, increasing the staff number, provide us with containers of 1m3.
- Res/No.06: To raise community awareness regarding the disposal of domestic wastes that by putting it in pockets and in the container and not throwing it beside the container.
- Res/No.08: To expand the landfill site to consume the produced wastes. Existence of new vehicles and compactors will save efforts and time and the service will be faster.
- Res/No.11: To raise the community awareness through distributing leaflets on the citizens. The project management knows the suitable ways in succeeding it.

2.13 Any other comments that you would like to add?

- Res/No.01: JICA Expert team spends big efforts to establish JCspd and still offering any possible effort in order to strengthen and success this organization. Even all the difficulties and obstacles that we faced and still facing but JICA expert team still our main support.
- Res/No.03: I hope that the support of JICA to JCspd is parallel to the effort that was done for its continuity.
- Res/No.04: Please give more attention to JJRRV area in all the sectors because it has a strategic location and roll, so it has to be supported upon all levels.
- Res/No.06: We ask for a standby driver in order to replace us when we take our vacations, we haven't taken any vacation during the previous 5 months, and we ask for an increase in our salaries, because the current salary is not sufficient, also it is low comparing to the work that we are doing
- Res/No.07: We ask for new vehicles, new containers, more drivers and workers, and finally to increase our salaries
- Res/No.08: To increase the salary of the employees; to establish a washing point in the landfill in order to wash the containers and vehicles.
- Res/No.10: To improve workers financial situation; To provide transportation mean for the workers at night.
- Res/No.11: Through cooperation and keeping the general welfare, distribution of roles, we achieve our aims.
- Res/No.12: To increase the salaries; Providing new vehicles; Secure spare workers.

添付資料 5B :Request for Answering the Questionnaire

Every JICA's project is evaluated at four stages, namely ex-ante, mid-term, terminal and ex-post. Evaluation is a tool for judging as objectively as possible the relevance and effectiveness of JICA's cooperation activities. This time, one year and seven months after the inauguration of the project called The Project for Capacity Development on Solid Waste Management (SWM) in Jericho and the Jordan River Rift Valley(JJRRV) (hereinafter referred as the Project), mid-term evaluation is conducted to evaluate whether the Project has been achieving the expected outputs and the project purpose. The mid-term evaluation is utilized to draw the conclusion on whether the Project should be revised and make recommendation for further improvement of project management, and draw lessons to be applied to other similar projects of JICA.

The Project, which aims to develop the capacity of relevant stakeholders on solid waste management, has been carried out since November 2005 for the period of three years. The followings are a brief description of the Project, and the evaluation will be carried out based on it. Your frank opinions are much appreciated, and will be utilized only for improving the Project.

Overall Goal	<ul style="list-style-type: none"> • In Palestinian National Authority (PNA), a basic policy and a concrete action plan on integrated SWM are formulated. • Effective system of SWM modeling JJRRV is diffused in PNA.
Project Purposes	<ul style="list-style-type: none"> • Sustainable and sanitary system of SWM is introduced in JJRRV. • Experiences of improvement on SWM in JJRRV are shared as a model for other areas in PNA.
Outputs	<ol style="list-style-type: none"> 1) Organization for project operation is established. 2) System for SWM in JJRRV is established. 3) Present situation of SWM in JJRRV is grasped. 4) Action plan for improvement of SWM in JJRRV is formulated. 5) The action plan is put into practice and the improvement is made. 6) Seminars/ workshops are held and project's experiences in JJRRV are diffused among Palestinian local authorities. 7) Those who are in charge of SWM in local authorities and related ministries acquire basic knowledge on integrated SWM.

For the further detailed information on the Project, please refer to the attached Project Design Matrix (PDM)

Questionnaire A:

Name: _____

Organization and designation: _____

Period of your engagement in the Project : _____ ~ _____

1. Your duties regarding SWM

1.1 Could you kindly describe your duties regarding SWM?

2. About implementation process

2.1 (This is a question for those who are members of JCC). The Joint Coordinating Committee (JCC), whose members are representatives of department of Ministry of Local Government, Ministry of Health, Environmental Quality Authority and so on, was formed at the inauguration of the Project. According to the Record of Discussion, the functions of JCC are defined as follows;

- To formulate and review annual plan of operation of the Project within the framework of the Project Plan
- To review the overall progress and achievement of the Project
- To review and exchange opinions on major issues that arise during the implementation of the Project
- To modify project activities, if necessary

Do this Joint Coordinating Committee and its biannual meetings function adequately to support the Project? If adequate, please describe why you consider it is adequate. If inadequate, how do you think it could be improved?

Adequate Not adequate No opinion

2.2 (This is a question for those who are members of JCspd General Body and Administrative Body). Another important organization, JCspd, was formed to play a practical role in SWM. Could you give us some examples of important discussions at the JCspd meetings?

(

2.3 (This is a question for those who are members of JCspd General Body and Administrative Body). Do JCspd meetings function adequately to improve SWM services? If adequate, please describe why you consider it is adequate. If inadequate, how do you think it could be improved?

Adequate Not adequate No opinion

(

2.4 Do you think this JCspd system as a whole function well to improve SWM services in JJRRV? If adequate, please describe why you consider it is adequate. If inadequate, how do you think it could be improved?

Adequate Not adequate No opinion

(

2.5 How do you monitor the progress of the Project and share its monitoring information except for the meetings mentioned above? Please describe the way you monitor the progress.

(

2.6 Does the monitoring mechanism you have mentioned above function adequately to monitor the progress of the project and share its information? If adequate, why you consider it is adequate. If inadequate, how do you think it could be improved?

Adequate Not adequate No opinion

(

)

2.7 Do Palestinian C/Ps and Japanese experts communicate adequately enough to implement the Project efficiently and effectively? If adequate, please describe why you consider it is adequate. If inadequate, how do you think it could be improved?

Adequate Not adequate No opinion

(

)

2.8 What are the major events implemented in the progress of JCspd? Are such events satisfactory to you? Please provide your opinions.

(

)

2.9 Has your mentality and/or attitude towards joint work changed? If so, how? Please explain.

(

)

3. Relevance: a criterion for considering the validity and necessity of the project

3.1 Does the Project adequately meet the needs of JCspd? If adequate, please describe why you consider it is adequate. If inadequate, how do you think it could be

improved?

Adequate Not adequate No opinion

(

3.2 The Project adopts the comprehensive approach that consists of (i) the technical studies on the present SWM system and SWM situation in JJRRV, (ii) institutional strengthening of JCspd (iii) implementation of action plan, and (iv) dissemination of JCspd's experiences to other local authorities. Is the Project's approach appropriate? If appropriate, please describe why you consider it is appropriate. If inappropriate, how do you think it could be improved?

Note: The action plan includes public awareness raising, improvement of collection and transportation system, improvement of disposal sites, improvement of maintenance and establishment of account system

Appropriate Not appropriate No opinion

(

3.3 Are suggestions and technologies used in the Project appropriate? Please describe your opinion.

Appropriate Not appropriate No opinion

(

3.4 Did you learn something new and useful from suggestions from Japanese experts? If so provide some examples.

(

4. Effectiveness : a criterion for considering whether the implementation of project will benefit the intended beneficiaries

4.1 Looking at the present situation, do you think that the project purpose “Sustainable and sanitary system of SWM is introduced in JJRRV” will be achieved within the Project period (before August 2008)? Please provide us the reason of your choice.

Will be achieved Will not be achieved No opinion

4.2 Please describe your impression on the present level of achievement of the project purpose “Sustainable and sanitary system of SWM is introduced in JJRRV” in percentage. Note: 100% means “fully achieved.”

(Describe in percentage: ____ %)

4.3 Looking at the present situation, do you think that the other project purpose “Experiences of improvement on SWM in JJRRV are shared as a model for other areas in PNA” will be achieved within the Project period? Please provide us the reason of your choice.

Will be achieved Will not be achieved No opinion

4.4 Please describe your impression on the present level of achievement of the project purpose “Experiences of improvement on SWM in JJRRV are shared as a model for other areas in PNA” in percentage. Note: 100% means “fully achieved.”

(Describe in percentage: ____ %)

4.5 Do seven outputs contribute enough to achieve the project purposes? If not enough, what kind of additional outputs are necessary? Give us your opinions.

Note: Seven outputs are explained under the next question, so see the question 5.1

Enough Not enough No opinion

5. Efficiency : a criterion for considering how economic resource / inputs are converted to results

5.1 Please look at the outputs and their activities written in the PDM, and explain your roles and involvement in the above mentioned outputs and activities, if any.

5.2 Have those activities been sufficient to produce the outputs? Any additional activities that you would like to request for the rest of the project period?

5.3 Have Japanese experts been dispatched adequately in terms of their expertise, numbers of experts, period and timing in order to carry out the planned activities written in PDM? If adequate, please describe why you consider it is adequate. If inadequate, how do you think it could be improved? Need more experts, or request longer stay?

Adequate Not adequate No opinion

5.4 Has provision of equipment such as repair parts of compactor collection vehicle,

computers and printers been adequate in terms of variety, quantity and timing? If adequate, please describe why you consider it was adequate. If inadequate, how do you think it could be improved?

Adequate Not adequate No opinion

()

5.5 (Only to those who participated in trainings in Japan) Was the training course useful? If so, especially what was useful? If not so useful, how do you think the training could be improved?

Useful Not useful No opinion

()

5.6 (Only to those who participated in trainings in Japan) Considering practical application of the techniques in your country, are the technical level of the course too specialized (high) or not too specialized (low)?

Too specialized Adequate Not too specialized

5.7 (Only to those who participated in trainings in Japan) Could you kindly give us some examples of practical applications of the learning and techniques now in your country? What are the learning and techniques, and how do you apply to your work now?

()

5.8 Do you think it is necessary to organize more training courses towards JCspd staff members? If so, what kind of training courses and especially to whom?

()

5.9 Are Palestinian C/Ps allocated adequately in terms of their expertise and numbers in order to carry out the planned activities? If adequate, please describe why you consider it is adequate. If inadequate, how do you think it could be improved?

Adequate Not adequate No opinion

6. Impact : a criteria for considering the effect of the project with an eye on the longer term effects including direct or indirect, positive or negative, intended or unintended

6.1 Is the overall goal of the Project, “In Palestinian National Authority (PNA), a basic policy and a concrete action plan on integrated SWM are formulated”, likely to be achieved in the future (after 5 to 10 years) with the Project’s contribution? If “unlikely to be achieved”, please describe how do you think the project should have been carried out.

Likely to be achieved Unlikely to be achieved No opinion

6.2 Is the other overall goal of the Project, “Effective system of SWM modeling JJRRV is diffused in PNA”, likely to be achieved in the future (after 5 to 10 years) with the Project’s contribution? If “unlikely to be achieved”, please describe how do you think the project should have been carried out.

Likely to be achieved Unlikely to be achieved No opinion

7. Sustainability : a criteria for considering whether produced effects continue after the rumination of the project

7.1 Are the learning and experiences obtained from the Project mainstreamed within members of JCspd at present? How about at the end of the Project?

Present Mainstreamed Little mainstreamed No opinion

Reason for your answer:

()

At the end of the Project Mainstreamed Little mainstreamed No opinion

Reason for your answer:

()

7.2 Are the learning and experiences obtained from the Project shared with other local authorities (beyond 17 local authorities who are members of JCspd)? How about at the end of the Project?

Present Shared Little shared No opinion

Reason for your answer:

()

At the end of the Project Shared Little shared No opinion

Reason for your answer:

()

7.3 What can the Project do from now on in order to further improve SWM in JJRRV and disseminate the improved SWM system in JJRRV as a model to other areas?

Japanese experts can do the followings

()

Palestinian experts can do the followings (incl. financial/management aspect if

necessary)

()

7.4 JCspd's operation suffers from severe financial constraints arising from unsuccessful fee collection from LGUs. Why do you think LGUs fail to pay the collection fee? Do you have any suggestion to solve this problem?

()

7.5 Do you think JCspd will continue providing SWM services without any problems? If you don't really think so, why do you assume JCspd may stop providing SWM services? What is the reason for your assumption? Please explain.

()

8. Others

8.1 Any other comments that you would like to add?

()

Thank you for your cooperation.

添付資料 5C :Request for Answering the Questionnaire

Every JICA's project is evaluated at four stages, namely ex-ante, mid-term, terminal and ex-post. Evaluation is a tool for judging as objectively as possible the relevance and effectiveness of JICA's cooperation activities. This time, one year and seven months after the inauguration of the project called The Project for Capacity Development on Solid Waste Management (SWM) in Jericho and the Jordan River Rift Valley(JJRRV) (hereinafter referred as the Project), mid-term evaluation is conducted to evaluate whether the Project has been achieving the expected outputs and the project purpose. The mid-term evaluation is utilized to draw the conclusion on whether the Project should be revised and make recommendation for further improvement of project management, and draw lessons to be applied to other similar projects of JICA.

The Project, which aims to develop the capacity of relevant stakeholders on solid waste management, has been carried out since November 2005 for the period of three years. Your frank opinions are much appreciated, and will be utilized only for improving the Project.

Questionnaire B:

Name: _____

Organization and designation: _____

Period of your engagement in the Project : _____ ~ _____

1. Your duties regarding SWM

1.1 Could you kindly describe your duties regarding SWM?

()

2. About the Project

2.1 After the Project started, an important organization, JCspd, was formed to play a practical role in SWM. How have your duties and responsibilities changed before and after the start-up of JCspd?

()

2.2 Do you think this JCspd mechanism function adequately to improve SWM services? If adequate, please describe why you consider it is adequate. If inadequate, how do you think it could be improved?

Adequate Not adequate No opinion

()

2.3 Have you had opportunities to communicate with Japanese experts? If so, what did you talk with them?

Often Sometimes Rarely

()

2.4 Does the Project adequately meet your needs? In other words, do you recognize any improvement in your daily work? If yes, please give us some examples. If no, what do you want to request for the Project?

Yes No

()

2.5 The Project adopts the comprehensive approach that consists of (i) the technical

studies on the present SWM system and SWM situation in JJRRV, (ii) institutional strengthening of JCspd (iii) implementation of action plan, and (iv) dissemination of JCspd's experiences to other local authorities. Is the Project's approach appropriate? If appropriate, please describe why you consider it is appropriate. If inappropriate, how do you think it could be improved?

Note: The action plan includes public awareness raising, improvement of collection and transportation system, improvement of disposal sites, improvement of maintenance and establishment of account system

- Appropriate Not appropriate No opinion

()

2.6 Are technical suggestions and technologies used in the Project useful? Please describe your opinion.

- Not useful
 Most of them are not useful
 Some of them are useful
 Most of them are useful

()

2.7 Did you learn something new and useful from technical suggestions from Japanese experts? If so provide some examples.

()

2.8 Look at the following table.

Table: List of outputs and major sub-activities

	Outputs	Major sub-activities
a	System for SWM in JJRRV is established.	<ul style="list-style-type: none"> • Formation of Basic Plan of SWM service • Preparation of start-up SWM services by

		JCspd • Organizational strengthening of JCspd, eg. introduction of financing and accounting system, repairs and maintenance of collection vehicles
b	Present situation of SWM in JJRRV is grasped.	• Implementation of several baseline surveys such as volume and composition of waste, condition of waste collections, condition of final disposal site and so on.
c	Action plan for improvement of SWM in JJRRV is formulated.	• Formation on action plan for SWM improvement • Public hearings on those action plans
d	The action plan is put into practice and the improvement is made.	• Implementations of project listed in the action plan, such as public awareness raising, improvement of collection and transportation system, and improvement of disposal sites.

Please explain your involvement in the above mentioned outputs or sub-activities, if any.

2.9 Have activities been sufficient to improve the SWM situation in JJRRV? Any additional activities that you would like to request for the rest of the project period?

2.10 Has provision of equipment such as repair parts of compactor collection vehicle, computers and printers been adequate in terms of variety, quantity and timing? If adequate, please describe why you consider it was adequate. If inadequate, how do you think it could be improved?

Adequate
 Not adequate
 No opinion

2.11 (Only to those who participated in the on-site training session) Was the training

session useful? Describe your opinions.

Useful Not useful No opinion

()

2.12 What can the Project do from now on in order to further improve SWM in JJRRV?

Describe your opinions.

()

2.13 Any other comments that you would like to add?

()

Thank you for your cooperation.

